年報

2020 年度

東京医療保健大学東が丘看護学部

TOKYO HEALTHCARE UNIVERSITY

Higashigaoka Faculty of Nursing

東京医療保健大学東が丘・立川看護学部（臨床看護学コース）

TOKYO HEALTHCARE UNIVERSITY

Higashigaoka-Tachikawa Faculty of Nursing

(Clinical Nursing Program)

2020 年度　年報

目次

○巻頭言　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

１．組織図　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

２．学内行事の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

３．入試状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5

４．教職員名簿　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　9

５．委員会活動　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　11

６．教育活動
６-１学部　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　18

６-２大学院
‣高度実践看護コース　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　44
‣高度実践助産コース　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　52
‣高度実践公衆衛生看護コース　・・・・・・・・・・・・・　64
‣看護科学コース　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　71
‣博士課程　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　79

７．業績　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　84

巻頭言

本大学は、東京、千葉、和歌山に５学部７学科を設置している医療系、看護学科の多い大学である。年報は２０１０年東が丘看護学部を設置した時からスタートしている。しかし、全学に広がってはいない。２０１４年度から約１０年間、東が丘・立川看護学部、東が丘看護学部、立川看護学部と少しずつ名称変更しながら発展し、現在に至っている。この間、一回も欠かすことなく毎年年報を発行している。しかも全体をホームページに公開している。素晴らしいことである。

大学の使命・役割として言われている「教育」、「研究」、「社会貢献」の３つの活動の実績を各教員から提出して集め、委員会の委員が何度か確認・修正し、整えて掲載に至っている。実際に提出している立場からすると、直ぐに一年間は経ってしまう気がするが、自己の単年度の活動記録の纏めとなり、今年は少し不足しているので、次年度は頑張らなくてはいけないと自己評価に繋がり、とても整理されるシステムとして良いと感じている。

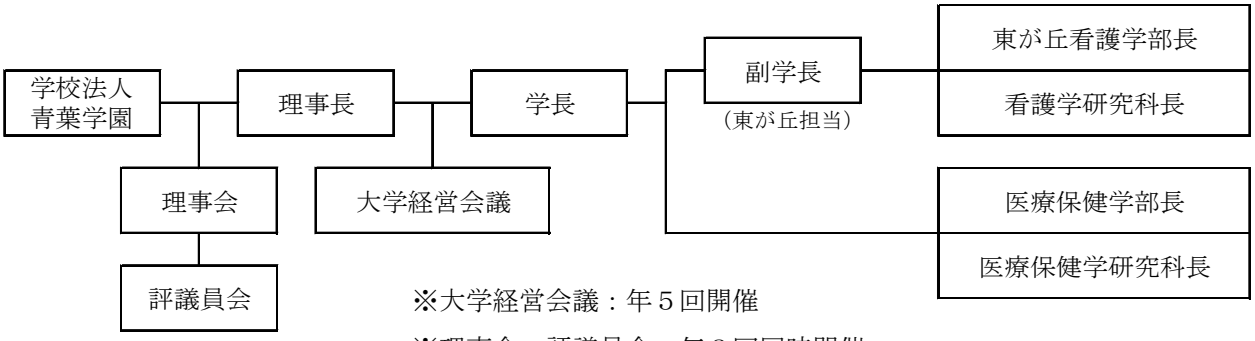
また、全教員の活動記録がそこには見える。一例を述べると、多忙さが教育によるものなのか、研究によるものなのか、社会貢献によるのか良く見えてくる。学内・外の委員会活動も見える化している。兎に角、年報は教員の活動実績が良く表れており、貴重で素晴らしい記録である。また公開していることに意義がある。

2020 年度から立川看護学部が開設され、国立病院機構立川キャンパスも、校舎が拡張され、新入生から学生全員が同校舎で学ぶことが可能になった。現在３学部が同時進行しており、今回は、教員達の苦労が見える年報である。両学部とも直ぐ隣に「駒沢公園」、「昭和記念公園」があり、緑も多く教育環境には恵まれ最高の立地条件である。しかし本年度は、入学時からコロナ禍での遠隔授業が多くなり、教員は各種工夫をしてきているが、前期セメスターの学生生活は校舎に馴染めず、上級生との交流も少なく、苦労の多い両者であった。そのような中にあっても年報が纏まった。取りまとめの委員の努力に感謝である。

2021 年 4 月 16 日

東が丘看護学部長、東が丘・立川看護学部長
山　西　文　子

１．組織図

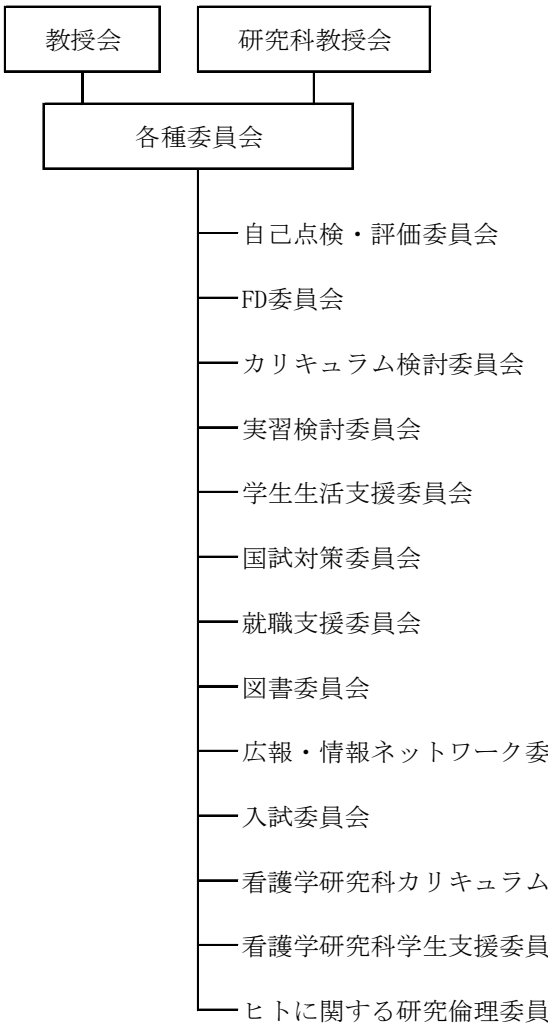


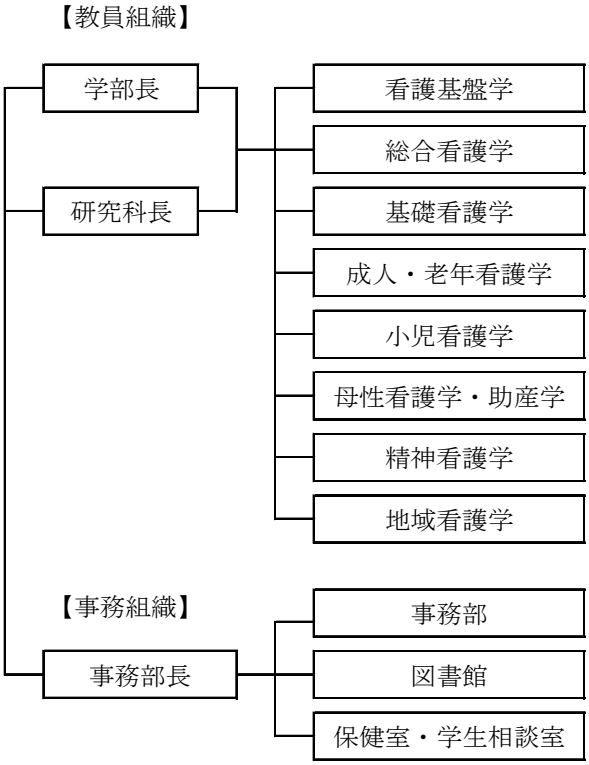
※大学経営会議：年５回開催

※理事会・評議員会：年３回同時開催

※学部長等会議：年１１回開催

東が丘看護学部の運営組織





２．学内行事の概要

２－１．学年暦

【　前　期　】

4 月

1 日　学内ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ（1～3 日）、新入生ガイダンス

2 日　健康診断

7 日　入学式　中止

8 日　前期セメスター授業開始

5 月

7 日　新入生合宿研修(～5/8)中止

11 日　在宅看護学実習(～7/3)

6 月

8 日　看護過程展開実習(～6/19)

12 日　スポーツ大会　中止

29 日　看護学体験実習(～7/3)

7 月

20 日　看護学統合実習(～7/31)

27 日　WEB オープンキャンパス(～8/21)

8 月

8 日　夏季休業開始(～9/30 まで)

31 日　各論実習－成人看護学実習等 (R3/2/12)

9 月　ひがしが丘保健室　中止

【　後　期　】

10 月

1 日　後期セメスター授業開始
東が丘看護学部入試説明会(WEB 型)(～11/6)

4 日　東が丘看護学部入試説明会(来校型)

11 月

15 日　指定校・公募推薦入学試験
医愛祭　中止

27 日　国立病院機構病院説明会

12 月

1 日　開学記念日

2 日　老年看護学実習(～12/10)

4 日　卒業生との懇談会

26 日　冬季休業開始(～R3/1/3)

1 月

26 日　一般入学試験 A 日程

2 月

4 日　一般入学試験 B 日程

5 日　国家試験壮行会

15 日　日常生活援助展開実習(～2/19)
就職支援講座(～2/16)

18 日　一般入学試験 C 日程

3 月

3 日　学位記授与式・修了式
ひがしが丘保健室　中止

２－２．オープンキャンパス

7 月 27 日(土)～8 月 21 日(金)WEB でのオープンキャンパスが実施された。東が丘看護学部看護学のページ訪問数は 909 であった。

なお、概要は以下の通りである。

１）講演　山西文子　動画 5 分

２）就職・国家試験対策　松本和史　動画 10 分

３）模擬授業　中島美津子　動画 15 分

４）学科紹介　早坂奈美(音声)　松本和史(資料)　動画 10 分

５）講義・演習の紹介授業風景(卒論)　基盤・精神・成人老年各領域　早坂奈美(構成)　嶋谷圭一(編集)　動画各 1 分。

６）サークル・団体　ダカーポ　ひいりんぐぽっと　消防団　内山孝子(構成)　原口昌弘(構成)　嶋谷圭一(編集)　動画各 1 分

７）教員の研究活動　竹内朋子　朝澤恭子　日高未希恵　動画各 1 分

８）高校生向け大学院紹介コンテンツ　鎌田りみ（企画）　嶋谷圭一（編集）動画各コース 1 分

９）東京医療センター紹介　内山孝子　動画 2 分

１０）個別相談　1.浦中圭一　高橋智子　2.中村裕美　松田謙一　3.駒田真由子　デッケルト博子　予約制（個別来校型、WEB）

２－３．東が丘看護学部入試説明会

本年度の見学会は、WEB 型（10/1～11/6)、来校型（10/4）に実施した。

参加者数は、来校のみ 30 名、WEB のみ 23 名、来校＆WEB34 名となった。

２－４．個別見学会

下記の日程で個別見学会を実施した。

・国立病院機構キャンバス

11/19（木）16：15～17：15　3 組 6 名　内容：学科説明、入試説明、ｷｬﾝﾊﾟｽ見学

12/10（木）16：15～17：15　6 組 12 名　内容：学科説明、入試説明、ｷｬﾝﾊﾟｽ見学

２－５．公開講座等の開催（FD 企画を含む）

① 6.22(月) 11:00～12:00　ZOOM

テーマ:「東が丘看護学部の開設にあたり～教員としての心得～」

講　師: 山西　文子(副学長、東が丘看護学部長)

② 8.20(木)　11:00～12：00　ZOOM

テーマ:「文献検討について」

講　師: 町田　玲彦（世田谷キャンパス図書館課長）

③ 11.10(木) 16:00～17:00 ZOOM

テーマ: 「倫理審査について」

講 師: 廣島 麻揚（医療保健学部看護学科教授、ヒトに関する研究倫理委員会委員長（全学））

④ 1.30(土) 10：00～12：00 対面及び ZOOM

テーマ: 「一緒に考えませんか？少子高齢化・人口減少社会への備えはじぶんごと」

講 師: 日髙 未希恵（東が丘看護学部 看護学科 助教/看護師/看護学博士）

⑤ 3.9(火) 13:30～14:00 ZOOM

テーマ: 「解析ソフト【文錦シリーズ】の具体的な操作方法について」

講 師: (株)SCREEN ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄｼｽﾃﾑｿﾘｭｰｼｮﾝｽﾞ 第二開発部開発二課 周 影龍氏

２－６．学友会活動

1)スポーツ大会

学友会の全学行事である。新型コロナ感染症対策として開催は見送られ中止となった。

2)大学祭（医愛祭）

学友会の全学行事である。新型コロナ感染症対策として両日開催は見送られ中止となった。

３．入試状況

３－１．令和３年度入学者選抜状況（選抜試験は令和２年度に実施）

概 要

東が丘看護学部看護学科、大学院看護学研究科の入学者選抜の概略は以下のとおりである。

３－１－１．東が丘看護学部看護学科

〇東が丘看護学部

試験区分	試験日	定員Ⓐ		志願者数Ⓑ		受験者数Ⓒ		競争倍率 Ⓒ/Ⓓ		合格者数Ⓓ		入学者数	
学校推薦型選抜（指定校）	11月15日(日)	(20)	20	(22)	23	(22)	23	(1.0)	1.0	(22)	23	(22)	23
学校推薦型選抜（公募制）	11月15日(日)	(20)	23	(40)	56	(40)	55	(1.1)	1.1	(36)	50	(36)	50
大学入学共通テスト利用入試(前期)	1月16日(土) 17日(日)	(7)	7	(184)	180	(184)	180	(3.0)	3.0	(62)	60	(2)	2
一般選抜A日程入試	1月26日(火)	(15)	15	(109)	201	(108)	198	(2.2)	3.2	(50)	62	(32)	18
一般選抜B日程入試	2月4日(木)	(25)	25	(217)	258	(177)	214	(3.1)	2.7	(57)	80	(15)	22
一般選抜C日程入試	2月18日(木)	(10)	10	(95)	104	(76)	87	(4.0)	5.1	(19)	17	(8)	5
大学入学共通テスト利用入試(後期)	1月16日(土) 17日(日)	(3)	若干名	(5)	16	(5)	16	(1.7)	4.0	(3)	4	(0)	2
合計		(100)	100	(672)	838	(612)	773	(2.5)	2.6	(249)	296	(115)	122

〇　推薦入試

１）指定校推薦入試

（１）対象

本学を第一志望する（専願）とし、下記①と②に該当する者

①令和３年３月に高等学校卒業見込みで、高等学校長の推薦がある者

②高等学校における全体の評定平均値が３．８以上の者

（２）選抜方法

調査書・総合問題・面接を総合的に評価し選抜した

２）公募制推薦入試

（１）対象

本学を第一志望する（専願）とし、下記①と②に該当する者

①令和３年３月に高等学校卒業見込みで、高等学校長の推薦がある者

②高等学校における全体の評定平均値が３．５以上の者

１）選抜方法

調査書・総合問題・面接を総合的に評価し選抜した

〇　一般入試

１）一般入学試験　Ａ・Ｂ・Ｃ日程

（１）試験科目

Ａ日程　必須科目　英語（１００点）選択科目　数学Ⅰ・数学Ａ、生物基礎・生物、化学基礎・化学、生物基礎・化学基礎から１科目選択（各１００点）

Ｂ日程　必須科目　英語（１００点）選択科目　国語総合(現代文のみ)　数学Ⅰ・数学Ａ、生物基礎・生物、化学基礎・化学、生物基礎・化学基礎から２科目選択（各１００点）

Ｃ日程　必須科目　英語（１００点）選択科目　国語総合(現代文のみ)　数学Ⅰ・数学Ａ、生物基礎・生物、化学基礎・化学、生物基礎・化学基礎から２科目選択（各１００点）

２）大学入学共通テスト利用入学試験　前期・後期

（１）試験科目

必須科目　英語【リスニングを含む】（２００点）

選択科目　国語【近代以降の文章】、数学Ⅰ・数学Ａ、生物、化学、生物基礎・化学基礎から２科目利用（３科目以上受験している場合は高得点の２科目を採用（各１００点）

３－１－２．大学院看護学研究科

・前期 9 月 19 日(土)及び後期 12 月 12 日（土）に実施しました看護学研究科の入学試験結果は、次のとおりです。

修士課程 コース(定員)	出願者数	受験者数	合格者数	備　考
高度実践看護コース (20名程度)	34名	33名	24名	3名辞退
高度実践助産コース (10名程度)	9名	9名	6名	内訳 助産師免許取得プログラム 6名 助産師(有資格者)プログラム 0名
高度実践公衆衛生看護コース (若干名)	7名	6名	4名	
看護科学コース (若干名)	1名	1名	0名	
合計	51名	49名	34名	入学者数31名

博士課程(2名)	1名	1名	0名	

看護学研究科 合計	52名	50名	34名	入学者数31名

※いずれの値も前期及び後期の合算値になります。

○　選抜方法

［修士課程］

筆記試験、面接及び出願書類を総合して判定

１）筆記試験

（高度実践看護コース、高度実践助産コース、高度実践公衆衛生看護コース）

看護学に関する総合的な基礎知識を問う問題。

必修問題３問。試験時間１２０分

（看護科学コース）

保健・医療分野に関する知識と論理的思考力を問う問題。

また、一部の問題は、英語の能力を問う問題。辞書１冊持ち込み可。

２）面接試験

一人１５分程度

［博士課程］

学力試験・面接の結果が一定の基準に達した者から、学力試験・面接の結果及び出願書類を総合的に評価して判定

１）筆記試験

保健・医療分野に関する知識と論理的思考力を問う問題。

また、一部の問題は、英語の能力を問う問題。辞書１冊持ち込み可。

２）面接試験

一人１５分程度

４．教職員名簿

専任教員	担当領域	氏名	職名	採用等年次
	大学院看護学研究科長	大島　久二	副学長/教授	2.4.1　採用
	東が丘･立川看護学部長	山西　文子	副学長/教授	25.4.1　採用
	看護基盤学	明石　眞言	教授	2.8.1　採用
		小野　孝二	教授	25.4.1　採用
		小宇田　智子	准教授	22.4.1　採用
		日髙　未希恵	助教	28.4.1　採用
		篠﨑　真弓	助教	30.4.1　採用
	総合看護学	山西　文子	教授	25.4.1　採用
		岩本　郁子	准教授	24.4.1　採用
		浦中　桂一	講師	29.4.1　採用
		早坂　奈美	助教	22.4.1　採用
	基礎看護学	松山　友子	教授	22.4.1　採用
		内山　孝子	准教授	2.4.1　採用
		高橋　智子	講師	25.4.1　採用
		ハーネド　明香	助教	2.4.1　採用
		伊部　有美子	助手	30.8.1　採用
		吉田　貴恵子	助手	1.7.1　採用
	成人・老年看護学	竹内　朋子	准教授	25.4.1　採用
		松本　和史	准教授	27.4.1　採用
		原口　昌宏	講師	28.4.1　採用
		松田　謙一	講師	31.4.1　採用
		井本　由希子	助教	31.4.1　採用
		野田　恵美子	助手	31.4.1　採用
		岡村　美帆	助手	31.4.1　採用
		佐藤　琴美	助手	2.9.1　採用
	小児看護学	中島　美津子	教授	28.4.1　採用
		玄　順烈	准教授	26.4.1　採用
		山田　恵子	助教	30.4.1　採用
	母性看護学・助産学	平出　美栄子	准教授	28.4.1　採用
		朝澤　恭子	准教授	26.4.1　採用
		加藤　知子	講師	26.4.1　採用
		田辺　洋子	講師	2.10.1　採用
		小嶋　奈都子	助教	22.4.1　採用

	デッケルト博子	助教	2.4.1	採用
	鬼澤　宏美	助教	2.4.1	採用
	杜　稀衣	助手	30.8.1	採用
精神看護学	田中　留伊	教授	22.4.1	採用
	中村　裕美	講師	22.4.1	採用
	菅原　裕美	助教	31.4.1	採用
地域看護学	佐藤　潤	准教授	22.4.1	採用
	駒田　真由子	助教	29.4.1	採用
	嶋谷　圭一	助教	31.4.1	採用
	望月　靖記	助手	2.4.1	採用
その他	金子　あけみ	准教授	22.4.1	採用

事務職員	役職	氏名
	部長	中田　太一
	主任	齋藤　容子
	主任(大学院担当)	鎌田　りみ
	主任(大学院担当)	菊池　広訓
	職員	岡田　友理
	職員	小宮　咲紀
	職員	佐藤　光伸
	図書館司書	町田　玲彦
	図書館司書	飯嶋　正敏
	図書館司書	加藤　亜樹
	図書館司書	栗原　真理
	図書館司書	長坂　由美
	図書館司書	宮崎　千晶
	図書館司書	伊藤　梓
	図書館司書	遠藤　一恵
	保健室・相談室担当	原田　直美
	保健室	戸谷　益子

５．委員会活動

自己点検・評価委員会

構成員

中島美津子（委員長）、朝澤恭子（副委員長）、浦中桂一、加藤知子、小嶋奈都子、
日高未希恵、菊池広訓（事務部）

活動内容

令和 2 年度自己点検・評価報告書の作成を行った。

また、令和 1 年度の年報として東が丘看護学部における委員会活動、教育活動、業績等に関して取りまとめ、本学ウェブサイトにアップロードを行った。

ＦＤ委員会

構成員

中島美津子（委員長）、朝澤恭子（副委員長）、浦中桂一、加藤知子、小嶋奈都子、
日高未希恵、菊池広訓（事務部）

活動内容

1）FD の企画・開催

6 月 22 日 「東が丘看護学部の開設にあたり～教員としての心得～」(山西文子学部長)

8 月 20 日 「文献検討について」(世田谷キャンパス図書館　課長　町田玲彦氏)

11 月 10 日 「本学ヒトに関する研究倫理審査申請について」（医療保健学部 看護学科教授、東京医療保健大学ヒトに関する研究倫理委員会委員長　廣島麻揚先生)

3 月 9 日 「解析ソフト【文錦シリーズ】の具体的な操作方法について」((株)SCREEN アドバンストシステムソリューションズ第二開発部開発ニ課　周景龍氏)

2）FD マップの作成

東京医療保健大学建学の精神および理念を基盤に、大学教育に携わる大学教員を対象にとする FD プログラムとして想定されるプログラムを俯瞰する体系図である FD マップを作成した。教育、研究、社会貢献の 3 分野において、導入、基本、応用・発展、支援の 4 フェーズ別に、目標、内容、個人目標、FD 委員会支援方法、評価を抽出した。

看護学科カリキュラム検討委員会

構成員

松山友子（委員長）、竹内朋子（副委員長）、山西文子（学部長）、小野孝二、田中留伊
佐藤 潤、中島美津子、平出美栄子、中田太一（事務部長）、斎藤容子（事務員）

活動内容

本委員会は、本学部の教育の資質向上に向け、カリキュラムの充実及び教育環境の整備などに関する年間実施計画に沿い、以下の活動を行った。

1)　カリキュラムの運用について

4 月に開設した東ヶ丘看護学部のカリキュラムおよび東ヶ丘・立川看護学部で継続する 3 つのカリキュラム（H27・H26・H24 年度カリキュラム）は予定通りに運用できた。また、2022 年度の指定規則の改正に向け、カリキュラムの修正案を検討した。

2) COVID-19 への対応を踏まえた授業運営について

全学の方針を踏まえ、学生の学びが継続できるように、遠隔授業・対面授業の方針および具体的な運用方法等を検討した。実際の授業運営については、科目毎に実施記録を記載した。

3) 認定および成績・進級等の学生の成績評価について

4 年次生の卒業および 1 ～3 年次生の進級の判定に関する資料を作成し、教授会に報告した。

4) 教育環境の整備（教材・教具）について

「実習室・演習室関連物品一覧・配置図」を定期更新した。また、COVID-19 対策として、施設・設備および感染対策用品の整備を事務部と共に行った。

5) 履修案内・シラバスについて

Web シラバス導入に関する課題を確認し、次年度修正案を検討した。COVID-19 の影響で授業計画の一部変更を余儀なくされた科目については、修正期間を設け対応した。

実習検討委員会

構成員

竹内朋子（委員長）、岩本郁子（副委員長）、朝澤恭子、内山孝子、玄順烈、佐藤潤、中村裕美、松田謙一、篠崎真弓、菊池広訓（事務部）

本委員会は、東が丘看護学部の看護学実習教育の質向上を目指し、年間計画に沿い、以下の活動を実施した。

1) 看護学実習計画

2020 年度～2022 年度の実習計画を策定した。

2) 看護学実習連携会議

独立行政法人国立病院機構 東京医療センター看護部との共催で、実習指導者と大学教員が参加する会議を 1 回開催した。今年度は、昨年度から引き続き医療安全に向けた看護学実習指導の連携について取り組み、実習指導者と大学教員の間で共通理解を得た。また、昨年度の看護学実習連携会議における取り組み成果を第 40 回 日本看護科学学会学術集会で公表した。

3) 看護技術経験表

4 年次生を対象に、173 項目の看護技術の修得・経験状況を集計した。達成度低水準（卒業時到達度レベルに対して達成度が 60%未満）項目は 9 項目であった。また、前年度と比較して達成度が 20%以上低下したのは 16 項目であり、達成度が上昇したのは 11 項目であった。また、新型コロナウイルス感染症拡大に伴って、一部臨地での実習ができなかったこ

とによる看護技術経験への影響を把握するために、各論実習終了後に 3 年生に対して臨時に実態を調査した。

4)　臨地実習要項

オンライン実習に伴う実習記録の取り扱い規約などを見直し、2021 年度版の臨地実習要項を一部改訂した。

5)　インシデント対策

看護学実習におけるインシデントについて、毎月の委員会で情報を共有すると共に、今年度の報告書を集計・整理し、対策を協議した。今年度報告されたインシデントには、患者に直接的な影響が生じたものはなかった。

6)　1 年生に対する看護学実習オリエンテーション

本年度から、1 年生に対してオリエンテーションを実施し、臨地実習要項にそって看護学実習全体に関する説明や実習誓約書の取りまとめを行った。

7)　新型コロナウイルス感染症拡大に伴う実習運営に関する協議

各領域での実習運営状況を随時情報共有し、共通する問題を審議した。

8)　新型コロナウイルス感染症拡大に伴う実習運営に関する実習施設との調整

実習施設と連携し、臨地実習が実施できない場合においても可能な限り有効な実習指導が行なえるように連絡・調整を行った。実習指導者を派遣していただいたり、施設の視聴覚資料や看護過程の事例となる患者情報を提供していただくなど、多くの実習施設から協力を得ることができた。

学生生活支援委員会

構成員

田中留伊(委員長)、玄順烈(副委員長)、岩本郁子、小宇田智子、駒田真由子、高橋智子、原口昌宏、鬼澤宏美、菅原裕美、日髙未希恵、戸谷益子、中田太一、岡田友里

活動内容

1）健康管理

学生の健康状態の把握と感染症予防や拡大防止対策を重点項目として活動した。今年度も 1 年生の結核健診は、T-SPOT 検査を実施した。

2）学年担任・コンタクトグループ

1 年次生の合宿研修は新型コロナウイルス感染症対策のため実施されなかったが、オンデマンドによる講話の視聴を推進した。また、コンタクトグループミーティングも前期は開催出来なかったが、後期は ZOOM で開催した。学生から開催の要望も多く聞かれた。

3）学生生活実態調査

今年度からは学生生活支援センターが主体的に実施する予定である。

4）学友会活動の支援

スポーツ大会や大学祭（医愛祭）等は新型コロナウイルス感染症対策のため実施されなかっ

た。また、定例となっている東京医療センターと協同イベントは七夕飾りつけのみ実施された。

5）学生対応

学生の相談(学習に関すること、将来の進路に関すること等)や学業継続(休学・退学等)に関する事項について対応した。

国試・就職対策支援委員会

構成員

松本和史（委員長), 平出美栄子(副委員長), 玄順烈, 小宇田智子, 中村裕美, 高橋智子, 小嶋奈都子, 早坂奈美, 嶋谷圭一, ハーネド明香, 野田恵美子, 中田太一, 齋藤容子, 岡田友理

活動内容

1)国家試験対策

COVID-19 感染症により登校が制限される中,オンラインと対面を組み合わせた対策を行った. 4 年生への国試対策として, 国試ガイダンス, 業者模擬試験(6 回)を実施した. 学生への個別の支援は, ゼミ単位で行い, 委員会ではゼミ間の情報交換を実施し支援について検討した.また, 8 月から 1 月に教員による国試対策講座を 18 コマ行った. 1-3 年次生への対策としては, 低学年から国試への動機づけを図り, 学習を強化するために, 各学年での国試ガイダンス, 業者模擬試験(1-2 回)を実施した.

2)就職支援

就職支援活動として, 3-4 年生への就職ガイダンス, 外部講師を招いた就職支援講座(インターンシップ対策講座, 面接対策講座, 履歴書･自己紹介書の書き方講座, 小論文対策講座), 国立病院機構就職説明会, 卒業生との懇談会をオンラインで実施した. また, 過去の就職活動状況報告書や国立病院機構グループの病院情報をクラウド上に置き, 学生がオンラインで閲覧できるようにした.

図書委員会

構成員

明石眞言（委員長)、朝澤恭子(副委員長)、駒田真由子、松田謙一、山田恵子、図書館 町田玲彦、加藤亜樹、事務部 菊池広訓

活動内容

利用者、特に学生の利便性の向上を念頭に活動した。

1）コロナウイルス禍における学生の利用満足度の向上

学外から利用できる電子ジャーナル・書籍・映像教材等のサービスの継続・拡大について情報共有を行った。特に「医学映像セレクト DVD」を導入し、自主的かつ効率的な学習に努めた。

2）雑誌購読

現在購読中の雑誌の今後の動向調査を行った結果、見直しの議論を引きつづき行うこととなった。

3）図書の除籍・廃棄

除籍図書リスト確認と各領域への照会を行い、新規導入図書のための配架スペースの確保に努めた。

4）月次報告の作成

東が丘図書館の利用実績および各種データベースへのアクセス状況を月次報告としてとりまとめた。図書館の運用状況を把握し、運用効率化や利用者へのサービス向上につなげる。

5）ウェブ会議の実施

2020 年度はほとんどの委員会をウェブ会議として実施し、効率的な委員会運営を行った。

広報・情報ネットワーク委員会

構成員

教員 小野孝二（委員長）、松本和史（副委員長）、内山孝子、原口昌宏、デッケルト博子
早坂奈美、嶋谷圭一、事務部 菊池広訓、鎌田りみ

活動内容

1）大学・大学院案内

令和 2 年度大学の総合案内および首都圏版の作成、活用を行った。

2）オープンキャンパス・学校説明会・個別相談等

（1） 個別見学会（Web 開催） 5/29（土） – 6/1（月）
（2） ミニオープンキャンパス（Web 開催） 6/26（金）- 6/30（火）
（3） 大学説明会（Web 開催） 7/10（金）- 7/14（火）
（4） オープンキャンパス（Web 開催） 7/27（月）- 8/21（金）
（5） 学校推薦型選抜入試説明会 10/4（日）
（6） 学校推薦型選抜入試説明会（Web 開催） 10/1（木）- 11/6（金）
（7） 個別見学会 11/19（木）,12/10（木）
（8） 一般選抜の入試説明会 12/19（土）
（9） ミニオープンキャンパス 3/20（土）

3）ホームページ

（1）教員データベースを 7 月に新規登録・更新した。

4）その他

（1） 学報「こころ」を 2 回発行し、教育活動や学生支援の PR 活動を行った。
（2） 京華女子中学高等学校に出張講義（11/11（水））を実施した。

ヒトに関する研究倫理東が丘・立川小委員会

構成員

大島久二（委員長）、小宇田智子（副委員長）、小野孝二、久保恭子、竹内朋子、中島美津子、松山友子

活動内容

東が丘と立川キャンパスにおける卒業研究、課題研究、特別研究のうち、ヒトを対象とする課題の審査を行った。計 33 題の審査を行った。また、書類内容の統一と整理を行い周知し、提出に係る経路を明確にした。

入試委員会

構成員（非公開）

活動内容

東が丘・立川看護学部、大学院看護学研究科の入学試験に係る事項について協議・審議し、試験の円滑な実施を図った。

国際交流委員会

構成員

朝澤恭子（委員長）、金子あけみ（副委員長）、明石眞言、井本由希子

活動内容

ハワイ大学研修、オーストラリアグリフィス大学研修の現地での参加は中止となったが、グリフィス大学オンライン研修が 9 月と 3 月に開催された。研修参加の PR、申請手続き、ホストファミリーとのアクセスサポート等を実施した。

看護学研究科カリキュラム委員会・学生支援委員会

構成員

大島久二（委員長）、山西文子（副委員長）、田中瑠伊、平出美栄子、佐藤潤、浦中桂一、中田(事務部長)、菊池事務員、鎌田事務員

活動内容

看護学研究科修士課程と博士課程に関する教育計画、実施、評価等に係る質向上のための検討を行った。各コースのカリキュラムや教育・研究に関する取り組みとその評価、単位取得状況等を確認し、研究科教授会への報告及び学籍異動に係る審議等の案件の決定を行った。

「高度実践看護コース」の臨床教授会は、3 箇所の各実習施設で年 2 回実施した。研修管理委員会で、10 期生 19 全員が 21 区分 38 特定行為の特定行為研修修了基準を満たしていることが認定された。

「高度実践助産コース」は助産師国家試験合格 100%を目指し、模擬試験や個別指導を実施した。分娩件数が一人 10 例を確保するように実習病院を調整した。

「高度実践公衆衛生看護コース」では、学長の講義による「感染症マネージメント」を他のコースの院生も出席して開催した。新型コロナ感染症にあわせ、「まちの保健室だより」を作成し、配布した。

「看護科学コース」「博士課程」においては、審査会を開催し、それぞれ 2 名と 1 名が合格した。

学生支援委員会においては、大学院生の在籍に関する事項、就職、進学の面接指導などを実施した。就職率 100%であった。

６．教育活動報告

６-1. 東が丘看護学部

【看護基盤学領域】

1. 教育方針

看護基盤学領域は、将来看護師となる人として必要な教養、知識のみではなく専門のみならず広い視野に立った物の見方を学ぶために重要な分野の教育を担当している。同領域に所属する教員の出身学科は医学部および看護学部、保健学部など多岐に渡っている。その長所を生かして人間の生命を自然科学的、倫理学的、あるいは社会学的等、多面的な側面より論じることのできる能力を有する看護師の育成を目指す。さらに社会医学分野の講義や臨床検査学演習等を通して、スキルミックスやチーム医療の重要性を教授することにも力点を置いている。

2. 教育方針

1）自然科学の基礎　1年次前期

(1) 担当教員　　小宇田智子、小野孝二、　日高未希恵

(2) 教育内容

専門基礎分野、専門分野における高度な専門科目を履修するために必須である生物、化学、物理、数学等に関する基礎的な知識を学習することを目的とした。今年度は遠隔授業での対応とした。学生によって各内容の理解度に大きな差があるため、基礎的な内容について、理解しやすいようにイラスト等を利用して資料を作成した。また、学生の大きな負担にならない程度に、講義ごとに復習の問題を出題し、理解度を確認した。学生の個別の質問にはメールで応じて、全学生が最低限の必要知識を得られるように対応した。

次年度も学生間で知識の差があると予想される。そのため、学生には予習および復習を促し、授業で使用するスライドはよりわかりやすいものとなるよう工夫し、高度な専門科目に対応できるような知識の習得を目指す。

2)　臨床検査学演習　1年次前期

(1) 担当教員　小野孝二、小宇田智子、日高未希恵、篠﨑真弓、伊東丈夫

(2) 教育内容

診断・治療の基礎として活用されている臨床検査の原理を理解し、意義を学ぶことを目的として演習および ICT 講義を実施した。組織学検査、心電図、血液検査、尿検査、染色体検査、放射線検査の各項目につき、試料の観察や測定を通して、その基本原理、解剖生理と病態に関する理解を深めた。

次年度は、病院内で実施されている各種臨床検査について、実験室での演習をより関連付けるような工夫を凝らしたい。

3）臨床薬理学演習　2年次後期

(1) 担当教員　　小宇田智子、矢田部恵

(2) 教育内容

1年次生で得た薬理学の知識をもとに、治療対象となる患者の状況（年齢、性別、生理的状態など）による薬物動態の知識、作用と薬効について理解させることを目標とした。主に、臨床現場で使用されている薬物の使用目的、作用機序、有害作用・禁忌など関して看護師が知っておくべき事柄を、随時、解剖生理学や疾病の成立ちの知識を確認しながら概説した。

次年度は、臨床的な投与時の看護のポイントなどについても取扱い、より臨床に近い形での教育を目指す。

4）公衆衛生学　　2年次　後期

(1) 担当教員　　明石眞言、金子あけみ、日高未希恵

コロナ禍にあったため、一部の講義はwebとなった。不幸な事態ではあるが、毎日のテレビ、新聞、ネットからは、公衆衛生学に関わる内容が流され、生きた題材には事欠かない中で講義は行われた。公衆衛生学は人間の集団を扱う領域であり、日常社会に結び付くように心がけて講義を行った。疫学や厚生労働省から出される統計等公衆衛生学的な手法・内容から見えてくることは多く、新型コロナ対応は、まさに公衆衛生学そのものである。

次年度は、学生が現実の社会で起きていることを、公衆衛生学の視点で見ることができるような講義を目指したい。

5）ボランティア論　2年次後期

(1) 担当教員　　小宇田智子、高木晴良、堀田昇吾

多様なボランティア活動についての理解を深めると同時に、医療・保健・福祉に関するボランティア活動の事例を通して、専門職としてのスキルを生かしたボランティア活動、ボランティアコーディネーションのあり方等を考察できることを目標とし、講義を展開する予定であったが、本年は開講しなかった。

6）看護研究の基礎　3年次前期

(1) 担当教員　　小野孝二、竹内朋子、松本和史、小宇田智子

(2) 教育内容

エビデンスに基づく看護に資する看護研究を実施する素地を形成することを目標に講義を実施した。看護学における研究の意義、研究を開始するにあたっての基礎となる情報の集め方から始め、研究手法の分類と進め方、倫理的配慮、研究のまとめ方にいたるまでの一連のプロセスについて概要を講義した。

次年度は、より具体的な研究(例えば卒業研究)を題材として取り上げる等の工夫をし、より具体的な事例に即した講義を目指したい。

7）英語論文のクリティーク　3年次　後期

(1) 担当教員　　明石眞言　各領域担当教員

(2) 教育内容

英語原著論文の検索法を示し、各領域に関連し、学生が興味のある英語原著論文を選定した。論文の内容は、各領域における卒業研究に関連のあるものとした。今年度はweb上での発表となったが、指定された英語論文を精読し、卒業研究グループの中で発表と討論を行った。

来年度は、各自の研究内容と関わりを明確化し、論文から得られた内容を研究に結び付ける工夫をしたい。

8）英語論文の購読 3年次生前期

(1) 担当教員　　明石眞言

(2) 教育内容

英語で書かれた原著論文を独力で読めるようにすることを目標とした。医学英語読解 のためのテキストを採用したが、例年通り学生にとっては英語の授業として 1 年間のブランクがあったこともあって難解な内容であると認識されたようである。

次年度は、より学生の能力に即した内容を教授できるように工夫する。

【総合看護学領域】

1. 教育方針

アクティブラーニングの導入科目を積極的に増やし、本学のアクションプランの目標100%達成に向かって領域担当の科目は努力する。学生には自ら考える、考えさせる対応を工夫し、時々共有する。また、出来るだけ現実に近い形で知識の統合、判断の根拠、思考のプロセスを繰り返し、技術の実施、評価というＰＤＣＡサイクルを廻せるように支援する。また、チームの一員としてのセルフマネジメントの重要性も再確認する機会であり、臨地実習最後の纏めである。臨床への第一歩がスムーズに踏み出せるように 4 年間の纏めでもあり、社会への橋渡し的な位置づけである統合実習で確認する。最終的な実習であるのでコロナ禍であっても学生には、実習病院の一つの病棟の全ての媒体を用い、必要な情報を主体的に収集し、計画し、実践し、評価していくプロセスを体験し、その重要性・大切さを認識させたい。

2. 科目名

1）看護倫理　1 年次後期

(1) 担当教員　　岩本郁子

(2) 教育内容

本科目は看護実践における倫理の重要性、倫理的問題の解決方法を理解し， 看護の対象の人権擁護の視点から， 看護師としての責務を追究する姿勢の育成を目的としている。実習経験が少ない 1 学年後期の学生が自分の問題としてイメージできるよう毎回の授業で，倫理的判断が必要な事例を提示し， その事例の倫理的問題をどのようにとらえ判断するかについて記載する小課題レポートの時間を設定した。また， 最新の医療倫理に関するニュースの提示、学生が臨地実習で使用する「臨地実習要項」を教材として取り上げ，倫理的問題に対する関心を高めるよう工夫した。テキストは自己学習に活用できるよう事例の多いものを選択している。看護場面における倫理的問題の分析と対処について小西の 4 ステップモデルの枠組みシートで個人ワークをし、そのシートをもとに次の講義時間にコメントを行った。今年度はほぼ遠隔授業であったため、小課題レポートに関するコメントは次の講義で即整理して行い、リアルに対応するようにした。今年度筆記試験の結果が思わしくなかったため、キー概念の理解を図ることが来年度に向けての課題である。

2）看護理論　2 年次後期

(1) 担当教員　　岩本郁子

(2) 教育内容

看護学の基礎となる看護理論の意義を理解し， 主な看護理論の特徴と実践への活用について考察し看護の奥深さ、面白さに関心を持ち， 看護実践への活用の試みを行えるようにすることが講義の目的である。10 名の看護理論家と 4 つの中範囲理論について理論の特徴と看護実践における有効性について取り上げた。ほぼ遠隔授業であったが授業終了前に毎回、看護理論の機能要素（人間、環境、健康、看護）等に関する学生の考えを記載する時間を 10 分程度確保し、自らの看護観、その根底にある看護理論に興味が持てるよう工夫した。必要時記載内容について次の講義でフィードバックした。

12 月に老年看護学実習が設定されているため、実習前に講義を設定し、 実習での理論の活用を課題レポートとし、評価の対象としていたが代替実習となったため、昨年度受講した学生 2 名から許可を得てその 2 名が記載したレポートを用いて看護実践への看護理論の活用について学習することに変更した。学生からは実習のイメージ、活用のイメージがついたとの評価を得た。来年度の課題は取り上げる理論家を学生のレディネス、活用性等を考慮し再考することである。

3）政策医療論　2 年次後期

(1) 担当教員　　山西文子、得津馨、武田純三

(2) 教育内容

日本における医療の歴史的経緯と現状および課題を理解し、変化の激しい医療ニーズに答えていくための医療者の役割を考える。また、我が国において全国的に国立病院機構が担っている政策医療について、民間医療では担えない国としての不採算医療、国として責任を担う医療等についての認識を深め、今後の医療の在り方について考え方や対応を広く捉え、専門職業人としての考えや役割などを明確にする。日本の医療提供体制の変化、政策医療ネットワークによって展開する医療の実際、現代医療における諸問題などを講義により学び、初めて知る我が国の医療の実態を数字で分析的に学び、安全・安心な医療の提供体制が超高齢化社会によって医療費が高騰し、脅かされる状況も生じていることも理解し、どのような社会が良いのか、医療がどうあれば良いかを個人的にも考えをしっかり持つことを狙って、発表し、ポイントをつかむよう意見交換した。

4)　医療安全学　3 年次後期

(1) 担当教員　　岩本郁子、加藤知子

(2) 教育内容

本科目は、医療安全の基本的な考え方を理解し、医療における安全性の確保に向けた看護職の役割について学習することを目的としている。医療安全に関する社会的関心は高く、国、医療機関レベルで様々な取り組みが実施されている。それらの取り組みを理解した上で、より安全な看護を提供するための看護職のあり方、自己のあり方を追究する姿勢の育成をねらいとしている。医療現場の日常の中でどのよう医療事故が発生するのか、最新のデータや事例を活用して授業を構成している。また、放射線に関連した医療安全について 1 コマ設定している。授業ごとに実習での体験や事例についての考え方を問いうレポートを課し、2 年次までの実習体験を想起しながら医療安全について考察できるようにしている。今年度は本学生のインシデント内容を共有し学生の関心を高める工夫を行った。また、安全を推進する存在として学生自身が自己を認識できるよう担当教員の研究対象であるレジリアンス、ノンテクニカルスキル等の新しい概念を取り入れた授業を行った。来年度の 3 年次生は 2 年次が代替実習であったためそれを踏まえた事例の選択が課題である。

5）看護管理学　３年次後期

(1) 担当教員　　山西文子

(2) 教育内容

日本における医療の歴史的経緯と現状および課題を理解し、医療ニーズに応えていくための医療者の役割を考え、また、日本において国として全国的に医療展開している国立病院機構の医療の現状や組織的な政策医療ネットワークのあり方の現状の特徴と課題を理解し、今後の我が国での医療のあり方はどうあれば良いか、専門職業人として考えを明確にし、このような状況下での看護職の役割はどのようにあれば良いか思料する。

そのため医学・医療の変遷および日本の医療・看護の動向を講義し、変化が激しい医療提供体制の特徴や課題を明確に認識するように、現実的にイメージが出来るよう実際の施設の例を挙げながら動機づけしてきた。自己の考えをレポートとして提出して貰ったが、広く専門的でしっかりした考えを持っている学生も居る。各看護学領域の実習の経験も確認しながら自分の就職を考える時のものの見方管理の考え方等重要な視点について、実際の状況と繋げながら展開した。

6）チーム医療とスキルミックス　4 年次前期

(1) 担当教員

山西文子、新木一弘、長田惠子、木下貴之、樅山幸彦、小林佳朗、込山　修、谷地　豊

(2) 教育内容

多職種がチーム医療の現状と課題をどのように捉えているか、また、チーム医療の実践報告を下にスキルミックス展開のために自分たちはどのように実践するのかを学び、実際的な各職種間の役割の違いを理解し、看護職としての役割を果たせるようになることが狙いである。そのため、一施設の病院長がチーム医療をどのように捉えているか、施設長としての方針・考え方を講義し、各医療職種が何を望み実践しているのかを話して貰った。また、副院長 3 人の立場からの考え方、他に「感染管理」「医療安全管理」「地域連携」「病院管理・運営に関する実際」「薬剤師・臨床検査技師・放射線技師等メディカルスタッフの役割」など役割の違いを明確にし、チーム医療についての理解を深めていけるように幅広く具体的に実践報告を聞き、その中て理解を深めた。

7）NP 論（選択科目）　4 年次前期

(1) 担当教員　　山西文子、浦中桂一、非常勤講師 NP

(2) 教育内容

本学大学院においては、高度実践看護（NP）コースを開設しており、NP に関心を持っている学部学生が多いことから開設した科目である。1 学年の殆どが本科目を選択し、授業にも積極的に参加した。前半は我が国における NP 教育の実態及び世界各国における NP 教育・役割・活動の実際について概要を講義し、その後は我が国において大学院 NP コースを修了し現場で活躍している NP の方々に活動の実際を話して貰い、後半の 30 分の時間を質疑応答の時間とした。毎回クラス全員が発言し積極的参加型の授業にした。本授業では、クリティカル NP、プライマリ NP、麻酔 NP 等、活動の場もバラエティに富み、看護師としての活動の実際がとても興味深く、最後まで充実感を味わえた。関心が高い学生が選択し、入学して以来このような授業は始めてである。将来はＮＰになりたいと希望する学生も数名いた。良い反応が多く聞かれた。また、講師であるＮＰもこの機会を通して自分の実戦を振り返り、整理することの重要性を学んでいる。

8）看護政策論（選択科目）　４年次前期

(1) 担当教員　　山西文子、福井日本看護協会会長、石田議員、重富杏子非常勤講師

(2) 教育内容

看護行政等に関心の高い学生の選択者は 70 名程度希望者が在り、開講した。日看協会長、国会議員による我が国の看護政策の実際と議員立法・国会見学実施。政策の基礎的な知識と実際の政策決定過程に携わった実践編の講義を拝聴した。活発な質疑が交わされた。後半は特定行為に係る立法化は是か非かでの議論を行った。非常勤講師の働きかけも良く、二つの教室で対面授業として実施したがとても活発に議論が行われ現在の看護師不足の問題や医療提供体制の課題にまで議論が及び学生は満足感を得られたとの反応があった。

9）　看護学統合実習　4 年次前期

(1) 担当教員　　山西文子、岩本郁子、浦中桂一、早坂奈美

(2) 教育内容

本実習は、4 年次までの全ての看護学実習の内容や看護マネジメントの学習を統合した実習として位置付けている。看護実践能力の向上、看護を統合的にマネジメントするための基礎的能力の育成，自己コントロールと自己開発への課題の明確化を目的としている。

実習は学内実習と臨地実習からなり、学内実習では 4 月～7 月にレポート作成・プレゼンテーション，看護技術演習を計画実施し、臨地実習は 6 施設で 7 月～8 月に実施した。臨地実習は「日勤看護師同行実習」「複数患者受け持ち実習」「看護マネジメント実習」「チームリーダー実習」「夜間実習」から構成し，チームの一員として病棟カンファレンスにおける問題提示も実践した。実習施設の事前訪問日を設定し，施設の見学、看護マネジメント，看護の特徴についての説明を受け，事前学習の効果を図り，スムーズな臨地実習への移行を促した。今年度は 1 施設について施設内の宿舎宿泊が可能となり学習環境の整備を図ることができた。来年度は 8 日間の臨地実習期間となるため、実習目標達成に向け、学内実習の充実と実習前の臨床側との十分な調整が課題である。

10）国際看護学Ⅰ　２年次前期

(1) 担当教員　　山西文子、田村豊光非常勤講師

(2) 教育内容

本学部は、グローバル化の時代にマッチした人材の育成を狙い、医療職者として国際力を培うように国際看護学Ⅰ、Ⅱを設定した。まず本年度はそのスタート学年として。国際看護学とは何か、必要な基礎的知識、技術を習得することとして、色々な著者や団体の考え方・ものの見方があることを学び、文化のことなる社会での生活や医療提供体制の違い、実践がどのような考え方で、どの様に行われているかを知り、支援は何ができるか、どのように交流が可能かなど。基礎的能力の育成，自己開発への課題の明確化を目的としている。

アフリカや東南アジア、南アメリカなどでの国際医療協力に何年間も貢献してきて、現在も途上国の支援を実践している講師から映像を通してリアルな学び体験している。また、そのような映像を通して考える範囲で討議し、将来の支援はどのようにあるべきか考えることが出来ている。

11）政策医療論　2年次後期

(1) 担当教員　　金子　あけみ、得津　馨（非常勤講師）、武田　純三（非常勤講師）

(2) 教育内容

本科目は、わが国における医療政策の歴史的経緯と現状及び課題を理解し、質の高い医療提供をする医療者の役割について考えることを目的としている。とりわけ、国立病院機構キャンパスにおいては、全国で組織的に医療展開している国立病院機構の役割や医療の現状等を踏まえ、看護の役割とその将来展望について考察することを主眼としている。

2年次にある学生には、まず我が国の医療政策、保険医療制度の特徴、社会保障における医療制度と福祉制度の課題等について、歴史的、倫理的、国際的視点等から解説し、政策医療についても現状を詳細に説明している。

看護の役割と発展に関しては、本年度からイメージしやすくなるよう DVD を活用した学習を導入し、身分法である保健師助産師看護師法については今後の発展に向け批判的吟味ができるよう解説を試みた。さらに喫緊の課題となった超高齢社会・人口減少社会に向けたケアシステムの構築、看護のあるべき姿と発展についても検討することとした。

本科目は内容が多岐に亘るとともに幅広く、難易度の高い科目の一つであるが、学生が興味を持ち主体的に学習できるよう引き続き支援したい。

12）看護職とキャリア形成　　4年次後期

(1) 担当教員　　金子　あけみ

(2) 教育内容

本科目は、看護専門職として成長するプロセスにおける考え方とキャリア形成に関する知識を深め、また診療看護師、専門・認定看護師等といったより専門性の高い看護職の役割について理解することを目的としている。

最終学年にある学生が、これまでの実習経験等を踏まえ、質の高い看護を提供する看護者のあり方を主体的に考え、将来実践し、発展していくことを期待し、講義では、生涯発達、キャリア発達、リフレクション、プロフェッショナリズムを主なキーワーズとして、専門職とは何か、自己理解と環境理解等を具体的に理解できるよう教材を工夫した。本年度はコロナ禍にあって、グループワークが効果的にできなかったため、学生個人が看護職の専門職性をどのように捉え、キャリア形成をどのように考えているかに関するレポートを課した。この課題により、学生はグループワークのような意見交換はできなかったものの、自らの考えを深く考察する機会となったことがレポート内容から汲み取ることができた。

次年度は、コロナ収束を期待したいが、状況に応じて学生が自らの思考を深められるよう引き続き努力・工夫していきたい。

【基礎看護学領域】

1．教育方針

本領域においては、看護に関する考え方やその変遷についての理解を踏まえたうえで、看護実践能力の基盤となる看護技術力や判断力、問題解決力を養うことをめざし、講義・演習・実習を展開する。具体的には、基礎看護学領域の各科目の教授内容を関連付け

ながら、人間やその生活の特徴を理解し、統合体としての人間に関する情報を的確に収集する力、その情報を分析・判断し看護上の問題や課題を見極める力、一つひとつの看護技術がもつ科学性や安全性、安楽性や倫理性を追求しつつ対象の個別性に応じた看護技術を提供する力、常に自らの看護技術やその提供過程を評価し、「何故そうするのか」「何が最善か」を自問自答していける力の育成をめざす。また、看護学の学習の導入となる領域として、学生が看護の奥深さや楽しさに触れると同時に、専門的な学習への動機づけとなるような授業展開を探求していきたいと考えている。

2. 科目名

1）看護学概論　：1 年次前期

(1) 担当教員　松山友子

(2) 教育内容

本授業は、看護および看護に含まれる基本概念　（人間・環境・健康）　について理解し、看護の歴史的変遷を踏まえて今日的課題や展望を考察するとともに、学生自身が今後の看護学の学習に向けた自己の課題を明確にすることを目的に授業を展開した。　「看護とは何か」　という問いに対し、看護実践の記録映像から看護を考えることを導入とし、ヘンダーソンの理論や ICN の定義およびその発展から、看護に対する理解が深められるように教授した。看護の対象となる人間やその生活、看護の目標となる健康については、時代とともに移り変わる人々の意識も含めて理解できるような内容とした。また、看護活動と看護師の役割については、記録映像をもとに意見交換と紙上発表を行った。さらに、今日に至るまでの看護の変遷を振り返り、これからの時代の中で看護職を目指す自らの課題をレポートとして課した。4-5 月はオンデマンド授業によりグループワークが行なえなかったため、学生の意見は次の授業でフィードバックした。学生からは他の学生の意見を聞くことは勉強になるとの声が聞かれた。　次年度は、遠隔授業になった場合も意見交換の場を設け、自らの意見を述べることを課題としたい。

2）看護実践技術論Ⅰ　（日常生活における援助技術と判断）　：1 年次前期

(1) 担当教員　　松山友子、内山孝子、髙橋智子、ハーネド明香、伊部有美子、吉田貴恵子

(2) 教育内容

看護技術の基本的な成り立ち及び人間の生活の特徴に関する理解に基づき、様々な状況にある人間の生活過程を整えるために必要な看護技術を学ぶことを目的として授業を展開した。

講義では、人間を対象とする看護技術の特徴を理解し、安全と倫理に配慮しつつ科学的根拠に基づく看護技術を提供する意義や看護職が専門的な視点から人間の生活過程を整える意義を教授した。また、看護場面に共通する技術　（感染予防、ボディメカニクス）　や人間の生活過程を整えるために必要な基礎的な看護技術　（療養環境の調整技術・活動・休息・安全・安楽・衣生活・排泄・食事を整える技術）　を取り上げ、技術の原理・原則や専門的視点による観察、安全・安楽や患者への倫理的配慮を行動レベルで理解できることを目指した。さらに、看護技術を一人ひとりの人間の個別性に合わせて提供する意義やその方法を考えることを課題とした。今年度は登校制限により演習が行なえなかったた

め、補講演習や後期の演習の中で、技術の実施時間を設けた。また、日常生活援助展開実習の中で不足点を補った。

次年度は、演習内容・方法の評価・精選を行い、ICT の有効活用も含めた看護技術の自己学習の方法を検討したい。

3）看護実践技術論Ⅱ　（治療、処置における援助技術と判断）　：1 年次後期

(1) 担当教員　内山孝子、松山友子、髙橋智子、ハーネド明香、 伊部有美子、吉田貴恵子

(2) 教育内容

人間の健康および医療に関する理解を基盤として、看護職による専門的な診療の補助の意義と方法および看護技術を提供するために必要な知識・技術・態度について学習することを目的に授業を展開した。

本授業では、無菌操作、与薬、注射、静脈血採血の技術、排泄機能に障害がある患者の援助（浣腸、膀胱留置カテーテル）を取上げ、これらの技術の中核となる「安全」の確保に向けて原則を遵守する重要性を強調した。特に演習においては、COVID-19 感染予防策を講じつつ、対面にて、侵襲的な看護技術を安全に実施するための解剖学的な根拠や安全な看護技術の提供を支える看護師の倫理性を問い、学生がその重要性を考えながら技術を実施できるようにした。また、看護技術の習得には原則を踏まえた反復練習が必要となるため、事例課題を提示すると共に学生が自己練習できるように物品を準備するなど学習環境を整えた。これにより、学生は計画的・主体的に技術の学習に取り組むことができた。

次年度も、COVID-19 感染予防対策を講じつつ、安全確保のための原則、解剖学的な根拠、看護師の倫理性を強調すると共に、学生が主体的に学習できるように ICT を用いた事前・事後学習用教材の配信を含めた指導方法を工夫したい。

4）看護実践技術論Ⅲ　（看護技術の統合）　：1 年次後期

(1) 担当教員　髙橋智子、内山孝子、ハーネド明香、伊部有美子、吉田貴恵子

(2) 教育内容

看護実践において対象の日常生活に関わるニーズを判断し、対象の個別性に応じ、さまざまな看護技術を統合・応用・創造し、最善の看護を実践する意義と方法を学習することを目的として授業を展開した。

清潔の援助技術を例に対象の個別性に合わせた援助の必要性と方法の判断、看護計画の立案・実施・評価の重要性について教授した。演習では、これまでに学習した看護技術の統合を意図し、点滴中の患者の清潔援助に関する計画を立案し、実施・評価を行った。評価のポイントを示すとともに ICT を活用したルーブリック評価を用いたことで、質の高い評価に繋がった。また学生は、最善の看護を提供するための過程が分かり、99%の学生が日常生活援助展開実習に役だったと評価していた。

昨年同様、臨場感ある演習をねらいとして開発した刺入部の漏れを可視化できるモデル教材を用いることで学生からは「点滴部位に注意を向けて学習できた」という意見が多く聞かれた。

次年度も、ICT を活用した教材や指導方法を工夫し、学生が対象の個別性に合った援助を考え実施できるよう検討したい。

5) ヘルスアセスメント　：1年次前期

(1) 担当教員　　髙橋智子、松山友子、内山孝子、ハーネド明香、伊部有美子、吉田貴恵子

(2) 教育内容

対象者の健康問題を把握するために必要な観察やコミュニケーションの技術を基盤として、人間の生活および健康を系統的かつ包括的に捉える方法を検討し、観察や看護技術を提供するために必要な基礎的知識・技術・態度について学ぶことを目的に授業を展開した。

講義ではICTを活用し、観察やコミュニケーションの重要性、バイタルサインの測定および報告方法について、解剖生理等の観察に必要な基礎知識に関する事前学習課題と結びつけながら教授した。昨年度と同様に系統的観察の視点についてプレゼンテーションを実施することによって、学生は学びが深められたと評価していた。補講演習を実施し、初学者には操作が難しい血圧測定の技術について、教員がデモンストレーションを実施し、手技の原理・原則を丁寧に演示・説明するとともに自作のDVDを用いて復習ができるように学習環境を整えた。また、SBARを用いた報告を取り入れることでアセスメントの視点の強化に繋がった。

次年度は、原則を遵守したバイタルサイン測定および報告の技術習得、患者の個別性に応じたコミュニケーションの充実を継続課題とする。

6) フィジカルアセスメント　：1年次後期

(1) 担当教員

内山孝子、　松山友子、髙橋智子、浦中桂一、ハーネド明香、　伊部有美子、吉田貴恵子

(2) 教育内容

人体の構造と機能の理解を基盤として、フィジカルイグザミネーションによる情報収集方法、分析・判断、報告内容について検討し、自律的・専門的な判断の重要性および看護技術の提供に必要な基本的知識・技術・態度について学ぶことを目的にCOVID-19感染予防対策を講じつつ対面授業と演習を展開した。

本授業では、事前学習の理解度を学生自身が評価できるようWebClassを用いて授業開始時に小テストを実施した。講義では、アセスメントの視点の強化のため、積極的に視聴覚教材を講義に活用した。また、高度実践看護コースの大学院生（TA）によるシミュレーターを用いた「心音の聴取」に関する講義・演習を取り入れ、学生の主体的な学習の動機付けとなった。さらに、器官系統別のアセスメントの視点を看護学実習における情報収集やアセスメントにつなげるため、基本的看護の構成要素を基に学生が作成したアセスメントガイドに反映させていく事後課題を課し、ルーブリック評価とコメントを次の講義開始時までに返却し、次の課題に活かせるよう指導した。学生からは、演習でき、援助の内容や方法をより理解することができたと高評価を得た。

次年度もアセスメント能力の強化を目指し、ICTも活用した教材の充実を継続課題とする。

7) 看護過程と看護方法論　：1年次後期

(1) 担当教員　松山友子、内山孝子、髙橋智子、ハーネド明香、伊部有美子、吉田貴恵子

(2) 教育内容

看護過程は、看護の対象となる人々の個別性や状況に応じ、科学的に看護を実践するための方法であることを踏まえ、本授業は 「看護過程の概要とその活用の意義」 「看護過程の展開方法」 「質の高い看護の提供に向けた看護過程の活用の現状と課題」で構成した。具体的な「看護過程の展開方法」については、看護過程の 5 段階をさらに 11 のステップに分け、ステップごとに 「事例展開の課題（個人課題)」 → 「課題のサンプル例の提示と解説・グループ検討」という流れで講義・演習を行った。今年度は、問題解決型学習の成果を上げるため、事前課題であるワークシートの内容を精選し、各ステップのポイントとなる知識を予習した上で講義に臨めるようにした。講義では、基本的知識を確認する小テスト、課題に関する疑問点の解説、グループ検討を実施し、基本的知識に対する理解の深化を図った。また、事例課題については、習熟度別のグループ指導を取り入れ、具体的内容を加えた評価表の解説と自己点検の時間を増やし、知識の定着を図った。
次年度も、学生の主体的な学習を促し、基本的知識の理解と定着を図ることを課題とする。

8）看護教育学 ：4 年次後期
(1) 担当教員　松山友子
(2) 教育内容
看護教育の教育制度・教育課程等の歴史的変遷について学習し、看護学教育に関する現状と課題について考察した。また、看護学教育のカリキュラムの特徴や教育方法および評価の概要を学習することを通し、看護職者としての教育的視点を養うとともに、自らのキャリア開発に向けた教育や自己評価の意義を検討した。具体な展開としては、看護学教育に関する学生の疑問を解決すべく、大学における看護学教育に関わる制度やカリキュラムに関する学習を進めた。また、本学の履修案内とシラバスを用いて授業設計を確認すると共に、「学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標」を参考に自らの 4 年間の学びを評価した。キャリア開発に関しては、「新人看護職員研修ガイドライン」等の活用方法を検討した。学生は、4 年間の自分の学習成果を振り返り、大学における看護学教育の意義を見直すと共に、学ぶ側だけでなく教える側の視点へも視野を広げて考えることができ、学び続けることの重要性を認識できたと述べていた。また、毎回の授業でテーマに沿ったレポートを記載することが学習内容の理解に繋がったと評価していた。次年度もテーマを精選して継続したい。

9）看護学体験実習 ：1 年次前期
(1) 担当教員
松山友子、内山孝子、髙橋智子、ハーネド明香、小嶋奈都子、加藤知子、日髙未希恵、伊部有美子、吉田喜恵子
(2) 教育内容
本実習は、学生が入学後 3 か月間の講義・演習を通して学んだ看護・人間・健康・環境に関する内容を、実際の医療現場を見学や指導者からの説明により体験的に学習することを目指している。しかし、今年度は登校自粛期間のため、ICT を活用した代替実習を実施した。

独立行政法人国立病院機構東京医療センターの協力を得て、看護師の役割・活動に関する臨床講義をライブ配信した。また、施設・設備や看護師の活動場面の写真の解説に加え、実習目標に合わせて教員が看護師・患者を演じた場面を編集し、ライブ提供した。これらの教材をもとに担当教員が遠隔ビデオ会議システムを用いてカンファレンスやグループおよび個人指導を行った。学生は初めてのオンライン実習に戸惑いながらも、日々のレポートやカンファレンスの中で多くの気づきや学びを述べていた。最終日の成果発表の中では、看護職の役割とその重要性や看護職に必要な専門的態度等についての学びを整理すると共に、目標に向かって今日から真摯に学習に取り組む決意を表明していた。

次年度も、講義と実習を関連づけ、新たな気づきや今後の学習への動機付けに繋げられるように指導を継続した。加えて、ICT を活用した効果的な代替実習についても検討したい。

10）日常生活援助展開実習　：1 年次後期

(1) 担当教員

髙橋智子、松山友子、内山孝子、井本由希子、鬼澤宏美、小嶋奈都子、篠崎真弓、嶋谷圭一、デッケルト博子、ハーネド明香、早坂奈美、日髙未希恵、山田恵子、伊部有美子、佐藤琴美、望月靖記、杜稀衣、森岡千尋、吉田貴恵子

(2) 教育内容

独立行政法人国立病院機構東京病院を実習施設とし、代替実習として 2 期に分け、1 グループ 6～8 名を配置した。患者 1 名を受持ち、基本的ニードの充足状況の判断に基づく援助を実践することを通し、学内で学習した日常生活援助に対する知識・技術・態度の統合・向上をはかることを目的とした。　学生は、患者のニードの充足状況を踏まえ、個別性に応じた援助の提供をめざして、援助計画を立案し、その計画に基づき実習室で実施を行い、評価した。学生は患者の反応を的確にとらえ個別に応じて援助することの難しさを実感するとともに、実習終了時には看護師が日常生活援助を行う意義を受持ち患者の例を通して述べ、これまでの学習を深化させていた。また、遠隔ではあったが、計画や実施の振り返りに対する指導および患者の反応を指導者から直接伝えられたこと、教員が患者役・指導者役となり指導することにより、臨場感ある実習ができていた。学生は講義で実習記録の書き方や SBAR による報告の仕方を学んでいたため、実習に役立ち効果的であったと評価していたことから、これらの点については次年度も継続したい。

11）看護過程展開実習　：　2 年次前期

(1) 担当教員

松山友子、内山孝子、髙橋智子、井本由希子、鬼澤宏美、小嶋奈都子、篠崎真弓、菅原裕美、ハーネド明香、早坂奈美、日髙未希恵、山田恵子、伊部有美子、岡村美帆、吉田貴恵子

(2) 教育内容

COVID-19 感染拡大による登校自粛期間のため、ICT を活用した代替実習を実施した。本実習では、「看護過程と看護方法論」の授業で学習した知識・技術を活用し、受持ち患者の看護過程を展開することを通し、個別性に応じた必要かつ適切な看護を実践するための基礎的能力を養うことを目指した。

学生は、前年度 2 月に実施した日常生活援助展開実習での受持ち患者の情報を基に患者

の全体像を捉えた上で、これまでの学習で対応可能な看護上の問題点1つに焦点を当てて看護計画を立案・実施・評価を行った。また、既習の学習内容と実践における具体例との統合的な理解を図るために、看護過程展開の進行に沿ったテーマカンファレンスを実施した。本年度は直接患者に援助を実施することはできなかったが、ICTを活用した個別およびグループ指導、カンファレンスにより、学生は日々思考を整理・深化させることができたと評価していた。代替実習として、実際に実習で受け持った患者の情報を活用したことは個別性を検討する上でも有効であったが、実施・評価の記載については課題が残った。今後は状況に応じ、実習施設とも連携した代替実習を検討していきたい。

【成人・老年看護学領域】

1. 教育方針

成人・老年看護学では、成人期と老年期を一連のライフサイクルとして捉え、幅広い年齢層における多様な健康問題を抱える人々を対象とした看護実践能力の養成を目指している。

成人・老年期にある人々とその家族を全人的に理解し、成人期の経過別看護および老年期看護の特徴に応じた看護を実践するための講義・演習・実習を展開している。講義・演習ではアクティブラーニングを重視し、プレゼンテーションやディスカッション、事例に対する看護実践のロールプレイ、高機能シミュレーターを用いた総合的アセスメントに基づく看護技術演習などを行っている。臨床実習では、看護過程にもとづき、マニュアル化された看護ではなく、対象の個別性を重視した custom-made の看護を実践する能力の育成を重視している。

臨床実践に直結する教育を担う領域として、“tomorrow’s Nurse”の資質の錬成につながる講義・演習・実習を展開していきたい。

2. 科目名

1) 成人看護学概論：1年次後期

(1) 担当教員　　竹内 朋子、松本 和史

(2) 教育内容

成人期にある人々の身体・心理・社会的特徴と、成人看護学の基礎を理解することを目標とし　た。本年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、一部オンライン講義であった。

対象への理解を深めるため、成人期の人々の健康に関する人口統計データの概説と併せて、様々なライフイベント、生活習慣と健康問題の関連などを、自己に置き換えて考えられる学習課題を設定した。また、成人看護にまつわる主要な諸理論・概念について概説し、自己のこれまでの具体的な経験と照らし合わせることで理解が深まるよう工夫した。さらに、次年度以降の実践論の学習につながるよう、成人期における経過別看護（急性期看護、慢性期看護、終末期看護）の特徴に関してそれぞれ概説した。

成人看護学の導入となる科目であるため、次年度も成人看護の基礎を修得できる講義を目指したい。

2) 老年看護学概論：1年次後期

(1) 担当教員　　竹内 朋子、松田 謙一

(2) 教育内容

老年期にある人々の身体・心理・社会的特徴と、老年看護学の基礎を理解することを目標とした。本年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、一部オンライン講義であった。

人口統計データに基づいて今日の高齢者の健康と暮らしに関する動向を概観し、老年看護学に関する諸理論・概念、高齢者を支える社会保障制度の基礎について講義した。また、加齢が日常生活に及ぼす影響をより効果的に学習できるよう、高齢者体験キットを用いた高齢者模擬体験演習を取り入れた。講義に際しては、自己の老後の生活をイメージすることや、老年観をディスカッションする課題などを通して、加齢を身近に感じることができるように工夫した。

次年度も老年期にある人々を支える看護を多角的に理解できるような講義を目指したい。

3) 慢性期看護論：2年次前期

(1) 担当教員　　竹内 朋子、松本 和史、野田 恵美子

(2) 教育内容

慢性期看護をより具体的に理解できるよう、経過別看護で広義の慢性期看護を構成する慢性期看護と終末期看護の2部で展開した。本年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため全回オンライン講義であった。

慢性期看護に関しては、慢性疾患をもつ対象者の受容過程をふまえ、セルフケア能力を高めるための援助について理解することを目標とした。器官系統別に代表的な慢性疾患とその看護について講義した。関連する国試過去問を用いた理解度チェックテストを取り入れ、実践的な理解が深まるよう促した。

終末期看護に関しては、終末期にある患者とその家族を全人的に理解し、苦痛の緩和やその人らしさを支える看護について理解することを目標とした。特に、死すべき存在（mortal）である生命を対象とする医療職を目指す者として、自己の死生観を深化させるとともに、死にまつわる多様な価値観を理解できるよう、看護学以外の学問領域の知見についても言及したりするなどして講義展開を工夫した。

次年度はカリキュラム変更により、本科目で扱ってきた終末期看護学に関する内容は「終末期看護論」として独立し、本科目では全て慢性期看護学について講義する。

4) 老年期看護論：2年次前期

(1) 担当教員　　松田 謙一、井本 由希子

(2) 教育内容

健康障害により診察・検査、入院治療を必要とする高齢者への看護、ならびに高齢者に特徴的な症状や疾患とその看護について理解することを目標とした。本年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため全回オンライン講義であった。

健康障害により診察・検査、入院治療を必要とする高齢者への看護では、加齢に伴う環境適応能力の低下を踏まえて療養環境を整えることの重要性を理解できるよう事例や画像を用いた。高齢者に特徴的な症状や疾患とその看護では、各回の導入時に、高齢者に生じやすい理由や発生頻度等の疫学的データを示し、老年看護学で学習する意義を理解できるように工夫した。また、看護について講義する場合には、健康障害に加えて加齢の影響に

も配慮した介入の必要性を理解できるよう、事例や画像を用いた。

次年度はカリキュラム変更により、本科目は「老年看護実践論」として展開することとなる。次年度も高齢者の特徴を踏まえた看護を理解できるよう、事例や視覚教材を積極的に活用した講義を目指したい。

5) 老年看護実践論：2 年次前期

(1) 担当教員　　松田 謙一、井本 由希子、岡村 美帆

(2) 教育内容

本年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため全回オンライン講義であった。

高齢者の特徴をふまえた看護過程を展開できるよう、前半は高齢者を取り巻く社会保障制度や NANDA-I 看護診断に関する講義、後半は生活機能に関するアセスメント演習や NANDA-I 看護診断を用いた看護過程展開演習を行った。高齢者を取り巻く社会保障制度では、制度の内容に留まらず、「老年看護学実習Ⅰ」の動機づけとなるよう、介護保険施設で生活する高齢者の特徴と看護について講義や事例検討を行った。生活機能のアセスメント演習により加齢の特徴を踏まえたアセスメント能力を養った。その後の NANDA-I 看護診断を用いた看護過程演習では、健康障害を有する高齢者の事例について、健康障害および加齢の影響を踏まえた包括的なアセスメントができるように展開した。生活機能のアセスメントおよび NANDA-I 看護診断を用いた看護過程展開演習では、模範となる学生の成果物を用いて学びを共有した。

次年度はカリキュラム変更により、本科目では看護過程展開演習に加えて、老年看護に関連する看護技術演習も計行う。演習を通して、学生の高齢者に対する看護実践能力の向上を目指したい。

6) 家族看護学：2 年次後期

(1) 担当教員　　松本 和史、竹内 朋子、松田 謙一

(2) 教育内容

様々な視点で家族を捉える見方を養った上で、病気や障害が家族に与える影響と家族が障害や患者に与える影響について理解し、家族を単位として展開する看護について学ぶことを目標とした。 また、家族の役割・機能、現代の家族の諸問題に着眼しながら、家族観を見つめなおすことができるように授業を行った。本年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため一部オンライン講義であった。

家族看護に関する講義に加え、家族看護事例の演習をグループワークで行い、考えや意見を他の学生と共有することで、家族の複雑な問題を多角的に考える力を養った。また、スマートフォンや LMS 等の ICT を使って、双方向型授業となるよう工夫した。本年度の試みは、社会的に家族を対象とする看護の重要性が高まる中、学生の家族看護の実践力を高めることにつながったと考えられた。

次年度も、講義とグループ演習を取り入れた授業構成とする予定である。

7) 老年看護学実習Ⅰ（地域で暮らす高齢者への看護）：2 年次後期

(1) 担当教員　松田　謙一、井本　由希子、野田　恵美子、岡村　美帆、佐藤 琴美

(2) 教育内容

介護保険施設で暮らす高齢者の生活と看護師の役割を理解することを目的とした。今年度は、新型コロナウイルス感染症対策により、臨地実習を行えなかったため、実習施設と連携を図りながらオンライン実習と学内実習を行った。

オンライン実習では、実習グループに分かれて、加齢の特徴を踏まえたアセスメントの方法、ライフヒストリーの聴取方法および看護実践への活用方法、コミュニケーション技法について事例を用いて検討した。また、学内実習では、高齢者福祉機器のプレゼンテーションならびに、アクティビティケアの意義を理解することを目的としてレクリエーションの企画・発表会を行った。担当教員との最終面接や最終レポートにおいて、学生は、多様な視点からの高齢者の理解や加齢や尊厳に配慮した関わり方の重要性について考察できていた。

次年度も、地域や施設で生活する高齢者と、高齢者に対する看護の役割に関する学びが深まるような内容を検討していきたい。

8) 急性期看護論：3 年次前期

(1) 担当教員　　原口　昌宏、竹内　朋子、 松本　和史、松田　謙一

(2) 教育内容

急性期にある対象の身体的・心理的・社会的特徴と生命維持、術後合併症予防、残存機能を活かした看護について理解することを目標とした。本年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため全回オンライン講義であった。

前半では、生体侵襲や全身麻酔による影響、生命維持機能についての講義を行い、その後周術期看護や救急看護・重症ケアの講義につなげることで、侵襲による身体的、心理的、社会的変化や好発する合併症の予防について理解できるようにした。後半は、代表的な疾患の病態と手術を中心とした治療ついての講義を行い、各手術療法に特有の合併症や看護についての理解を深めた。授業内容に関する小テストを行い、復習ができるように工夫をした。さらに「成人・老年看護実践論」の内容・進度と連動させて、より実践的な学びが得られるよう工夫した。

次年度も、後期に開講する「成人看護学実習Ⅰ（急性期)」につながるよう、急性期看護に必要な看護の知識を深める授業を展開してく予定である。

9) 成人・老年看護実践論：3 年次前期

(1) 担当教員

松本 和史、竹内 朋子、原口 昌宏、 松田 謙一、井本 由希子、野田 恵美子、岡村 美帆、佐藤 琴美

(2) 教育内容

成人期・老年期の患者の看護過程、および患者の生命維持、QOL 向上のために必要な看護援助方法を理解できることを目標にした。本年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、看護過程に関する授業はオンラインで行った。看護技術演習は対面で行うことができた。

看護過程に関しては，まず導入偏として事例演習を行い、その後、急性期、慢性期、終末期、老年期の経過別の授業を配置することで、成人期・老年期の看護実践の理解を促した。クラウドやメールを使って課題の提出やフィードバックを行い、対面と同様の教育効果が

得られるように工夫した。看護技術演習に関しては、酸素療法、吸引、一次救命処置などの看護技術の演習を対面で行った。臨床判断能力を養うことを目的とした一部の演習では、教員が作成した動画を使ってオンラインでのシミュレーション演習を取り入れた。対面での演習が限られる中、学生は後期の実習を意識して非常に意欲的に授業に取り組んでいた。

次年度も、シミュレーション等のアクティブラーニングのさらなる充実を図り、学生が主体的に学び、考える力を養える内容にしていきたい。

10）成人看護学実習Ⅰ（急性期）： 3 年次後期

(1) 担当教員　　松本 和史、 佐藤 琴美

(2) 教育内容

周術期看護とクリティカルケア看護を学ぶために、外科系病棟、手術室、救命救急センターの 3 部署で行った。本年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、全 7 クールのうち、3 クールが臨地実習、4 クールが代替実習となった。

臨地実習に関しては、病棟では、周術期の患者を 1 名受け持ち、看護展開を行った。事前課題と実習記録を連動させ、限られた期間で看護展開できるように工夫した。手術室では、手術や看護師の役割等を見学し、器械出し看護師の役割の一部を経験した。救命センターでは、重症患者へ看護ケアを実施した。また、代替実習では、実習病院から周術期患者の情報を提供していただき、看護展開を行った。同時に、病棟、手術室、救命センターの臨床指導者にカンファレンス等に参加していただき、臨床での取り組みがイメージできるよう工夫した。また、シミュレーション演習に加え、バーチャルシミュレーターや視聴覚教材を用いて、臨地に行けなくても看護実践能力が養えるようにした。

次年度も急性期看護を総括的に学べるよう同様の実習形式を予定している。

11）成人看護学実習Ⅱ（慢性期）：3 年次後期

(1) 担当教員　　松本 和史、野田 恵美子

(2) 教育内容

慢性期にある対象が生活過程を整えながら社会生活を営み、セルフマネジメント能力を身につけるための看護実践を学ぶことを目的とし、東京医療センターと東京病院にて行った。本年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、全 7 クールのうち、東京医療センターでは 4 クールが、東京病院では 2 クールが代替実習となった。

臨地実習では、慢性疾患をもつ患者を 1 名受け持ち、看護過程を展開した。さらに退院支援看護師からの講義を取り入れ、受け持ち患者への退院支援スクリーニングシートを作成することで、慢性期看護が多角的に学べるよう工夫した。代替実習では、実習病院から実際の患者の情報を提供していただき、看護展開を行った。臨床指導者にカンファレンス等に参加していただき、臨床場面がイメージできるよう工夫した。また、シミュレーション演習に加え、バーチャルシミュレーターや視聴覚教材を用いて、臨地に行けなくても看護実践能力が養えるようにした。

次年度も慢性期にある患者のセルフマネジメント能力を引き出すための看護実践能力を高める内容としたい。

12）成人看護学実習Ⅲ（終末期）：3 年次後期

(1) 担当教員　　竹内 朋子、岡村 美帆

(2) 教育内容

終末期にある患者の全人的苦痛を緩和し、その人らしい生と死を支えるための看護と、重要他者を失いゆく家族に対するグリーフケアの実践を目標とした。本年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、全 7 クールのうち、3 クールが臨地実習、4 クールが代替実習となった。

臨地実習では、終末期患者を受け持ち、看護過程にもとづいて、終末期患者の全人的苦痛を緩和するための看護およびグリーフケアを実践した。また、臨死期・臨終・死後の看護を実践または見学した。さらに、実習やカンファレンスを通して、患者、家族、実習グループメンバー、医療スタッフたちの死生観に触れ、看護職としての自己の死生観を深化させた。代替実習では、実習施設から患者情報を提供していただき、看護過程を展開したうえで模擬患者に対して看護計画を実践する演習や、エンゼルケアの演習を行った。また、臨床指導者にオリエンテーションやカンファレンスに参加していただき、臨地実習に近づけられるように工夫した。

次年度も、終末期にある患者と家族の苦痛を全人的にアセスメントし、緩和ケアを実践する能力を高めていきたい。

13）老年看護学実習Ⅱ（病と生きる高齢者への看護）：3 年次後期

(1) 担当教員　　松田 謙一、井本 由希子

(2) 教育内容

急性期病院において入院治療を必要とする高齢者への看護実践を学ぶことを目的とした。本年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、全 7 クールのうち、3 クールが臨地実習、4 クールが代替実習となった。

NANDA-I 看護診断を用いた看護過程の展開では、高齢者を全人的に捉えたうえで、看護の必要性を見出せるように実習指導者と連携しながら実習指導を行った。また、実習記録においては、加齢による心身の変化を丁寧に解釈・分析することを課し、臨床現場で加齢の影響を系統的に把握するために必要となるアセスメント能力を養った。学内実習では、実際の受け持ち患者を想定し、立案した看護計画を一部実践した。また、最終カンファレンスやレポートにおいて、学生は、高齢者を全人的に捉えたうえで看護を展開することの重要性に加えて、高齢者の意思やストレングスを反映させた看護の必要性についても考察できていた。

次年度も、急性期病院において入院治療を必要とする高齢者への看護に必要な実践能力を修得できるよう実習を展開していきたい。

【小児看護学領域】

1. 教育方針

発達段階や健康・不健康を問わず、子どもとその家族および家族を取り巻く社会を理解し、専門的知識と技術と共に小児看護が実践できる能力を養うことを目的としている。子どもたちの身体的・精神的側面だけではなく、子どもたちを取り巻く社会的環境からの影響も含めた社会権をもった一人の社会的生活体として捉えるための小児看護学としての位置づけ

とし、「小児看護学概論」、「小児看護実践論」および「小児看護学実習」の３科目の構成としている。

2. 科目名

1）小児看護学概論：2 年次後期

(1) 担当教員　　中島美津子、玄順烈、山田恵子

(2) 教育内容

小児各期の成長・発達理論とその評価方法を学び、小児医療の歴史的変遷、倫理、理念および機能を学び、現代に小児看護の役割と課題を明確にすることを目的とした。

講義は COVID-19 によりオンデマンドと対面による講義とした。各成長・発達段階の理論と評価方法を学習した。授業では毎回授業評価及びアンケートを実施し、直接、学生からの質問や疑問、わからない点などのフォローを重ねた。個人課題は、子どもを取り巻く社会環境と家族の理解から、現代の視点で子どもを取り巻く環境、法律、施策を学習後、学生自らテーマを決め調べることとした。今年度はグループ学習の展開ができずに学びの共有や他学生からの学習への気づきの機会を設けることができなかったため、次年度は今年度と同様な授業形態であったとしてもその点に関して工夫していく必要性がある。また、様々な法律改正が成され少年法の改正等、さらに法律改正等を踏まえた新たな子どもを取り巻く社会的情勢を盛り込んだ学習も必要と考える。

2）小児看護実践論：3 年次前期

(1) 担当教員　　中島美津子、玄順烈、山田恵子

(2) 教育内容

子どもの病状や経過、子ども特有の症状に応じた看護実践に必要な基礎的知識を学び、子どもの健康障害の回復や成長発達の促進に向け、子どもとその家族の援助方法を理解することを目的としている。

講義は COVID-19 によりオンデマンドと対面による講義とした。子どもとその家族への看護および急性期から終末期までの経過別看護、また障害をもつ子どもとその家族の看護などを、事例に基づいて教授した。技術演習は遠隔での実施となった。看護過程の展開（川崎病、急性期、3 歳児の事例）により具体的に患児へのイメージを図りこの事例を用いてバイタルサイン測定を遠隔での技術演習とした。演習技術は、体温、脈拍、心拍、呼吸の測定とし、自作の子どもに見立てた物品等とし、具体的援助手順は事前に各自で作成し、遠隔実演での評価とした。次年度はさらに新たな事例を含め、実習に繋げられるような演習の展開を予定している。

3）小児看護学実習：3 年次後期

(1) 担当教員　　玄順烈、中島美津子、山田恵子

(2) 教育内容

子どもの特徴や成長・発達、健康レベル、家族の繋がりに対する理解を深め、小児看護実践に必要な基礎的能力を養うことを目的とした。実習は、保育実習と病棟実習で構成した。保育実習場所は、大学周辺の保育所とした。病棟実習は、東京医療センター5B 病棟、成育

医療研究センター、東埼玉病院　（障害児［者］病棟）の 3 施設とした。実習方法は、各グループ 2 週間の実習のうち 1 週間を病棟実習、残り 1 週間は保育実習とした。今年度は、COVID19 の感染対策本部の定めにより、保育所実習は中止となり、代替え実習として学内実習に変更した。病棟実習においても、実習前および実習中の健康管理調査を実施した。実施内容について、保育実習では、健康な子どもの DVD や資料の提供とそれに応じた課題について、オンラインによるグループワークとリフレクションを実施した。保育園実習の学生は、子どもにとって保育園は、生活の一部であり、お友達との相互影響により成長する場である。子どもがその環境の中において、その子らしく成長・発達していくのかを観察とアセスメント、支援方法を検討していく必要があることを学んでいた。しかし、子どもとの接触体験が乏しい学生にとっては、子どもの特性を実感できる体験が得られなかったことが課題である。病棟実習での学生は、患児 1 名を学生 2 名で受持ち、指導者と教員を交えたカンファレンスを通じて、子どもが示す反応の意味、子どもが力を発揮するための援助の創意工夫、家族環境などの情報共有することで、具体的援助の実践に繋げることができていた。障害児（者）病棟では、非言語的コミュニケーションを多用し、反応を詳細に捉えることで患者の理解を深めることができた。しかし、1 週間の病棟実習では、子どもと家族をも視野に入れた健康上の問題の抽出が難しかったように考えられた。次年度からは、保育所実習で明らかになった課題を実習内容に反映し、子どもたちの社会生活の理解を深めたうえで、病棟での実習内容の検討と指導の充実に向けて、教員と保育園・実習指導者が更なる連携の下、実習を展開していく予定である。

【母性看護学・助産学領域】

1. 教育方針

母性看護学では、人間の生涯における性と生殖の健康問題と予防法に主眼を置き、特に女性のライフサイクル（乳幼児期・思春期・成熟期・更年期・老年期）およびマタニテイサイクルにある妊娠・分娩・産褥・新生児の生理・病態と母子およびその家族への援助理論と方法について学ぶことを目的としている。科目は母性看護学概論、母性看護実践論、母性看護学実習で構成される。母性看護学実習では妊娠・分娩・産褥期および新生児期に重点を置いて実習を展開する。

2. 科目名

1）母性看護学概論　2 年次後期

(1) 担当教員　　朝澤恭子、平出美栄子、小嶋奈都子、鬼澤宏美

(2) 教育内容

母性看護学概論では、母性看護の基本概念および意義を理解し、人間の性と生殖の側面から、女性の全生涯を通じたヘルスプロモーションと健康問題への対応に視点を置き、母性各期における援助方法および母性看護の役割と重要性について理解することを目的とした。講義内容は、母性の概念、セクシュアリティ、リプロダクテイブヘルス/ライツの概念、母性看護の歴史と母子保健統計、女性のライフサイクル各期（思春期、成熟期、更年期・老年期）の健康問題と看護、母性看護の対象の理解であった。今年度は Covid-19 の感染防止のため、オンラインと対面を併用した。方法は講義の他に事例検討、グループワーク、ミニテ

ストを用いて、知識の定着を目指した。また、母性看護における倫理的課題と対処法は対面でグループディスカッションとプレゼンテーションを用いて演習を行った。母性看護のファーストステップとして静止画・動画、媒体を多く用いてイメージしやすいように工夫した。次年度も講義内容と教材を精選し、参加型の講義・演習に取り組みたい。

2）母性看護実践論　3年次前期

(1) 担当教員　　朝澤恭子、小嶋奈都子、鬼澤宏美

(2) 教育内容

本科目では、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある母子とその家族を対象に、健康を維持・促進するために必要な支援を学習し、リプロダクティブ・ヘルスケアを実践する上での援助方法を学ぶことを目的とした。今年度はCovid-19の感染防止のため、オンラインと対面を併用した。授業は、講義と演習により構成し、対象である母子の生理的・社会的特徴などの基礎知識を踏まえて、対象のニーズを理解できるようにした。講義では毎回ミニテストを取り入れて学んだ知識が定着するよう工夫した。演習は、母性看護の基本的看護技術および看護過程展開のシミュレーション教育で構成し、出来る範囲の中で工夫した。基礎知識を踏まえて対象のニーズをアセスメントし、ケアのための具体的な看護計画や看護技術が実践できるように計画した。学生は、母子の身体的・心理・社会的特徴を理解した上で、ウェルネスの視点でマタニティ期ある対象者をアセスメントし、周産期の母子とその家族に対する基本的な母性看護技術を習得した。

3）母性看護学実習　3年次後期

(1) 担当教員　　朝澤恭子、小嶋奈都子、鬼澤宏美

(2) 教育内容

母性看護学実習は、周産期にある母子およびその家族を対象に、健康を維持・促進するために必要な支援を学習し、リプロダクティブ・ヘルスケアを展開するために基礎的な看護実践能力を身につけることを目的とした。実習は、東京医療センター産科病棟・外来においてCovid-19 の感染防止のため学内実習およびオンライン学習を取り入れながら 90 時間実施した。日産厚生会玉川病院での実習は Covid-19 の感染防止のため受け入れ中止となった。

妊娠期のケアとして、産科外来の妊婦健康診査における胎児心音聴取、妊娠各期の保健指導、助産師外来を見学した。産褥期のケアにおいて、学生は１組の母子を受け持ち、看護過程の展開を実施するとともに、看護実践として母子の健康状態の観察、褥婦に対するアロマトリートメントおよび足浴、新生児の沐浴またはドライテクニックを行った。周産期の異常へのケアについてはカンファレンスを実施し、学生主体でディスカッションを行った。

次年度は新生児の沐浴、分娩見学等の貴重な体験ができるよう、実習指導者とこれまで以上に調整し、より効果的な実習ができるよう学生を支援する。

4）疾病と治療Ⅳ　2年次前期

(1) 担当教員　　朝澤恭子、金子あけみ、斉藤史郎

(2) 教育内容

本科目は、内分泌、腎・泌尿器、女性生殖器疾患による形態・機能および代謝の変化、疾病の発生機序と特徴的な症状と経過、診断の基準、検査データ、治療方法、予後について学習することを目的としている。

内分泌疾患および女性生殖器疾患は、1 年次に学習した解剖学、病態生理学等の知識を想起させ、関連づけながら体系的に学ぶことが必要となる。また、多くのホルモン名を正確に記憶することも求められるため、覚えるべき内容は、図解したり反復強調したり工夫して教授している。疾患をイメージ付し理解が深まるよう動画や静止画を多く取り入れた。糖尿病に関する講義では、生活習慣病（Non-communicable Disease, NCD）の代表的疾患として診断・治療、予防及び保健指導についても言及した。また、近年、急増している乳がんについては、机上の学習だけでなく、乳房モデルを用いた自己検診を体験させるなど実際的な内容や最新の診断・治療に関する情報を取り入れている。

今年度は Covid-19 の感染防止のため、オンラインと対面を併用した。希望した学生には補習講義を行い、ミニテストを取り入れて、知識の定着がなされるよう工夫した。各講義において、過去に出題された国家試験問題を提示し解説している。学生は、国家試験問題を解くことで、自己の理解度を確認できるため学習の動機づけに繋がっている。

【精神看護学領域】

1. 教育方針

精神障害だけにとどまらず、身体・知的を含む三障害の概念や特性を理解できるように、歴史的背景や障害に関する基礎的な知識、実際に行われている看護援助を示しながら、障害に対する理解を深められるようなカリキュラムを実施している。また、授業や実習を通して、自らの障害者観と向き合いながら、障害者の健康増進を考えられる力を身につけ、ノーマライゼーションの推進を支援できるようになることを目指している。そして、知識として習得することだけに留まるのではなく、障害者を取り巻く現状や課題について、自らの意見を持ち、積極的に行動できるような態度を身につけてほしいと願っている。

2. 科目名

1）臨床コミュニケーション論　　2 年次前期

(1) 担当教員　　田中留伊、中村裕美、菅原裕美

(2) 教育内容

看護を提供する上で重要なコミュニケーションに焦点を当てた科目である。コミュニケーションの構成要素や影響する要因などの理解を深め、自己のコミュニケーションを見つめ直し、自己啓発していく重要性を認識することを目的とした。内容としては、日常的な場面の「聴く」・「話す」等の技術について、陥りがちな課題に焦点を当てながら、段階的に実際の臨床場面での効果的なコミュニケーションを考えていける構成とした。また、看護場面での対象との支援関係形成や信頼関係構築を考えることを目的として、プロセスレコードを活用した。学生が積極的に参加できるように、すべての授業において、ワークシートを用いた体験型の授業展開を行った。コミュニケーションが上手くいくことだけにとらわれず、専門的で相手の立場に立った自分らしいコミュニケーションを常に模索していけるような授業展開を心がけていきたい。

2）精神看護学概論 2 年次後期

(1) 担当教員　　田中留伊、中村裕美、菅原裕美

(2) 教育内容

初学者であるため、できる限り難しい専門用語を用いず、精神看護について関心が持てるように心がけた。こころの働きや精神的健康、障害の概念や障害者の歴史的背景が理解できるように、教科書やオリジナルのパワーポイントを用いながら授業を行い、将来看護師として、精神障害や精神障害者とどのように向き合っていくのか考えられるような課題を与えた。また、健康レベルに応じた人間理解を深め、精神障害者の健康増進・ノーマライゼーションを推進するために必要な基礎的知識を身につけられるように展開した。一方的な授業にならないように、授業内で学生が発言できる機会を設けたり、リアクションペーパーを書いてもらうなどの配慮を行った。

3)　精神看護実践　3 年次前期

(1) 担当教員　　中村裕美、田中留伊、菅原裕美

(2) 教育内容

精神的な健康に障害を持つ対象を理解できるように、主な精神疾患や特徴的な症状について、オリジナルのパワーポイントや教科書を用いて授業を展開した。精神科医療の現状を踏まえ、入院治療だけではなく地域社会生活への適応に向けての看護実践方法を考えられるように視聴覚教材を用いて授業を行った。また、精神障害のある対象の支援に必要な基本的な看護技術が学べるように個人課題として看護過程を展開させ、全体で発表会を行いアクティブラーニングを取り入れることで学びを深めた。また、各授業の最後にリアクションペーパーを提出させ、次回の授業で学生の理解しにくい点を補足、フィードバックできるような工夫を行った。リアクションペーパーや前回の授業の復習は「解らないことが質問しやすい」、「知識の確認になる」など好評であったため、次年度以降も継続していく予定である。

4)　障害者看護論　3 年次後期

(1) 担当教員　　中村裕美、田中留伊、菅原裕美

(2) 教育内容

精神・身体・知的の三障害を持つ対象を理解できるように、オリジナルのパワーポイントや教科書を用いて授業を展開した。障害とともに生きることで社会生活への参加が制限されたり、生活行動の変更を余儀なくされる対象に対する理解を深めるために視聴覚教材を用いて学び、看護の特徴を考えられるように授業を行った。また、進行性筋ジストロフィー、重症心身障害、神経難病などを抱える人々の具体的な看護実践や生活の質を高める支援の方法については、臨床で看護を実践している講師を招き、生きた看護体験を学べるよう授業を行った。各授業の最後にリアクションペーパーを提出させ、次回の授業で学生の理解しにくい点を補足、フィードバックできるような工夫を行った。リアクションペーパーや前回の授業の復習は学びの定着にもなり学生からも好評であったため、次年度も継続していく予定である。

5)　精神看護学実習　3年次後期

(1) 担当教員　　田中留伊、中村裕美、菅原裕美

(2) 教育内容

本実習では、精神障害を持って生きる人を包括的に理解するとともに、精神障害者の自立および自己実現に向けた援助を通し、必要な看護が実践できる基礎的能力を育成することを目指した。独立行政法人国立病院機構東京医療センター、独立行政法人国立病院機構下総精神医療センター、国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院、公益財団法人井之頭病院、NPO法人ハートフル翔ワークイン翔を実習施設として実習を行う予定であったが、本年は、COVID-19 の影響を受け、臨地で実習を行えたのは、独立行政法人国立病院機構東京医療センター、独立行政法人国立病院機構下総精神医療センターおよび NPO 法人ハートフル翔ワークイン翔でのみであった。臨地実習では、学生は1人の受け持ち患者を通して看護過程を展開し、看護計画の立案・実施・評価を行った。また、実習指導者や担当医師から臨床講義をして頂いたり、作業療法等に一緒に参加させて頂いたりしたことで、精神医療の実際を知るとともに、保健医療福祉チーム・システムの現状や課題等について考えることができた。代替実習では、実習目標が到達できるよう内容を検討した。実習施設の看護師長の協力のもとオンラインによる臨床講義を行って頂くことで学びを深めた。さらに、全ての学生がプロセスレコードを記述し自己洞察を行うことで、他者との関わりを通して自己のコミュニケーションの傾向を振り返ることができた。実習の最終日には、本実習における学びを共有する場を設け、自らの精神障害者観を明らかにし、看護師の役割と課題についての考えを深める機会とした。今後も、実習指導者や担当教員の意見を反映させ、効果的な指導を検討していきたい。

【地域看護学領域】

1. 教育方針

地域看護学領域では、将来広く地域で活躍できる看護師を養成することを目標に地域看護学と在宅看護論に関する教育を行っている。様々なニーズをもつ人々が住み慣れた地域で自分らしく生活し続けられるためには看護師として何ができるのかを地域看護学の一連の科目を通して学習させる。また、在宅看護論の一連の科目では、在宅療養者とその家族がその人らしく療養できるための看護の機能と役割、地域住民全ての安心安全な暮らしを守る視点を学習させる。いずれの科目でも，アクティブラーニングや様々な ICT ツールを積極的に活用し，学生が主体的に学びを深められるように工夫して講義を展開している。

2. 科目名

1) 災害看護学　2年次後期

(1)　担当教員　　佐藤潤、太田慧、嶋谷圭一、望月靖記、森岡千尋、駒田真由子

(2)　教育内容

災害医療の概念と展開、災害時の看護の役割を理解し、災害時の社会ニーズに即した看護職の機能について学ぶことと、危機的状況にある多数の負傷者並びに地域全体を対象に、看護を展開できる判断力と看護技術を学ぶことを目標に掲げた。

災害医療の現場で活躍する講師を東京医療センターから招きリアリティのある講義も行うことができた。また、今年度は災害時の包帯法の演習について VOD を用いて自主的に繰り返し学習できるよう工夫を行った。

今年度は、例年実施している東京医療センターとの合同災害訓練が COVID-19 の影響で実

施できなかったため、次年度はそれを含めて授業展開を行っていきたいと考えている。

2）疾病予防看護学　2年次後期
(1) 担当教員　駒田真由子、嶋谷圭一、佐藤潤、望月靖記、森岡千尋
(2) 教育内容
　プライマリヘルスケアやヘルスプロモーションの基本的考え方、Social determinants of health と健康増進施策、健康格差について、最新の法改正や世界における課題についても含めて講義を構成した。各自で視聴して理解を深めることが可能なように VOD 形式の講義を取り入れた。また、COVID-19 やインフルエンザの予防を含む感染症に関する講義、最新のゲノム医学が看護に応用されていくことについて考えてもらう課題を実施した。さらに今年度の新しい取り組みとして、すでに実際の生活に大きく取り込まれている行動経済学におけるナッジ理論について講義し、健康行動の変容に活かす必要性や方法について考え、学んでもらうことに努めた。提出課題から、当初の予想よりも学生の理解度は高く、考えてもらう課題の重要性を感じた。一方で、次年度は講義方法等、今年度の反省点を踏まえて、より理解度が高められるように構成したい。

3）自立支援教育論　2年次後期
(1) 担当教員　佐藤潤、駒田真由子、嶋谷圭一、望月靖記、森岡千尋
(2) 教育内容
　様々な健康課題を抱えた対象に対して、課題解決に向けたセルフケア能力・自己効力感を高めるための理論を理解し、自立支援へとつなげる具体的な手法を理解することを目的に講義を行った。一連の講義では、健康課題解決に向けたセルフケア能力やセルフマネジメント能力を高める関わり方や自己効力感を高めるための理論の理解、自立支援へとつなげる具体的な手法について理解を促した。また、地域住民が自立して生活していくための健康教育を学生がグループでテーマを設定し、パンフレットや記事、映像資料などの媒体を作成した。これらを Web 上のコンテンツとして公開した。
　次年度は、学生の媒体作成の途中段階で教員の指導を入れることで学生のグループワークをより円滑に進められるように工夫していきたい。

4）在宅看護学概論　3年次前期
(1) 担当教員　佐藤潤
(2) 教育内容
　日本の社会的背景から在宅看護の必要性を理解し、在宅看護の特徴、看護の継続に必要な基礎的知識、看護技術など対象者（個人・家族）の支援について学び、在宅療養を取り巻く現状の理解ができることを目標に講義を行った。
　講義では、在宅看護学の定義から在宅療養者の特徴や対象が本人とその家族であること、顕在的ニーズと潜在的ニーズに対応した訪問看護の特徴等について教授した。オンラインの Live 講義や繰り返し講義内容が確認できる VOD による講義を講義内容に応じて使い分けし、学生が学びやすいよう工夫をした。
　今年度は COVID-19 の影響で学外から現場の看護師をお招きすることが叶わなかったため、次年度はより現場の雰囲気を学生が感じられるような講義内容を検討していきたい。

5）在宅看護実践論Ⅰ　3年次後期
(1) 担当教員

佐藤潤、駒田真由子、嶋谷圭一、望月靖記、森岡千尋、今井啓二、仁科恵美子、酒井ひとみ、本宮喜美子、江村俊彦、真下貴久、西田壽代、菅原芳、鳥内亮平、田村佳祐、山口潔

(2) 教育内容

本演習では、安心安全な在宅ケアの継続と生活の質的向上を目指し、在宅療養環境と療養者・家族のニーズに応じた具体的な在宅ケアの看護実践の方法について学ぶことを目標に演習を展開した。

在宅酸素療法、人工呼吸療法、ALS 療養者のニーズとコミュニケーション支援、褥瘡予防、フットケア、訪問診療との連携、在宅人工呼吸療法、退院支援、在宅における感染症予防、在宅の看取り、災害時の危機管理における技術を教授した。

今年度は COVID-19 の影響で対面での演習時間を削減せざるを得なかったため、次年度は対面での演習時間を増加させ、在宅看護実践の手技をより定着できるように授業を展開していきたいと考える。

6) 在宅看護実践論Ⅱ　4 年次前期

(1) 担当教員　　佐藤潤、駒田真由子、嶋谷圭一、望月靖記

(2) 教育内容

安心安全な在宅ケアの継続と生活の質的向上を目指し、在宅療養環境と療養者・家族を支える地域包括ケアシステムと関係機関・職種との連携における看護実践の方法を学ぶことを目標に演習を展開した。

地域包括ケアシステムの中でのケアマネジメントと在宅看護過程の展開を中心に講義を行った。

次年度は地域ケア会議を含めた事例を展開させることで、在宅のケアマネジメントについてより深く学べるようにしていきたい。

7) 在宅看護学実習　4 年次前期

(1) 担当教員　　佐藤潤、駒田真由子、嶋谷圭一、望月靖記

(2) 教育内容

療養者・家族が安全に安心してその人らしい生活を営むために必要な保健・医療・福祉の連携や多職種との協働の実際を学び、地域包括ケアシステムの中の看護の役割と機能を考察することを目的として実習を行った。地域における療養者支援の実際から療養者・家族と療養環境に対する理解を深め、健康・生活上の課題とその看護方法について学ぶことも目指した。

今年度は COVID-19 の影響で臨地での実習が展開できなかったため、オンライン実習に振り替えて実施した。実習では、地域包括ケア演習、訪問看護体験演習、在宅看護過程展開演習の 3 つの演習を構成し、それぞれオンラインの利点を活かした演習を実施できた。

６－２．大学院看護学研究科

【高度実践看護コース】

1．教育方針

クリティカル領域における診療看護師（NP）の役割を理解し、専門性の高い、高度な実践力をもって役割を遂行できる能力を習得した診療看護師を育成することを目標としている。チーム医療の一員として患者の状況・病態を的確に把握し、自ら考え、判断し、安全性を確保した上で、必要な診療行為・ケアが確実に提供でき知識・技術・態度を習得する。今年度は、演習、実習の一部を、本コースの修了生（診療看護師：NP）で、臨床現場で活躍している診療看護師（NP）が分担し参加した。

2．科目

1）クリティカルＮＰ特論　1年次前期

(1) 担当教員

山西文子、岩本郁子、浦中桂一、武田純三、忠雅之、鈴木美穂、早坂奈美

(2) 教育内容

日本における診療看護師育成の経緯を理解し、法制上の現状を把握する。さらに、NP を導入している先進国、とくに米国における NP の現状等を把握するために、米国で実践活動をしている NP や NP と活動した経験をもつ医師等の講義を受けた。また、日本 NP 教育大学院協議会で実施している資格試験に合格し実践活動をしている診療看護師（NP）から実践活動等を紹介してもらい、日本における診療看護師の現状および課題等について理解を深めることができた。さらに、GW を通して、文献や資料から得た NP に関する情報をもとに、日本における診療看護師の役割、必要な知識・技術等について議論し、情報共有を図り、クリティカル領域の診療看護師（NP）を目指して 2 年間の修士課程で学ぶモチベーションを高めることができた。また、統合実習の前後にて特定行為に関する手順書を GW で作成し、医師も含めたスーパーバイズを受けた。診療看護師（NP）を取り巻く行政や各学会の動向について適時、学生に情報提供および指導内容に含めていく必要がある。２年次の統合実習で活用するため特定行為研修で必要な手順書作成をクラスで実施し、実習施設の臨床教授会で紹介し、実習が終了後に再度手順書を見直し修正をし、修了後に使用可能なように各施設に持ち帰れるように医師の指導を受けながら冊子を作成している。

2）人体構造機能論　1年次通年

(1) 担当教員

松本純夫、磯部陽、今西宣晶、小宇田智子

(2) 教育内容

診療看護師（NP）に必要な科学的根拠に基づく医学的な判断と問題解決能力、医療技術の発展に対応できる能力の基礎を身に着けるために、周術期、生命危機期などのクリティカル領域における病態生理、疾病の理解の基礎となる人体の機能や構造に関する基礎的知識を教授した。医学専門的な思考を統合し、特定の行為を行えるための能力を構築した。来年度も同様の内容で行う予定である。

3）クリティカル疾病特論　1年次前期

(1) 担当教員

大島久二、山西文子、浦中桂一、前島新史、小林佳郎、矢野尊啓、池上幸憲、吉川保、安富大祐、樅山幸彦、門松賢、浦上秀次郎、菊池真大、大石崇、山根章、小山田吉孝、中村芳樹、尾藤誠司、尾本健一郎、鈴木亮、森伸晃、岩田敏

(2) 教育内容

クリティカル領域において頻度の高い疾患について、医学的根拠に基づく判断能力と問題解決能力を修得するために、各疾病の病因、病態生理等の基礎的な知識を学んだ。とくに、呼吸器系、循環器系、中枢神経系、代謝機能に関連した代表的な疾病を取り上げ、医学的な思考を通して、患者の症状等から臨床推論できるプロセス、個々の患者にとって必要な診療行為を選択し、実施できる能力を修得することができた。具体的な授業展開は、グループ毎に課題（症例）を設定し、文献的な検討を行いながら、指導医から指導を受け、プレゼンテーションを行い、発表後に専門医から指導をうける形式で行った。オンライン授業となったが対面授業と大差なくインタラクティブな授業が展開できた。さらに学生の学修効果を高めるためには、事前学修、事後学修の徹底を図っていく必要がある。

4) 診察、診断学特論（包括的健康アセスメント） 1年次前期

(1) 担当教員

大島久二、山西文子、小野孝二、尾藤誠司、上野博則、樅山幸彦、栗原智宏、前島新史、渡邉清司、 長谷川栄寿、樋口順也、菊池真大

(2) 教育内容

患者の病態に対応した症状アセスメント，診察ができるための知識を習得することを目的にした科目である。オンライン授業では、診察、生理学的諸検査で得られた所見等を用いて、診断が確定できる能力を修得することができた。個々の患者に対応した的確な診察の方法、診断のために必要な臨床検査（血液データの解釈、X線、心電図など）の選択、検査結果の解釈、撮影から読影迄のプロセスと医師による読影法などを学び、診断のプロセス等を実際のデータ等を使用して理解を深めることができた。診断のための面接技術についても学ぶことができた。

5) フィジカルアセスメント学演習　1年次前期

(1) 担当教員

浦中桂一、早坂奈美、小山田吉孝、池上幸憲、安富大祐、鄭東孝、森岡秀夫、忠雅之

(2) 教育内容

高度実践看護師がクリティカル領域にある患者の健康問題を解決する上で必要とされ、身体的・包括な機能評価のためフィジカルイグザミネーションについて、学生がインストラクターとなってグループ学習を展開し、GW の検討結果をプレゼンテーションし、ディスカッションするアクティブラーニングをオンライン授業にて展開した。具体的には視診・聴診・打診・触診などの各部位に共通する診察方法について教授し、2年次に行われる OSCE 試験の前提となる系統的なフィジカルイグザミネーション技術の座学での知識修得に至っている。演習後半は、医師による事例を用いた対面での演習を取り入れており、医学的根拠に基づくフィジカルアセスメントのプロセスや実践的なフィジカルイグザミネーション技術について修得できている。来年度は前半のまとめにて臨床推論の要素をより多く取り入れ

て身体診察する時間を設けて、実践に則した演習とする計画を入れる。

6）臨床推論　１年次前期

(1) 担当教員

大島久二、浦中桂一、尾藤誠司、鄭東孝、山下博、鈴木亮、南修司郎、安富大祐、太田慧、栗原智宏、矢野尊啓、森岡秀夫、樋山光教、吉田哲也、野田徹、込山修、斉藤史郎

(2) 教育内容

クリティカル領域で遭遇する症状や状態に応じた臨床推論ができるよう、その過程を学び、それを裏付けるためのフィジカルアセスメント・検査を行い、症状に応じた的確な判断・臨床推論ができるための知識・技術を習得することが主である。そのために、臨床教授である講師陣に前提となる考え方を指導頂く。その後、クリティカル領域で遭遇する 17 症状に対する臨床推論の実際について、事例を用いて 1 症状 2 コマ使用し、専門医からの指導を受け、医師の思考過程についても理解を深める。時間的には最も多い時間をかけて学修するように臨床教授の医師も積極的に協力してもらい、実習時に繋がるような指導をしてもらっている。

7）診断のためのＮＰ実践演習　１年次後期

(1) 担当教員

大島久二、山西文子、浦中桂一、岩本郁子、早坂奈美、樋口順也、鈴木亮、太田慧、鄭東孝、尾藤誠司、安富大祐、池上幸憲、栗原智宏、森岡秀夫、早川隆宣、近藤久禎

(2) 教育内容

クリティカル領域において対応する可能性の高い患者のフィジカルアセスメントができ、必要とされる臨床検査の選択を安全かつ確実に実効できるための知識、技術を修得することを目的とした科目である。クリティカル領域で遭遇する機会の多い特徴的な症状について、さまざまな視点から入手したデータを活用した診察、診断のプロセスを実践的に学ぶことができた。また、診断のために必要な検査等に対するインフォームドコンセントの支援ができる能力を習得することができた。超音波検査、ＣＴ、ＭＲＩ、ＰＥＴ等による画像診断の選択、読影のスキルを習得するために東京医療センターの放射線部門において、グループ(5～6 名で構成)ごとに実際の患者さんの診断のプロセスを見学し、画像診断の進め方について専門医から説明を受けて、画像診断に対する理解を深めることができた。また、クリティカル領域の特徴的な症状のある患者の実際の画像を用いて画像診断の進め方を学ぶことができた。さらにトリアージの概念、機能、方法について、模擬患者による演習を通して理解することができた。学生たちが診療行為(特に省令に定められた特定行為)毎の手順書を作成し、臨床実習の際の資料として活用している。学生が作成した手順書に対して、統合実習の際の指導医師の理解も深まりつつある。

8）臨床薬理学特論　１年次前期

(1) 担当教員

大島久二、浦中桂一、廣田孝司、青山隆夫、大島信治、池上幸憲、吉川保、森伸晃

(2) 教育内容

高度実践看護師として診断に基づく薬物療法を安全に、かつ効果的に進められるよう基本的な知識を修得することが重要である。そのために、本科目では薬物動態の基礎を理解する。さらに、クリティカル領域で使用頻度の高い薬物療法について確認し、各種薬物と生体との反応機序、薬物の効果に個人差が生じる要因等について理解し、安全な治療を進めるために必要な知識を身に付けることを目標とした。外部の専門講師による講義、薬事法を含む薬物の安全管理と処方について理解を深め、更に、クリティカル領域における疾病に対して用いられる薬物の理解については、臨床現場の専門医から指導頂いた。非常に難しい科目で学生には苦手意識が見られるが、第一段階として動機づけはされたので、今後は各学生の個人学習に係っている。

9）治療のためのＮＰ特論　１年次後期

(1) 担当教員

大島久二、浦中桂一、青山康彦、吉川保、川口義樹、大石崇、小山田吉孝、中村芳樹、大迫茂登彦、石志紘、矢野尊啓、尾藤誠司

(2) 教育内容

クリティカル領域の患者に対する治療法およびその適応について科学的根拠に基づいて理解する科目である。治療の生体へのメリット、デメリットを理解し、治療の立案、変更、終了などの判断が的確に実行できるための知識を修得することができた。消化器系手術、呼吸器系手術、脳の手術、心・大血管系の手術を取り上げ、手技に関する基本的事項、輸血、感染予防などを専門医から直接指導を受けることができた。

10）治療のためのＮＰ実践演習　１年次後期

(1) 担当教員

大島久二、山西文子、浦中桂一、岩本郁子、早坂奈美、池上幸憲、小井土雄一、佐々木毅、正岡博幸、木下貴之、森伸晃、太田慧、宮田知恵子、小山田吉孝、吉川保、栗原智宏、落合博子、浦上秀次郎、大石崇、川口義樹、鄭東孝、安富大祐、鈴木亮、森岡秀夫、門松賢、斉藤史郎、忠雅之、青木美絵、森泉元

(2) 教育内容

クリティカル領域の患者に適用する治療法、治療技術ついて演習を通して理解する。クリティカル領域において遭遇する機会の多い事例を取り上げ、選択した治療法の科学的な根拠を理解し、患者への説明と、患者の同意のプロセス、選択した治療を的確に実行できるための技術を修得した。また、治療の際の診療看護師としての役割と限界を認識することの重要性を学んだ。救急・重症患者の管理方法、集中治療の管理方法、がん化学療法とペインコントロールの方法、人工呼吸器・気管挿管・抜管・縫合・圧迫止血・経腸栄養・中心静脈ライン確保・褥瘡の治療方法などの処置等について、適用する目的、手順を、演習を通して学んだ。さらに、臨床で使用されている各種ガイドラインの活用方法や各治療法のメリット・デメリット、治療に伴う副作用などについての理解を深めた。本科目は、省令に基づく特定行為研修の時間数を確保する必要があるため１コマあたりの時間を 120 時間としている。クリティカル領域で頻度多く遭遇する疾病に対する薬物療法について事例を設定し、設定した事例に対しての実際の処方、課題などを学生が分担して検討し発表、指導医から指導を

受けるという方法で学びを深めた。さらに本科目のまとめとして、総合演習を設定し、クリティカル領域で頻繁に遭遇する典型的な事例を設定して総合的なシミュレーショントレーニングを実施した。

11）統合演習　2年次前期

(1) 担当教員

浦中桂一、山西文子、岩本郁子、早坂奈美、鈴木亮、太田慧、吉田心慈、森川日出男、筑井奈々子、冷水育、中村英樹、石渡智子、忠雅之、高以良仁

(2) 教育内容

救急外来、内科外来、一般病棟における診療看護師（NP）としての役割や臨床推論を活用した患者の病態や必要な検査・治療について考えることができることをねらいとした。これまでの看護経験と1年間学修してきた医学知識を統合し、外傷事例、心窩部痛事例、呼吸器疾患事例を用い、リーダーシップ、メンバーシップをとりながらチームパフォーマンスが最大限に機能できる基本的能力を養う内容とした。シミュレーション教育の指導者研修を修了した診療看護師（NP）が昨年度に引き続き、Basic、Advance の計 8 事例を洗練し、本年度は 1 日間で学生全員がこれらのシナリオを用いたシミュレーショントレーニングを経験した。学生には外傷初期診療ガイドライン、Team STEPPS 等について事前学習を課し、事前講義を実施した。シミュレーション教育について理解を深めることでスムーズにシミュレーションに参加できるよう工夫した。シミュレーション後は診療看護師（NP）がデブリーフィングを実施し、学生が客観的に自己洞察できる機会を設けた。学生評価は、事後課題のレポートにて行った。今後控えている OSCE 試験や統合実習の良い動機づけとなった。

12）統合実習　2年次通年

(1) 担当教員

大島久二、山西文子、浦中桂一、岩本郁子、早坂奈美、田中留伊、東京医療センター・災害医療センター・東京病院の臨床教授、JNP 実習指導者他

(2) 教育内容

2年次7月から12月中旬まで約6ヶ月間（一人あたり 17 週間）、国立病院機構東京医療センター、災害医療センター、東京病院の3施設において、救命救急センター、総合内科、外科系病棟、手術室、麻酔科の各診療科をローテーションし、計 17 週の実習を行った。実習では、実習指導医の指導のもとで、患者を受け持ち、患者の診察・診断、治療の一連のプロセスを経験した。1年次に講義、演習を通して学んだ知識と技術を統合し、チーム医療の一員としての診療看護師の役割を意識しながら、実習に取り組んだ。学生が作成した 38 の特定行為の手順書を施設に提示し、省令に定められている 38 の特定行為の実践経験を積み重ねるなど、積極的に取り組んだ。臨床指導医からの実習の評価も高く、全員が無事実習を修了することができた。大学の実習指導担当教員は、隔月1回検討会を開催し、実習を円滑に進められる環境を整える努力をしている。実習のまとめとして経験した事例を中心にした発表会を実施した。統合実習の開始前、および終了後に本学およびオンライン形式において、計4回の臨床教授会を開催し、本学の教員も参加し、意見交換を行った。

13）コンサルテーション・インフォームドコンセント特論　1年次後期

(1) 担当教員

大島久二、山西文子、尾藤誠司、木下孝之、岩田敏、矢野尊啓

(2) 教育内容

医療におけるインフォームドコンセントについて理解し、診察で得られた所見、画像診断やデータ分に基づく診断内容について、患者および患者の家族の状況に応じて分かりやすく説明できるように、具体的事例を取り上げて、検討し、その結果を発表し討議を行った。さらに看護におけるコンサルテーションの基本理論とインフォームドコンセントとの関連について考察を実施した。

14）チーム医療とスキルミックス　1年次前期

(1) 担当教員

田中留伊、中村裕美、矢野尊啓、小川千晶、眞隆一、福長暖奈、中村香代、白戸ゆり

(2) 教育内容

チーム医療におけるスキルミックスの理解を深め、チーム医療のあり方を探りながら、役割分担、協働のあり方を見つめ直し、これからのチーム医療を探求的に学ぶことをねらいとして授業を実施した。講義は各医療職の役割について理解が深まるよう、できる限り多職種の講師から情報提供を頂き、意見交換が図れるように講義内容を工夫した。また、今年度は全ての講義がオンライン講義であったが、自らが経験したチーム医療の現状と対比しながら思考を深められるようグループワークを行い、全体討議を実施した。これにより、院生は自身の活動を振り返り、今後の新しいチーム医療のあり方や診療看護師に期待される役割等について考え、課題を明確化する機会となった。しかし、院生の気づきや学習の深まり、学習成果を言語化あるいは文章化することに関しては個人差がみられた。授業評価や院生の意見・感想を踏まえ、学習効果の維持・向上が図れるよう授業内容、外部講師の選定等を工夫し授業展開することが課題と考える。

15）医療安全特論　1年次後期

(1) 担当教員

大島久二、山西文子、新木一弘、岩田敏、松浦友一、福元大介

(2) 教育内容

医療事故等は、日常的に起こる可能性があることを認識し、事故の発生を防止し、患者の安全が最優 先事項であることを理解することができた。医療事故を防止するためには、医師の指示を批判的に思考する力、危険を回避するために医療行為の優先度を決定する力、患者に不利益な状況が生じている場合に対象に情報提供できる力、対象が受ける治療や処置に伴う有効性や危険性を患者が分かるように 説明できる力などを習得することが必要であることを学んだ。GW を通して日本で実際にあった特定行為に係る事例を取り上げ、既存の理論を使用して分析し、主要な原因や関連する要因、解決までのプロセスについて検討し、その結果を発表し、全体で討議行う形式で進め、事故の発生を防止するためのさまざまな方策を修得することができた。

16）政策医療特論　1年次前期

(1) 担当教員

大島久二、山西文子、松本純夫、加我君孝、女屋光基、石原傳幸、當間重人

(2) 教育内容

民間病院に任せるだけでは不十分と考えられ、国が医療政策を担うべき医療であると定められている「政策医療」(19 の医療分野) について、理解を深めることができた。政策医療を担っている国立病院機 構の管理者から、政策医療に関する歴史的経緯と現状、課題、将来展望等の講義を受け、政策医療の対象になっている患者に遭遇した場合の診療看護師として対応について学ぶことができた。

17) 医療倫理特論　1 年次前期

(1) 担当教員

小野孝二、矢野尊啓

(2) 教育内容

ICT 講義と事例検討の発表会を実施した。講義では、看護に関する制度や倫理を学び、専門職としての考えを明確にし、看護専門職としての倫理の原則、意思決定のための判断基準について学び、院生の経験を踏まえて分析的に思考した。倫理の理念 から説き起こし、倫理的葛藤が生じるプロセス、倫理的意思決定のステップなどについて臨床で遭遇しうる倫理的問題を抽出しながら、事例検討をおこなった。事例検討の発表会では、価値葛藤が生じる事例における倫理的判断について意見交換し、学習を深めた。

18) ラボラトリー・メソッド特論　1 年次前期

(1) 担当教員

小宇田智子、小野孝二

(2) 教育内容

ヒトの健康像を理解するうえで必要な医学・生物学の知識を得るための手法を指導した。臨床現場で使われている手法や最新の科学研究で使われている手法を用いて、個体・組織・遺伝子および分子レベルでの生命現象について理解できるような授業の工夫をした。来年度も同様の内容で行う予定である。

19) 保健医療福祉システム特論　1 年次後期

(1) 担当教員

金子あけみ、清水美智夫（非常勤講師）

(2) 教育内容

本科目は、保健医療福祉分野において、看護職が果たすべき役割を理解するために保健医療福祉に係る制度及び政策決定プロセスについて基礎的な知識を深めること及び政策医療におけるネットワーク、連携を含め、新たなシステム構築に向けてのネットワークを創出できるようにすることを目的としている。本大学院の学生には、専門性の高い看護実践能力に加え、保健医療福祉システムの現状を看護の視点から見つめ、健康に関わる様々なニーズを掘り起こし、関連する諸法規・政策的側面から変革につなげる知識を習得することが求められよう。このため、講義では社会保障制度全般、政策決定プロセスに関する基礎的知識等を教授した上で、各個人に最も関心のあるテーマでの政策提言を課題として課した。様々なバックグラウンドを持つ学生ゆえに、多様なテーマでの政策提言を行うことができたと考え

る。発表では、積極的な質疑応答によって学習内容を深めるとともに相互共有が図られた。
来年度も引き続き、保健医療福祉システムや政策課題を批判的に吟味する能力を育成できるよう支援していきたいと考える。

20）看護教育学特論　1年次後期

(1) 担当教員

岩本郁、浦中桂一

(2) 教育内容

看護の人材育成が質の高い看護の基礎をなすという観点から、①看護教育における教育的機能の理解、②看護教育の歴史的変遷と看護教育制度からの課題の考察、③高度実践看護職としての役割を果たすために必要な教育原理と教育方法の理解を目的としている。①、②は主として講義、③は学生が20分の授業案を作成し模擬授業の体験を通して学習するよう設定している。シミュレーション教育など教育方法に関する情報提供や診療看護師（NP）による教育実践の現状と課題に関し各1コマを設定した。本科目は選択科目であり、本年度は高度実践看護コース5名、高度実践助産コース7名が選択した。今年度の模擬授業は各コースの特徴が反映された多様なテーマ、対象者、内容で方法に関しての工夫がみられた。模擬授業後のリフレクション時の意見交換も活発で教育に関する興味・関心の高さが感じられ、最終レポートも自己の模擬授業に関し十分な評価が行われていた。模擬授業後のディスカッションの時間の確保が次年度にむけての課題である。

21）看護管理学特論　1年次前期

(1) 担当教員

竹内朋子、松本和史

(2) 教育内容

看護管理に必要な基礎知識を学習し、看護管理者の役割と機能を理解することを目標とした。カリキュラムを2部構成とし、第1部では看護組織のマネジメント、第2部では看護組織における人的資源のマネジメントについて扱った。看護管理学を体系的に学習するのが初めてである履修生が多かったため、履修生のこれまでの就業経験を学習教材として活用できるように工夫した。所属組織や実在のリーダーを分析して看護組織としての強みや課題を抽出したり、看護管理者としての自己の資質を考察したりする課題にも取り組んだ。本科目を通して、診療看護師として医療チームをマネジメントするうえで求められる看護管理能力の基礎を修得できていた。

22）研究特論　1年次前期

(1) 担当教員

大島久二、田中留伊、朝澤恭子、小野孝二、佐藤潤、小宇田智子

(2) 教育内容

看護研究における初歩的な研究テーマの設定法、データ収集法、解析法、倫理上の配慮などについて具体例を示しながら解説した。本来の研究はどういうものであるかを教授し、また、研究成果を学会あるいは学術誌に発表するためのプレゼンテーションおよび論文作

成に関する基本的な手法について習得できた。

23）原著論文購読　1年次前期

(1) 担当教員

明石眞言、田中留伊、佐藤潤、小宇田智子

(2) 教育内容

学術論文を読むための基本的な知識・技術を指導した。インターネット上のリソース等を活用しながら、医療・看護分野の論文を読む力および論理的思考力を養い、専門分野に関する情報収集能力を高められるような授業展開を工夫した。その上で、実際にクリティカル領域に関係した和文・英文論文を読み、抄読会を行った。来年度も同様の内容で行う予定である。

24）課題研究　1年次、2年次通年

(1) 担当教員

大島久二、田中留伊、平出美栄子、佐藤潤、その他全教員

(2) 教育内容

一人ひとりの院生が、個別の研究課題を設定し、関連情報の収集、研究計画の立案、研究実施、研究成果の発表に至る、研究全般にわたるプロセスを担当教員の助言・指導を受けながら実施した。論文の執筆と学会を模した形式の発表会においては抄録やスライドの準備を行い、成果を論文としてまとめる力、プレゼンテーション能力を習得できた。

【高度実践助産コース】（助産師免許プログラム・助産師プログラム）

1．教育方針

助産高度実践コースは、女性とその家族の生涯にわたる健康を支援できる自律した助産師の育成を目的とし、特に周産期医療における病院内の院内助産システムと地域における開業助産所に対応できる専門性の高い助産師の育成を目指した教育である。助産師免許取得プログラムでは、助産師免許取得に向けた基礎的な知識・技術からハイリスク母児への対応、医療施設や地域における助産実践など幅広い場所や様々な問題を抱える母子への助産ケアを可能にする助産教育を目指している。助産師プログラムでは、学生の興味や学ぶ意欲を重視した実習や演習を取り入れ、より高度な助産実践や将来のリーダー育成に向けた教育を目指している。

2．科目

1）助産学概論　1年次前期

(1) 担当教員

平出美栄子、加藤知子、宮崎文子、草間朋子

(2) 教育内容

本講義の目的は、助産師のアイデンティテーを獲得していく動機とする。助産の基本概念と歴史的変遷から概説し、女性を取り巻く社会背景を認識し、助産師の責務と社会変化の中で期待される役割の重要性、さらに助産師活動に取り組む姿勢と魅力、それらを支えるために必要な看護政策も含め系統的に教授した。具体的内容は、助産の基本理念、助産とは、助産歴史とこれからの課題、助産学を構成する理論、助産師教育制度と課題、リプロダクティ

ブ・ヘルス/ライツと今日的課題、母子保健の動向と課題、医療政策・看護政策について講義とディスカッションを織り交ぜながら展開した。来年度も最新情報を取り込みながら講義を工夫したい。

2）生殖機能学（正常・異常）　1年次前期

(1) 担当教員

加藤知子、山下博、　大野暁子、村上功、大木慎也、安達将隆

(2) 教育内容

女性生殖器の解剖・生理、性周期とその調節機構、配偶子の形成、受胎メカニズム 妊娠の成立から出産までの生殖生理を助産実践が生理学的根拠をもって行えるよう教授した。また、妊婦期については医師の視点から異常を中心に、さらに女性のライフサイクルを通じた性と生殖の健康問題、性と生殖に関する疾患及び異常（婦人科疾患）に関する基礎的な知識を持ってもらうため教授した。婦人科疾患については、月経異常、子宮内膜症、更年期等、外来でよくある婦人科疾患の理解を深める講義内容とした。今年度は、コロナ感染症対策のためオンラインにて講義を実施した。学生の理解が深まるように動画や映像を取り入れ工夫したことは、学生からも理解しやすく好評であった。次年度は、助産師国家試験にて出題が増加している妊娠期の異常と婦人科疾患をより理解ができるように教授していきたい。

3）助産薬理学特論　1年次後期

(1) 担当教員

加藤知子、八鍬奈穂、中島研、伊藤直樹

(2) 教育内容

薬理学の総論および基礎（作用機序、代謝経路、半減期等）、また妊産褥婦を対象とした和漢薬物の効用、副作用、併用禁忌、拮抗作用、投与方法、服用方法等について特に漢方を含めて解説した。妊婦や授乳婦における催奇形性、胎児毒性、授乳中の安全性について薬物使用上の管理および留意点についても教授した。新生児における発達薬理の講義、また薬剤情報の収集方法と読み方および薬剤の取り扱い（麻薬・向精神薬など）と、薬剤の処方／投与と倫理を講義し、薬物治療に際して求められる助産師としての倫理性とは何かについて学習させた。妊産褥婦に頻用される治療薬の理解に中心をおいてきたが、正常な妊婦や授乳婦が薬局で手軽に購入することができる薬剤やサプリメントの使用方法や注意点等について、講義内容を広げていく。

4）助産栄養学特論　1年次前期

(1) 担当教員

加藤知子、北島幸枝、デッケルト博子

(2) 教育内容

健康な妊娠・出産・育児が行える女性の心と身体作りのための食事のあり方について、基礎知識と具体的な栄養管理や食事指導方法の習得、献立の作成（立案）ができることを学習目標とした。出産適齢期の食生活の現状と問題点を通して、健康な女性の身体作りに必要な栄養管理に関して講義した。さらに、日本人の食事摂取基準を基本に、妊婦・授乳婦におけ

る必要栄養素量の考え方や食事調査等からの栄養アセスメントと栄養管理方法、乳汁栄養の栄養上の特性と問題点、補完食の進め方等の講義を行った。また、後半は昨年度に課題であった、臨床現場での保健指導を念頭に、具体的な妊産婦指導に役立つように調理実習をとりいれ。このことから、学生は実習中に具体的な離乳食や減塩食のイメージができ、保健指導に活用することができた。次年度も本年度を踏襲して実践的な授業を展開する。

5）家族社会学特論　1年次後期

(1) 担当教員

平出美栄子、松島紀子

(2) 教育内容

家族の様々な諸相を理解するために、家族社会学についての基礎的な概念や内容を学ぶ。そして、現代の家族問題への理解と社会的対応について整理し、共働き家族、高齢者介護、児童虐待、ドメスティックバイオレンスなどの現代の家族問題について理解を深めた。そのうえで2020年度は、リプロダクティブヘルス・ライツに影響を及ぼす現代社会の課題やジェンダーに関連し、ジェンダー格差が健康にもたらす影響ついて学び、家族社会学の視点から人々をエンパワーメントする方策についてオンラインにて学習を試みた。

6）乳幼児の成長発達論　1年次後期

(1) 担当教員

中島美津子、玄順烈

(2) 教育内容

講義内容としては、乳幼児期にある子どもの成長・発達および生活環境を理解し、子どもと家族の健康を増進するための諸理論を探求する。さらに、子どもとその家族を理解することで実際的な援助における適用理論と課題を探求することを目的として講義を予定していたが、本年度は受講希望者がなく開口していない。

7）助産フィジカルアセスメント学演習　1年次前期

(1) 担当教員

加藤知子、忠雅之、服部純尚、松井哲、平出美栄子、田辺洋子、デッケルト博子

(2) 教育内容

妊娠・出産・産褥期を通して変化する女性の身体を理解する為に、その変化が正常範囲なのか異常を予兆するサインなのかを判断する助産診断能力を育成することを目標とした。これには、問診、視診、聴診、打診、触診、五感を駆使したフィジカルイグザミネーションの技術と、その得られた情報の解釈について講義と演習を駆使した。周産期の女性の全身の包括的アセスメントができ、正常異常の判断ができる助産実践能力の強化に努めた。
また周産期のみならず、非妊女性のライフサイクルを通した健康を推進し異常を予防するための基礎的なアセスメントができる全身のフィジカルイグザミネーションの技術を習得する講義・演習の展開を行った。また、近年助産師が乳がんを発見することも求められている現状を加味して、乳がんについての基本的な知識についての講義・演習を行った。

8）助産臨床推論　1年次後期

(1) 担当教員

加藤知子、梅原永能

(2) 教育内容

助産師として適切な時期に適切な判断-助産診断力-の修得と向上を目的として臨床推論の知識や思考プロセスについて講義と演習を行った。臨床推論の基本的な概念について講義し、対象の症状・訴えから診断を導き出すための臨床推論の思考プロセスの理解・習得を意図して妊娠期の初期から産褥期によくある主訴を示し、ディスカッションや実践演習を実施した。次年度も今年度の進め方を踏襲して学生の理解度を見ながら検討する。

9）妊娠期診断・技術学　1年次通年

(1) 担当教員

加藤知子、馬場一憲、草間朋子、田舎中真由美、平出美栄子、田辺洋子、小嶋奈都子、デッケルト博子

(2) 教育内容

妊娠期の心身の生理的変化と妊娠期に起こりやすい異常、胎児の成長発達、妊婦とその家族へのケアと支援について講義した。妊娠期に必要な保健指導、出産準備教育、基本的な助産技術については、講義と演習を実施した。特に妊娠期からの骨盤ケアの方法を理学療法士の先生の講義を取り入れて、演習を通して実際の支援方法を学ぶことができた。妊娠期の集団指導を計画立案から実施まで行った。実習に向けて必要な技術の確認を目的として、妊婦、褥婦・新生児の観察に必要な技術チェックを行った。これを行うことで、学生の練習につながり最終的に技術の確認だけではなく技術の向上につながった。妊娠期の集団指導としての妊婦を対象にした教室を開催できなかったため、来年度はオンラインでの教室運営等を実施できるように検討していく。

10）分娩期診断・技術学　1年次通年

(1) 担当教員

平出美栄子、服部純尚、加藤知子、田辺洋子、デッケルト博子

(2) 教育内容

分娩期における女性と胎児の生理的プロセスと生理的状態からの逸脱を診断する知識を習得すること、分娩介助法と助産ケアの技術を習得する目的で、前出の講師陣を構成し、講義・演習を実施した。加えて、分娩期の女性の心理的変化について学び、女性に寄り添う助産実践力の向上に力を注ぎ、分娩期における助産師の役割について考察できるよう講義・演習を展開した。さらに、分娩期の女性と胎児の異常とその原因・要因、治療、管理について学び、その援助および予防に向けた助産ケアの実践について考える力を養う講義を行った。COVID－19の影響によって、分娩技術演習を十分実施することが困難であった。従来とは異なる学習スタイルであったが、工夫として、動画による繰り返しの学習、分娩介助キットを各学生に配布、分娩介助手順書の作成などで補強を試みた。

分娩介助技術は、主に仰臥位分娩の介助講義・演習が展開されていることが中心であるが、高度実践助産を目標に、後期セメスターでは、フリースタイル分娩介助の講義・技術演習を

取り入れ、未来に求められる助産師の技術講義・演習を展開した。

11）産褥期診断・技術学　１年次通年

(1) 担当教員

平出美栄子、田辺洋子、加藤知子、デッケルト博子、田舎中真由美

(2) 教育内容

産褥期女性の身体的・心理的・社会的変化に応じた助産診断とケアを行うための基本的な知識と技術についての講義、演習を行った。産褥期に必要な保健指導については、指導案を作成し、学生同士で模擬指導を実施した。助産診断については事例を用いて助産過程の展開を行い、個人指導とグループワークを通して産褥期の助産診断の理解を深められるように指導した。特に 2020 年度では、近年問題とされている骨盤ケアについての講義を加え、産褥期の助産診断と助産ケア・保健指導の内容の強化を行った。母乳育児支援としては、宮下助産院を訪問し乳房管理の実際を見学しながら講義を聞いた。さらに、別科目になるが、地域助産活動論の中において母乳管理・マッサージを主な事業とする開業助産院からの講師によって、オケタニ式乳房管理法、ラクテーションコンサルタントの講義を組み入れ、それぞれの特徴を知ることで実習に活かせるように講義、演習を行い、産褥期に活用できる様に試みた。次年度は授業の中でより具体的な産褥期の女性のイメージ持ち、ケアを検討できるように講義や演習を充実させていきたい。

12）新生児期診断・技術学　１年次通年

(1) 担当教員

加藤知子、加部一彦、藤田恵理子

(2) 教育内容

新生児の生理について理解を深めるため、体温、栄養、電解質、黄疸、吸収と循環、発育、生理機能・運動機能・精神機能の発達について講義を実施した。新生児のアセスメントと助産診断については、出生直後の児の健康状態とその後の胎外生活への適応過程のリスクアセスメントを行うため、胎児の健康状態をアセスメントする情報であるモニタリングの講義をこの科目で実施した。出生後の新生児の生理的変化と胎外生活への適応状態の助産診断の修得を目標とし助産過程の演習を行った。この演習では、現時点での助産診断だけではなく、今後、新生児がどのような経過をとるかのリスクについての経過診断について理解できることを意図した演習を行った。新生児の観察と計測技術については、出生直後の新生児の計測方法、出生直後の全身観察の技術演習を行った。1 年次後期に予定している NCPR の A コース受講に向けた講義と演習を行った。来年度は、助産師国家試験で出題が増加傾向にある新生児の異常のケアについての講義・演習を充実させていく。

13）助産診断・技術学特論　1 年次通年

(1) 担当教員

平出美栄子、和田誠司、小松久人、岡田研吉、酒井涼、たつのゆりこ、臼井いづみ、高村ゆ希、飯野幸峰、加藤知子、デッケルト博子

(2) 教育内容

医学と代替医療を含めた、応用的な助産診断と助産ケアを可能にする知識と技術の習得を目標として、以下の項目についてオムニバスで講義と演習を実施した。①超音波検査の原理と操作方法の基礎、胎児計測の演習、②会陰縫合の講義と演習、③チームステップス、④妊産褥婦への漢方、鍼灸整体、アロマテラピー、アーユルヴェーダなどの東洋医学⑤災害時の助産師の役割とその実践である。この科目では、助産師免許取得プログラムでは、新生児蘇生法 A コースのライセンス取得、助産師プログラムでは、新生児蘇生法 A コースのインストラクター取得に向けアシスタントとして、それぞれコースに参加できるよう調整を図った。次年度も継続していきたい。

14）ウィメンズヘルス特論　１年次前期

(1) 担当教員

平出美栄子、齋藤益子、片岡弥恵子、早乙女智子、朝澤恭子

(2) 教育内容

セクシュアリティ、リプロダクティブ・ヘルス、女性のライフサイクルに沿った健康問題に対する助産ケアに必要な基礎的能力を養い、女性の健康を支援するための研究・実践への理解を深め、ウィメンズヘルスにおける助産ケアを追究することを目標に展開した。思春期、成熟期、更年期にみられる健康問題、受胎調節の実地指導に必要な原理・知識・技術に関して、講義だけではなく、院生のプレゼンテーションとディスカッションの形式で学習を進めた。女性の健康に影響を及ぼす促進要因と阻害要因および助産ケアの理解を深めた。
次年度もプレゼンテーションの形式を継続し、活発なディスカッションができるよう構成する。

15）ウィメンズヘルス演習　１年次通年

(1) 担当教員

平出美栄子、齋藤益子、朝澤恭子、加藤知子、田辺洋子、デッケルト博子、小嶋奈都子、鬼澤宏美

(2) 教育内容

思春期、成熟期、更年期、老年期、周産期のいずれか特定のライフステージにおいてヘルスケアニーズをもつ女性の特徴を分析し、ケアモデルを検討することを目標に展開した。また、思春期を対象に性教育指導案を作成し、学内演習後に都内の中学生を対象にグループ指導を行った。中学生に直接指導できたことは、対象の反応を見ながら進めることができ、有用であった。次年度も中学生への性教育をはじめ、女性のライフサイクルに合わせた健康教育プログラムの作成と実践を経験できるように進めていく。

16）不妊症・遺伝看護学特論　１年次前期

(1) 担当教員

朝澤恭子、小澤伸晃

(2) 教育内容

遺伝看護の対象となる家族性腫瘍、先天異常、神経難病などの患者および生殖医療の対象者と家族に対するアセスメントやケアを理解することを前提に展開した。主な遺伝性疾患

の遺伝形式、クライエントが抱える課題と必要なケア、遺伝的な課題を持つ人々へのアセスメントの視点、不妊症の検査および治療、クライエントが抱える課題と必要なケアに関して講義を進めた。また、不妊治療を受ける人々へのアセスメントの視点を理解できるよう展開した。今年度はCovid-19の感染防止対策としてオンラインで実施した。

17）国際助産学特論　1年次後期

(1) 担当教員

平出美栄子、加藤知子、田辺洋子、デッケルト博子、佐山理絵、横川峰子

(2) 教育内容

国際社会におけるリプロダクティブヘルス・ライツ（Reproductive Health and Rights）の現状と課題を知り、国際保健活動など国際支援の現状を理解する。また、世界の出産事情や助産師活動を理解し、わが国の助産師活動における異文化的な視点を強化し、国際的な助産活動・助産ケアについて考えることを目標にしていたが、開講に至らなかった。

18）助産管理学特論　1年次前期

(1) 担当教員

平出美栄子、川岸真由美、野町寧都、宮﨑文子、筒井志保、宮下美代子

(2) 教育内容

本講義の目的は、助産師の働く場の病院をはじめとする診療所、助産所等の組織において「経営」という広い枠組みの中で「質の高い助産の提供」と「経営効率」の両立においていかにしたら成果を上げられるかを検討し、助産管理の在り方を考察する。具体的には組織管理における基本概念とその変遷から概説し、マネジメントの基本的考え方をドラッカー理論から学び、施設助産管理への応用を試みる講義である。また、マーケテング理論、医療経済、関連法規及び周産期医療システム、目標管理、総合病院での助産師外来と院内助産（院内助産システム）の実際について、講義及びディスカッション形式で進めた。次年度も学生が主体的に学べるよう授業を計画していきたい。

19）地域助産活動論　1年次後期

(1) 担当教員

平出美栄子、宮﨑文子、土屋清志、宮下美代子、氷見知子

(2) 教育内容

助産師の開業権を生かし母子および家族のニーズに沿った地域医療・地域助産活動について講義を展開した。特に実際の助産所の経営管理、財務管理（損益分岐点分析と演習）、マーケテング理論と経営戦略について学び、これらを踏まえて助産所開業計画を立案し、効果的な医療連携システム（他職種含む）のあり方を検討・考察した。また、助産業務の安全性（判断基準と救急支援システム）、医療事故と助産師（関連法規との関連）について理解を深めた。本講義の特徴としては、満足度の高い「いいお産」の実現のために、助産所で取り組まれているフリースタイル分娩の実践力を身につけるために演習として組み込んでいるこのことは、助産所実習に役立つことが出来ている。また、多岐にわたる助産師の活動について体験的に学ぶ機会を設定した。助産師の開業権を活かした地域での母乳開業助産師

を講師に招き（オケタニ式乳房管理法）の講義・演習を組み入れ、開業の特徴を知ることで実習に活かせるように指導した。

20）地域母子保健学特論　１年次前期

(1) 担当教員

平出美栄子、福島富士子、佐藤潤、永森久美子、デッケルト博子

(2) 教育内容

地域母子保健の今日的課題について考え、地域で助産師に期待される役割、地域母子保健の活動の実際や産後ケアセンターの活動について講義を行った。学生が考える日本社会における母子保健の今日的課題の現状とこれを解決するために必要だと思われる方策、助産師が地域で果たすべき役割について、討論し学習を深めた。特に、地域母子保健事業において新生児訪問事業は助産師が担う重要な事業である。そのため今年度は、実際の自宅訪問を再現できる演習方法を取り入れ、訪問時の観察、計測などを実施した。

21）助産学基礎実習　１年次前期

(1) 担当教員

平出美栄子、加藤知子、田辺洋子、デッケルト博子、杜稀衣

(2) 教育内容

国立病院機構東京医療センター、国立病院機構相模原病院、国立病院埼玉病院、東邦大学医療センター大森病院の 4 施設での実習を予定していたが、今年度は、COVID－19 の影響によって、一部施設での実習が中止となった。実施可能となった施設では、正常な妊娠・分娩・産褥・新生児期の経過をたどる対象の助産診断、分娩介助の実施、助産過程の展開を目標とした。妊婦健診、分娩介助、産褥期受け持ちは、感染対策を徹底し、可能な範囲での実習とした。夜間のオンコール実習が可能な施設では分娩介助を行った。2018 年度より学生 1 人に 5 件以上の分娩介助が可能な実習環境を整えることを目標として掲げおり、2019 年度は目標がおおむね達成できていたが、2020 年度は、COVID－19 の影響を受け、学生 1 名について 1 例～2 例/人の分娩介助となった。臨地実習の代替演習として、WEB クラスや学内演習を行った。学内演習の内容、習熟度の達成評価など、分娩期の実習のあり方（分娩見学/分娩介助）について検討が挙げられる。

22）助産実践力開発実習　１年次後期

(1) 担当教員

平出美栄子、加藤知子、田辺洋子、デッケルト博子、杜稀衣

(2) 教育内容

国立成育医療研究センター、医療法人産育会堀病院、国立病院機構埼玉病院、国立病院機構甲府病院、東邦大学医療センター大森病院で実習を予定していたが、COVID－19 の影響によって、一部施設での実習が中止された。実施可能となった施設では、正常な妊娠・分娩・産褥・新生児期の経過をたどる対象の助産診断、分娩介助の実施、助産過程の展開と実践能力の修得をこの実習目標とした。妊婦健診、分娩介助、産褥期受け持ちは、感染対策を徹底し、可能な範囲での実習とした。対象の個別性と経過予測をふまえた助産診断と成育医療研

究センターでは無痛分娩の見学および実施と 3～５例/人の分娩介助を目標に行った。国立病院機構埼玉病院、東邦大学医療センター大森病院では夜間オンコール体制で実習を行った。次年度は COVID－19 の状況によって、分娩介助数の増加と、介助数に見合った助産診断、ケアの内容を充実させていく必要がある。また、分娩直後の新生児（ベビーキャッチ）の計測・NCPR の実践の充実を図り、高度実践助産学にふさわしい知識と実践能力の強化が課題である。来年度も、実習の内容を見直しつつ実習の質の確保に努める。

23）助産実践力発展実習　2 年次前期

(1) 担当教員

平出美栄子、加藤知子、田辺洋子、デッケルト博子

(2) 教育内容

ハイリスク妊婦とハイリスク児を対象とした実習を、国立病院機構東京医療センターの産科病棟・産婦人科外来 2 週間、国立成育医療研究センターの NICU3 日間，国立病院機構神奈川病院の重症心身障害病棟 2 日間で実習を予定していたが､COVID－19 の影響を受け、全てのハイリスク臨地実習は中止となった。そのため、ZOOM による講義、ハイリスク事例の展開、レポート課題によって実習代替とした。次年度では、COVID－19 の状況によって、従来の実習を予定し、東京医療センターではハイリスク妊婦を約 8　日間受け持ち、妊娠中の管理、治療、リスク管理について、NICU では各学生が目標を挙げて実習に臨み、NICU における助産師の役割について考察を深めることを目標とする予定である。また、神奈川病院では障害を持つ子どもの療養と生活・学習支援、障害を持つ子どもとその親が抱える心理的・社会的課題に学び、ハイリスクな対象を支援する施設内外の専門職の連携・協同についても学びを深めていく予定である。

24）ＥＢＰＭ探究論　１年次前期

(1) 担当教員

朝澤恭子、小嶋奈都子

(2) 教育内容

遺伝看護の対象となる家族性腫瘍、先天異常、神経難病などの患者および生殖医療の対象者と家族に対するアセスメントやケアを理解することを前提に展開した。主な遺伝性疾患の遺伝形式、クライエントが抱える課題と必要なケア、遺伝的な課題を持つ人々へのアセスメントの視点、不妊症の検査および治療、クライエントが抱える課題と必要なケアに関して講義を進めた。また、不妊治療を受ける人々へのアセスメントの視点を理解できるよう展開した。今年度は Covid-19 の感染防止対策としてオンラインで実施した。

25）地域助産学実習　１年次後期・2 年次前期

(1) 担当教員

平出美栄子、加藤知子、田辺洋子、デッケルト博子、杜稀衣

(2) 教育内容

助産所実習施設は、いなだ助産院、さくらバース、とわ助産院、目白バースハウス、森重助産院、矢島助産院、森田助産所の 7 施設とした。保健所実習は、大田区、みなと区の各保

健センターで実施した。地域助産学実習のねらいとして、助産師の役割、母子に関わる姿勢の根源とは何か、高度実践助産ケアとはどのようなケアを指すのかについて、6 週間という実習期間をかけ、これまでの実習を振り返りながら考察した。特に、助産師のみで取り扱う正常出産を、妊娠・分娩・産褥を通して、どのように自律して実践しているのか理解する。そのために求められる、助産業務の安全性（判断基準と救急支援システム）を理解し、効果的な医療連携システムについて考察した。また、助産所の経営管理の実際を見学することで、開業権を生かした助産師の働き方について考察することを目標にした。さらに、連携施設・団体の活動の実際を理解する事、実習を通して保健所における母子保健事業・地域医療連携の実際を見学し考察することを目指した。次年度も同様に自律した助産師育成を目標として、より効果的な実習ができるよう学生を支援する。

26）助産実践力強化演習　2 年次前期

(1) 担当教員

平出美栄子、産婦人科医師、松井哲、小松久人、加藤知子

(2) 教育内容

アドバンス助産師によって病院における乳房ケアには保険点数が加算されるため、高度な乳房ケア実践力が求められている。この背景を受け、本科目では、乳房ケア技術と乳房診断の強化を目的に、国立病院機構東京医療センターの外科乳腺科で医師の指導をもとに超音波画像の評価ができることを目標とした演習を行った。さらに、堤子式乳房ケアセンターにおいて、乳房ケアの高度な技術習得を目標として演習を行った。高度な助産実践力を習得するため、エビデンスと実践力が強化できる演習になるよう、さらに検討していく必要がある。

27）高度実践実習（助産院）　1 年次・2 年次通年

(1) 担当教員

平出美栄子

(2) 教育内容

助産所において実践されている助産モデル＊の助産ケアを学び、自己の診断力・実践力を強化するとともに、医学モデル*による妊産婦管理に加え、自らの助産活動にどのような変革の可能性があるかを考察するための実習とした。特に、助産所の経営管理の実際をとおし、開業権を生かしたこれからの助産師の働き方について、正常分娩の取り扱い以外に、産後ケア、訪問看護ステーション、保育園など、多機能を持つ開業スタイルについてディスカッションをおこない、未来に繋がる開業助産所の在り方が考察できる実習内容とした。また、助産所と連携する行政施設、医療施設、民間団体、自助グループ等の活動を知り、母子および家族を支援する地域母子保健システムを総合的に学び、今後に生かす実習とした。

*助産モデル：妊娠や出産を正常で生理的なプロセスととらえ、女性の産む力を尊重した非介入的なケア医学モデル：妊娠や出産を常に機能不全になる危険性が高いプロセスととらえ、医療で管理すること

28）医療倫理特論　1 年次後期

(1) 担当教員

小野孝二、矢野尊啓

(2) 教育内容

ICT 講義と事例検討の発表会を実施した。講義では、看護に関する制度や倫理を学び、専門職としての考えを明確にし、看護専門職としての倫理の原則、意思決定のための判断基準について学び、院生の経験を踏まえて分析的に思考した。倫理の理念 から説き起こし、倫理的葛藤が生じるプロセス、倫理的意思決定のステップなどについて臨床で遭遇しうる倫理的問題を抽出しながら、事例検討をおこなった。事例検討の発表会では、価値葛藤が生じる事例における倫理的判断について意見交換し、学習を深めた。

29) ラボラトリー・メソッド特論　1 年次前期

(1) 担当教員

小宇田智子、小野孝二

(2) 教育内容

ヒトの健康像を理解するうえで必要な医学・生物学の知識を得るための手法を指導した。臨床現場で使われている手法や最新の科学研究で使われている手法を用いて、個体・組織・遺伝子および分子レベルでの生命現象について理解できるような授業の工夫をした。来年度も同様の内容で行う予定である。

30) 保健医療福祉システム特論　1 年次後期

(1) 担当教員

金子あけみ、清水美智夫（非常勤講師）

(2) 教育内容

本科目は、保健医療福祉分野において、看護職が果たすべき役割を理解するために保健医療福祉に係る制度及び政策決定プロセスについて基礎的な知識を深めること及び政策医療におけるネットワーク、連携を含め、新たなシステム構築に向けてのネットワークを創出できるようにすることを目的としている。

本大学院の学生には、専門性の高い看護実践能力に加え、保健医療福祉システムの現状を看護の視点から見つめ、健康に関わる様々なニーズを掘り起こし、関連する諸法規・政策的側面から変革につなげる知識を習得することが求められよう。

このため、講義では社会保障制度全般、政策決定プロセスに関する基礎的知識等を教授した上で、各個人に最も関心のあるテーマでの政策提言を課題として課した。様々なバックグラウンドを持つ学生ゆえに、多様なテーマでの政策提言を行うことができたと考える。発表では、積極的な質疑応答によって学習内容を深めるとともに相互共有が図られた。

来年度も引き続き、保健医療福祉システムや政策課題を批判的に吟味する能力を育成できるよう支援していきたいと考える。

31) 看護教育学特論　1 年次後期

(1) 担当教員

岩本郁子 浦中桂一

(2) 教育内容

看護の人材育成が質の高い看護の基礎をなすという観点から、①看護教育における教育的機能の理解、②看護教育の歴史的変遷と看護教育制度からの課題の考察、③高度実践看護職としての役割を果たすために必要な教育原理と教育方法の理解を目的としている。①、②は主として講義、③は学生が 20 分の授業案を作成し模擬授業の体験を通して学習するよう設定している。シミュレーション教育など教育方法に関する情報提供や診療看護師（NP）による教育実践の現状と課題に関し各 1 コマを設定した。本科目は選択科目であり、本年度は高度実践看護コース 5 名、高度実践助産コース 7 名が選択した。今年度の模擬授業は各コースの特徴が反映された多様なテーマ、対象者、内容で方法に関しての工夫がみられた。模擬授業後のリフレクション時の意見交換も活発で教育に関する興味・関心の高さが感じられ、最終レポートも自己の模擬授業に関し十分な評価が行われていた。模擬授業後のディスカッションの時間の確保が次年度にむけての課題である。

32）看護管理学特論　1 年次前期

(1) 担当教員

竹内朋子、松本和史

(2) 教育内容

看護管理に必要な基礎知識を学習し、看護管理者の役割と機能を理解することを目標とした。カリキュラムを 2 部構成とし、第 1 部では看護組織のマネジメント、第 2 部では看護組織における人的資源のマネジメントについて扱った。看護管理学を体系的に学習するのが初めてである履修生が多かったため、履修生のこれまでの就業経験を学習教材として活用できるように工夫した。所属組織や実在のリーダーを分析して看護組織としての強みや課題を抽出したり、看護管理者としての自己の資質を考察したりする課題にも取り組んだ。本科目を通して、診療看護師として医療チームをマネジメントするうえで求められる看護管理能力の基礎を修得できていた。

33）研究特論　1 年次前期

(1) 担当教員

大島久二、田中留伊、朝澤恭子、小野孝二、佐藤潤、小宇田智子

(2) 教育内容

看護研究における初歩的な研究テーマの設定法、データ収集法、解析法、倫理上の配慮などについて具体例を示しながら解説した。本来の研究はどういうものであるかを教授し、また、研究成果を学会あるいは学術誌に発表するためのプレゼンテーションおよび論文作成に関する基本的な手法について習得できた。

34）課題研究　1 年次・2 年次通年

(1) 担当教員

大島久二、田中留伊、その他全教員

(2) 教育内容

一人ひとりの院生が、個別の研究課題を設定し、関連情報の収集、研究計画の立案、研究実施、研究成果の発表に至る、研究全般にわたるプロセスを担当教員の助言・指導を受けながら実施した。論文の執筆と学会を模した形式の発表会においては抄録やスライドの準備を行い、成果を論文としてまとめる力、プレゼンテーション能力を習得できた。

35）助産学特別研究　1年次・2年次通年
(1) 担当教員　　大島久二

学生氏名	指導教員	研究課題
杜（モリ）　稀布（ケイ）	大島久二研究科長	中学校で性教育を行う助産師の思い

【高度実践公衆衛生看護コース】

1．教育方針

高度実践公衆衛生看護コースでは、地域の住民の特性を的確に把握し、自立を支えることを通して、地域住民のヘルスリテラシーを高め、さらには地域のソーシャル・キャピタル等を高めることができる保健師の育成を目指している。その中において「地域住民の自律を支える能力」、「政策や保健事業をプランニング・コーディネーション・マネジメントのできる能力」、「疫学・統計学の基礎を理解し、分析・研究を実践に活かせる能力」、「災害対応や新興・再興感染症への危機管理能力」、「健康で働き続けられる就労者・就労環境の支援ができる能力」の5つの能力を備えることができるように講義・演習・実習を設定している。

2．科目

1）公衆衛生看護学概論　1年次前期
(1) 担当教員
佐藤潤、駒田真由子、嶋谷圭一、村中峯子
(2) 教育内容
公衆衛生看護学の理念と基本を理解するとともに、地域で生活する人々の多様な健康や生活上の問題を理解し、健康の増進、疾病予防、個々人や地域の健康課題の解決法、保健師としての支援活動および、保健・医療・福祉の関係者との連携支援体制について学ぶことを目標に掲げて講義を実施した。

2）コミュニティアセスメント論　1年次前期
(1) 担当教員
佐藤潤、駒田真由子、嶋谷圭一、村中峯子
(2) 教育内容
保健師活動に必要とされる地域住民の健康状態、生活状況、住民の認識、環境に関する潜在的・顕在的なニーズを把握するための情報収集の方法、 アセスメント・分析、課題の明確化と課題解決の方法など一連の地域診断の基本および方法を学ぶことを目標に講義を行った。

3）公衆衛生看護活動論Ⅰ（対象別方法論）　1年次前期
(1) 担当教員
佐藤潤、駒田真由子、村中峯子
(2) 教育内容
母子、小児、成人および高齢者の各ライフステージの公衆衛生活動、感染症、難病、精神、障害などの健康課題別に実施されている公衆衛生看護活動の実態を学ぶことを目標に演習を展開した。次年度は、児童虐待、高齢者虐待など現在社会で問題になっている事項を含めた講義になるように修正を図っていきたい。

4）公衆衛生看護活動論Ⅱ（タスク別方法論）　1年次前期
(1) 担当教員
駒田真由子、村中峯子、嶋谷圭一

(2) 教育内容
　地域で生活する個人・家族・集団・地域など様々な対象者へ公衆衛生看護過程を展開するための基礎的理論を学ぶ。母子、小児、成人および高齢者の各ライフステージの公衆衛生活動、感染症、難病、精神、障害などの健康課題別に実施されている公衆衛生看護活動の実態を学んでもらうことを目的に講義を行った。次年度以降も対象を明確にそれぞれの対象者にどのような支援を行っていくのか、学生の理解を確認しながら進めていきたい。

5) 公衆衛生危機管理論　1年次前期
(1) 担当教員
　駒田真由子
(2) 教育内容
　自然災害や新興・再興感染症対策に関する法制度や動向について理解し、保健師としての役割、支援方法を学んでもらうことを目的に講義を行った。災害時、新興感染症の流行時、虐待等をテーマとして、健康危機管理のシステムや対象者への支援方法を取り扱った。またHUGを使用した演習を予定していたが、オンライン授業となったため、急遽、外部講師による災害発生時の看護、トリアージに関する講義に振り替えた。次年度も変化する状況に対応しつつ、できる限り学生の学ぶ機会・範囲を広げていきたい。

6) 感染症マネジメント　1年次後期
(1) 担当教員
　木村哲、菅原えりさ、永田容子、大石和徳、四柳宏
(2) 教育内容
　保健師として必要な感染症およびその対策の基礎知識について学び，地域で生活する感染症患者への対応および感染症の拡大予防の支援方法を理解し，疾患の特性や課題に応じた保健師の役割や活動を学ぶことを目的に講義を行った。毎回、日本の代表する感染症の専門家を招聘して講義を行った。感染症の歴史から感染症に関する様々な法律や届け出基準等について学んだ。講義では，結核、肝炎、食中毒を中心に講義を行ったが、今年度はCovid-19についても講義で取り上げた。

7) ソーシャルマーケティング　1年次前期
(1) 担当教員
　加藤みずき
(2) 教育内容
　ソーシャルマーケティングの考え方を健康教育に活用できるスキルを養い，個人や集団を対象とした最適な介入ができるスキルを修得する。さらに，社会を変える介入の必要性について理解を深めることを目的に講義を実施した。

8) 住まいづくり論　1年次前期
(1) 担当教員
　佐藤潤、村中峯子
(2) 教育内容
　WHOや健康日本21（第二次）において着目されている環境に焦点を当てた健康増進・疾病予防をするための視点や方策を学ぶ。個々人の住環境などのミクロ的視点や都市工学や環境工学などのマクロ的観点から住みやすい町づくりおよび防災に強い町づくりについて理解を深めることを目的として講義を行った。今年度はスマートシティの見学を実施できなかったため、次年度は講義と演習を通して住まいづくりと健康との関連をより深められる講義に取り組んでいく。

9) 健康教育方法論　1年次前期
(1) 担当教員
　佐藤潤

(2) 教育内容
　対象者の自己効力感を効果的かつ持続的に高めるための各種教育スキルを教育学や心理学の理論を応用して学ぶ。保健師として、対象者の自立を支えるための効果的な健康教育を実施するのに必要な視点を養うことを目的に講義を行った。
　次年度は、講義の内容を踏まえて実際の健康教育の計画に反映できるような授業展開の工夫を実施していきたい。

10）産業保健学　1年次後期
(1) 担当教員
　佐藤潤、嶋谷圭一、渡邉淳子
(2) 教育内容
　産業の場で就労している対象の状況を理解し、健康増進のための活動や起こりうる健康障害を予見し対応できる産業保健活動の基礎知識と技術を習得することを目的に講義を行った。実際の産業保健師からの講義も入れることで現場に即した知識も教授できた。

11）学校保健学　1年次後期
(1) 担当教員
　佐藤潤
(2) 教育内容
　就学している対象（児童・生徒・学生）の状況を理解し、健康増進のための活動や起こりうる健康障害を予見し対応できる学校保健活動の基礎知識と技術を習得することを目的に講義を行った。次年度は学生の理解度がより高まるように、学校保健の専門家の招聘を視野に入れる。

12）国際保健学　1年次後期
(1) 担当教員
　駒田真由子、嶋谷圭一、池田陽子
(2) 教育内容
　世界の公衆衛生システムから日本の公衆衛生システムを省察し、国際的な公衆衛生看護の視点を醸成し、具体的な看護活動に取り組む能力を習得することを目的として講義を行った。国際保健政策についての理解を促し、国際機関・国際保健の担い手に関する講義を実施したうえで、実際の国際保健活動を発展途上国で行ってきた講師に講義してもらうことで臨場感のある学修を目指した。来年度以降も今年度の反省を踏まえて状況の変化に対応しつつ実施していく。

13）コミュニティアセスメント演習　1年次後期
(1) 担当教員
　駒田真由子、嶋谷圭一
(2) 教育内容
　コミュニティアセスメント論で学んだ知識、技術を応用して地域診断を実践する。様々な手法で入手したデータを基に、地域住民の健康にかかわる問題・課題とその要因を分析し、地域の生活や健康課題を解決するための活動計画とその評価、施策化の視点を演習を通して学ぶことを目的に行った。実際に調べたことを公衆衛生看護学実習Ⅰに活かすことができているため、次年度も課題の指導を丁寧に行い、発表形式を工夫して継続的に実施していきたい。

14）疾病予防看護学特論　1年次前期
(1) 担当教員
　駒田真由子、佐藤潤、嶋谷圭一
(2) 教育内容
　海外研究論文に触れることで、研究論文の構造、内容の理解を深めることを目的とし、研

究論文の紹介と内容の議論を行う授業である。今年度は学生の人数が少なかったこともあり、前期は教員が参加し、見本として論文の紹介方法をいくつか提示した。そのうえで学生が自分の能力に合わせて和訳を行い、word 資料・ppt 資料を作成し、内容の理解に努めつつ論文紹介を行ってもらった。研究の構造やデザイン、分析など総合的に研究力を学ぶ機会となった。次年度以降も学生の能力に合わせて到達レベルを考慮しながら継続的に実施していく。

15）自立支援教育特論　1 年次前期
(1) 担当教員
　佐藤潤、駒田真由子
(2) 教育内容
　さまざまな健康課題を抱えた対象（個人・家族・集団）に対して、課題解決、予防的観点から対象のセルフケア能力・自己効力感を高める効果的な公衆衛生看護を提供するための教育・指導の理論と手法を学ぶことを目的とした。
今年度は輪読の頻度や間隔を工夫して学生が無理なく英語論文に接することができるよう工夫をできた。次年度は講義で取り上げる論文のバリエーションを増やし、学生が広い学びができるような工夫を行いたい。

16）自立支援教育特論演習Ⅰ　1 年次前期
(1) 担当教員
　佐藤潤、駒田真由子
(2) 教育内容
　地域住民を対象とした自立支援イベントでの健康教育等の実践を通して、地域住民のヘルスリテラシーを高め、地域のソーシャル・キャピタルを高めるためのアプローチについて実践的に理解を深めることを目的とした。今年度は COVID-19 の影響で住民を対象にした健康教育の実演を行うことはできなかったため、次年度は対面形式に拘らずに何かしらの実演が行えるよう工夫していきたい。

17）自立支援教育特論演習Ⅱ　2 年次前期
(1) 担当教員
　佐藤潤、駒田真由子、嶋谷圭一
(2) 教育内容
　地域における自立支援イベントにおける企画、予算管理、運営の実践を通して、組織における公衆衛生看護の役割を学ぶとともに、保健師に必要なプランニング、コーディネーション、マネジメントの能力を養うことを目的とした。今年度は COVID-19 の影響で住民を対象にした実演を行うことはできなかったものの、住民への定期的なレターの配布の企画、予算管理、運営の実施を行うことで学習目標を達成できたと考える。次年度は予算管理の部分を強化した演習が組めるようにしていきたい。

18）医療保健疫学　1 年時後期
(1) 担当教員
　駒田真由子、嶋谷圭一
(2) 教育内容
　集団における疾病や健康現象を評価するために必要な疫学の基礎を学び、公衆衛生看護の実践や公衆衛生看護研究において疫学の考え方、手法を活用する方法について理解してもらう目的で講義を行った。学生は研究のデザインやバイアス、交互作用の考え方といった疫学方法論を具体的事例とともに学ぶ機会となった。公衆衛生看護分野における研究の基礎となるため、引き続き、学生が疫学的思考を身につけられるような授業展開をしていきたい。

19）医療保健疫学演習　1 年次後期

(1) 担当教員
駒田真由子、嶋谷圭一
(2) 教育内容
既に学んだ疫学の知識を使いこなすために、研究デザインや交絡因子の調整方法について論文の講読を通して理解を深め、公衆衛生看護研究の実践に応用できる能力を養う目的で行った。この時期の学生は英語論文の輪読に慣れ、統計や疫学などの講義を受けて研究デザイン、分析方法の理解が深まってきているため、次年度も学生の理解度や能力に合わせて、資料や発表の意見や質疑応答が活発に行えることを目指して行いたい。

20) 保健統計学演習　1年次後期
(1) 担当教員
佐藤潤、嶋谷圭一
(2) 教育内容
高度な保健統計学の知識を使いこなすために、多変量解析や生存分析などの分析手法について論文の講読を通して理解を深めるとともに、統計ソフトを用いて実際に分析することで、公衆衛生看護研究の実践に応用できる能力を養うことを目的に講義・演習を行った。次年度は学生のスキルに合わせて無理なく統計ソフトの使用スキルが上がるよう工夫をする。

21) 公衆衛生関連法規　1年次後期
(1) 担当教員
佐藤潤、嶋谷圭一
(2) 教育内容
日本国憲法を始めとして，公衆衛生看護の分野に関連した法律や制度について学び，保健師として地域づくりを推進するために必要な法制度に関する知識を習得することを目的に講義を行った。次年度は講義方法を工夫して学生が様々な法律について学びが深められるよう工夫を行う。

22)行政論　1年次後期
(1) 担当教員
佐藤潤、村中峯子
(2) 教育内容
公衆衛生看護を実践する基盤である行政の仕組みについて、保健医療福祉分野に留まらず広く地方自治制度や財政制度についても学び、将来の公衆衛生看護に係る政策形成へ参与できる能力を養うことを目的に講義を行った。学生にとって縁遠い内容を多く含むため、次年度は学生にとって理解しやすい内容から教授できるように講義構成を検討する。

23) 公共政策論　1年次前期
(1) 担当教員
下井直毅、佐藤潤
(2) 教育内容
日本の公共政策に関する各種法律の特徴やその内容について学ぶ。また，医療に限らず幅広い公共政策の分野に関する基礎知識を習得し、将来の政策形成に参与できる能力を養うことを目的に講義を行った。

24) 公衆衛生看護学実習Ⅰ　1年次後期
(1) 担当教員
佐藤潤、駒田真由子、嶋谷圭一
(2) 教育内容
保健所や保健センターなどの公衆衛生看護活動の場における実習を通して、地域の健康課題を解決する仕組み、公衆衛生看護の展開プロセス、危機管理における保健師の役割、公

衆衛生看護活動技術を実践的に学ぶことを目的に実習を行った。今年度はCOVID-19の影響もありつつも臨地で実習を行うことが可能であった。次年度も実習目的が達成しやすいよう評価方法の工夫を行うとともに、現場の実習指導者と綿密な事前打ち合わせを行っていく。

25）公衆衛生看護学実習Ⅱ　1年次後期
(1) 担当教員
　佐藤潤、嶋谷圭一
(2) 教育内容
　職場における産業保健活動の実際と産業保健活動の仕組みや産業看護職の役割について実践的に学ぶ。労働者・家族の特性を理解し、健康課題の把握と援助の方法、必要な連携・協働・ネットワークづくり・職場巡視等について理解することを目的に実習を行った。今年度はCOVID-19の影響もありつつも臨地で実習を行うことが可能であった。実習スケジュールが連続して組むことが出来なかったため、学習の進捗管理が難しい面があった。次年度は実習スケジュールの工夫を行っていく。

26）地域包括ケア実習　2年次前期
(1) 担当教員
　佐藤潤、駒田真由子、嶋谷圭一
(2) 教育内容
　地域包括支援センターにおいて、地域包括ケアシステムの中で医療職がどのように地区組織と関わり、地域住民の健康増進に関与し、介護予防・健康増進に関与しているのかを実践的に学んだ。I週間の地域包括支援センターでの実習を通して、地域包括支援センターの様々な事業に参加し、地域包括ケアシステムにおける包括支援センターおよび保健師の役割を学ぶことができた。

27）地域診療所実習　2年次前期
(1) 担当教員
　佐藤潤、駒田真由子、嶋谷圭一
(2) 教育内容
　地域の診療所での実習を通して、地域で生活する住民・療養者の実際を知り、地域で生活していくことへの継続的な支援の方法や保健師として地域医療で求められる医療知識や看護技術について実践的に学ぶことを目的に実習を行った。実習では診療所における診療の補助行為だけでなく、医師の訪問診療に同行し、地域の診療の場における看護師の役割を学ぶことができた。

28）医療倫理特論　1年次後期
(1) 担当教員
　小野孝二、矢野尊啓
(2) 教育内容
　ICT講義と事例検討の発表会を実施した。講義では、看護に関する制度や倫理を学び、専門職としての考えを明確にし、看護専門職としての倫理の原則、意思決定のための判断基準について学び、院生の経験を踏まえて分析的に思考した。倫理の理念 から説き起こし、倫理的葛藤が生じるプロセス、倫理的意思決定のステップなどについて臨床で遭遇しうる倫理的問題を抽出しながら、事例検討をおこなった。事例検討の発表会では、価値葛藤が生じる事例における倫理的判断について意見交換し、学習を深めた。

29）ラボラトリー・メソッド特論　1年次前期
(1) 担当教員
　小宇田智子、小野孝二
(2) 教育内容

ヒトの健康像を理解するうえで必要な医学・生物学の知識を得るための手法を指導した。臨床現場で使われている手法や最新の科学研究で使われている手法を用いて、個体・組織・遺伝子および分子レベルでの生命現象について理解できるような授業の工夫をした。来年度も同様の内容で行う予定である。

30）保健医療福祉システム特論　1年次後期
(1) 担当教員
金子あけみ、清水美智夫（非常勤講師）
(2) 教育内容
本科目は、保健医療福祉分野において、看護職が果たすべき役割を理解するために保健医療福祉に係る制度及び政策決定プロセスについて基礎的な知識を深めること及び政策医療におけるネットワーク、連携を含め、新たなシステム構築に向けてのネットワークを創出できるようにすることを目的としている。本大学院の学生には、専門性の高い看護実践能力に加え、保健医療福祉システムの現状を看護の視点から見つめ、健康に関わる様々なニーズを掘り起こし、関連する諸法規・政策的側面から変革につなげる知識を習得することが求められよう。このため、講義では社会保障制度全般、政策決定プロセスに関する基礎的知識等を教授した上で、各個人に最も関心のあるテーマでの政策提言を課題として課した。様々なバックグラウンドを持つ学生ゆえに、多様なテーマでの政策提言を行うことができたと考える。発表では、積極的な質疑応答によって学習内容を深めるとともに相互共有が図られた。来年度も引き続き、保健医療福祉システムや政策課題を批判的に吟味する能力を育成できるよう支援していきたいと考える。

31）看護政策特論　1年次通年
(1) 担当教員
金子あけみ
(2) 教育内容
本科目は看護を取り巻く課題と課題解決に向けた制度・政策実現のプロセスについて、看護学及び慣例領域の研究社や行政官など実際の政策や制度の形成過程に携わる実践家からの講義を通して学ぶとともに、学生個々人が臨床経験等を通して得た政策課題・問題点を整理・抽出し、解決策を考えてみることとしている。政策決定プロセスに関しては、選択科目である保健医療福祉システム特論においても学習をしているが、看護領域の独自性を考慮して、厚生労働省、関連団体等から講師を招聘する予定であったが、本年度は選択者がいなかったことから開講しなかった。

32）政策医療特論　1年次前期
(1) 担当教員
大島久二、山西文子、松本純夫、加我君孝、女屋光基、石原傳幸、當間重人
(2) 教育内容
民間病院に任せるだけでは不十分と考えられ、国が医療政策を担うべき医療であると定められている「政策医療」（19 の医療分野）について、理解を深めることができた。政策医療を担っている国立病院機 構の管理者から、政策医療に関する歴史的経緯と現状、課題、将来展望等の講義を受け、政策医療の対象になっている患者に遭遇した場合の診療看護師として対応について学ぶことができた。

33）地域母子保健学特論　1年次前期
(1) 担当教員
平出美栄子、福島富士子、佐藤潤、永森久美子、デッケルト博子
(2) 教育内容
地域母子保健の今日的課題について考え、地域で助産師に期待される役割、地域母子保健の活動の実際や産後ケアセンターの活動について講義を行った。学生が考える日本社会における母子保健の今日的課題の現状とこれを解決するために必要だと思われる方策、助産

師が地域で果たすべき役割について、討論し学習を深めた。特に、地域母子保健事業において新生児訪問事業は助産師が担う重要な事業である。そのため今年度は、実際の自宅訪問を再現できる演習方法を取り入れ、訪問時の観察、計測などを実施した。平出

34）地域保健学特論Ⅰ　1年次前期
(1) 担当教員
佐藤潤、駒田真由子
(2) 教育内容
地域保健の概念・諸理論を踏まえ、地域で生活する人々を対象とした地域保健に関わる制度や社会資源、健康に関わる環境等の情報を分析し、個人・家族・集団・地域を単位とした課題を解決するための展開方法を理解することを目的とした。海外の論文の輪読を中心に最新の地域保健に関する内容について触れることができた。

35）保健統計学　1年次後期
(1) 担当教員
佐藤潤、浦中桂一
(2) 教育内容
コンピュータ及び統計解析を習得するための基本的な知識を理解するとともに、統計解析演習を行い、基本的な解析手法を理解することを目的に講義を行った。今年度は対面とオンライン講義を使い分け、対面では統計解析の演習を中心に、オンラインでは文献における統計結果の読み方を中心に講義を実施した。

36）研究特論　1年次前期
(1) 担当教員
大島久二、田中留伊、朝澤恭子、小野孝二、佐藤潤、小宇田智子
(2) 教育内容
看護研究における初歩的な研究テーマの設定法、データ収集法、解析法、倫理上の配慮などについて具体例を示しながら解説した。本来の研究はどういうものであるかを教授し、また、研究成果を学会あるいは学術誌に発表するためのプレゼンテーションおよび論文作成に関する基本的な手法について習得できた。

37）課題研究　1年次・2年次通年
(1) 担当教員
大島久二、田中留伊、その他全教員
(2) 教育内容
一人ひとりの院生が、個別の研究課題を設定し、関連情報の収集、研究計画の立案、研究実施、研究成果の発表に至る、研究全般にわたるプロセスを担当教員の助言・指導を受けながら実施した。論文の執筆と学会を模した形式の発表会においては抄録やスライドの準備を行い、成果を論文としてまとめる力、プレゼンテーション能力を習得できた。

【看護科学コース】

1．教育方針

看護学の発展および看護の一層の質の向上のために、教育現場と実践現場との連携と協同を通して、課題解決に的確に対応できる人材の育成を目指す。特に、エビデンスを蓄積し、それらのエビデンスを看護実践にまで発展させることができる資質を涵養し、社会および時代のニーズに的確に対応できる課題提供，課題解決能力を備えた教育研究者としての人材を育成する。

2. 科目

1）健康生命科学特論Ⅰ　1年次前期

(1) 担当教員

小宇田智子、大島久二、小野孝二

(2) 教育内容

ヒトの健康像を理解するうえで必要な医学・生物学の知識を得るための手法を指導した。臨床現場で使われている手法や最新の科学研究で使われている手法を用いて、個体・組織・遺伝子および分子レベルでの生命現象について理解できるような授業の工夫をした。来年度も同様の内容で行う予定である。

2）健康生命科学特論Ⅱ　1 年次後期

(1) 担当教員

小宇田智子、大島久二、

(2) 教育内容

環境とヒト集団レベルでの健康像との関連を把握する方法を教授する。また健康生命科学分野における研究の進め方および論文の書き方を伝授する予定であったが、本年は開講しなかった。

3）精神保健学特論Ⅰ　1年次前期

(1) 担当教員

田中留伊、中村裕美

(2) 教育内容

精神保健医療福祉の制度と体制に関する知識および精神的健康問題のメカニズム、生活の評価に必要な基礎的理論と方法について、講義及び学生自身のプレゼンテーション、研究論文のクリティーク、討議を通して学ぶために 15 回の講義を予定したが、受講生がいなかったため開講しなかった。

4）精神保健学特論Ⅱ　1年次後期

(1) 担当教員

田中留伊、中村裕美

(2) 教育内容

精神保健上の問題を抱えた人々へのさまざまな治療的アプローチの理論と技法について、講義及び事例や最新の研究に関する学生自身のプレゼンテーション、討議を通して学ぶために 15 回の講義を予定したが、受講生がいなかったため開講しなかった。

5）看護教育学特論Ⅰ　1年次前期

(1) 担当教員

松山友子、岩本郁子、高橋智子

(2) 教育内容

日本における看護学教育の定義及び理念、看護教育制度の歴史的変とその特徴をふまえ、現在の看護基礎教育と看護継続教育における教育内容、教育方法およびその評価の概要を理解し、看護学教育の現状と課題について考察する予定であったが、本年度は受講希望者がなく開講しなかった。

6）看護教育学特論Ⅱ　1年次後期

(1) 担当教員

松山友子、岩本郁子、高橋智子

(2) 教育内容

看護学教育の基盤となる教授・学習理論、教育課程開発、教育方法、教育評価に関する基礎的な理論を理解し、専門職業人の育成に向けた看護学教育上の課題に対応したアプローチの方法を考察する予定であったが、本年度は受講希望者がなく開講しなかった。

7）看護基盤科学演習Ⅰ　1年次通年

(1) 担当教員

大島久二、竹内朋子

(2) 教育内容

看護基盤学、臨床看護学、応用看護学における基礎的課題を取り上げ、それに対する文献抄読通して具体的方策を立案した。

8）看護基盤科学演習Ⅱ　2 年次通年

(1) 担当教員

大島久二、中島美津子、小宇田智子

(2) 教育内容

看護基盤学、臨床看護学、応用看護学における基礎的課題を取り上げ、それに対する文献抄読を通して具体的方策を立案した。

9）小児看護学特論Ⅰ　1 年次前期

(1) 担当教員

中島美津子、玄順烈

(2) 教育内容

乳幼児期にある子どもの成長発達・生活環境・子どもと家族を取り巻く諸理論の探求と実際の援助に向け、講義内容としては、各発達理論および理論家の背景および理論の源泉を理解すること、各発達理論の概要を理解すること、看護における発達理論の適用と課題を考えること、各発達理論の理論分析を行うことを目標としてアクティブラーニングを展開する。フィンク、クラウスとケネル、ドローター、マーガレット・マーラ、ウィニコット、ゲゼル、デュヴァル、ボーエン、ミルトン、エリクソン、ベイトソンなどの諸理論について文献レビューをし、経験症例をこれらの理論を使って分析することで、多角的理解を深める。また自分が関与する症例について、複数の理論に基づき分析する。次年度も患児を多角的に捉え、社会的単位としての家族を含めた理論分析を展開することで、高度な専門職としての実践

家育成を図りたい。学生からは、今後、増加傾向にある発達障害や医療的ケア児までをも包含する学習による今後への示唆が得られたという評価を得ている。次年度もアクティブラーニングの展開を考えている。

10）小児看護学特論Ⅱ　1年次後期

(1) 担当教員

中島美津子、玄順烈

(2) 教育内容

小児看護学特論Ⅰをさらに発展させることを目的とした。講義内容は、小児看護特論Ⅰで学んだ理論を使い、自分が経験した症例について、同じ事例を様々な理論で多角的に分析し、理論をツールとして実践的に使用する参加・演習型の講義内容とした。さらに時事問題に対してセンシング能力を高めるため、乳幼児に関する出来事、社会保障に関するテーマを自ら選択し、情報収集・データ化・分析・プレゼンテーションを実施する。今年度はプレゼンテーションはできなかったが次年度も患児を多角的に捉え、社会的単位としての家族を含めた理論分析を展開することで、高度な専門職としての実践家育成を図りたい。学生からは、今後、増加傾向にある発達障害や医療的ケア児までをも包含する学習による今後への示唆が得られたという評価を得ている。次年度もさらなる工夫をしてきたい。

11）母性看護学特論Ⅰ　1年次前期

(1) 担当教員

朝澤恭子、平出美栄子

(2) 教育内容

母性看護学の基盤となる概念を理解し、人間の性と生殖の側面から女性の生涯の健康を視野にいれ、女性のライフステージにおける健康問題（健康阻害因子）を分析し、解決に向けた取り組み（管理・教育・研究）を修得する概要であるが、今年度は開講されなかった。

12）母性看護学特論Ⅱ　1年次後期

(1) 担当教員

朝澤恭子、平出美栄子

(2) 教育内容

多様化する現代女性の健康問題に注視し、女性の生物的側面のみでなく心理・社会・文化的側面を重視するウイメンズヘルスの視野から女性の健康をとらえ、特に周産期を含めての課題の分析・その援助方法を考察する概要であるが、今年度は開講されなかった。

13）成人・老年看護学特論Ⅰ　1 年次前期

(1) 担当教員

竹内朋子、松本和史

(2) 教育内容

成人期・老年期にある対象と、対象を支えるための医療・保健・看護サービスの在り方について理解を深めることを目的とした。関連テーマにおける今日的課題を抽出し、看護実践

をふまえた新たな提案についてディスカッションを行った。

14）成人・老年看護学特論Ⅱ　1 年次前期

(1) 担当教員

竹内朋子、松本和史　松田謙一

(2) 教育内容

成人・老年看護学における新たなエビデンス構築に向けたアプローチについて説明できることを目的とした。国内外の文献を講読し、成人・老年看護学における国内外の研究の動向をクリティークしたうえで、自己の見解や研究上の提案についてディスカッションを行った。

15）臨床看護学演習Ⅰ　1 年次通年

(1) 担当教員

大島久二、竹内朋子

(2) 教育内容

看護基盤学、臨床看護学、応用看護学における臨床的課題を取り上げ、それに対する文献抄読を通して具体的方策を立案した。

16）臨床看護学演習Ⅱ　2 年次通年

(1) 担当教員

大島久二、中島美津子、小宇田智子

(2) 教育内容

看護基盤学、臨床看護学、応用看護学における臨床的課題を取り上げ、それに対する文献抄読を通して具体的方策を立案した。

17）看護管理学特論Ⅰ　1 年次前期

(1) 担当教員

竹内朋子、松本和史

(2) 教育内容

看護管理に必要な基礎知識を学習し、看護管理者の役割と機能を理解することを目標とした。カリキュラムを 2 部構成とし、第 1 部では看護組織のマネジメント、第 2 部では看護組織における人的資源のマネジメントについて扱った。所属組織や実在のリーダーを分析して看護組織としての強みや課題を抽出したり、看護管理者としての自己の資質を考察したりする課題にも取り組んだ。本科目を通して、看護師として医療チームをマネジメントするうえで求められる看護管理能力の基礎を修得できていた。

18）看護管理学特論Ⅱ　1 年次後期

(1) 担当教員

竹内朋子、松本和史

(2) 教育内容

看護管理学研究に必要な基礎知識を学習し、看護管理における今日的課題を理解することを目標とした。看護管理に関連する国内外の研究論文を講読し、学術的な動向を把握したうえで、各テーマに関する実践上の課題を抽出し、自己の見解を論述するワークをあわせて行なった。

19）地域保健学特論Ⅰ　1年次前期
(1) 担当教員
佐藤潤、駒田真由子
(2) 教育内容
地域保健の概念・諸理論を踏まえ、地域で生活する人々を対象とした地域保健に関わる制度や社会資源、健康に関わる環境等の情報を分析し、個人・家族・集団・地域を単位とした課題を解決するための展開方法を理解することを目的とした。海外の論文の輪読を中心に最新の地域保健に関する内容について触れることができた。

20）地域保健学特論Ⅱ　1年次後期
(1) 担当教員
佐藤潤、駒田真由子
(2) 教育内容
地域保健に関わる研究と実践力の能力向上を図るため、国内外の文献を活用して研究の動向、理論、研究計画、研究方法、地域保健活動の質を高める実践と評価の方法を学ぶことを目的とした。今年度は行動経済学とナッジ理論にテーマを絞って国内での取り組みを中心に講義を行い、学生自身で効果的なナッジ理論について提案を行うことで理解を深めることができた。

21）放射線保健学特論Ⅰ　1年次前期
(1) 担当教員
小野孝二
(2) 教育内容
放射線保健学の視点から、放射線の健康影響や被ばく管理に関する知識・技術の基本的事項について ICT 講義を実施した。内容は、① 放射線の特徴、② 放射線の線量と健康影響、③放射線の被ばくの種類とその低減方策、 ④放射線防護・安全の考え方と現行法令。さらに、チュートリアル方式で、放射線を受ける様々な状況（平常時の医療に伴う被ばくや事故時の緊急時被ばく等）や被ばく管理、健康管理のあり方・やり方につき考察し、放射線利用に伴う放射線保健学の重要性について認識を新たにした。

22）放射線保健学特論Ⅱ　1年次前期
(1) 担当教員
小野孝二
(2) 教育内容
原子力、放射線事故への対応、臨床現場での医療被ばく、職業被ばくならびに公衆被ばくにおける放射線リスク、マネジメントについて ICT 講義を実施した。また、 ①国際放射線防護委員会の報告書、②IAEA の報告書、③国連科学委員会の報告書等を通して原子力事故後および臨床現場での放射線防護のあり方について考察した。

23）応用看護学演習Ⅰ　1年次通年
(1) 担当教員

大島久二、竹内朋子

(2) 教育内容

看護基盤学、臨床看護学、応用看護学における高度な課題を取り上げ、それに対する文献抄読を通して具体的方策を立案した。

24) 応用看護学演習Ⅱ　2年次通年

(1) 担当教員

大島久二、中島美津子、小宇田智子

(2) 教育内容

看護基盤学、臨床看護学、応用看護学における高度な課題を取り上げ、それに対する文献抄読を通して具体的方策を立案した。

25) 研究特論　1年次前期

(1) 担当教員

大島久二、田中留伊、朝澤恭子、小野孝二、佐藤潤、小宇田智子

(2) 教育内容

看護研究における初歩的な研究テーマの設定法、データ収集法、解析法、倫理上の配慮などについて具体例を示しながら解説した。本来の研究はどういうものであるかを教授し、また、研究成果を学会あるいは学術誌に発表するためのプレゼンテーションおよび論文作成に関する基本的な手法について習得できた。

26) 看護理論　1年次後期

(1) 担当教員

松山友子、竹内朋子、高橋智子

(2) 教育内容

看護学の発展の中で、看護理論がどのような経緯で開発されてきたかを概観したうえで、主要な看護理論の特徴や限界を検討すると共に、自らの経験と照らして看護の実践・教育・研究における看護理論の適用と課題を考察する予定であったが、本年度は受講希望者がなく開講しなかった。

27) 医療倫理特論　1年次後期

(1) 担当教員

小野孝二、矢野尊啓

(2) 教育内容

ICT講義と事例検討の発表会を実施した。講義では、看護に関する制度や倫理を学び、専門職としての考えを明確にし、看護専門職としての倫理の原則、意思決定のための判断基準について学び、院生の経験を踏まえて分析的に思考した。倫理の理念 から説き起こし、倫理的葛藤が生じるプロセス、倫理的意思決定のステップなどについて臨床で遭遇しうる倫理的問題を抽出しながら、事例検討をおこなった。事例検討の発表会では、価値葛藤が生じる事例における倫理的判断について意見交換し、学習を深めた。

28）看護政策特論　1年次通年

(1) 担当教員

金子あけみ

(2) 教育内容

本科目は看護を取り巻く課題と課題解決に向けた制度・政策実現のプロセスについて、看護学及び慣例領域の研究社や行政官など実際の政策や制度の形成過程に携わる実践家からの講義を通して学ぶとともに、学生個々人が臨床経験等を通して得た政策課題・問題点を整理・抽出し、解決策を考えてみることとしている。政策決定プロセスに関しては、選択科目である保健医療福祉システム特論においても学習をしているが、看護領域の独自性を考慮して、厚生労働省、関連団体等から講師を招聘する予定であったが、本年度は選択者がいなかったことから開講しなかった。

29）ラボラトリー・メソッド特論　1年次前期

(1) 担当教員

小宇田智子、小野孝二

(2) 教育内容

ヒトの健康像を理解するうえで必要な医学・生物学の知識を得るための手法を指導した。臨床現場で使われている手法や最新の科学研究で使われている手法を用いて、個体・組織・遺伝子および分子レベルでの生命現象について理解できるような授業の工夫をした。来年度も同様の内容で行う予定である。

30）保健医療福祉システム特論　1年次後期

(1) 担当教員

金子あけみ、清水美智夫（非常勤講師）

(2) 教育内容

本科目は、保健医療福祉分野において、看護職が果たすべき役割を理解するために保健医療福祉に係る制度及び政策決定プロセスについて基礎的な知識を深めること及び政策医療におけるネットワーク、連携を含め、新たなシステム構築に向けてのネットワークを創出できるようにすることを目的としている。

本大学院の学生には、専門性の高い看護実践能力に加え、保健医療福祉システムの現状を看護の視点から見つめ、健康に関わる様々なニーズを掘り起こし、関連する諸法規・政策的側面から変革につなげる知識を習得することが求められよう。

このため、講義では社会保障制度全般、政策決定プロセスに関する基礎的知識等を教授した上で、各個人に最も関心のあるテーマでの政策提言を課題として課した。様々なバックグラウンドを持つ学生ゆえに、多様なテーマでの政策提言を行うことができたと考える。発表では、積極的な質疑応答によって学習内容を深めるとともに相互共有が図られた。

来年度も引き続き、保健医療福祉システムや政策課題を批判的に吟味する能力を育成できるよう支援していきたいと考える。

31）保健統計学　1年次後期

(1) 担当教員

佐藤潤、浦中桂一
(2) 教育内容
コンピュータ及び統計解析を習得するための基本的な知識を理解するとともに、統計解析演習を行い、基本的な解析手法を理解することを目的に講義を行った。今年度は対面とオンライン講義を使い分け、対面では統計解析の演習を中心に、オンラインでは文献における統計結果の読み方を中心に講義を実施した。

32) 特別研究　1年次・2年次通年
(1) 担当教員
大島久二、中島美津子、小宇田智子

学生氏名	指導教員	研究課題
ホシノユウコ 星野雄子	小宇田智子	新生児に対する舌マッサージによる母親の乳頭痛緩和と哺乳量への影響
スズキヒデミ 鈴木英美	中島美津子	看護管理者の well-being の現状と関連要因について

【博士課程】

1. 教育方針

看護学のさらなる進化および看護の一層の質の向上に「貢献できる教育研究者」を養成することを目的とする。看護、看護学の発展のためには、EBN に基づいた研究活動, 教育活動, 実践活動が必要である。博士論文の制作を通して、教育研究者として、エビデンスを「つくり」「つたえ」「つかう」プロセスを理解し、それぞれのプロセスにおいて積極的に取り組み、看護界が抱える課題を的確に抽出し、解決していくことができる能力を醸成する。

2. 科目

1) 生活支援看護学　1年次通年
(1) 担当教員
松山友子、竹内朋子
(2) 教育内容
少子超高齢社会を迎えた日本において、「治す医療」から「治し支える医療」への変換が求められている。対象者の生活・社会的背景を考慮した「治し支える医療」を実現していくための「生活支援看護学」の理論・概念・モデルの構築に向けてのスキルを習得することを目指したゼミナール方式の授業を予定していたが、本年度は受講希望者がなく開講しなかった。

2) 発達看護学　1年次通年
(1) 担当教員
中島美津子
(2) 教育内容
講義内容としては、各発達理論および理論家の背景および理論の源泉を理解すること、各発達理論の概要を理解すること、看護における発達理論の適用と課題を考えること、各発達理論の理論分析を行うことを目標としてアクティブラーニングを展開した。フィンク、クラ

ウスとケネル、ドローター、マーガレット・マーラ、ウィニコット、ゲゼル、デュヴァル、ボーエン、ミルトン、エリクソン、ベイトソンなどの諸理論について文献レビューをし、経験症例をこれらの理論を使って分析することで、多角的理解を深めた。次年度は、さらに発達段階に則した具体的支援方法の創出に関わる視点を入れながら、全体的にレベルアップする工夫をしたい。

3）生殖看護学　1年次通年
(1) 担当教員
　朝澤恭子、平出美栄子
(2) 教育内容
　性と生殖の分野における理論構築のために新しい知見を導きだし、新しい理論構築を探求し、女性の生涯の健康（性と生殖の側面から）を視野に入れ、女性のライフステージにける健康課題（健康阻害因子）を分析する概要であるが、今年度は開講されなかった。

4）災害保健学　1年次通年
(1) 担当教員
　大島久二、小野孝二
(2) 教育内容
　災害に関する歴史と法律・省令に関する解説を行い理解を深めた。さらに実際の熊本地震の災害と復興に関しての事例の検討と文献検討から、実例を通しての問題点把握と課題の明確化を行った。

5）環境保健学　1年次通年
(1) 担当教員
　小宇田智子、大島久二
(2) 教育内容
　地域規模から地球規模の環境問題まで様々な現象とヒト集団の健康像との関わりについて、最新のデータを踏まえながら文献から知識を吸収し、合わせて研究態度をも身に付ける予定であったが、本年は開講しなかった。

6）精神保健学　1年次通年
(1) 担当教員
　田中留伊
(2) 教育内容
　精神保健医療福祉に関する最新の知見を整理した上で、わが国の精神保健・精神看護学の現状や問題を理解し、精神保健や精神看護実践が向上するための具体的なアプローチについて学ぶために15回の講義を予定したが、受講生がいなかったため開講しなかった。

7）放射線保健学　1年次通年
(1) 担当教員
　明石眞言、小野孝二
(2) 教育内容
　放射線の健康影響に関する最新の知見を整理し、我が国の被ばくの現状や原子力事故に

係る諸問題等を概観し、放射線保健に関する諸問題と、それに対する具体的なアプローチについて学ぶ予定であったが、本年は開講しなかった。

8）特別研究

(1) 担当教員

大島久二

学生氏名	指導教員	研究課題
ナカムラトモコ 中村智子	大島久二	思春期にある先天性難聴の子どもの様相

【研究】

1. 課題研究

課題研究：高度実践看護学コース

学生氏名	指導教員	研究課題
アサノ ケンタロウ 淺野健太郎	大島久二研究科長 日髙未希恵助教	機械的胸骨圧迫装置に対する医療者の認識とより効果的な活用方法に関する考察
イクタ カズユキ 生田一幸	松山友子教授 原口昌宏講師 ハーネド明香助教	「救急搬送件数と気象条件との関連」－滋賀県東近江地域に着目して－
イトウ ユウキ 伊藤優樹	大島久二研究科長	「診療の補助」行為の実施に際しての診療看護師(NP)の自律の程度に関する実態調査
オガワ コウジ 小川晃司	竹内朋子教授	勤務帯別にみた看護記録時間の関連要因
オシダ ヒロアキ 押田浩明	松本和史准教授 中村裕美講師	クリティカル領域に携わる中堅看護師の承認行動の現状
カマダ タマエ 鎌田珠恵	岩本郁子准教授 松田謙一講師 早坂奈美助教	クリティカルケア領域における MDRPU 予防のための介入に対する看護祖の躊躇
キクチ ケンタ 菊池健太	岩本郁子准教授 松田謙一講師 早坂奈美助教	患者急変時の看護師から医師への適切な電話報告
シラカワヒロヒト 白川大仁	大島久二研究科長 日髙未希恵助教	『院内心停止と心停止前一般検査値との関連および傾向』
ソ ロジ ジュウゾウ 曹路地重蔵	朝澤恭子准教授 浦中桂一講師	救命救急センターにおける診療看護師を有する早期リハビリテーションチーム導入の評価－在院日数を指標とした後ろ向き観察研究－
タムラ アヤカ 田村綾華	岩本郁子准教授 松田謙一講師 早坂奈美助教	診療看護師(NP)に関する看護師の認識とニーズ－診療看護師(NP)が配置されているクリティカル領域において－

デグチ キョウイチ 出口喬一	小野孝二教授 嶋谷圭一助教	島根県浜田圏域におけるアクセシビリティと脳血管疾患死亡との関連に関する研究
トウヤマモリタカ 當山護剛	松本和史准教授 中村裕美講師	診療看護師卒後臨床の現状と課題に関する研究
ナカゾノサキコ 中園紗希子	大島久二研究科長 日髙未希恵助教	乳幼児の急性胃腸炎に伴う初期症状(悪心、嘔吐、腹痛)の早期消失と初期対応の関連性についての検討
ヒラキ　タツヤ 平木達也	小野孝二教授 嶋谷圭一助教	地域急性期病院の地域包括ケア病棟が高齢者の再入院に与える影響
フカガワサトシ 深川哲嗣	田中留伊教授 小宇田智子准教授 菅原裕美助教	緊急時情報共有アプリ(EISA)の開発及び災害訓練における有用性の検討
マエダ コウヘイ 前田倖平	田中留伊教授 小宇田智子准教授 菅原裕美助教	閉経モデルマウスの高脂肪飼料摂食による肝臓小胞体ストレス応答及びインスリン抵抗性への影響
ヨシカワシ ナ 吉川之菜	平出美栄子准教授 内山孝子准教授 デッケルト博子助教	二次データ利用による環境中大気汚染物質と低出生体重児との相関
ワキミカ 脇実花	松本和史准教授 中村裕美講師	前胸部冷罨法が内胸動脈血流と皮膚感覚に与える影響－体外式超音波を用いた評価－
ワタナベヤヨイ 渡部弥生	大島久二研究科長	出産に立ち会った父親の出産に対する思い　～出産の印象,妻への思い,児への思い,夫・父親としての思いに着目して～

課題研究：高度実践助産コース（助産師免許取得コース）

学生氏名	指導教員	研究課題
オオコ チナツ 大古千夏	大島久二研究科長 小嶋奈都子助教	親とのかかわりが子どもの自己肯定感に及ぼす影響－看護学生の親からの妊娠・出産・育児の伝承と自己肯定感の関連－
スズキ ミサ　キ 鈴木美紗稀	朝澤恭子准教授、 浦中桂一講師	LGBT 当事者における医療機関への受診の実態とケアニーズ
タケウチマサコ 武内 昌子	朝澤恭子准教授 浦中桂一講師	経産婦における双胎妊娠・双生児育児の体験
近田佑有子	大島久二研究科長 小嶋奈都子助教	無痛分娩における助産師の役割の検討－初めて無痛分娩を経験した母親の語りから－
ナワタ アオイ 縄田碧	大島久二研究科長 小嶋奈都子助教	男子大学生の性教育の経験と性に関する態度との関連
フルヤ ヨシミ 古屋恭　彩	朝澤恭子准教授 浦中桂一講師	女性が認識する就労時のマタニティハラスメントの実態と対処行動

マ ウチユウ 馬内 優	平出美栄子准教授 田辺洋子講師	妊娠期から分娩第 2 期における会陰裂傷を予防する助産ケア
ミヤジママヨ 宮嶋 真代	大島久二研究科長 小嶋奈都子助教	助産師が行う臨時応急の手当の実態に関する研究

課題研究：高度実践公衆衛生看護コース

学生氏名	指導教員	研究課題
ナカムラメイ 中村 芽依	佐藤潤准教授 髙橋智子講師	GIS(地理情報システム)を用いたフレイルリスク可視化に向けた文献検討
ナカヤママコ 中山 真子	佐藤潤准教授 髙橋智子講師	地域住民を対象とした「まちの保健室」への継続参加に影響を与える要因

2. 特別研究

特別研究：高度実践助産コース助産師プログラム

学生氏名	指導教員	研究課題
モリ ケイ 杜 稀布	大島久二研究科長	中学校で性教育を行う助産師の思い

特別研究：看護科学コース

学生氏名	指導教員	研究課題
ホシノユウコ 星野雄子	小宇田智子准教授	新生児に対する舌マッサージによる母親の乳頭痛緩和と哺乳量への影響
スズキヒデミ 鈴木英美	中島美津子教授	看護管理者の well-being の現状と関連要因について

特別研究：博士課程

学生氏名	指導教員	研究課題
ナカムラトモコ 中村智子	大島久二研究科長	思春期にある先天性難聴の子どもの様相

７．業績

【看護基盤学】

1. 著書（翻訳書を含む）

明石眞言(2021).（分担執筆）経験から学ぶ姿勢こそ未来への鍵「東日本大震災と原発事故からの 10 年-災害の初動から真の復興、そしてウィズコロナの未来へ向けて-」.東日本国際大学健康社会戦略研究所編.17-21,論創社,東京.

2. 論文等（原著、総説、短報、研究報告、実践報告、資料）

藤淵俊夫王，藤田克也，五十嵐隆元，西丸英治，堀田昇呉，桜井礼子，小野孝二（2021）. 放射線診療従事者の不均等被ばく管理の実態に基づく水晶体被ばく低減対策の提案, 日本放射線技術学会, 77 (2), 160-171.

日髙未希恵，今井秀樹（2020）. 日本の中山間地域で人口減少がゆるやかな地域の社会文化的特徴-宮崎県椎葉村を対象として-. 日本健康学会誌，“in press 2021.10.18”.

Igarashi Y, Kim E, Hashimoto S, Tani K, Yajima K, Iimoto T, Ishikawa T, Akashi M, Kurihara O. (2020). Difference in the Cesium Body Contents of Affected Area Residents Depending on the Evacuation Timepoint Following the 2011 Fukushima Nuclear Disaster. *Health Phys*, 119(6) 733-745. DOI: 10.1097/HP.0000000000001249

Kim E, Yajima K, Igarashi Y, Tani K, Hashimoto S, Nakano T, Akashi M, Kurihara O. (2020). Intake Ratio of 131I to 137CS Derived from Thyroid and Whole-Body Doses to Residents of Iwaki City in Japan's Fukushima Prefecture. *Health Phys*. DOI: 10.1097/HP.0000000000001345

Kim E, Yajima K, Hashimoto S, Tani K, Igarashi Y, Iimoto T, Ishigure N, Tatsuzaki H, Akashi M, Kurihara O. (2020). Reassessment of Internal Thyroid Doses to 1,080 Children Examined in a Screening Survey after the 2011 Fukushima Nuclear Disaster. *Health Phys*, 118(1), 36-52. DOI: 10.1097/HP.0000000000001125

Kojimahar N, Yoshitake Y, Ono K, Kai M, Bynes G, Schüz J, Cardis E, Kesminiene A (2020). Computed tomography of the head and the risk of brain tumours during childhood and adolescence: results from a case–control study in Japan .*J Radiol Pro*t. Doi: 10.1088/1361-6498/abacff.

Mizuno Y, Konishi S, Goto C, Yoshinaga J, Hidaka M, Imai H. (2021). Association between nutrient intake and telomere length in Japanese female university students. *Biomarkers*, UK. https://doi.org/10.1080/1354750X.2020.1871409.

Yoshitake T, Ono K, Ishiguchi T, Maeda T, Kai M（2020）.Clinical indications for the use of computed tomography in children who underwent frequent computed tomography: a near‐13‐year follow‐up retrospective study at a single

institution in Japan. *Radiat Environ Biophys*. Doi: 10.1007/s00411-020-00857-8.

堤弥生、野戸結花，明石眞言（2020）．放射線災害の初動対応における看護師の意識への影響要因尺度の開発．日本放射線看護学会誌 8(2). 100-112.

3. 学会における発表

秋田久美，酒井一夫，日髙未希恵．4 拍 1 呼吸は胸骨圧迫深度を維持させることができるか．第 23 回臨床救急医学会学術集会, 2020 年 8 月 26 日，東京.

篠﨑真弓.在宅医療におけるプライマリ領域の診療看護師（NP)の活動基盤となる二次医療圏の資源に関する調査，第 6 回日本 NP 学会学術集会, 2020 年 10 月 17 日，愛知.

秦江利果，関口幸輝，高野望結，高橋萌子，高橋萌乃，長谷川歩実，畠山夏帆，久加奈，横山季里，篠﨑真弓，小山珠美，テイラー栄子，桜井礼子．首都直下型地震において帰宅困難者のオストメイトが必要とする一時滞在施設の備えの検討．日本災害看護学会第 22 回年次大会, 2020 年 9 月 28 日，広島.

日髙未希恵，今井秀樹．人口減少が進行する中山間地域で暮らす者のシビックプライドに関連する要因．第 91 回日本衛生学会学術集会, 2021 年 3 月 6 日，富山市.

日髙未希恵，今井秀樹．過疎化と高齢化が進む中山間地域の集落ごとの人口動態に関する検討．第 91 回日本衛生学会学術集会, 2021 年 3 月 6 日，富山市.

日髙未希恵，今井秀樹．日本の中山間地域の社会関係資本を測定するための尺度開発，－宮崎県椎葉村を対象として－．第 13 回文化看護学会学術集会, 2021 年 3 月 13 日～14 日，オンライン開催.

Ichiro Ymaguchi, Koji ono, Naoki Kunugita. Radiation safety issues regarding X ray emittable devices below 10 kV applied voltage. IRPA15, 2021 年 1 月 18 日, Seoul.

Koji Ono, Takahumi Kumasawa, Keiichi Shimatani1, Masatoshi Kanou,etc. Radiation dose distribution of surgeon and medical staff on orthopedic Ballon Kyphoplasty in Japan. IRPA15, 2021 年 1 月 18 日, Seoul.

長野忍，田中留伊，小宇田智子，中村博美，菅原裕美，磐井佑輔，小池卓也，橘昌嗣．大学病院における診療看護師の活動と活用の実際．第 6 回日本 NP 学会学術集会 2020 年 10 月 17 日，愛知.

尾石早織，田中留伊，小宇田智子，中村裕美，菅原裕美．医師の考える災害現場における診療看護師（NP）の活動の可能性．第 6 回日本ＮＰ学会学術集会. 2020 年 10 月 17 日，愛知.

Sumi Yokoyama, Satoshi Iwai, Norio Tsujimura, Koji Ono Kunugita Naoki. Development of Guidelines Radiation Protection for the Lens of Eye in Japan. IRPA15, 2021 年 1 月 18 日, Seoul.

Takayasu Yoshitake, Koji Ono, Masayuki Kitamura, Osamu Miyazaki, Michiaki Kai. Analysis of reasons for the multiple scans of paediatric CT examinations in Japan : What cause the different number of sans in disease with the same ICD code. IRAP 15, 2021

年 1 月 18 日, Seoul.

4. 研究助成および研究成果報告書

明石眞言（研究代表者），食品中の放射性物質の基準値施行後の検証とその影響評価に関する研究. 厚生労働行政推進調査事業費補助金 食品の安全確保推進研究事業. 2019～2021 年度

明石眞言（研究分担者），放射線業務従事者の健康影響に関する疫学研究. 労災疾病臨床研究事業費補助金. 2017～2021 年度

明石眞言（研究分担者）CBRNE テロリズム等の健康危機事態における原因究明や医療対応の向上に資する基盤構築に関する研究. 健康安全・危機管理対策総合研究事業. 2019～2021 年度

明石眞言（研究参加者）オールハザードアプローチに基づく原子力災害拠点病院の BCP 推進事業　放射線安全規制研究推進事業　放射線対策委託費（放射線安全規制研究戦略的推進事業費）2018 - 2020

小野孝二（研究分担者），新しいチーム医療における医療・介護従事者の適切な役割分担についての研究. 厚生労働省行政推進調査事業費補助金. 2019～2021 年度

小野孝二（研究分担者），不均等被爆を伴う放射線業務における被ばく線量の実態調査と線量提言に向けた過大評価に関する研究. 労災疾病臨床研究事業補助金. 2018～2020 年度

小野孝二（研究分担者）， CT 被ばく線量評価システム WAZ A-ARI の他のモダリティへの展開技術の開発. 日本学術振興会科学研究費補助金. 基盤 C. 2019～2021 年度

小野孝二（研究分担者）， 頻回小児 CT 診断の検査理由と放射線被ばくの継続的分析による脳腫瘍罹患との関係. 日本学術振興会科学研究費補助金. 基盤 C. 2019～2021 年度

小宇田智子(研究代表者). 閉経後の高脂肪食に対する食物依存性の形成と大豆タンパク質による抑制. 日本学術振興会科学研究費補助金, 基盤研究（C），産婦人科学関連. 2019 年度-2021 年度

小宇田智子(研究代表者). 二次胆汁酸の大腸上皮および腸管漏出に対する影響と AU-1803 の効果. 株式会社アミノアップ. 2020 年度.

小宇田智子(代表者). 看護学研究科高度実践看護コースの実践力向上に向けて～グラム染色スキルの獲得と向上～. 学長裁量経費. 2020 年度.

5. 社会貢献（学会以外の講演等、学会や行政関連の役員、社会貢献、非常勤講師）

小野孝二

1）厚生労働省健康局参与

2）日本アイソトープ協会放射線安全取扱部会関東支部委員

3）一般社団法人 日本保健物理学会編集委員

4) 国立研究開発機構法人量子科学技術研究開発機構放射線医学研究所　WAZA-ARI 研究開発・運用委員会委員
5) 環境省 令和２年度放射線健康管理・健康不安対策事業（福島県外における放射線に係る健康影響等に関するリスクコミュニケーション事業）事業運営会議委員.
6) 環境省 リスクコミュニケーション事例調査有識者検討会委員.
7) 一般社団法人 日本保健物理学会「生殖腺防護に関する NCPR 声明」翻訳ワーキンググループ委員.
8) 早稲田大学大学院先進理工学研究科および東京女子医科大学大学院医学研究科の博士学位論文審査委員
9) 世田谷子育て支援チャリティイベント「三茶にサンタがやってくる！2020」, 三茶にサンタがやってくる実行委員会主催, 2020 年 12 月 13 日.

明石眞言

1) 千葉科学大学非常勤講師, 放射線医学, 2020 年度後期
2) 東日本国際大学健康社会戦略研究所客員教授
3) 東日本国際大学シンポジウム, 被ばく医療初動から復興を展望して, 2020 年 10 月
4) NPO 法人 NBCR 対策推進機構　第 2 回「消防職員のための CBRNE 災害と現場の対応担当者養成講習会」一消防職　「放射線テロ・放射線災害の動向と対策一消防職員のための基礎知識一」2020 年 7 月
5) IAEA 国際原子力機関 WEBINAR on medical response to nuclear and radiological safety or security related emergencies: Lessons learned from case studies. “Fukushima Daiichi Accident” 2020 年 8 月
6) NPO 法人 NBCR 対策推進機構　第 3 回消防職員等のための CBRNE 災害と現場の対応担当者養成講習会　「消防職員及び CBRNE 災害対策担当者等が知っておくべきこと-」2020 年１１月
7) NPO 法人 NBCR 対策推進機構 CBRNE 講習会　「放射線テロ・放射線災害と医療対策」2020 年 12 月
8) NPO 法人 ACT 災害医療研究所 2020 年度　災害医療従事者研修　「原子力災害への対応の実際」2020 年 7 月
9) NPO 法人（オランダ） IB Consultancy NCT Virtual Asia（オンライン）, COVID-19: Insights on an Epidemic Outbreak. 2020 年 11 月
10) 国立大学法人　長岡技術科学大学　原子力安全フォーラム「原子力・放射線事故医療の専門家として、過去の事故を振りかえる。」2021 年 1 月
11) 国立研究開発機構法人量子科学技術研究開発機構　人材育成センター　第 4 回防護健康影響課程講師「被ばく事故例」202１年３月
12) 茨城県　医師会・薬剤師会による安定ヨウ素剤の事前配布(薬局配布方式)に係

る医師及び薬剤師向け研修会　講師「「安定ヨウ素剤について」　２０２０年８月

13）国立研究開発機構法人量子科学技術研究開発機構　被ばく医療診療手引き編集委員会委員

14）UNSCEAR（United Nations Scientific Committee on the Effects of Atomic Radiation, 原子放射線の影響に関する国連科学委員会）福島プロジェクト II シニアテクニカルアドバイザー

15）UNSCEAR 国内対応委員会委員

16）UNSCEAR 日本代表代理

17）厚生労働省　電離放射線障害の業務上外に関する検討会委員（座長）

18）厚生労働省『令和３年度電離放射線障害に関する医学的知見の収集に係る調査研究』に係る総合評価落札方式技術審査委員会委員

19）文部科学省　原子力損害賠償紛争審査会委員

20）総務省消防庁　福島原発事故において活動した消防職員の長期的な健康管理審査連絡会委員（座長）

21）東京消防庁　特殊災害支援アドバイザー

22）全国健康保険協会　船員保険における放射線等に関する有識者会議（座長）

23）茨城県　JCO 事故対応健康管理委員会委員

24）茨城県　茨城県原子力安全対策委員会

25）茨城県　茨城県東海地区環境放射線監視委員会調査部会専門委員

26）静岡県　静岡県防災・原子力学術会議/静岡県防災・原子力学術会議原子力分科会

27）富山県　防災会議　原子力災害対策部会委員

28）学校法人日本医科大学　日本医科大学組換え DNA 実験安全委員会委員

29）原子力安全研究協会　環境省委託　除去土壌等の再生利用に係る放射線影響に関する安全性評価検討ワーキンググループ

30）公益社団法人茨城県原子力協議会（理事）

31）公益社団法人日本医師会　救急災害医療対策委員会(オブザーバー)

32）水戸市　原子力防災対策会議委員

33）国立大学法人弘前大学被ばく医療連携推進機構　国際アドバイザリーボード委員

34）日本放射線事故・災害医学会　代表理事

35）日本放射線看護学会　監事

小宇田智子

1）非常勤講師. 細胞生物学. 東京電機大学理工学部. 2020 年度前期

2）非常勤講師. 感染と免疫. 東都大学ヒューマンケア学部. 2020 年度後期

3）厚生労働省委託事業 職場における化学物質のリスク評価推進事業 有害性評価書原案作成グループ委員. クロロピクリン担当. 2020 年度

4）世田谷子育て支援チャリティイベント「三茶にサンタがやってくる！2020」, 三茶にサンタがやってくる実行委員会主催, 2020 年 12 月 13 日.

日髙未希恵.

1）公開講座「一緒に考えませんか？少子高齢化・人口減少社会の備えはじぶんごと」, 東京医療保健大学主催, 目黒区共催, 2021 年 1 月 30 日.

2）世田谷子育て支援チャリティイベント「三茶にサンタがやってくる！2020」, 三茶にサンタがやってくる実行委員会主催, 2020 年 1 2 月 13 日.

篠﨑真弓

1）川崎市 NP 連絡会　理事

2）世田谷子育て支援チャリティイベント「三茶にサンタがやってくる！2020」, 三茶にサンタがやってくる実行委員会主催, 2020 年 12 月 13 日.

6. 上記以外その他(原著、総説、短報、研究報告、実践報告、資料以外の紙上発表等)

小宇田智子. 英語論文査読 Applied sciences. 2020 年 11 月

佐野仁海,須賀菜穂子,関口幸輝,髙野望結,髙橋萌子,髙橋萌乃,長谷川歩実,秦江利果,畠山夏帆,久加奈,横山季里,篠崎真弓,小山珠美,テイラー栄子,桜井礼子（2020）. 首都直下型地震において帰宅困難者のオストメイトが必要とする一時滞在施設の備えの検討. 日本オストミー協会三多摩支部「東京三多摩」, 235, 1-7.

【総合看護学】

1. 著書（翻訳書を含む）

なし

2. 論文等（原著,総説,短報,研究報告,実践報告,資料）

木島楓,浦中桂一,朝澤恭子（2020）.有職女性の周産期におけるケアニーズとケアの満足度. 厚生の指標, 67(12), 7-12.

竹内朋子,山西文子,佐野由紀子,杉崎けい子(2021). 隣地実習制限下における「看護学実習ガイドライン」に基づいた取り組み. 看護教育, 62(3), 266-270.

竹本奈央,浦中桂一,朝澤恭子（2020）.産褥早期の母親への背部アロマトリートメントによるリラックス感と疲労感の改善効果. 日本看護科学会誌, 40, 160-167.

3. 学会における発表

岩本郁子,衣川さえ子,竹中泉. 医療安全教育を担う看護教員と臨床看護師教材コンテンツ共有システム活用の評価－活用状況の分析－.第 40 回日本看護科学学会学術集会, 2020 年 12 月 1～25 日, Web 開催.

加瀬亜希子,藤井由美恵,竹内朋子,岩本郁子,高橋智子,中村裕美,酒井一夫,玄順烈,佐藤潤,

松田謙一,加藤智子,朝澤恭子.学生の医療安全教育の指導向上を目指す実習指導者と大学教員の連携会議の実践報告. 第 40 回日本看護科学学会学術集会, 2020 年 12 月 1～25 日, Web 開催.

Keiichi URANAKA, Hitoshi TAKAIRA, Ryoji SHINOHARA, Zentaro YAMAGATA（2020）. Comparing nurse practitioner-provided care and non-nurse practitioner-provided care on patients' length of stay in a secondary emergency department,The 6th Annual Meeting of Japan Society of Nurse Practitioner,November 18th,Japan・online

衣川さえ子, 岩本郁子,竹中泉. 医療安全教育を担う看護教員と臨床看護師教材コンテンツ共有システム活用の評価－Web 調査結果の分析－. 第 40 回日本看護科学学会学術集会, 2020 年 12 月 1～25 日, Web 開催.

木島楓,浦中桂一,朝澤恭子（2020）.有職女性の周産期におけるケアニーズとケアの満足度,第 40 回日本看護科学学会学術集会,2020 年 12 月,オンライン開催.

竹本奈央,浦中桂一,朝澤恭子（2020）.産褥早期の母親への背部アロマトリートメントによるリラックス感と疲労感の改善効果,第 40 回日本看護科学学会学術集会,2020 年 12 月,オンライン開催.

浦中桂一（2020）.シンポジウム 5「診療看護師導入という未来の医療への提言～多様な導入の可能性を探る～」,診療看護師の動向と大学院課程における教育について,第 11 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会,2020 年 8 月 29 日,広島・オンライン開催.

浦中桂一（2021）.シンポジウム 2：「診療看護師導入という未来の医療への提言～多様な導入の可能性を探る～地域医療における診療看護師の意義」,第 22 回日本病院総合診療医学会学術総会,2021 年 2 月 21 日,群馬・オンライン開催.

4. 研究助成および研究成果報告書

衣川さえ子, 岩本郁子, 竹中泉. 医療安全教育を担う看護教員と臨床看護師の教育実践力を高める研鑽支援モデルの構築. 文部科学省科学研究費助成金, 基礎研究 C.2018 年度～2020 年度.

山西文子, 岩本郁子, 浦中桂一, 早坂奈美. 東京医療保健大学大学院診療看護師教育課程修了者のキャリアパスモデルの検討. 学長裁量経費. 2020 年度.

5. 社会貢献（学会以外の講演等,学会や行政関連の役員,社会貢献,非常勤講師）

山西文子

1）講義「医療安全学・医療安全管理」東京医療保健大学放射線看護研修センター主催「2019 年度がん放射線療法看護認定看護師養成課程」2019.7.6-7.26

2）講義「NP 教育の現状と特定行為研修制度について」全国共済組合連合会虎の門病院.2020.12.11

3）青森県立病院経営評価会議委員

4）独立行政法人国立病院機構 参与

5）独立研究法人国立国際医療研究センターヒトＥＳ細胞研究倫理審査委員会委員

6）日本ＮＰ教育大学院協議会 監事
7）学校法人東京医科大学 評議員
8）公益財団法人日本心臓血圧研究振興会　理事・評議員

岩本郁子

1）チーム医療論（特定行為実践）,がん放射線療法看護認定看護師課程,東京医療保健大学,2020 年 7～9 月.
2 ）日本 NP 学会副会長,学会誌編集委員（査読）

浦中桂一

1）浜松医科大学 FD 講演会 診療看護師の目指すものと育成について～クリティカル NP について～,　浜松医科大学 FD 委員会,2020 年 12 月 23 日.
2）東京医療保健大学 放射線看護研修センター　がん放射線療法看護認定看護師課程「チーム医療論（特定行為実践)」 講師
3）日本 NP 教育大学院協議会社員
4）東京医療保健大学紀要　査読
5）看護科学研究　査読

早坂奈美

なし

6. 上記以外その他(原著,総説,短報,研究報告,実践報告,資料以外の紙上発表等)

衣川さえ子,岩本郁子,竹中泉.新たな安全マネジメント“Safety- II ”を看護基礎教育においてどのように展開するか.第 30 回日本看護教育学会学術集会交流セッション 6, 2020 年 9 月 4～5 日, Web 開催.

Keiichi URANAKA, Hitoshi TAKAIRA, Ryoji SHINOHARA, Zentaro YAMAGATA（2020）. Comparing nurse practitioner-provided care and non-nurse practitioner-provided care on patients’ length of stay in a secondary emergency department,The 6th Annual Meeting of Japan Society of Nurse Practitioner,優秀演題賞

山西文子（2020.4.3)「NP の国家資格制度化を」厚生福祉 第 6560 号「進言」時事通信社

山西文子（2020.7.17)「変わらないもの」厚生福祉 第 6582 号「打診」時事通信社

山西文子 (2020.11.13)「『死への準備教育』が与えた影響」厚生福祉 第 6608 号「打診」,時事通信社

山西文子（2021.2.9)「専門職の「自覚と責任」」厚生福祉 第 6628 号・合併号「打診」,時事通信社

浦中桂一,本学学友会クラブ「Socio」顧問

【基礎看護学】

1. 著書（翻訳書を含む）

なし

2. 論文等（原著,総説,短報,研究報告,実践報告,資料）

ハーネド明香（2020）. 看護組織における組織的公正と労働環境の満足度および職務継続意思との関連に関する横断研究. 修士論文.

橋本拓哉, 髙橋智子, 松山友子（2020).下腿型弾性ストッキング着用の有無による離床時の血圧及び脈拍の比較検証. 東京医療保健大学紀要, 第 15 巻（in print）.

加瀬亜希子, 岡村眞喜子, 石橋咲子, 澁澤盛子, 竹内朋子, 岩本郁子, 髙橋智子, 酒井一夫, 玄順烈, 田野将尊, 小嶋奈都子, 朝澤恭子（2020）. 看護技術の到達目標の達成に向けた実習指導者と大学教員との連携会議の取り組み. 看護展望, 45(8), 745-751.

古宮桃子, 石川明日香, 井上ひかり, 小林彩佳, 下鳥彩香, 菅原清楓, 杉原由記, 長谷衣純, 花輪朱美香, 川﨑香織, ハーネド明香, 髙橋智子, 松山友子（2020）. 洗髪における泡の拭き取りの有無がすすぎ湯量にもたらす効果 ：陰イオン界面活性剤残留濃度とすすぎ残し感による比較. 看護技術, 66(11), 1183-1190. メヂカルフレンド社.

髙橋智子, 松山友子, 川﨑香織, 佐藤佑香, 淺沼智恵, 木村弘江（2020）.「視点共有ミーティング」の導入による副看護部長の看護管理ラウンドの変化 ―アクションリサーチを用いて―. 日本看護管理学会誌, 24(1), 175-185.

髙橋智子. Hybrid 法による急性期看護における日常生活ケアにかかわる概念の明確化－急性期看護における日常生活ケアの理論化に向けて－. 日本看護研究学会雑誌. 2020 年 11 月 25 日採択（in print).

利光恵利子, 髙橋智子, 駒田真由子, 佐藤潤（2020）. 診療看護師(NP)の配置病棟と非配置病棟の比較－看護実践の質・ワークモチベーション・学習意欲・看護業務負担・タイムリーな医療に焦点を当てて－. 東京医療保健大学紀要, 第 15 巻（in print).

吉田貴恵子, 津藤菜緒, 山口恵子, 荒木香織, 髙橋智子, 松山友子（2020）. オリジナルマッサージを併用した足浴の効果～足浴バケツ内で実施可能なマッサージ方法を用いて～, 東京医療保健大学紀要, 第 15 巻（in print).

3. 学会における発表

浅井さおり, 内山孝子, 大串裕美子, 小野光美, 北村愛子, 鈴木真理子, 友竹千恵, 長谷川美栄子, 三浦直子. 今,現場の身体拘束を考える. 日本看護倫理学会オンライン研修会, 2020 年 11 月 8 日, Web 開催.

ハーネド明香. 看護職員が知覚する組織的公正と職務継続意思の関連. 第 40 回日本看護科学学会学術集会, 2020 月 12 月 12 日, オンライン開催.

加瀬亜希子, 藤井由美恵, 竹内朋子, 岩本郁子, 髙橋智子, 中村裕美, 酒井一夫, 玄順烈, 佐藤潤, 松田謙一, 加藤知子, 朝澤恭子. 学生の医療安全教育の指導向上を目指す実習指導者と大学教員の連携会議の実践報告. 第 40 回日本看護科学学会学術集会, 2020 年 12 月 1 日～25 日, オンライン開催.

河合桃代, 内山孝子, 茂野香おる, 酒井千恵, 殿城友紀, 川嶋みどり. 綿タオルの存在価

値！安全に患者にケアを提供するために看護管理者ができること. 第 24 回日本看護管理学会学術集会, 2020 年 8 月 29 日, WEB 開催.

河合桃代, 内山孝子, 茂野香おる, 大宮裕子, 東郷美香子, 川嶋みどり. 気持ちよさをもたらすケアの技Ⅰ「熱布バックケア＋腹臥位＝ワンセットケア」どうやってやるの？. 日本看護技術学会第 4 回全国キャラバン研修会, 2020 年 11 月 22 日, WEB 開催.

河合桃代, 内山孝子, 茂野香おる, 大宮裕子, 東郷美香子, 窪田静, 川嶋みどり. 気持ちよさをもたらすケアの技Ⅱ「熱布バックケア＋腹臥位＝ワンセットケア」どうやってやるの？. 日本看護技術学会第 4 回全国キャラバン研修会, 2021 年 1 月 23 日, WEB 開催.

茂野香おる, 川嶋みどり, 内山孝子, 河合桃代, 殿城友紀, 酒井千恵. 看護実践の中　に潜むネグレクト. 日本看護倫理学会第 13 回年次大会, 2020 年 5 月 30 日, 誌上発表.

髙橋智子. 急性期看護における日常生活ケアの実践の明確化. 第 40 回日本看護科学学会学術集会, 2020 年 12 月 13 日, オンライン開催.

内山孝子, 酒井千恵, 殿城友紀, 河合桃代, 茂野香おる, 川嶋みどり. 自然の回復過 程を整える「熱布バックケア」普及のためのアクションリサーチ―A病院における普及プロセス―. 日本赤十字看護学会第 21 回学術集会, 2020 年 7 月 5 日, WEB 開催.

渡辺千夏, 今井もも子, 大島千佳, 梶良充, 佐藤相生, 髙松冬美, 二宮千幸, 見ル野桃子, 柳町実希, 伊部有美子, 久保田貴博, 髙田菜々子, 吉田貴恵子, 髙橋智子, 松山友子. ビニール袋を用いたオリジナル手浴の有用性の検討～陰イオン界面活性剤残留濃度とすすぎ残し感による比較～. 第 40 回日本看護科学学会学術集会, 2020 年 12 月 13 日, オンライン開催.

4. 研究助成および研究成果報告書

河合桃代,内山孝子,茂野香おる,大宮裕子,山口みのり,殿城友紀,看護実践能力の向上に向けた技術習得過程のモデル化と教育プログラムの構築. 日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究 C). 2019-04-01～2024-03-31.

髙橋智子. 急性期看護への適用に向けた日常生活ケアの実践的モデルの開発.日本学術振興会科学研究費補助金 研究課題番号：20K19010, 若手研究. 2020 年度～2024 年度.

殿城友紀,内山孝子,酒井千恵,茂野香おる,河合桃代,川嶋みどり,平松則子. 自然の回復過程を整える「熱布バックケア」普及プロジェクト. 平成 30～31 年度「学校法人日本赤十字学園赤十字と看護・介護に関する研究助成」. 2020 年 5 月報告書提出.

内山孝子,特養看護職の看取りの実践能力向上のための施設横断型学習プログラムの構築と評価, 日本学術振興会科学研究費補助金（若手研究). 2018-04-01～2022-03-31.

5. 社会貢献（学会以外の講演等,学会や行政関連の役員,社会貢献,非常勤講師）

松山友子

1）日本赤十字看護学会査読委員. 2019 年 5 月 1 日～2022 年 4 月 30 日.

2）東京医療保健大学 放射線看護研修センター「がん放射線療法看護認定看護師課

程」講師.実習のための基礎講座：看護過程の基礎. 2020 年 8 月 24 日.

3）第 51 回（2020 年度）日本看護協会－看護教育－論文選考委員. 2021 年 1 月 18 日～2021 年 8 月 31 日.

4）帝京科学大学 非常勤講師. 看護教育学担当. 2021 年 4 月 7 日～2021 年 8 月 26 日.

内山孝子

1）質的研究入門②「エスノグラフィーによる研究方法と特徴,全日本民医連研究倫理審査委員会主催,2020 年 10 月 17 日.

2）ギジュツでつながるワークショップ第 5 弾実習に役立つ観察技術を磨こう,ギジュツでつながるワークショッププロジェクト主催,2020 年 12 月 6 日.

3）熱布バックケア＆スピラドゥ講習会,千葉県立救急医療センターICU 主催,2021 年 2 月 2 日.

4）日本看護倫理学会評議員.2018 年 6 月 1 日～202 1 年 5 月 3 1 日.

5）日本看護倫理学会臨床倫理ガイドライン検討委員. 2013 年～現在に至る.

6）日本赤十字看護学会査読委員. 2019 年 5 月 1 日～2022 年 4 月 30 日.

7）日本赤十字看護学会同窓会役員 2020 年 10 月 1 日～2022 年 9 月 30 日.

8）看護未来塾世話人兼事務局.

9）日本看護倫理学会第 14 回年次大会　査読委員　2021 年 2 月.

10）日本看護管理学会査読委員　2021 年 2 月.

11）東京医療保健大学紀要　査読

6. 上記以外その他(原著,総説,短報,研究報告,実践報告,資料以外の紙上発表等)

内山孝子（2020）.『川嶋みどり 看護の羅針盤 366 の言葉』選者たちが贈る 私が“ぐっときた言葉”進むべき道を照らし,看護師としての自律を支える言葉の贈り物.月間ライフサポート WEB MAGAZINE 2020, 10, 13-17. http://lifesupport-co.com//単著.

髙橋智子（2020）. 特別記事 急性期看護における日常生活ケアの理論構築に向けた取り組み. 看護研究, 53(6), 508-515.

【成人・老年看護学】

1. 著書（翻訳書を含む）

竹内朋子, 松本和史, 原口昌宏他（分担執筆）（2020）. 放送大学　オンライン学習支援ツール　看護師国家試験過去問解説. 放送大学教育振興会, 東京.

2. 論文等（原著,総説,短報,研究報告,実践報告,資料）

淺田道幸, 西村基記, 田野将尊, 竹内朋子（2020）. 看護ケアによる N95 微粒子マスクのフィットファクターの推移. 結核, 95(2), 33-39.

渡邉成美, 金子あけみ, 松本和史（2020）. クリティカルケア領域における看護師のワーク・エンゲイジメントと職場サポート,職場コミュニティ感覚および自律性の関連. 日本クリティカルケア看護学会誌, 16, 85-93.

仁尾かおり，藤澤盛樹，原口昌宏（2020）．先天性心疾患をもつ子どもの親の認識の構造－『子どもが病気を理解する』『子どもが前向きに考え行動する』ために親としてできることに焦点を当てて－．日本小児看護学会誌, 29,34-41.

藤澤盛樹，仁尾かおり，原口昌宏（2020）．先天性心疾患患児の親が考える「子どもが前向きに考え行動するために親としてできること」．小児保健研究, 79(5), 494-501.

竹内朋子，山西文子，佐野由紀子，杉崎けい子（2021）．臨地実習制限下における「看護学実習ガイドライン」に基づいた看護学実習の取り組み．看護教育, 62(3), 266-270.

松田謙一（2021）．循環器疾患患者・家族への療養支援における地域包括ケアシステムの活用．看護技術, 67 (2), 91-95.

3. 学会における発表

三浦規雅，新井朋子，原口昌宏．小児における開放吸引時におけるマノメータ使用の有無による生体指標の比較検証．第 48 回 日本集中治療医学会学術集会，オンライン開催, 2021 年 2 月 12 日‐14 日.

水上玲子，光澤裕香，井出令奈，中川通弘，野口紗弥香，松田実々，前田竜耶，原口昌宏，竹内朋子．ストレッチャー移送時に女性看護師が行う胸骨圧迫の姿勢による質の比較．第 40 回 日本看護科学学会学術集会，オンライン開催, 2020 年 12 月 1 日-25 日.

島崎歩未， 井手口巴南，及川美咲，小野田遥香，佐藤萌香， 清水百恵，田口佑香，田﨑菜々子，丸山稜太郎，松田謙一，松本和史．早期体験実習が看護大学生の就業意欲に与える影響．第 40 回　日本看護科学学会学術集会，オンライン開催, 2020 年 12 月 1 日-25 日.

加瀬亜希子，藤井由美恵，竹内朋子，岩本郁子，高橋智子，中村裕美，酒井一夫，玄順烈，佐藤潤，松田謙一，加藤知子，朝澤恭子．学生の医療安全教育の指導向上を目指す実習指導者と大学教員の連携会議の実践報告．第 40 回 日本看護科学学会学術集会，オンライン開催, 2020 年 12 月 1 日-25 日.

原口昌宏,竹内朋子．慢性疾患患児の父親のストレス経験．第 30 回 日本小児看護学会学術集会，オンライン開催, 2020 年 9 月 19 日-30 日.

濱野智恵子，松本和史，原口昌宏. Rapid Response System を起動する看護師の認識と行動に関する研究．第 16 回 日本クリティカルケア看護学会学術集会，オンライン開催, 2020 年 7 月 1 日-12 月 31 日.

松山大地，松本和史，原口昌宏．胸骨圧迫の質の低下に関する実際と自覚との乖離―看護系大学生と看護師の比較―．第 16 回 日本クリティカルケア看護学会学術集会， オンライン開催, 2020 年 7 月 1 日-12 月 31 日.

4. 研究助成および研究成果報告書

戸ケ里泰典，山崎喜比古，竹内朋子，神崎初美，本江朝美，井上洋士．看護実践に特化した健康生成論とストレス対処力概念 SOC に関する応用モデルの開発．日本学術振興会科学研究費補助金，基盤研究(B). 2019-2022 年度.

原口昌宏. 慢性疾患患児の父親の経験および心理的特性に基づいた支援プログラムの開発. 日本学術振興会科学研究費補助金, 若手研究. 2020-2022 年度.

原口昌宏. 小児慢性疾患をもつ子どもの父親の経験から捉える Sense of Coherence に関する研究. 日本私立看護系大学協会研究助成事業, 若手研究者研究助成. 2018-2019 年度.

松田謙一, 綿貫成明. 急性期内科系病棟に所属する勤務帯リーダー看護師のための「せん妄ケア実践能力自己評価尺度」の開発－信頼性妥当性の検討のための全国調査－. 国立病院看護研究学会研究助成. 2019 年 7 月-2020 年 7 月.

5. 社会貢献（学会以外の講演等,学会や行政関連の役員,社会貢献,非常勤講師）

竹内朋子

1）公益財団法人がん研究振興財団 がんサバイバーシップ研究支援事業運営委員会 委員

2）公益財団法人がん研究振興財団　看護師・薬剤師・技師等海外研修選考委員会 委員

3）東京都看護協会 学術誌編集委員会 委員

4）東京医療保健大学 放射線看護研修センター　がん放射線療法看護認定看護師課程「がん看護学総論」,「医療安全学：看護管理」 講師

5）駒澤大学　医療健康科学部 「保健理論」 非常勤講師

松本和史

1）日本看護科学学会 和文誌統計担当専任 査読委員

2）東京医療保健大学 放射線看護研修センター がん放射線療法看護認定看護師課程「ヘルスアセスメント」, 「医療安全学：看護管理」 講師

3）駒澤大学 医療健康科学部 「保健理論」 非常勤講師

原口昌宏

1）株式会社 公職研 看護師採用試験等における問題作成・採点

2）乳幼児親子総合教育スクール　ポコ・カンタービレ　非常勤講師

松田謙一

1）国立病院看護研究学会誌 査読委員

6. その他

松田謙一, 原口昌宏, 井本由希子. 2020 年度 東京医療保健大学　学長顕彰状受賞（老年看護学実習Ⅰ）

原口昌宏. 先天性心疾患の子どもの出生から幼児期までに父親が抱く思い. 2019 年度 日本小児看護学会　研究奨励賞候補

【小児看護学】

1. 著書（翻訳書を含む）

なし

2. 論文等（原著,総説,短報,研究報告,実践報告,資料）

山田恵子，中島美津子（2020）看護職が認識する社会的責任を構成する要素.日本看護学教育学会誌,30（3）,13-25.

3. 学会における発表

中島美津子．医療機関における勤務環境改善への取り組み．第 15 回東京都病院学会.2020 年.

新粥可奈子，中島美津子，玄順烈他.乳児は機器を通した母親の声を認識できるのか．第 46 回看護研究学会学術集会. 2020 年

加瀬亜希子、藤井由美恵、竹内朋子、岩本郁子、高橋智子、中村由美、酒井一夫、玄順烈、佐藤潤、松田謙一、加藤知子、朝澤恭子．学生の医療安全教育の指導向上を目指す実習指導者と大学教員の連携会議の実践報告、日本看護科学学会第 40 回学術集会、2020 年 12 月 1 日～12 月 25 日、Web 開催.

玄順烈、久保恭子、障害児通所施設に携わる看護師の職務満足度と個人特性・組織特性・環境要因との関連．日本看護科学学会第 40 回学術集会、2020 年 12 月 1 日～12 月 25 日、Web 開催.

山田恵子，中島美津子．看護職の well-being の変化に関連する要因.第 46 回看護研究学会学術集会. 2020 年.

山田恵子，中島美津子．看護職の健康認識に関連する要因.第 24 回日本看護管理学会学術集会. 2020 年.

山田恵子，中島美津子．看護師の幸福に繋げるポジティブ感情に働きかけるコミュニケーションロボットの実装.第 40 回日本看護科学学会学術集会. 2020 年.

4. 研究助成および研究成果報告書

山田恵子，玄順烈，中島美津子(2020)．東京医療保健大学学長裁量経費.COVID-19 下における小児看護の学びに関する学生の認識の特徴

5. 社会貢献（学会以外の講演等,学会や行政関連の役員,社会貢献,非常勤講師）

中島美津子

1) 厚生労働省医政局　医療経営支援課タスク・シフティング等勤務環境改善推進事業評価委員会委員長

2) 厚生労働省労働基準局　医療勤務マネジメントシステムに基づく医療機関に取り組みに対する支援の充実を図るための検討会委員

3) 厚生労働省労働基準局 医療勤務環境改善マネジメントシステム普及促進研修会講師

4) 厚生労働省労働基準局　勤務環境改善支援センター支援教材開発及び実態調査・研究委員会委員

5) 厚生労働省労働基準局 医療勤務環境改善マネジメントシステムの普及促進等事業

医療機関の働き方改革セミナー総括セミナーパネリスト

6）日本看護管理学会学会誌査読委員

7）日本看護研究学会学会誌査読委員

8）家族保健研究会会誌査読委員

9）滋賀医科大学大学院　看護管理学研究科非常勤講師

10）日本 POS 医療学会　評議員

11）名古屋大学　キャリア形成支援センター認定看護管理者教育課程講師

12）国際医療福祉大学　認定看護管理者教育課程セカンド,サードレベル講師

13）日本看護協会　認定看護管理者教育課程ファースト,セカンド,サードレベル講師

14）医療勤務環境マネジメントシステム研究会委員

15）東京都立国分寺高校　医療系進路講演会講師

16）複数県看護協会看護管理者研修講師

17）複数県看護協会認定看護管理者教育課程修了式特別講演講師

18）看護職の採用と定着を考える会理事

19）看護研究・Physical Assessment・看護記録等の複数病院及び日総研セミナー研修講師

玄順烈

1）トリオ・ジャパン定期総会　啓発活動

2）養育室　つばさ（児童発達支援）ボランティア

3）足立区障害福祉課施策推進担当　医療的ケア児ネットワーク協議会　会長

4）令和 2 年　第 1 回、第 2 回医療的ケア児ネットワーク協議会

5）足立区障害福祉課施策推進担当　医療的ケア児の災害対策会議　会長

6）令和 2 年　第 1 回、第 2 回医療的ケア児に災害対策ヒアリング

7）　NPO 法人 Social Development Japan　理事

山田恵子

1）川越市医師会継続教育委員会　技術研修会講師

2）NPO 法人　森の学校　運営ボランティア

6. 上記以外のその他

中島美津子

1）中島美津子(2020).【コロナ禍を乗り切る組織戦略!選び,選ばれる看護部をつくる看護師採用・確保,定着の工夫】コロナ禍による逆風下で求められる!組織継続と強化のための看護師採用･確保と定着マネジメントの采配～遠方の応募者との Zoom 面接のコツから定着強化のポイントまで. 看護部長通信, 18 巻 5 号 Page49-602.

2）中島美津子(2020). 看護管理実践計画の立て方基本のキ(解説). 看護部長通信, 18 巻 4 号 Page75-83.

3）中島美津子(2020). 【「COVID-19」「台風」「水害」「地震」想定外を想定内にする

マネジメント!患者,職員を守り,災害時に病院機能を滞らせない備えと対策ガイド】災害&危機的状況下における看護部長,現場管理職の役割,判断,行動指針. 看護部長通信, 18 巻 3 号 Page65-78.

4) 中島美津子(2020).【職員・経営者・患者の 3 方が WIN-WIN になる働き方改革実践　タスクシフトほか,働き方の効率化と安全,働きやすさのバランスをとる工夫】看護管理職が変われば病院が変わる!看護管理職の働き方改革と実践ガイド.看護部長通信, 18 巻 2 号 Page33-44.

5) 中島美津子(2020).【中堅看護師を中だるみから救え!師長が行う「成長を支える」ための支援】中堅看護師の停滞を防ぐために師長に求められる支援について.看護展望 ,45 巻 6 号 Page0521-0532.

6) 中島美津子(2020).【中堅看護師を中だるみから救え!師長が行う「成長を支える」ための支援】師長が支える中堅看護師の成長　中だるみさせないためのかかわり方. 看護展望,45 巻 6 号 Page0514-0520.

7) 中島美津子(2020).【2020 年度診療報酬改定　将来に生き残る組織対応に不可欠な必須ポイントと看護部対応ガイド】2020 年度診療報酬改定!　看護部対応最重要事項のかみくだき解説&対応やりくり,2035 年,2060 年を見据えた戦略. 看護部長通信, 18 巻 1 号 Page2-11.

8) 中島美津子(2020). 看護管理実践計画の立て方基本のホ(解説). 看護部長通信, 18 巻 6 号 Page94-101.

9) E ラーニング（エルゼビアジャパン）動画学習教材 3 単元講師

10) E ラーニング（マイナビ）動画学習教材 1 単元講師

11) web 教材開発（エルザビアジャパン）

【母性看護学・助産学】

1. 著書（翻訳書を含む）

草間朋子, 赤羽恵一, 石川仁, 甲斐倫明, 加藤知子, 北川敦志,関根絵美子, 堀田昇吾(2021). 放射線を正しく理解した看護職であるために　改正版　看護と放射線. 日本アイソトープ協会, 東京.

齋藤益子,小嶋奈都子,加藤知子他（2020). ここがポイント 助産師国家試験突破のコツ 助産師国家試験予想問題 2021. クオリティケア, 東京.

2. 論文等（原著,総説,短報,研究報告,実践報告,資料）

Asazawa K, Kojima N, Kato T, Hirade M. (2020). Implementation and Evaluation of a Postpartum Care Program for Mothers Raising Infants: A Pilot Study. O*pen Journal of Nursing*. 10(8) 758-769.

藤田麻央, 朝澤恭子. (2020). 乳幼児期の子どもを持つ男性における父親役割認識の関連要因. 東京医療保健大学紀要, 第 15 巻, (in print)

加瀬亜希子，岡村眞喜子，石橋咲子，澁澤盛子，竹内朋子，岩本郁子，高橋智子，酒井一夫，玄順烈，田野将尊，小嶋奈都子，朝澤恭子(2020)．看護技術の到達目標の達成に向けた実習指導者と大学教員との連携会議の取り組み.看護展望（0385-549X)45(8), 73-79.

川上茜，朝澤恭子．(2020)．医療系大学生を中心とした生殖年齢の男女における卵子凍結保存の知識および肯定的意識．東京医療保健大学紀要，第 15 巻, (in print)

木島楓，浦中桂一，朝澤恭子．(2020)．有職女性の周産期におけるケアニーズとケアの満足度．厚生の指標 ＝ Journal of health and welfare statistics, 67(12), 7-12.

小林浩平，朝澤恭子.(2020)．教職員に対する児童の急変対応の不安軽減プログラムの開発と評価．日本看護科学会誌. 40. 65-73.

Kojima N, Asazawa K. (2020). Factors Related to LGBT Recognition for University Students and Employed Adults. Open Journal of Nursing. 10(11), 1038-1047.

Kojima N, Asazawa K. (2020). Predictors of Mothers' Early Postpartum Fatigue: A Cross-Sectional Study. *Open Journal of Nursing*. 10(9). 890-902.

小嶋奈都子（2020）.妊娠期の父親への支援と期待されている効果に関する文献研究.日本母子看護学会誌,13(2), 45-55.

小嶋奈都子，朝澤恭子，平出美栄子，加藤知子．(2021)．大学を拠点とした産後支援プログラムの実践と評価－対象者背景による評価の相違－.厚生の指標，令和 3 年 6 月号, (in print)

小嶋奈都子（2021）父親が妻（パートナー）の妊娠中に受けた支援の実際とニーズに関する実態調査．日本母子看護学会誌, 14(2) (in print)

小島春佳，朝澤恭子．(2020)．看護大学生における低用量経口避妊薬に関する知識と意識．東京医療保健大学紀要，第 15 巻, (in print)

黒田野明，宮﨑文子，朝澤恭子．(2020)．看護大学生に対する妊孕性に関する性教育の評価．東京医療保健大学紀要，第 15 巻,(in print)

中川愛，吉村小春，松尾篤弥，吉川織江，黒米佐和，佐藤佑衣，福井彩花，山本ゆり子，小嶋奈都子，志村智絵，朝澤恭子．(2020).LGBT 認識と LGBT イメージにおける看護系大学生および社会人の相違　東京医療保健大学紀要，第 15 巻, (in print)

中村愛美，朝澤恭子，筒井志保．(2020)．生後 1 か月児を育児中の父親における精神健康度の関連要因とサポートニーズ．東京医療保健大学紀要，第 15 巻, (in print)

Natsuko Kojima, Kyoko Asazawa（2020）Factors Related to LGBT Recognition for University Students and Employed Adults. *Open Journal of Nursing* . 10(11). 1038-1047. DOI: https://doi.org/10.4236/ojn.2020.1011073

髙橋恵子，朝澤恭子，有森直子，亀井智子，麻原きよみ，大森純子，新福洋子，菱沼典子，田代順子．(2020)．People‐Centered Care パートナーシップ尺度（PCCP-16）の開発市民と保健医療専門職の協同に着目した信頼性と妥当性の検討．日本看護科学会誌

(in print)

竹本奈央，浦中桂一，朝澤恭子. (2020). 産褥早期の母親への背部アロマトリートメントによるリラックス感と疲労感の改善効果. 日本看護科学会誌, 40, 160-167.

齋藤益子，藤吉理沙，堤まどか，加藤江里子，加藤知子，平出美栄子（2020）. 看護系大学生の月経随伴症状と基礎体温に対する外陰部の温罨法の効果. 日本生殖心理学会誌, 6 (2), 12-19.

3. 学会における発表

朝澤恭子，實埼美奈，森明子，市川智彦，篠崎克子. 不妊治療中の男性における QOL 改善のための配偶者支援プログラムの実施と評価. 第 40 回日本看護科学学会学術集会学術集会, 2020 年 12 月.東京(on-line).

朝澤恭子，小嶋奈都子，鬼澤宏美，加藤知子，デッケルト博子，田辺洋子. 育児の悩み軽減およびリフレッシュを目指すオンライン母子支援クラスの実施と評価: パイロットスタディ. 第 25 回 聖路加看護学会学術大会， 2021 年 2 月，東京(on-line).

Arimori N, Asazawa K, Nakamura Y, Shiojima Y, Differences in genetic nursing competency between midwives and non-midwives in Japan. International Society of Nurses in Genetics (ISONG) Congress, 2020 Novenber 13-15. Pittsburgh (Virtual)

平出美栄子，加藤知子，小嶋奈都子，朝澤恭子. 大学を拠点とした産後支援「まちの助産室」の実践報告. 第 40 回日本看護科学学会学術集会学術集会, 2020 年 12 月.東京(on-line).

加藤知子，菊野直子，三上恵子，有阪光恵，萬篤憲，草間朋子. 患者も積極的に治療に参加できる「放射線治療手帳」の作成. 第 9 回日本放射線看護学会学術集会. 2020 年 9 月, (on-line).

加瀬亜希子，藤井由美恵，竹内朋子，岩本郁子，高橋智子，中村裕美，酒井一夫，玄順烈，佐藤潤，松田謙一，加藤知子，朝澤恭子. 学生の医療安全教育の指導向上を目指す実習指導者と大学教員の連携会議の実践報告. 第 40 回日本看護科学学会学術集会学術集会, 2020 年 12 月.東京(on-line).

木島楓，浦中桂一，朝澤恭子. 有職女性の周産期におけるケアニーズとケアの満足度. 第 40 回日本看護科学学会学術集会学術集会, 2020 年 12 月.東京(on-line).

丸野実佳，加藤知子，今井秀樹. 地方循環器外来におけるフレイルの介入調査.第 24 回日本心不全学会学術集会. 2020 年 10 月, (on-line).

村上明日理，齋藤益子，小嶋奈都子（2020）出産に立ち会った父親の出産に対する思い～出産の印象,妻への思い,児への思い,夫・父親としての思いに着目して～. 第 61 回日本母性衛生学会，静岡.

岡野左紀子，齋藤益子，小嶋奈都子（2020）子どもを持つ女性の更年期症状と最終出産年齢および母親役割意識の関連. 第 61 回日本母性衛生学会，静岡.

須坂洋子，朝澤恭子，有森直子，大賀有佳子，中村由唯，寺嶋明子. 看護職者における遺

伝看護実践能力の関連要因. 第 25 回 聖路加看護学会学術大会, 2021 年 2 月, 東京(on-line).

髙橋恵子, 朝澤恭子, 亀井智子, 麻原きよみ, 大森純子, 田代順子, 有森直子, 新福洋子, 菱沼典子. People - Centered Care パートナーシップの高齢者健康支援活動の特徴：2 群間比較から. 第 40 回日本看護科学学会学術集会学術集会, 2020 年 12 月.東京(on-line).

髙橋恵子, 三森寧子, 朝澤恭子, 亀井智子, 有森直子, 新福洋子, 谷田恵子, 武内紗千, 池田雅則. 小学校高学年児童における睡眠の質と心理社会的健康行動の関連要因に関するパイロットスタディ. 第 25 回 聖路加看護学会学術大会, 2021 年 2 月, 東京(on-line).

竹本奈央, 浦中桂一, 朝澤恭子. 産褥早期の母親への背部アロマトリートメントによるリラックス感と疲労感の改善効果. 第 40 回日本看護科学学会学術集会学術集会, 2020 年 12 月.東京(on-line).

武内昌子, 朝澤恭子. 双胎妊娠期・双子育児期の母親における Distress に関する文献レビュー. 第 35 回日本双生児研究学会学術講演会. 2020 年 1 月(on-line).

内橋李緒, 吉本美紀, 加藤知子, 齋藤益子, 杜稀衣,平出美栄子.コンドームによる避妊法に対する大学生の思いと知識. 第 18 回日本生殖心理学会学術集会. 2021 年 2 月, (on-line).

吉川之菜, 加藤知子, デッケルト博子, 平出美栄子. 二次データ利用による環境中大気汚染物質と低出生体重児との相関. 第 9 回日本公衆衛生看護学会学術集会. 2021 年 1 月, (on-line).

吉村小春, 中川愛, 松尾篤弥, 吉川織江, 佐藤佑衣, 福井彩花, 小嶋奈都子, 朝澤恭子.LGBT 認識と LGBT イメージにおける看護系大学生および社会人の相違. 第 25 回聖路加看護学会学術大会, 2021 年 2 月, 東京(on-line).

4. 研究助成および研究成果報告書

朝澤恭子. 不妊治療中の男性における QOL 低下防止のための Web アプリケーションの開発. 日本学術振興会科学研究費補助金 研究課題番号：19K11048, 基盤研究(C). 2019 年度～2021 年度

加藤知子, 平出美栄子, デッケルト博子, 田辺洋子. 分娩介助および助産ケア時の適切な作業姿勢に関する助産師学生へのエビデンスにもとづいた教育－健康障害(腰痛)予防のために－. 令和 2 年度学長裁量経費. 2020 年度

松﨑雅代, 藪中幸一, 藤田恵理子, 平出美栄子. 超音波エコーを活用した母乳育児支援のための妊娠・産褥期の乳房管理法の確立. 挑戦的萌芽研究. 2019 年度～2022 年度.

高橋恵子. 新福洋子. 大森純子. 朝澤恭子. 亀井智子. 麻原きよみ. 有森直子. 市民と保健医療者が共に考える「市民主導型ケア」教材のグローバルスタンダード開発. 日本学術振興会科学研究費補助金 研究課題番号：19H03966, 基盤研究(B). 2019 年度～

2024 年度

朝澤恭子，平出美栄子，加藤知子，小嶋奈都子. オンライン母子支援クラス：まちの助産室. 令和 2 年度学長裁量経費. 2020 年度

5. 社会貢献（学会以外の講演等,学会や行政関連の役員,社会貢献,非常勤講師）

平出美栄子

1）公益財団法人東京都助産師会　常任理事
2）般財団法人有馬育英会　助産師育成事業委員
3）三多摩医療生活協同組合　保育園運営委員会有識者会議委員
4）水天宮　助産師帯の会　代表
5）助産サービスマネジメント特論.聖路加看護大学大学院. 2020 年 6 月 3 日
6）分娩期学講義・演習「フリースタイル分娩の分娩介助技術」. 山形大学医学部看護助産師コース. 2020 年 10 月 26 日
7）日本の産み育て日本の歴史と現状. 講演. 國學院大學. 2020 年 10 月 29 日
8）「助産院の概要および助産ケア」. 東京都立府中看護学校. 母性看護学講義. 2020 年 11 月 2 日
9）「卒乳・断乳について」講演. 公益社団法人国分寺市助産師会講師. 2021 年 2 月 13 日
10）令和 2 年度　東京都公民館連絡協議会保育事業研修会講師.　2021 年 3 月 2 日
11）オンラインまちの助産室　企画運営, 2020 年 9 月～2021 年 3 月

朝澤恭子

1）日本生殖看護学会　総務幹事
2）日本生殖看護学会　査読委員
3）日本助産学会　専任査読委員
4）看護科学研究 査読委員
5）看護研究指導. NHO 国立病院機構東京医療センター看護部　2020 年～2021 年
6）研修会講師「論文の基礎」. NHO 国立病院機構東京医療センター看護部, 2020 年 9 月,10 月
7）まちの助産室　企画運営, 2020 年 9 月～2021 年 3 月
8）学友会クラブ　ひーりんぐぽっと顧問

加藤知子

1）日本分娩監視研究会　幹事
2）横浜創英大学　非常勤講師　公衆衛生看護学概論: 医療における放射線利用と看護.2020 年 7 月 22 日
3）東京医療保健大学　放射線看護研修センター　がん放射線療法看護認定看護師課程:放射線療法における放射線の安全な取り扱い. 2020 年 11 月
4）国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構　量子医学・医療部門　放射線医学

総合研究所人材育成センター　第 1 回放射線看護アドバンス課程　外部講師:空間線量率測定,患者からの相談等への対応のあり方を考える.2021 年 3 月 28 日･29 日

5）まちの助産室　企画運営, 2020 年 9 月～2021 年 3 月

田辺洋子

1）まちの助産室　企画運営, 2020 年 9 月～2021 年 3 月

小嶋奈都子

1）まちの助産室　企画運営, 2020 年 9 月～2021 年 3 月

2）プレパパ＆プレママのための子育て準備教室の企画および運営　（9 月～3 月）

3）インターメディカル「なすもし」一部執筆

鬼澤宏美

1）まちの助産室　企画運営, 2020 年 9 月～2021 年 3 月

デッケルト博子

1）まちの助産室　企画運営, 2020 年 9 月～2021 年 3 月

6. 上記以外その他(原著,総説,短報,研究報告,実践報告,資料以外の紙上発表等)

平出美栄子(2020). 憧れの地　ニュージーランドで感じた日本の助産師・開業助産師の良さと課題. 助産雑誌, 74 (7), 526-529.

加藤知子, 加藤江里子, 齋藤益子(2020). 妊娠・出産・育児期における祈り 第 1 報. 日本「祈りと救いとこころ」学会誌, 6 (1), 170－177.

加藤江里子, 加藤知子, 齋藤益子(2020). 妊娠・出産・育児期における祈り第 2 報. 日本「祈りと救いとこころ」学会誌, 6 (1), 178－185.

デッケルト博子, 平出美栄子（2021). 現代の母乳育児を考える　諸外国における授乳事情. 保健の科学, 63 (1)32-38.

【精神看護学】

1. 著書（翻訳書を含む）

田中留伊（編著), 村松仁, 田野将尊, 中村裕美, 菅原裕美, 小川賀恵（2020）. 看護師国家試験対策 2021 年 解いて,わかる！覚えて合格！精神看護学問題集. 株式会社 PILAR PRESS ピラールプレス, 東京.

2. 論文等（原著,総説,短報,研究報告,実践報告,資料）

工藤あずさ, 佐藤佑香, 菅原裕美, 菅谷智一, 森千鶴（2020).統合失調症者の色に対して抱く感情と印象および自己の感情を表す色.実践人間学,11,48-59.

3. 学会における発表

長野忍, 田中留伊, 小宇田智子, 中村裕美, 菅原裕美, 磐井佑輔, 小池卓也, 橘昌嗣, 大学病院における診療看護師の活動と活用の実際, 第 6 回日本ＮＰ学会学術集会, 2020 年 10 月 17 日, 愛知.

尾石早織, 田中留伊, 小宇田智子, 中村裕美, 菅原裕美, 医師の考える災害現場における

診療看護師（NP）の活動の可能性，第 6 回日本ＮＰ学会学術集会, 2020 年 10 月 17 日，愛知.

加瀬亜希子，藤井由美恵，竹内朋子，岩本郁子，高橋智子，中村裕美，酒井一夫，玄順烈，佐藤潤，松田謙一，加藤知子，朝澤恭子，学生の医療安全教育の指導向上を目指す実習指導者と大学教員の連携会議の実践報告，第 40 回日本看護科学学会学術集会, 2020 年 12 月 12 日，東京.

4. 研究助成および研究成果報告書

菅原裕美. 統合失調症者の自己概念とその関連要因の検討. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金，研究活動スタート支援. 2019 年度–2020 年度.

5. 社会貢献（学会以外の講演等,学会や行政関連の役員,社会貢献,非常勤講師）

田中留伊

1）目黒区自殺対策推進会議 会長
2）日本 NP 学会　監事
3）日本こころの安全とケア学会　編集委員
4）ゆたかクリニック治験審査委員会 外部委員
5）代々木メンタルクリニック倫理審査委員会 外部委員
6）代々木メンタルクリニック治験審査委員会 外部委員
7）第 51 回日本看護協会論文集看護教育　査読委員
8）がん放射線療法認定看護師養成課程　科目(相談)担当
9）小澤高等看護学院　非常勤講師

中村裕美

1）小澤高等看護学院　非常勤講師

菅原裕美

1）看護教育研究学会 査読委員
2）小澤高等看護学院 非常勤講師

6. 上記以外その他(原著,総説,短報,研究報告,実践報告,資料以外の紙上発表等)

なし

【地域看護学】

1. 著書（翻訳書を含む）

なし

2. 論文等（原著,総説,短報,研究報告,実践報告,資料）

駒田真由子，佐藤潤，嶋谷圭一（2021）. 就労状況とインフルエンザワクチン接種行動. 地域ケアリング,23(1), 64-67.

Shimatani K, Ito H, Matsuo K, Tajima K, Takezaki T (2020). Cumulative Cigarette Tar Exposure and Lung Cancer Risk Among Japanese Smokers. Jpn J Clin Oncol.

Shimoshikiryo I, Ibusuki R, Shimatani K, Nishimoto D, Takezaki T, Nishida Y, Shimanoe C, Hishida A, Tamura T, Okada R, Kubo Y, Ozaki E, Matsui D, Suzuki S, Nakagawa-Senda H, Kuriki K, Kita Y, Takashima N, Arisawa K, Uemura H, Ikezaki H, Furusyo N, Oze I, Koyanagi Y, Mikami H, Nakamura Y, Naito M, Wakai K (2020). Association between alcohol intake pattern and metabolic syndrome components and simulated change by alcohol intake reduction: A cross-sectional study from the Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort Study. Alcohol (Fayetteville, N.Y.) 89, 129-138.

3. 学会における発表

指宿りえ，下敷領一平，西本大策,嶋谷圭一,嶽崎俊郎．日本人における間食習慣と耐糖能異常との関連：J-MICC 横断研究，日本疫学会, 2021 年 1 月 28 日，佐賀.

駒田真由子，嶋谷圭一，佐藤潤．就労状況とインフルエンザワクチン接種行動との関連．第 79 回日本公衆衛生学会, 2020 年 10 月.

Ono K, Kumasawa T, Shimatani K, Kanou M. Radiation dose distribution of surgeon and medical staff on orthopedic Ballon Kyphoplasty in Japan. IRPA15, 2021 年 1 月 18 日, Seoul.

4. 研究助成および研究成果報告書

金坂宇将，岡田理沙，石田千絵，佐藤潤．訪問看護事業所における事業継続計画（BCP）の実態調査．一般社団法人全国訪問看護事業協会研究助成（一般）. 2020 年度.

菅野太郎，石田千絵，井口理，佐藤潤，金坂宇将，岡田理沙，久保祐子．高度実社会モデリングによる災害復旧・業務継続シミュレーション AI．科学技術振興機構　未来社会創造事業　「超スマート社会の実現」領域 探索研究. 2020 年度.

駒田真由子．妊婦・乳幼児を持つ親のインフルエンザワクチン接種の決定要因と促進への効果的な介入．科学研究費助成事業 若手研究. 2019 年度-2021 年度.

佐藤潤．金銭的インセンティブを用いた健康づくりの内発的動機への影響に関する研究．科学研究費助成事業 基盤研究　（C）. 2020 年度-2022 年度.

丹治 史也，南部 泰士，柿崎 真沙子，黒澤 昌洋，嶋谷 圭一，西本 大策．看護学士課程における教学 IR ベンチマーク指標の開発と検証．日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究（C). 2020 年度-2023 年度.

5. 社会貢献（学会以外の講演等,学会や行政関連の役員,社会貢献,非常勤講師）

嶋谷圭一

1) 2020 年度がん放射線療法看護認定看護師養成課程「疫学と統計」,「がん登録」科目担当. 2020 年 7 月 10 日,17 日.

2) Journal of Rural Medicine 英語論文査読 2020 年 6 月

6. 上記以外その他(原著,総説,短報,研究報告,実践報告,資料以外の紙上発表等)

駒田真由子（2020）．保健師国家試験対策テスト 2020 年 問題・解説作成．メディカコン

クール.

駒田真由子（2020). e-learning N プラス保健師国家試験解説. メディカ出版.

佐藤 潤（2020). 保健師国家試験対策テスト 2020 年 問題・解説作成. メディカコンクール.

佐藤 潤（2020). e-learning N プラス保健師国家試験解説. メディカ出版.

金子あけみ

1. 著書（翻訳書を含む）

   なし

2. 論文等（原著,総説,短報,研究報告,実践報告,資料）

   なし

3. 学会における発表

   なし

4. 研究助成および研究成果報告書

   なし

5. 社会貢献（学会以外の講演等,学会や行政関連の役員,地域貢献,非常勤講師等）

   1）戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）AI（人工知能）ホスピタルによる高度診断・治療システム」研究開発における「医療情報に関する自己情報コントロール権等の検討会」2019 年 8 月 30 日～

   2）一般財団法人　日本看護系大学協議会　災害連携教員　「災害発生時の教育継続支援に向けた情報共有と対応に関する支援組織体制づくり」　2021 年 1 月 27 日～

6. 上記以外その他(原著,総説,短報,研究報告,実践報告,資料以外の紙上発表等)

   なし

【看護学研究科長】

大島久二

1. 著書（翻訳書を含む）

   なし

2. 論文等（原著,総説,短報,研究報告,実践報告,資料）

   Higashida-Konishi M. Izumi K, Tsukamoto M, Ohya H, Takasugi N, Hama S, Hayashi Y, Ushikubo M, Akiya K, Araki K, Okano Y, Oshima H (2020). Anti-cyclic citrullinated antibody in the cerebrospinal fluid in patients with rheumatoid arthritis who have central nervous system involvement. Clin Rheumatol, 39(8),2441-2448.

   Tanaka I, Tanaka Y, Soen S, Oshima H (2020). Efficacy of once-weekly teriparatide in patients with glucocorticoid-induced osteoporosis: the TOWER-GO study. J Bone Miner Metab, 2020 Nov 19. doi: 10.1007/s00774-020-01171-5.

Ushikubo M, Saito S, Kikuchi J, Takeshita M, Yoshimoto K, Yasuoka H, Yamaoka K, Seki N, Suzuki K, Oshima H, Takeuchi T (2021). Milk fat globule epidermal growth factor 8 (MFG-E8) on monocytes is a novel biomarker of disease activity in systemic lupus erythematosus. Lupus. 2020 Sep 28. doi: 10.1177/0961203320967761.

Higashida-Konishi M, Izumi K, Hama S, Takei H, Oshima H, Okano Y (2021). Comparing the clinical and laboratory features of remitting seronegative symmetrical synovitis with pitting edema and seronegative rheumatoid arthritis. J Clin Med, Mar 7. doi: 10.3390/jcm10051116

3. 学会における発表

小西美沙子，泉啓介，塚本昌子，高杉望，羽磨智史，林侑太朗，牛窪真理，秋谷久美子，大島久二，岡野裕．髄液中の抗シトルリン化ペプチド抗体価の上昇を認めた中枢神経病変合併関節リウマチ患者の一例．第 64 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2020 年 8 月.

日比亮輔，玉置繁憲，加藤隆司，水野洋明，長坂日登美，甲斐基一，小川邦和，大島久二，田中郁子．口腔乾燥を主訴とする症例の耳下腺エコー所見と血清学的所見の検討．第 64 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2020 年 8 月.

星田義彦，大島至郎，佐伯行彦，宮村知也，片山雅夫，大島久二，比嘉慎二，吉川教恵，満尾晶子，岡本享，千葉実行，八木田正人，角田慎一郎，杉山隆夫，井畑淳，長岡章平，吉原良祐，瀬戸口京吾，松井聖，市川健司，古川宏，當間重人．リウマチ関連リンパ増殖性疾患の多施設共同研究による病理学的解析．第 64 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2020 年 8 月.

林侑太朗，泉啓介，羽磨智史，小西美沙子，牛窪真理，岡野裕，大島久二．免疫抑制剤使用による重症感染症リスクの解析．第 64 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2020 年 8 月.

水野洋明，玉置繁憲，加藤隆司，長坂日登美，日比亮輔，甲斐基一，小川邦和，大島久二，田中郁子．高尿酸血症をともなった関節炎を HR-pQCT で撮像し付着部炎との関連が考えられた 2 例．第 64 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2020 年 8 月.

玉置繁憲，加藤隆司，水野洋明，長．日登美，日．亮輔，甲斐基一，小川邦和，大島久二，田中郁子．HR-pQCT の 2D・3D 画像で確認した手根骨の骨びらんと抗 CCP 抗体の検討．第 64 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2020 年 8 月.

玉置繁憲，加藤隆司，水野洋明，長．日登美，日．亮輔，甲斐基一，小川邦和，大島久二，田中郁子．DMARD naïve の関節痛・炎患者の関節エコー所見と RA 発症の危険因子の検討．第 64 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2020 年 8 月.

田中郁子，加藤隆司，水野洋明，長坂日登美，日比亮輔，甲斐基一，小川邦和，大島久二，玉置繁憲．HR-pQCT を用いた RA 患者の骨 Geomery の検討．第 64 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2020 年 8 月.

田中郁子，加藤隆司，水野洋明，長坂日登美，日比亮輔，甲斐基一，小川邦和，大島久二，玉置繁憲．抗スクレロスチン抗体 Romosozumab 投与早期の骨 geometry と微細構造の変化 ~HR-pQCT study~．第 64 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2020 年 8 月．

田中郁子，牛窪真理，小西美沙子，泉啓介，林侑太朗，羽磨智史，岡野裕，玉置繁憲，大久二．ステロイド性骨粗鬆症に対するデノスマブ，ビス製剤の治療効果 ~2 年間縦断研究~．第 64 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2020 年 8 月．

羽磨智史，小西美沙子，林侑太朗，泉啓介，牛窪真理，秋谷久美子，岡野裕，大島久二．シェーグレン症候群と成人 Still 病の合併症例の臨床的特徴について．第 64 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2020 年 8 月．

長坂日登美，玉置繁憲，加藤隆司，水野洋明，日比亮輔，甲斐基一，小川邦和，大島久二，田中郁子．HR-pQCT にて手指関節の骨びらんと骨形成を確認した末梢関節病変のエコー所見の検討．第 64 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2020 年 8 月．

4. 研究助成および研究成果報告書

なし

5. 社会貢献（学会以外の講演等,学会や行政関連の役員,社会貢献,非常勤講師）

1）慶應義塾大学病院特定臨床研究監査委員会 委員. 2020 年 4 月-2021 年 3 月
2）厚生労働省医療技術参与. 2020 年 4 月-2021 年 3 月
3）日本病院会 常任理事. 2020 年 4 月-2021 年 3 月
4）日本医療マネジメント学会東京支部 支部長. 2020 年 4 月-2021 年 3 月
5）日本難病看護学会「学会認定：難病看護師」認定制度認定研修会 講師. 2020 年 11 月 6 日
6）日本 NP 教育大学院協議会 NP 資格認定試験委員会 委員. 2020 年 4 月-2021 年 3 月
7）日本リウマチ学会 評議員. 2020 年 4 月-2021 年 3 月
8）日本リウマチ学会関東支部運営委員会 委員. 2020 年 4 月-2021 年 3 月
9）日本臨床免疫学会 評議員. 2020 年 4 月-2021 年 3 月
10）国立病院機構東京医療センター 非常勤医師. 2020 年 4 月-2021 年 3 月
11）国立病院機構東京医療センター特定行為研修管理委員会 委員. 2020 年 4 月-2021 年 3 月
12）城南リウマチ会 代表世話人. 2020 年 4 月-2021 年 3 月
13）城南地区リウマチ研究会 代表世話人. 2020 年 4 月-2021 年 3 月
14）膠原病臨床病理研究会 代表世話人. 2020 年 4 月-2021 年 3 月
15）リウマチ性疾患研究会 世話人. 2020 年 4 月-2021 年 3 月
16）先進リウマチ・骨関節疾患研究会 世話人. 2020 年 4 月-2021 年 3 月

6. 上記以外その他(原著,総説,短報,研究報告,実践報告,資料以外の紙上発表等)

なし

年報

2020 年度

東京医療保健大学東が丘看護学部

TOKYO HEALTHCARE UNIVERSITY

Higashigaoka Faculty of Nursing

東京医療保健大学東が丘・立川看護学部（臨床看護学コース）

TOKYO HEALTHCARE UNIVERSITY

Higashigaoka-Tachikawa Faculty of Nursing

(Clinical Nursing Program)

2020 年度　年報

目次

○巻頭言　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

１．組織図　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

２．学内行事の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

３．入試状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5

４．教職員名簿　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　9

５．委員会活動　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　11

６．教育活動
６-１学部　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　18

６-２大学院
‣高度実践看護コース　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　44
‣高度実践助産コース　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　52
‣高度実践公衆衛生看護コース　・・・・・・・・・・・・・　64
‣看護科学コース　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　71
‣博士課程　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　79

７．業績　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　84

巻頭言

本大学は、東京、千葉、和歌山に５学部７学科を設置している医療系、看護学科の多い大学である。年報は２０１０年東が丘看護学部を設置した時からスタートしている。しかし、全学に広がってはいない。２０１４年度から約１０年間、東が丘・立川看護学部、東が丘看護学部、立川看護学部と少しずつ名称変更しながら発展し、現在に至っている。この間、一回も欠かすことなく毎年年報を発行している。しかも全体をホームページに公開している。素晴らしいことである。

大学の使命・役割として言われている「教育」、「研究」、「社会貢献」の３つの活動の実績を各教員から提出して集め、委員会の委員が何度か確認・修正し、整えて掲載に至っている。実際に提出している立場からすると、直ぐに一年間は経ってしまう気がするが、自己の単年度の活動記録の纏めとなり、今年は少し不足しているので、次年度は頑張らなくてはいけないと自己評価に繋がり、とても整理されるシステムとして良いと感じている。

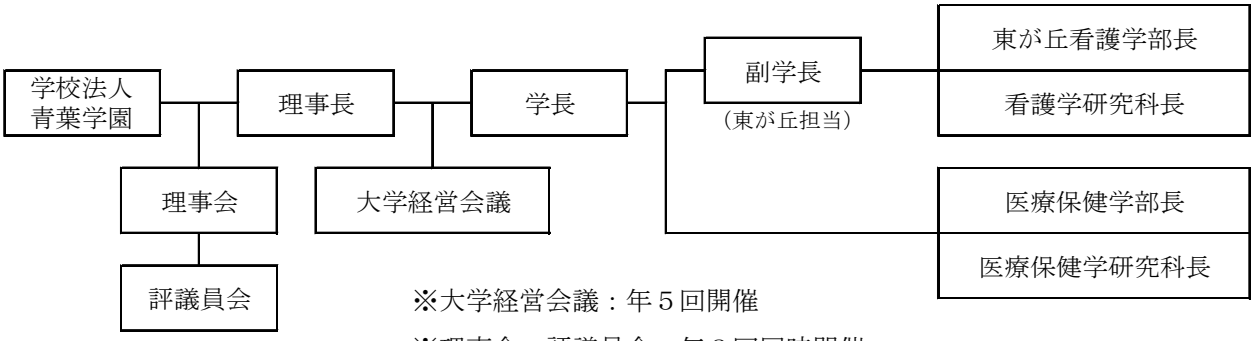
また、全教員の活動記録がそこには見える。一例を述べると、多忙さが教育によるものなのか、研究によるものなのか、社会貢献によるのか良く見えてくる。学内・外の委員会活動も見える化している。兎に角、年報は教員の活動実績が良く表れており、貴重で素晴らしい記録である。また公開していることに意義がある。

2020 年度から立川看護学部が開設され、国立病院機構立川キャンパスも、校舎が拡張され、新入生から学生全員が同校舎で学ぶことが可能になった。現在３学部が同時進行しており、今回は、教員達の苦労が見える年報である。両学部とも直ぐ隣に「駒沢公園」、「昭和記念公園」があり、緑も多く教育環境には恵まれ最高の立地条件である。しかし本年度は、入学時からコロナ禍での遠隔授業が多くなり、教員は各種工夫をしてきているが、前期セメスターの学生生活は校舎に馴染めず、上級生との交流も少なく、苦労の多い両者であった。そのような中にあっても年報が纏まった。取りまとめの委員の努力に感謝である。

2021 年 4 月 16 日

東が丘看護学部長、東が丘・立川看護学部長
山　西　文　子

１．組織図

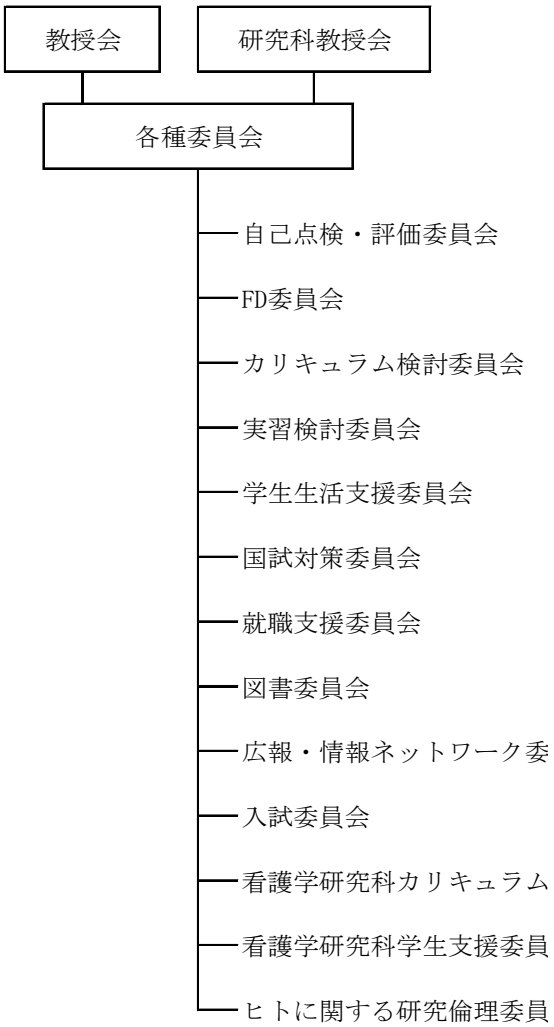


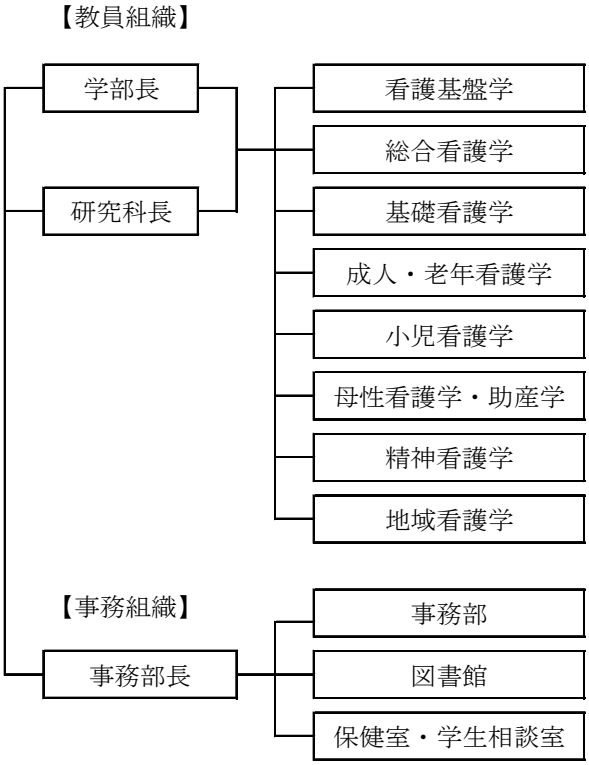
※大学経営会議：年５回開催

※理事会・評議員会：年３回同時開催

※学部長等会議：年１１回開催

東が丘看護学部の運営組織





２．学内行事の概要

２－１．学年暦

【　前　期　】

4 月

1 日　学内ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ（1～3 日）、新入生ガイダンス

2 日　健康診断

7 日　入学式　中止

8 日　前期セメスター授業開始

5 月

7 日　新入生合宿研修(～5/8)中止

11 日　在宅看護学実習(～7/3)

6 月

8 日　看護過程展開実習(～6/19)

12 日　スポーツ大会　中止

29 日　看護学体験実習(～7/3)

7 月

20 日　看護学統合実習(～7/31)

27 日　WEB オープンキャンパス(～8/21)

8 月

8 日　夏季休業開始(～9/30 まで)

31 日　各論実習－成人看護学実習等 (R3/2/12)

9 月　ひがしが丘保健室　中止

【　後　期　】

10 月

1 日　後期セメスター授業開始
東が丘看護学部入試説明会(WEB 型)(～11/6)

4 日　東が丘看護学部入試説明会(来校型)

11 月

15 日　指定校・公募推薦入学試験
医愛祭　中止

27 日　国立病院機構病院説明会

12 月

1 日　開学記念日

2 日　老年看護学実習(～12/10)

4 日　卒業生との懇談会

26 日　冬季休業開始(～R3/1/3)

1 月

26 日　一般入学試験 A 日程

2 月

4 日　一般入学試験 B 日程

5 日　国家試験壮行会

15 日　日常生活援助展開実習(～2/19)
就職支援講座(～2/16)

18 日　一般入学試験 C 日程

3 月

3 日　学位記授与式・修了式
ひがしが丘保健室　中止

２－２．オープンキャンパス

7 月 27 日(土)～8 月 21 日(金)WEB でのオープンキャンパスが実施された。東が丘看護学部看護学のページ訪問数は 909 であった。

なお、概要は以下の通りである。

１）講演　山西文子　動画 5 分

２）就職・国家試験対策　松本和史　動画 10 分

３）模擬授業　中島美津子　動画 15 分

４）学科紹介　早坂奈美(音声)　松本和史(資料)　動画 10 分

５）講義・演習の紹介授業風景(卒論)　基盤・精神・成人老年各領域　早坂奈美(構成)　嶋谷圭一(編集)　動画各 1 分。

６）サークル・団体　ダカーポ　ひいりんぐぽっと　消防団　内山孝子(構成)　原口昌弘(構成)　嶋谷圭一(編集)　動画各 1 分

７）教員の研究活動　竹内朋子　朝澤恭子　日高未希恵　動画各 1 分

８）高校生向け大学院紹介コンテンツ　鎌田りみ（企画）　嶋谷圭一（編集）動画各コース 1 分

９）東京医療センター紹介　内山孝子　動画 2 分

１０）個別相談　1.浦中圭一　高橋智子　2.中村裕美　松田謙一　3.駒田真由子　デッケルト博子　予約制（個別来校型、WEB）

２－３．東が丘看護学部入試説明会

本年度の見学会は、WEB 型（10/1～11/6)、来校型（10/4）に実施した。

参加者数は、来校のみ 30 名、WEB のみ 23 名、来校＆WEB34 名となった。

２－４．個別見学会

下記の日程で個別見学会を実施した。

・国立病院機構キャンバス

11/19（木）16：15～17：15　3 組 6 名　内容：学科説明、入試説明、ｷｬﾝﾊﾟｽ見学

12/10（木）16：15～17：15　6 組 12 名　内容：学科説明、入試説明、ｷｬﾝﾊﾟｽ見学

２－５．公開講座等の開催（FD 企画を含む）

① 6.22(月) 11:00～12:00　ZOOM

テーマ:「東が丘看護学部の開設にあたり～教員としての心得～」

講　師: 山西　文子(副学長、東が丘看護学部長)

② 8.20(木)　11:00～12：00　ZOOM

テーマ:「文献検討について」

講　師: 町田　玲彦（世田谷キャンパス図書館課長）

③ 11.10(木) 16:00～17:00 ZOOM

テーマ: 「倫理審査について」

講 師: 廣島 麻揚（医療保健学部看護学科教授、ヒトに関する研究倫理委員会委員長（全学））

④ 1.30(土) 10：00～12：00 対面及び ZOOM

テーマ: 「一緒に考えませんか？少子高齢化・人口減少社会への備えはじぶんごと」

講 師: 日髙 未希恵（東が丘看護学部 看護学科 助教/看護師/看護学博士）

⑤ 3.9(火) 13:30～14:00 ZOOM

テーマ: 「解析ソフト【文錦シリーズ】の具体的な操作方法について」

講 師: (株)SCREEN ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄｼｽﾃﾑｿﾘｭｰｼｮﾝｽﾞ 第二開発部開発二課 周 影龍氏

２－６．学友会活動

1)スポーツ大会

学友会の全学行事である。新型コロナ感染症対策として開催は見送られ中止となった。

2)大学祭（医愛祭）

学友会の全学行事である。新型コロナ感染症対策として両日開催は見送られ中止となった。

３．入試状況

３－１．令和３年度入学者選抜状況（選抜試験は令和２年度に実施）

概 要

東が丘看護学部看護学科、大学院看護学研究科の入学者選抜の概略は以下のとおりである。

３－１－１．東が丘看護学部看護学科

〇東が丘看護学部

試験区分	試験日	定員Ⓐ		志願者数Ⓑ		受験者数Ⓒ		競争倍率 Ⓒ/Ⓓ		合格者数Ⓓ		入学者数	
学校推薦型選抜（指定校）	11月15日(日)	(20)	20	(22)	23	(22)	23	(1.0)	1.0	(22)	23	(22)	23
学校推薦型選抜（公募制）	11月15日(日)	(20)	23	(40)	56	(40)	55	(1.1)	1.1	(36)	50	(36)	50
大学入学共通テスト利用入試(前期)	1月16日(土) 17日(日)	(7)	7	(184)	180	(184)	180	(3.0)	3.0	(62)	60	(2)	2
一般選抜A日程入試	1月26日(火)	(15)	15	(109)	201	(108)	198	(2.2)	3.2	(50)	62	(32)	18
一般選抜B日程入試	2月4日(木)	(25)	25	(217)	258	(177)	214	(3.1)	2.7	(57)	80	(15)	22
一般選抜C日程入試	2月18日(木)	(10)	10	(95)	104	(76)	87	(4.0)	5.1	(19)	17	(8)	5
大学入学共通テスト利用入試(後期)	1月16日(土) 17日(日)	(3)	若干名	(5)	16	(5)	16	(1.7)	4.0	(3)	4	(0)	2
合計		(100)	100	(672)	838	(612)	773	(2.5)	2.6	(249)	296	(115)	122

〇　推薦入試

１）指定校推薦入試

（１）対象

本学を第一志望する（専願）とし、下記①と②に該当する者

①令和３年３月に高等学校卒業見込みで、高等学校長の推薦がある者

②高等学校における全体の評定平均値が３．８以上の者

（２）選抜方法

調査書・総合問題・面接を総合的に評価し選抜した

２）公募制推薦入試

（１）対象

本学を第一志望する（専願）とし、下記①と②に該当する者

①令和３年３月に高等学校卒業見込みで、高等学校長の推薦がある者

②高等学校における全体の評定平均値が３．５以上の者

１）選抜方法

調査書・総合問題・面接を総合的に評価し選抜した

〇　一般入試

１）一般入学試験　Ａ・Ｂ・Ｃ日程

（１）試験科目

Ａ日程　必須科目　英語（１００点）選択科目　数学Ⅰ・数学Ａ、生物基礎・生物、化学基礎・化学、生物基礎・化学基礎から１科目選択（各１００点）

Ｂ日程　必須科目　英語（１００点）選択科目　国語総合(現代文のみ)　数学Ⅰ・数学Ａ、生物基礎・生物、化学基礎・化学、生物基礎・化学基礎から２科目選択（各１００点）

Ｃ日程　必須科目　英語（１００点）選択科目　国語総合(現代文のみ)　数学Ⅰ・数学Ａ、生物基礎・生物、化学基礎・化学、生物基礎・化学基礎から２科目選択（各１００点）

２）大学入学共通テスト利用入学試験　前期・後期

（１）試験科目

必須科目　英語【リスニングを含む】（２００点）

選択科目　国語【近代以降の文章】、数学Ⅰ・数学Ａ、生物、化学、生物基礎・化学基礎から２科目利用（３科目以上受験している場合は高得点の２科目を採用（各１００点）

３－１－２．大学院看護学研究科

・前期 9 月 19 日(土)及び後期 12 月 12 日（土）に実施しました看護学研究科の入学試験結果は、次のとおりです。

修士課程 コース(定員)	出願者数	受験者数	合格者数	備　考
高度実践看護コース (20名程度)	34名	33名	24名	3名辞退
高度実践助産コース (10名程度)	9名	9名	6名	内訳 助産師免許取得プログラム 6名 助産師(有資格者)プログラム 0名
高度実践公衆衛生看護コース (若干名)	7名	6名	4名	
看護科学コース (若干名)	1名	1名	0名	
合計	51名	49名	34名	入学者数31名

博士課程(2名)	1名	1名	0名	

看護学研究科 合計	52名	50名	34名	入学者数31名

※いずれの値も前期及び後期の合算値になります。

○　選抜方法

［修士課程］

筆記試験、面接及び出願書類を総合して判定

１）筆記試験

（高度実践看護コース、高度実践助産コース、高度実践公衆衛生看護コース）

看護学に関する総合的な基礎知識を問う問題。

必修問題３問。試験時間１２０分

（看護科学コース）

保健・医療分野に関する知識と論理的思考力を問う問題。

また、一部の問題は、英語の能力を問う問題。辞書１冊持ち込み可。

２）面接試験

一人１５分程度

［博士課程］

学力試験・面接の結果が一定の基準に達した者から、学力試験・面接の結果及び出願書類を総合的に評価して判定

１）筆記試験

保健・医療分野に関する知識と論理的思考力を問う問題。

また、一部の問題は、英語の能力を問う問題。辞書１冊持ち込み可。

２）面接試験

一人１５分程度

４．教職員名簿

専任教員	担当領域	氏名	職名	採用等年次
	大学院看護学研究科長	大島　久二	副学長/教授	2.4.1　採用
	東が丘･立川看護学部長	山西　文子	副学長/教授	25.4.1　採用
	看護基盤学	明石　眞言	教授	2.8.1　採用
		小野　孝二	教授	25.4.1　採用
		小宇田　智子	准教授	22.4.1　採用
		日髙　未希恵	助教	28.4.1　採用
		篠﨑　真弓	助教	30.4.1　採用
	総合看護学	山西　文子	教授	25.4.1　採用
		岩本　郁子	准教授	24.4.1　採用
		浦中　桂一	講師	29.4.1　採用
		早坂　奈美	助教	22.4.1　採用
	基礎看護学	松山　友子	教授	22.4.1　採用
		内山　孝子	准教授	2.4.1　採用
		高橋　智子	講師	25.4.1　採用
		ハーネド　明香	助教	2.4.1　採用
		伊部　有美子	助手	30.8.1　採用
		吉田　貴恵子	助手	1.7.1　採用
	成人・老年看護学	竹内　朋子	准教授	25.4.1　採用
		松本　和史	准教授	27.4.1　採用
		原口　昌宏	講師	28.4.1　採用
		松田　謙一	講師	31.4.1　採用
		井本　由希子	助教	31.4.1　採用
		野田　恵美子	助手	31.4.1　採用
		岡村　美帆	助手	31.4.1　採用
		佐藤　琴美	助手	2.9.1　採用
	小児看護学	中島　美津子	教授	28.4.1　採用
		玄　順烈	准教授	26.4.1　採用
		山田　恵子	助教	30.4.1　採用
	母性看護学・助産学	平出　美栄子	准教授	28.4.1　採用
		朝澤　恭子	准教授	26.4.1　採用
		加藤　知子	講師	26.4.1　採用
		田辺　洋子	講師	22.4.1　採用
		小嶋　奈都子	助教	22.4.1　採用

	デッケルト博子	助教	2.4.1	採用
	杜　稀衣	助手	30.8.1	採用
精神看護学	田中　留伊	教授	22.4.1	採用
	中村　裕美	講師	22.4.1	採用
	菅原　裕美	助教	31.4.1	採用
地域看護学	佐藤　潤	准教授	22.4.1	採用
	駒田　真由子	助教	29.4.1	採用
	嶋谷　圭一	助教	31.4.1	採用
	望月　靖記	助手	2.4.1	採用
その他	金子　あけみ	准教授	22.4.1	採用

事務職員	役職	氏名
	部長	中田　太一
	主任	齋藤　容子
	主任(大学院担当)	鎌田　りみ
	主任(大学院担当)	菊池　広訓
	職員	岡田　友理
	職員	小宮　咲紀
	職員	佐藤　光伸
	図書館司書	町田　玲彦
	図書館司書	飯嶋　正敏
	図書館司書	加藤　亜樹
	図書館司書	栗原　真理
	図書館司書	長坂　由美
	図書館司書	宮崎　千晶
	図書館司書	伊藤　梓
	図書館司書	遠藤　一恵
	保健室・相談室担当	原田　直美
	保健室	戸谷　益子

５．委員会活動

自己点検・評価委員会

構成員

中島美津子（委員長）、朝澤恭子（副委員長）、浦中桂一、加藤知子、小嶋奈都子、
日高未希恵、菊池広訓（事務部）

活動内容

令和 2 年度自己点検・評価報告書の作成を行った。

また、令和 1 年度の年報として東が丘看護学部における委員会活動、教育活動、業績等に関して取りまとめ、本学ウェブサイトにアップロードを行った。

ＦＤ委員会

構成員

中島美津子（委員長）、朝澤恭子（副委員長）、浦中桂一、加藤知子、小嶋奈都子、
日高未希恵、菊池広訓（事務部）

活動内容

1）FD の企画・開催

6 月 22 日 「東が丘看護学部の開設にあたり～教員としての心得～」(山西文子学部長)

8 月 20 日 「文献検討について」(世田谷キャンパス図書館　課長　町田玲彦氏)

11 月 10 日 「本学ヒトに関する研究倫理審査申請について」（医療保健学部 看護学科教授、東京医療保健大学ヒトに関する研究倫理委員会委員長　廣島麻揚先生)

3 月 9 日 「解析ソフト【文錦シリーズ】の具体的な操作方法について」((株)SCREEN アドバンストシステムソリューションズ第二開発部開発ニ課　周景龍氏)

2）FD マップの作成

東京医療保健大学建学の精神および理念を基盤に、大学教育に携わる大学教員を対象にとする FD プログラムとして想定されるプログラムを俯瞰する体系図である FD マップを作成した。教育、研究、社会貢献の 3 分野において、導入、基本、応用・発展、支援の 4 フェーズ別に、目標、内容、個人目標、FD 委員会支援方法、評価を抽出した。

看護学科カリキュラム検討委員会

構成員

松山友子（委員長）、竹内朋子（副委員長）、山西文子（学部長）、小野孝二、田中留伊
佐藤 潤、中島美津子、平出美栄子、中田太一（事務部長）、斎藤容子（事務員）

活動内容

本委員会は、本学部の教育の資質向上に向け、カリキュラムの充実及び教育環境の整備などに関する年間実施計画に沿い、以下の活動を行った。

1)　カリキュラムの運用について

4 月に開設した東ヶ丘看護学部のカリキュラムおよび東ヶ丘・立川看護学部で継続する 3 つのカリキュラム（H27・H26・H24 年度カリキュラム）は予定通りに運用できた。また、2022 年度の指定規則の改正に向け、カリキュラムの修正案を検討した。

2) COVID-19 への対応を踏まえた授業運営について

全学の方針を踏まえ、学生の学びが継続できるように、遠隔授業・対面授業の方針および具体的な運用方法等を検討した。実際の授業運営については、科目毎に実施記録を記載した。

3) 認定および成績・進級等の学生の成績評価について

4 年次生の卒業および 1 ～3 年次生の進級の判定に関する資料を作成し、教授会に報告した。

4) 教育環境の整備（教材・教具）について

「実習室・演習室関連物品一覧・配置図」を定期更新した。また、COVID-19 対策として、施設・設備および感染対策用品の整備を事務部と共に行った。

5) 履修案内・シラバスについて

Web シラバス導入に関する課題を確認し、次年度修正案を検討した。COVID-19 の影響で授業計画の一部変更を余儀なくされた科目については、修正期間を設け対応した。

実習検討委員会

構成員

竹内朋子（委員長）、岩本郁子（副委員長）、朝澤恭子、内山孝子、玄順烈、佐藤潤、中村裕美、松田謙一、篠崎真弓、菊池広訓（事務部）

本委員会は、東が丘看護学部の看護学実習教育の質向上を目指し、年間計画に沿い、以下の活動を実施した。

1) 看護学実習計画

2020 年度～2022 年度の実習計画を策定した。

2) 看護学実習連携会議

独立行政法人国立病院機構 東京医療センター看護部との共催で、実習指導者と大学教員が参加する会議を 1 回開催した。今年度は、昨年度から引き続き医療安全に向けた看護学実習指導の連携について取り組み、実習指導者と大学教員の間で共通理解を得た。また、昨年度の看護学実習連携会議における取り組み成果を第 40 回 日本看護科学学会学術集会で公表した。

3) 看護技術経験表

4 年次生を対象に、173 項目の看護技術の修得・経験状況を集計した。達成度低水準（卒業時到達度レベルに対して達成度が 60%未満）項目は 9 項目であった。また、前年度と比較して達成度が 20%以上低下したのは 16 項目であり、達成度が上昇したのは 11 項目であった。また、新型コロナウイルス感染症拡大に伴って、一部臨地での実習ができなかったこ

とによる看護技術経験への影響を把握するために、各論実習終了後に 3 年生に対して臨時に実態を調査した。

4)　臨地実習要項

オンライン実習に伴う実習記録の取り扱い規約などを見直し、2021 年度版の臨地実習要項を一部改訂した。

5)　インシデント対策

看護学実習におけるインシデントについて、毎月の委員会で情報を共有すると共に、今年度の報告書を集計・整理し、対策を協議した。今年度報告されたインシデントには、患者に直接的な影響が生じたものはなかった。

6)　1 年生に対する看護学実習オリエンテーション

本年度から、1 年生に対してオリエンテーションを実施し、臨地実習要項にそって看護学実習全体に関する説明や実習誓約書の取りまとめを行った。

7)　新型コロナウイルス感染症拡大に伴う実習運営に関する協議

各領域での実習運営状況を随時情報共有し、共通する問題を審議した。

8)　新型コロナウイルス感染症拡大に伴う実習運営に関する実習施設との調整

実習施設と連携し、臨地実習が実施できない場合においても可能な限り有効な実習指導が行なえるように連絡・調整を行った。実習指導者を派遣していただいたり、施設の視聴覚資料や看護過程の事例となる患者情報を提供していただくなど、多くの実習施設から協力を得ることができた。

学生生活支援委員会

構成員

田中留伊(委員長)、玄順烈(副委員長)、岩本郁子、小宇田智子、駒田真由子、高橋智子、原口昌宏、鬼澤宏美、菅原裕美、日髙未希恵、戸谷益子、中田太一、岡田友里

活動内容

1）健康管理

学生の健康状態の把握と感染症予防や拡大防止対策を重点項目として活動した。今年度も 1 年生の結核健診は、T-SPOT 検査を実施した。

2）学年担任・コンタクトグループ

1 年次生の合宿研修は新型コロナウイルス感染症対策のため実施されなかったが、オンデマンドによる講話の視聴を推進した。また、コンタクトグループミーティングも前期は開催出来なかったが、後期は ZOOM で開催した。学生から開催の要望も多く聞かれた。

3）学生生活実態調査

今年度からは学生生活支援センターが主体的に実施する予定である。

4）学友会活動の支援

スポーツ大会や大学祭（医愛祭）等は新型コロナウイルス感染症対策のため実施されなかっ

た。また、定例となっている東京医療センターと協同イベントは七夕飾りつけのみ実施された。

5）学生対応

学生の相談(学習に関すること、将来の進路に関すること等)や学業継続(休学・退学等)に関する事項について対応した。

国試・就職対策支援委員会

構成員

松本和史（委員長), 平出美栄子(副委員長), 玄順烈, 小宇田智子, 中村裕美, 高橋智子, 小嶋奈都子, 早坂奈美, 嶋谷圭一, ハーネド明香, 野田恵美子, 中田太一, 齋藤容子, 岡田友理

活動内容

1)国家試験対策

COVID-19 感染症により登校が制限される中,オンラインと対面を組み合わせた対策を行った. 4 年生への国試対策として, 国試ガイダンス, 業者模擬試験(6 回)を実施した. 学生への個別の支援は, ゼミ単位で行い, 委員会ではゼミ間の情報交換を実施し支援について検討した.また, 8 月から 1 月に教員による国試対策講座を 18 コマ行った. 1-3 年次生への対策としては, 低学年から国試への動機づけを図り, 学習を強化するために, 各学年での国試ガイダンス, 業者模擬試験(1-2 回)を実施した.

2)就職支援

就職支援活動として, 3-4 年生への就職ガイダンス, 外部講師を招いた就職支援講座(インターンシップ対策講座, 面接対策講座, 履歴書･自己紹介書の書き方講座, 小論文対策講座), 国立病院機構就職説明会, 卒業生との懇談会をオンラインで実施した. また, 過去の就職活動状況報告書や国立病院機構グループの病院情報をクラウド上に置き, 学生がオンラインで閲覧できるようにした.

図書委員会

構成員

明石眞言（委員長)、朝澤恭子(副委員長)、駒田真由子、松田謙一、山田恵子、図書館 町田玲彦、加藤亜樹、事務部 菊池広訓

活動内容

利用者、特に学生の利便性の向上を念頭に活動した。

1）コロナウイルス禍における学生の利用満足度の向上

学外から利用できる電子ジャーナル・書籍・映像教材等のサービスの継続・拡大について情報共有を行った。特に「医学映像セレクト DVD」を導入し、自主的かつ効率的な学習に努めた。

2）雑誌購読

現在購読中の雑誌の今後の動向調査を行った結果、見直しの議論を引きつづき行うこととなった。

3）図書の除籍・廃棄

除籍図書リスト確認と各領域への照会を行い、新規導入図書のための配架スペースの確保に努めた。

4）月次報告の作成

東が丘図書館の利用実績および各種データベースへのアクセス状況を月次報告としてとりまとめた。図書館の運用状況を把握し、運用効率化や利用者へのサービス向上につなげる。

5）ウェブ会議の実施

2020 年度はほとんどの委員会をウェブ会議として実施し、効率的な委員会運営を行った。

広報・情報ネットワーク委員会

構成員

教員 小野孝二（委員長）、松本和史（副委員長）、内山孝子、原口昌宏、デッケルト博子
早坂奈美、嶋谷圭一、事務部 菊池広訓、鎌田りみ

活動内容

1）大学・大学院案内

令和 2 年度大学の総合案内および首都圏版の作成、活用を行った。

2）オープンキャンパス・学校説明会・個別相談等

（1） 個別見学会（Web 開催） 5/29（土） – 6/1（月）
（2） ミニオープンキャンパス（Web 開催） 6/26（金）- 6/30（火）
（3） 大学説明会（Web 開催） 7/10（金）- 7/14（火）
（4） オープンキャンパス（Web 開催） 7/27（月）- 8/21（金）
（5） 学校推薦型選抜入試説明会 10/4（日）
（6） 学校推薦型選抜入試説明会（Web 開催） 10/1（木）- 11/6（金）
（7） 個別見学会 11/19（木）,12/10（木）
（8） 一般選抜の入試説明会 12/19（土）
（9） ミニオープンキャンパス 3/20（土）

3）ホームページ

（1）教員データベースを 7 月に新規登録・更新した。

4）その他

（1） 学報「こころ」を 2 回発行し、教育活動や学生支援の PR 活動を行った。
（2） 京華女子中学高等学校に出張講義（11/11（水））を実施した。

ヒトに関する研究倫理東が丘・立川小委員会

構成員

大島久二（委員長）、小宇田智子（副委員長）、小野孝二、久保恭子、竹内朋子、中島美津子、松山友子

活動内容

東が丘と立川キャンパスにおける卒業研究、課題研究、特別研究のうち、ヒトを対象とする課題の審査を行った。計 33 題の審査を行った。また、書類内容の統一と整理を行い周知し、提出に係る経路を明確にした。

入試委員会

構成員（非公開）

活動内容

東が丘・立川看護学部、大学院看護学研究科の入学試験に係る事項について協議・審議し、試験の円滑な実施を図った。

国際交流委員会

構成員

朝澤恭子（委員長）、金子あけみ（副委員長）、明石眞言、井本由希子

活動内容

ハワイ大学研修、オーストラリアグリフィス大学研修の現地での参加は中止となったが、グリフィス大学オンライン研修が 9 月と 3 月に開催された。研修参加の PR、申請手続き、ホストファミリーとのアクセスサポート等を実施した。

看護学研究科カリキュラム委員会・学生支援委員会

構成員

大島久二（委員長）、山西文子（副委員長）、田中瑠伊、平出美栄子、佐藤潤、浦中桂一、中田(事務部長)、菊池事務員、鎌田事務員

活動内容

看護学研究科修士課程と博士課程に関する教育計画、実施、評価等に係る質向上のための検討を行った。各コースのカリキュラムや教育・研究に関する取り組みとその評価、単位取得状況等を確認し、研究科教授会への報告及び学籍異動に係る審議等の案件の決定を行った。

「高度実践看護コース」の臨床教授会は、3 箇所の各実習施設で年 2 回実施した。研修管理委員会で、10 期生 19 全員が 21 区分 38 特定行為の特定行為研修修了基準を満たしていることが認定された。

「高度実践助産コース」は助産師国家試験合格 100%を目指し、模擬試験や個別指導を実施した。分娩件数が一人 10 例を確保するように実習病院を調整した。

「高度実践公衆衛生看護コース」では、学長の講義による「感染症マネージメント」を他のコースの院生も出席して開催した。新型コロナ感染症にあわせ、「まちの保健室だより」を作成し、配布した。

「看護科学コース」「博士課程」においては、審査会を開催し、それぞれ 2 名と 1 名が合格した。

学生支援委員会においては、大学院生の在籍に関する事項、就職、進学の面接指導などを実施した。就職率 100%であった。

６．教育活動報告

６-1. 東が丘看護学部

【看護基盤学領域】

1. 教育方針

看護基盤学領域は、将来看護師となる人として必要な教養、知識のみではなく専門のみならず広い視野に立った物の見方を学ぶために重要な分野の教育を担当している。同領域に所属する教員の出身学科は医学部および看護学部、保健学部など多岐に渡っている。その長所を生かして人間の生命を自然科学的、倫理学的、あるいは社会学的等、多面的な側面より論じることのできる能力を有する看護師の育成を目指す。さらに社会医学分野の講義や臨床検査学演習等を通して、スキルミックスやチーム医療の重要性を教授することにも力点を置いている。

2. 教育方針

1）自然科学の基礎　1年次前期

(1) 担当教員　　小宇田智子、小野孝二、　日高未希恵

(2) 教育内容

専門基礎分野、専門分野における高度な専門科目を履修するために必須である生物、化学、物理、数学等に関する基礎的な知識を学習することを目的とした。今年度は遠隔授業での対応とした。学生によって各内容の理解度に大きな差があるため、基礎的な内容について、理解しやすいようにイラスト等を利用して資料を作成した。また、学生の大きな負担にならない程度に、講義ごとに復習の問題を出題し、理解度を確認した。学生の個別の質問にはメールで応じて、全学生が最低限の必要知識を得られるように対応した。

次年度も学生間で知識の差があると予想される。そのため、学生には予習および復習を促し、授業で使用するスライドはよりわかりやすいものとなるよう工夫し、高度な専門科目に対応できるような知識の習得を目指す。

2)　臨床検査学演習　1年次前期

(1) 担当教員　小野孝二、小宇田智子、日高未希恵、篠﨑真弓、伊東丈夫

(2) 教育内容

診断・治療の基礎として活用されている臨床検査の原理を理解し、意義を学ぶことを目的として演習および ICT 講義を実施した。組織学検査、心電図、血液検査、尿検査、染色体検査、放射線検査の各項目につき、試料の観察や測定を通して、その基本原理、解剖生理と病態に関する理解を深めた。

次年度は、病院内で実施されている各種臨床検査について、実験室での演習をより関連付けるような工夫を凝らしたい。

3）臨床薬理学演習　2年次後期

(1) 担当教員　　小宇田智子、矢田部恵

(2) 教育内容

1年次生で得た薬理学の知識をもとに、治療対象となる患者の状況（年齢、性別、生理的状態など）による薬物動態の知識、作用と薬効について理解させることを目標とした。主に、臨床現場で使用されている薬物の使用目的、作用機序、有害作用・禁忌など関して看護師が知っておくべき事柄を、随時、解剖生理学や疾病の成立ちの知識を確認しながら概説した。

次年度は、臨床的な投与時の看護のポイントなどについても取扱い、より臨床に近い形での教育を目指す。

4）公衆衛生学　　2年次　後期

(1) 担当教員　　明石眞言、金子あけみ、日高未希恵

コロナ禍にあったため、一部の講義はwebとなった。不幸な事態ではあるが、毎日のテレビ、新聞、ネットからは、公衆衛生学に関わる内容が流され、生きた題材には事欠かない中で講義は行われた。公衆衛生学は人間の集団を扱う領域であり、日常社会に結び付くように心がけて講義を行った。疫学や厚生労働省から出される統計等公衆衛生学的な手法・内容から見えてくることは多く、新型コロナ対応は、まさに公衆衛生学そのものである。

次年度は、学生が現実の社会で起きていることを、公衆衛生学の視点で見ることができるような講義を目指したい。

5）ボランティア論　2年次後期

(1) 担当教員　　小宇田智子、高木晴良、堀田昇吾

多様なボランティア活動についての理解を深めると同時に、医療・保健・福祉に関するボランティア活動の事例を通して、専門職としてのスキルを生かしたボランティア活動、ボランティアコーディネーションのあり方等を考察できることを目標とし、講義を展開する予定であったが、本年は開講しなかった。

6）看護研究の基礎　3年次前期

(1) 担当教員　　小野孝二、竹内朋子、松本和史、小宇田智子

(2) 教育内容

エビデンスに基づく看護に資する看護研究を実施する素地を形成することを目標に講義を実施した。看護学における研究の意義、研究を開始するにあたっての基礎となる情報の集め方から始め、研究手法の分類と進め方、倫理的配慮、研究のまとめ方にいたるまでの一連のプロセスについて概要を講義した。

次年度は、より具体的な研究(例えば卒業研究)を題材として取り上げる等の工夫をし、より具体的な事例に即した講義を目指したい。

7）英語論文のクリティーク　3年次　後期

(1) 担当教員　　明石眞言　各領域担当教員

(2) 教育内容

英語原著論文の検索法を示し、各領域に関連し、学生が興味のある英語原著論文を選定した。論文の内容は、各領域における卒業研究に関連のあるものとした。今年度はweb上での発表となったが、指定された英語論文を精読し、卒業研究グループの中で発表と討論を行った。

来年度は、各自の研究内容と関わりを明確化し、論文から得られた内容を研究に結び付ける工夫をしたい。

8）英語論文の購読 3年次生前期

(1) 担当教員　　明石眞言

(2) 教育内容

英語で書かれた原著論文を独力で読めるようにすることを目標とした。医学英語読解 のためのテキストを採用したが、例年通り学生にとっては英語の授業として 1 年間のブランクがあったこともあって難解な内容であると認識されたようである。

次年度は、より学生の能力に即した内容を教授できるように工夫する。

【総合看護学領域】

1. 教育方針

アクティブラーニングの導入科目を積極的に増やし、本学のアクションプランの目標100%達成に向かって領域担当の科目は努力する。学生には自ら考える、考えさせる対応を工夫し、時々共有する。また、出来るだけ現実に近い形で知識の統合、判断の根拠、思考のプロセスを繰り返し、技術の実施、評価というＰＤＣＡサイクルを廻せるように支援する。また、チームの一員としてのセルフマネジメントの重要性も再確認する機会であり、臨地実習最後の纏めである。臨床への第一歩がスムーズに踏み出せるように 4 年間の纏めでもあり、社会への橋渡し的な位置づけである統合実習で確認する。最終的な実習であるのでコロナ禍であっても学生には、実習病院の一つの病棟の全ての媒体を用い、必要な情報を主体的に収集し、計画し、実践し、評価していくプロセスを体験し、その重要性・大切さを認識させたい。

2. 科目名

1）看護倫理　1 年次後期

(1) 担当教員　　岩本郁子

(2) 教育内容

本科目は看護実践における倫理の重要性、倫理的問題の解決方法を理解し， 看護の対象の人権擁護の視点から， 看護師としての責務を追究する姿勢の育成を目的としている。実習経験が少ない 1 学年後期の学生が自分の問題としてイメージできるよう毎回の授業で，倫理的判断が必要な事例を提示し， その事例の倫理的問題をどのようにとらえ判断するかについて記載する小課題レポートの時間を設定した。また， 最新の医療倫理に関するニュースの提示、学生が臨地実習で使用する「臨地実習要項」を教材として取り上げ，倫理的問題に対する関心を高めるよう工夫した。テキストは自己学習に活用できるよう事例の多いものを選択している。看護場面における倫理的問題の分析と対処について小西の 4 ステップモデルの枠組みシートで個人ワークをし、そのシートをもとに次の講義時間にコメントを行った。今年度はほぼ遠隔授業であったため、小課題レポートに関するコメントは次の講義で即整理して行い、リアルに対応するようにした。今年度筆記試験の結果が思わしくなかったため、キー概念の理解を図ることが来年度に向けての課題である。

2）看護理論　2 年次後期

(1) 担当教員　　岩本郁子

(2) 教育内容

看護学の基礎となる看護理論の意義を理解し， 主な看護理論の特徴と実践への活用について考察し看護の奥深さ、面白さに関心を持ち， 看護実践への活用の試みを行えるようにすることが講義の目的である。10 名の看護理論家と 4 つの中範囲理論について理論の特徴と看護実践における有効性について取り上げた。ほぼ遠隔授業であったが授業終了前に毎回、看護理論の機能要素（人間、環境、健康、看護）等に関する学生の考えを記載する時間を 10 分程度確保し、自らの看護観、その根底にある看護理論に興味が持てるよう工夫した。必要時記載内容について次の講義でフィードバックした。

12 月に老年看護学実習が設定されているため、実習前に講義を設定し、 実習での理論の活用を課題レポートとし、評価の対象としていたが代替実習となったため、昨年度受講した学生 2 名から許可を得てその 2 名が記載したレポートを用いて看護実践への看護理論の活用について学習することに変更した。学生からは実習のイメージ、活用のイメージがついたとの評価を得た。来年度の課題は取り上げる理論家を学生のレディネス、活用性等を考慮し再考することである。

3）政策医療論　2 年次後期

(1) 担当教員　　山西文子、得津馨、武田純三

(2) 教育内容

日本における医療の歴史的経緯と現状および課題を理解し、変化の激しい医療ニーズに答えていくための医療者の役割を考える。また、我が国において全国的に国立病院機構が担っている政策医療について、民間医療では担えない国としての不採算医療、国として責任を担う医療等についての認識を深め、今後の医療の在り方について考え方や対応を広く捉え、専門職業人としての考えや役割などを明確にする。日本の医療提供体制の変化、政策医療ネットワークによって展開する医療の実際、現代医療における諸問題などを講義により学び、初めて知る我が国の医療の実態を数字で分析的に学び、安全・安心な医療の提供体制が超高齢化社会によって医療費が高騰し、脅かされる状況も生じていることも理解し、どのような社会が良いのか、医療がどうあれば良いかを個人的にも考えをしっかり持つことを狙って、発表し、ポイントをつかむよう意見交換した。

4)　医療安全学　3 年次後期

(1) 担当教員　　岩本郁子、加藤知子

(2) 教育内容

本科目は、医療安全の基本的な考え方を理解し、医療における安全性の確保に向けた看護職の役割について学習することを目的としている。医療安全に関する社会的関心は高く、国、医療機関レベルで様々な取り組みが実施されている。それらの取り組みを理解した上で、より安全な看護を提供するための看護職のあり方、自己のあり方を追究する姿勢の育成をねらいとしている。医療現場の日常の中でどのよう医療事故が発生するのか、最新のデータや事例を活用して授業を構成している。また、放射線に関連した医療安全について 1 コマ設定している。授業ごとに実習での体験や事例についての考え方を問いうレポートを課し、2 年次までの実習体験を想起しながら医療安全について考察できるようにしている。今年度は本学生のインシデント内容を共有し学生の関心を高める工夫を行った。また、安全を推進する存在として学生自身が自己を認識できるよう担当教員の研究対象であるレジリアンス、ノンテクニカルスキル等の新しい概念を取り入れた授業を行った。来年度の 3 年次生は 2 年次が代替実習であったためそれを踏まえた事例の選択が課題である。

5）看護管理学　３年次後期

(1) 担当教員　　山西文子

(2) 教育内容

日本における医療の歴史的経緯と現状および課題を理解し、医療ニーズに応えていくための医療者の役割を考え、また、日本において国として全国的に医療展開している国立病院機構の医療の現状や組織的な政策医療ネットワークのあり方の現状の特徴と課題を理解し、今後の我が国での医療のあり方はどうあれば良いか、専門職業人として考えを明確にし、このような状況下での看護職の役割はどのようにあれば良いか思料する。

そのため医学・医療の変遷および日本の医療・看護の動向を講義し、変化が激しい医療提供体制の特徴や課題を明確に認識するように、現実的にイメージが出来るよう実際の施設の例を挙げながら動機づけしてきた。自己の考えをレポートとして提出して貰ったが、広く専門的でしっかりした考えを持っている学生も居る。各看護学領域の実習の経験も確認しながら自分の就職を考える時のものの見方管理の考え方等重要な視点について、実際の状況と繋げながら展開した。

6）チーム医療とスキルミックス　4 年次前期

(1) 担当教員

山西文子、新木一弘、長田惠子、木下貴之、樅山幸彦、小林佳朗、込山　修、谷地　豊

(2) 教育内容

多職種がチーム医療の現状と課題をどのように捉えているか、また、チーム医療の実践報告を下にスキルミックス展開のために自分たちはどのように実践するのかを学び、実際的な各職種間の役割の違いを理解し、看護職としての役割を果たせるようになることが狙いである。そのため、一施設の病院長がチーム医療をどのように捉えているか、施設長としての方針・考え方を講義し、各医療職種が何を望み実践しているのかを話して貰った。また、副院長 3 人の立場からの考え方、他に「感染管理」「医療安全管理」「地域連携」「病院管理・運営に関する実際」「薬剤師・臨床検査技師・放射線技師等メディカルスタッフの役割」など役割の違いを明確にし、チーム医療についての理解を深めていけるように幅広く具体的に実践報告を聞き、その中て理解を深めた。

7）NP 論（選択科目）　4 年次前期

(1) 担当教員　　山西文子、浦中桂一、非常勤講師 NP

(2) 教育内容

本学大学院においては、高度実践看護（NP）コースを開設しており、NP に関心を持っている学部学生が多いことから開設した科目である。1 学年の殆どが本科目を選択し、授業にも積極的に参加した。前半は我が国における NP 教育の実態及び世界各国における NP 教育・役割・活動の実際について概要を講義し、その後は我が国において大学院 NP コースを修了し現場で活躍している NP の方々に活動の実際を話して貰い、後半の 30 分の時間を質疑応答の時間とした。毎回クラス全員が発言し積極的参加型の授業にした。本授業では、クリティカル NP、プライマリ NP、麻酔 NP 等、活動の場もバラエティに富み、看護師としての活動の実際がとても興味深く、最後まで充実感を味わえた。関心が高い学生が選択し、入学して以来このような授業は始めてである。将来はＮＰになりたいと希望する学生も数名いた。良い反応が多く聞かれた。また、講師であるＮＰもこの機会を通して自分の実戦を振り返り、整理することの重要性を学んでいる。

8）看護政策論（選択科目）　４年次前期

(1) 担当教員　　山西文子、福井日本看護協会会長、石田議員、重富杏子非常勤講師

(2) 教育内容

看護行政等に関心の高い学生の選択者は 70 名程度希望者が在り、開講した。日看協会長、国会議員による我が国の看護政策の実際と議員立法・国会見学実施。政策の基礎的な知識と実際の政策決定過程に携わった実践編の講義を拝聴した。活発な質疑が交わされた。後半は特定行為に係る立法化は是か非かでの議論を行った。非常勤講師の働きかけも良く、二つの教室で対面授業として実施したがとても活発に議論が行われ現在の看護師不足の問題や医療提供体制の課題にまで議論が及び学生は満足感を得られたとの反応があった。

9）　看護学統合実習　4 年次前期

(1) 担当教員　　山西文子、岩本郁子、浦中桂一、早坂奈美

(2) 教育内容

本実習は、4 年次までの全ての看護学実習の内容や看護マネジメントの学習を統合した実習として位置付けている。看護実践能力の向上、看護を統合的にマネジメントするための基礎的能力の育成，自己コントロールと自己開発への課題の明確化を目的としている。

実習は学内実習と臨地実習からなり、学内実習では 4 月～7 月にレポート作成・プレゼンテーション，看護技術演習を計画実施し、臨地実習は 6 施設で 7 月～8 月に実施した。臨地実習は「日勤看護師同行実習」「複数患者受け持ち実習」「看護マネジメント実習」「チームリーダー実習」「夜間実習」から構成し，チームの一員として病棟カンファレンスにおける問題提示も実践した。実習施設の事前訪問日を設定し，施設の見学、看護マネジメント，看護の特徴についての説明を受け，事前学習の効果を図り，スムーズな臨地実習への移行を促した。今年度は 1 施設について施設内の宿舎宿泊が可能となり学習環境の整備を図ることができた。来年度は 8 日間の臨地実習期間となるため、実習目標達成に向け、学内実習の充実と実習前の臨床側との十分な調整が課題である。

10）国際看護学Ⅰ　２年次前期

(1) 担当教員　　山西文子、田村豊光非常勤講師

(2) 教育内容

本学部は、グローバル化の時代にマッチした人材の育成を狙い、医療職者として国際力を培うように国際看護学Ⅰ、Ⅱを設定した。まず本年度はそのスタート学年として。国際看護学とは何か、必要な基礎的知識、技術を習得することとして、色々な著者や団体の考え方・ものの見方があることを学び、文化のことなる社会での生活や医療提供体制の違い、実践がどのような考え方で、どの様に行われているかを知り、支援は何ができるか、どのように交流が可能かなど。基礎的能力の育成，自己開発への課題の明確化を目的としている。

アフリカや東南アジア、南アメリカなどでの国際医療協力に何年間も貢献してきて、現在も途上国の支援を実践している講師から映像を通してリアルな学び体験している。また、そのような映像を通して考える範囲で討議し、将来の支援はどのようにあるべきか考えることが出来ている。

11）政策医療論　2年次後期

(1) 担当教員　　金子　あけみ、得津　馨（非常勤講師）、武田　純三（非常勤講師）

(2) 教育内容

本科目は、わが国における医療政策の歴史的経緯と現状及び課題を理解し、質の高い医療提供をする医療者の役割について考えることを目的としている。とりわけ、国立病院機構キャンパスにおいては、全国で組織的に医療展開している国立病院機構の役割や医療の現状等を踏まえ、看護の役割とその将来展望について考察することを主眼としている。

2年次にある学生には、まず我が国の医療政策、保険医療制度の特徴、社会保障における医療制度と福祉制度の課題等について、歴史的、倫理的、国際的視点等から解説し、政策医療についても現状を詳細に説明している。

看護の役割と発展に関しては、本年度からイメージしやすくなるよう DVD を活用した学習を導入し、身分法である保健師助産師看護師法については今後の発展に向け批判的吟味ができるよう解説を試みた。さらに喫緊の課題となった超高齢社会・人口減少社会に向けたケアシステムの構築、看護のあるべき姿と発展についても検討することとした。

本科目は内容が多岐に亘るとともに幅広く、難易度の高い科目の一つであるが、学生が興味を持ち主体的に学習できるよう引き続き支援したい。

12）看護職とキャリア形成　　4年次後期

(1) 担当教員　　金子　あけみ

(2) 教育内容

本科目は、看護専門職として成長するプロセスにおける考え方とキャリア形成に関する知識を深め、また診療看護師、専門・認定看護師等といったより専門性の高い看護職の役割について理解することを目的としている。

最終学年にある学生が、これまでの実習経験等を踏まえ、質の高い看護を提供する看護者のあり方を主体的に考え、将来実践し、発展していくことを期待し、講義では、生涯発達、キャリア発達、リフレクション、プロフェッショナリズムを主なキーワーズとして、専門職とは何か、自己理解と環境理解等を具体的に理解できるよう教材を工夫した。本年度はコロナ禍にあって、グループワークが効果的にできなかったため、学生個人が看護職の専門職性をどのように捉え、キャリア形成をどのように考えているかに関するレポートを課した。この課題により、学生はグループワークのような意見交換はできなかったものの、自らの考えを深く考察する機会となったことがレポート内容から汲み取ることができた。

次年度は、コロナ収束を期待したいが、状況に応じて学生が自らの思考を深められるよう引き続き努力・工夫していきたい。

【基礎看護学領域】

1．教育方針

本領域においては、看護に関する考え方やその変遷についての理解を踏まえたうえで、看護実践能力の基盤となる看護技術力や判断力、問題解決力を養うことをめざし、講義・演習・実習を展開する。具体的には、基礎看護学領域の各科目の教授内容を関連付け

ながら、人間やその生活の特徴を理解し、統合体としての人間に関する情報を的確に収集する力、その情報を分析・判断し看護上の問題や課題を見極める力、一つひとつの看護技術がもつ科学性や安全性、安楽性や倫理性を追求しつつ対象の個別性に応じた看護技術を提供する力、常に自らの看護技術やその提供過程を評価し、「何故そうするのか」「何が最善か」を自問自答していける力の育成をめざす。また、看護学の学習の導入となる領域として、学生が看護の奥深さや楽しさに触れると同時に、専門的な学習への動機づけとなるような授業展開を探求していきたいと考えている。

2. 科目名

1）看護学概論　：1 年次前期

(1) 担当教員　松山友子

(2) 教育内容

本授業は、看護および看護に含まれる基本概念　（人間・環境・健康）　について理解し、看護の歴史的変遷を踏まえて今日的課題や展望を考察するとともに、学生自身が今後の看護学の学習に向けた自己の課題を明確にすることを目的に授業を展開した。　「看護とは何か」　という問いに対し、看護実践の記録映像から看護を考えることを導入とし、ヘンダーソンの理論や ICN の定義およびその発展から、看護に対する理解が深められるように教授した。看護の対象となる人間やその生活、看護の目標となる健康については、時代とともに移り変わる人々の意識も含めて理解できるような内容とした。また、看護活動と看護師の役割については、記録映像をもとに意見交換と紙上発表を行った。さらに、今日に至るまでの看護の変遷を振り返り、これからの時代の中で看護職を目指す自らの課題をレポートとして課した。4-5 月はオンデマンド授業によりグループワークが行なえなかったため、学生の意見は次の授業でフィードバックした。学生からは他の学生の意見を聞くことは勉強になるとの声が聞かれた。　次年度は、遠隔授業になった場合も意見交換の場を設け、自らの意見を述べることを課題としたい。

2）看護実践技術論Ⅰ　（日常生活における援助技術と判断）　：1 年次前期

(1) 担当教員　　松山友子、内山孝子、髙橋智子、ハーネド明香、伊部有美子、吉田貴恵子

(2) 教育内容

看護技術の基本的な成り立ち及び人間の生活の特徴に関する理解に基づき、様々な状況にある人間の生活過程を整えるために必要な看護技術を学ぶことを目的として授業を展開した。

講義では、人間を対象とする看護技術の特徴を理解し、安全と倫理に配慮しつつ科学的根拠に基づく看護技術を提供する意義や看護職が専門的な視点から人間の生活過程を整える意義を教授した。また、看護場面に共通する技術　（感染予防、ボディメカニクス）　や人間の生活過程を整えるために必要な基礎的な看護技術　（療養環境の調整技術・活動・休息・安全・安楽・衣生活・排泄・食事を整える技術）　を取り上げ、技術の原理・原則や専門的視点による観察、安全・安楽や患者への倫理的配慮を行動レベルで理解できることを目指した。さらに、看護技術を一人ひとりの人間の個別性に合わせて提供する意義やその方法を考えることを課題とした。今年度は登校制限により演習が行なえなかったた

め、補講演習や後期の演習の中で、技術の実施時間を設けた。また、日常生活援助展開実習の中で不足点を補った。

次年度は、演習内容・方法の評価・精選を行い、ICT の有効活用も含めた看護技術の自己学習の方法を検討したい。

3）看護実践技術論Ⅱ　（治療、処置における援助技術と判断）　：1 年次後期

(1) 担当教員　内山孝子、松山友子、髙橋智子、ハーネド明香、 伊部有美子、吉田貴恵子

(2) 教育内容

人間の健康および医療に関する理解を基盤として、看護職による専門的な診療の補助の意義と方法および看護技術を提供するために必要な知識・技術・態度について学習することを目的に授業を展開した。

本授業では、無菌操作、与薬、注射、静脈血採血の技術、排泄機能に障害がある患者の援助（浣腸、膀胱留置カテーテル）を取上げ、これらの技術の中核となる「安全」の確保に向けて原則を遵守する重要性を強調した。特に演習においては、COVID-19 感染予防策を講じつつ、対面にて、侵襲的な看護技術を安全に実施するための解剖学的な根拠や安全な看護技術の提供を支える看護師の倫理性を問い、学生がその重要性を考えながら技術を実施できるようにした。また、看護技術の習得には原則を踏まえた反復練習が必要となるため、事例課題を提示すると共に学生が自己練習できるように物品を準備するなど学習環境を整えた。これにより、学生は計画的・主体的に技術の学習に取り組むことができた。

次年度も、COVID-19 感染予防対策を講じつつ、安全確保のための原則、解剖学的な根拠、看護師の倫理性を強調すると共に、学生が主体的に学習できるように ICT を用いた事前・事後学習用教材の配信を含めた指導方法を工夫したい。

4）看護実践技術論Ⅲ　（看護技術の統合）　：1 年次後期

(1) 担当教員　髙橋智子、内山孝子、ハーネド明香、伊部有美子、吉田貴恵子

(2) 教育内容

看護実践において対象の日常生活に関わるニーズを判断し、対象の個別性に応じ、さまざまな看護技術を統合・応用・創造し、最善の看護を実践する意義と方法を学習することを目的として授業を展開した。

清潔の援助技術を例に対象の個別性に合わせた援助の必要性と方法の判断、看護計画の立案・実施・評価の重要性について教授した。演習では、これまでに学習した看護技術の統合を意図し、点滴中の患者の清潔援助に関する計画を立案し、実施・評価を行った。評価のポイントを示すとともに ICT を活用したルーブリック評価を用いたことで、質の高い評価に繋がった。また学生は、最善の看護を提供するための過程が分かり、99%の学生が日常生活援助展開実習に役だったと評価していた。

昨年同様、臨場感ある演習をねらいとして開発した刺入部の漏れを可視化できるモデル教材を用いることで学生からは「点滴部位に注意を向けて学習できた」という意見が多く聞かれた。

次年度も、ICT を活用した教材や指導方法を工夫し、学生が対象の個別性に合った援助を考え実施できるよう検討したい。

5) ヘルスアセスメント　：1年次前期

(1) 担当教員　　髙橋智子、松山友子、内山孝子、ハーネド明香、伊部有美子、吉田貴恵子

(2) 教育内容

対象者の健康問題を把握するために必要な観察やコミュニケーションの技術を基盤として、人間の生活および健康を系統的かつ包括的に捉える方法を検討し、観察や看護技術を提供するために必要な基礎的知識・技術・態度について学ぶことを目的に授業を展開した。

講義ではICTを活用し、観察やコミュニケーションの重要性、バイタルサインの測定および報告方法について、解剖生理等の観察に必要な基礎知識に関する事前学習課題と結びつけながら教授した。昨年度と同様に系統的観察の視点についてプレゼンテーションを実施することによって、学生は学びが深められたと評価していた。補講演習を実施し、初学者には操作が難しい血圧測定の技術について、教員がデモンストレーションを実施し、手技の原理・原則を丁寧に演示・説明するとともに自作のDVDを用いて復習ができるように学習環境を整えた。また、SBARを用いた報告を取り入れることでアセスメントの視点の強化に繋がった。

次年度は、原則を遵守したバイタルサイン測定および報告の技術習得、患者の個別性に応じたコミュニケーションの充実を継続課題とする。

6) フィジカルアセスメント　：1年次後期

(1) 担当教員

内山孝子、　松山友子、髙橋智子、浦中桂一、ハーネド明香、　伊部有美子、吉田貴恵子

(2) 教育内容

人体の構造と機能の理解を基盤として、フィジカルイグザミネーションによる情報収集方法、分析・判断、報告内容について検討し、自律的・専門的な判断の重要性および看護技術の提供に必要な基本的知識・技術・態度について学ぶことを目的にCOVID-19感染予防対策を講じつつ対面授業と演習を展開した。

本授業では、事前学習の理解度を学生自身が評価できるようWebClassを用いて授業開始時に小テストを実施した。講義では、アセスメントの視点の強化のため、積極的に視聴覚教材を講義に活用した。また、高度実践看護コースの大学院生（TA）によるシミュレーターを用いた「心音の聴取」に関する講義・演習を取り入れ、学生の主体的な学習の動機付けとなった。さらに、器官系統別のアセスメントの視点を看護学実習における情報収集やアセスメントにつなげるため、基本的看護の構成要素を基に学生が作成したアセスメントガイドに反映させていく事後課題を課し、ルーブリック評価とコメントを次の講義開始時までに返却し、次の課題に活かせるよう指導した。学生からは、演習でき、援助の内容や方法をより理解することができたと高評価を得た。

次年度もアセスメント能力の強化を目指し、ICTも活用した教材の充実を継続課題とする。

7) 看護過程と看護方法論　：1年次後期

(1) 担当教員　松山友子、内山孝子、髙橋智子、ハーネド明香、伊部有美子、吉田貴恵子

(2) 教育内容

看護過程は、看護の対象となる人々の個別性や状況に応じ、科学的に看護を実践するための方法であることを踏まえ、本授業は 「看護過程の概要とその活用の意義」 「看護過程の展開方法」 「質の高い看護の提供に向けた看護過程の活用の現状と課題」で構成した。具体的な「看護過程の展開方法」については、看護過程の 5 段階をさらに 11 のステップに分け、ステップごとに 「事例展開の課題（個人課題)」 → 「課題のサンプル例の提示と解説・グループ検討」という流れで講義・演習を行った。今年度は、問題解決型学習の成果を上げるため、事前課題であるワークシートの内容を精選し、各ステップのポイントとなる知識を予習した上で講義に臨めるようにした。講義では、基本的知識を確認する小テスト、課題に関する疑問点の解説、グループ検討を実施し、基本的知識に対する理解の深化を図った。また、事例課題については、習熟度別のグループ指導を取り入れ、具体的内容を加えた評価表の解説と自己点検の時間を増やし、知識の定着を図った。
次年度も、学生の主体的な学習を促し、基本的知識の理解と定着を図ることを課題とする。

8）看護教育学 ：4 年次後期
(1) 担当教員　松山友子
(2) 教育内容
看護教育の教育制度・教育課程等の歴史的変遷について学習し、看護学教育に関する現状と課題について考察した。また、看護学教育のカリキュラムの特徴や教育方法および評価の概要を学習することを通し、看護職者としての教育的視点を養うとともに、自らのキャリア開発に向けた教育や自己評価の意義を検討した。具体な展開としては、看護学教育に関する学生の疑問を解決すべく、大学における看護学教育に関わる制度やカリキュラムに関する学習を進めた。また、本学の履修案内とシラバスを用いて授業設計を確認すると共に、「学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標」を参考に自らの 4 年間の学びを評価した。キャリア開発に関しては、「新人看護職員研修ガイドライン」等の活用方法を検討した。学生は、4 年間の自分の学習成果を振り返り、大学における看護学教育の意義を見直すと共に、学ぶ側だけでなく教える側の視点へも視野を広げて考えることができ、学び続けることの重要性を認識できたと述べていた。また、毎回の授業でテーマに沿ったレポートを記載することが学習内容の理解に繋がったと評価していた。次年度もテーマを精選して継続したい。

9）看護学体験実習 ：1 年次前期
(1) 担当教員
松山友子、内山孝子、髙橋智子、ハーネド明香、小嶋奈都子、加藤知子、日髙未希恵、伊部有美子、吉田喜恵子
(2) 教育内容
本実習は、学生が入学後 3 か月間の講義・演習を通して学んだ看護・人間・健康・環境に関する内容を、実際の医療現場を見学や指導者からの説明により体験的に学習することを目指している。しかし、今年度は登校自粛期間のため、ICT を活用した代替実習を実施した。

独立行政法人国立病院機構東京医療センターの協力を得て、看護師の役割・活動に関する臨床講義をライブ配信した。また、施設・設備や看護師の活動場面の写真の解説に加え、実習目標に合わせて教員が看護師・患者を演じた場面を編集し、ライブ提供した。これらの教材をもとに担当教員が遠隔ビデオ会議システムを用いてカンファレンスやグループおよび個人指導を行った。学生は初めてのオンライン実習に戸惑いながらも、日々のレポートやカンファレンスの中で多くの気づきや学びを述べていた。最終日の成果発表の中では、看護職の役割とその重要性や看護職に必要な専門的態度等についての学びを整理すると共に、目標に向かって今日から真摯に学習に取り組む決意を表明していた。

次年度も、講義と実習を関連づけ、新たな気づきや今後の学習への動機付けに繋げられるように指導を継続した。加えて、ICT を活用した効果的な代替実習についても検討したい。

10）日常生活援助展開実習　：1 年次後期

(1) 担当教員

髙橋智子、松山友子、内山孝子、井本由希子、鬼澤宏美、小嶋奈都子、篠崎真弓、嶋谷圭一、デッケルト博子、ハーネド明香、早坂奈美、日髙未希恵、山田恵子、伊部有美子、佐藤琴美、望月靖記、杜稀衣、森岡千尋、吉田貴恵子

(2) 教育内容

独立行政法人国立病院機構東京病院を実習施設とし、代替実習として 2 期に分け、1 グループ 6～8 名を配置した。患者 1 名を受持ち、基本的ニードの充足状況の判断に基づく援助を実践することを通し、学内で学習した日常生活援助に対する知識・技術・態度の統合・向上をはかることを目的とした。　学生は、患者のニードの充足状況を踏まえ、個別性に応じた援助の提供をめざして、援助計画を立案し、その計画に基づき実習室で実施を行い、評価した。学生は患者の反応を的確にとらえ個別に応じて援助することの難しさを実感するとともに、実習終了時には看護師が日常生活援助を行う意義を受持ち患者の例を通して述べ、これまでの学習を深化させていた。また、遠隔ではあったが、計画や実施の振り返りに対する指導および患者の反応を指導者から直接伝えられたこと、教員が患者役・指導者役となり指導することにより、臨場感ある実習ができていた。学生は講義で実習記録の書き方や SBAR による報告の仕方を学んでいたため、実習に役立ち効果的であったと評価していたことから、これらの点については次年度も継続したい。

11）看護過程展開実習　：　2 年次前期

(1) 担当教員

松山友子、内山孝子、髙橋智子、井本由希子、鬼澤宏美、小嶋奈都子、篠崎真弓、菅原裕美、ハーネド明香、早坂奈美、日髙未希恵、山田恵子、伊部有美子、岡村美帆、吉田貴恵子

(2) 教育内容

COVID-19 感染拡大による登校自粛期間のため、ICT を活用した代替実習を実施した。本実習では、「看護過程と看護方法論」の授業で学習した知識・技術を活用し、受持ち患者の看護過程を展開することを通し、個別性に応じた必要かつ適切な看護を実践するための基礎的能力を養うことを目指した。

学生は、前年度 2 月に実施した日常生活援助展開実習での受持ち患者の情報を基に患者

の全体像を捉えた上で、これまでの学習で対応可能な看護上の問題点1つに焦点を当てて看護計画を立案・実施・評価を行った。また、既習の学習内容と実践における具体例との統合的な理解を図るために、看護過程展開の進行に沿ったテーマカンファレンスを実施した。本年度は直接患者に援助を実施することはできなかったが、ICTを活用した個別およびグループ指導、カンファレンスにより、学生は日々思考を整理・深化させることができたと評価していた。代替実習として、実際に実習で受け持った患者の情報を活用したことは個別性を検討する上でも有効であったが、実施・評価の記載については課題が残った。今後は状況に応じ、実習施設とも連携した代替実習を検討していきたい。

【成人・老年看護学領域】

1. 教育方針

成人・老年看護学では、成人期と老年期を一連のライフサイクルとして捉え、幅広い年齢層における多様な健康問題を抱える人々を対象とした看護実践能力の養成を目指している。

成人・老年期にある人々とその家族を全人的に理解し、成人期の経過別看護および老年期看護の特徴に応じた看護を実践するための講義・演習・実習を展開している。講義・演習ではアクティブラーニングを重視し、プレゼンテーションやディスカッション、事例に対する看護実践のロールプレイ、高機能シミュレーターを用いた総合的アセスメントに基づく看護技術演習などを行っている。臨床実習では、看護過程にもとづき、マニュアル化された看護ではなく、対象の個別性を重視した custom-made の看護を実践する能力の育成を重視している。

臨床実践に直結する教育を担う領域として、“tomorrow’s Nurse”の資質の錬成につながる講義・演習・実習を展開していきたい。

2. 科目名

1) 成人看護学概論：1年次後期

(1) 担当教員　　竹内 朋子、松本 和史

(2) 教育内容

成人期にある人々の身体・心理・社会的特徴と、成人看護学の基礎を理解することを目標とし　た。本年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、一部オンライン講義であった。

対象への理解を深めるため、成人期の人々の健康に関する人口統計データの概説と併せて、様々なライフイベント、生活習慣と健康問題の関連などを、自己に置き換えて考えられる学習課題を設定した。また、成人看護にまつわる主要な諸理論・概念について概説し、自己のこれまでの具体的な経験と照らし合わせることで理解が深まるよう工夫した。さらに、次年度以降の実践論の学習につながるよう、成人期における経過別看護（急性期看護、慢性期看護、終末期看護）の特徴に関してそれぞれ概説した。

成人看護学の導入となる科目であるため、次年度も成人看護の基礎を修得できる講義を目指したい。

2) 老年看護学概論：1年次後期

(1) 担当教員　　竹内 朋子、松田 謙一

(2) 教育内容

老年期にある人々の身体・心理・社会的特徴と、老年看護学の基礎を理解することを目標とした。本年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、一部オンライン講義であった。

人口統計データに基づいて今日の高齢者の健康と暮らしに関する動向を概観し、老年看護学に関する諸理論・概念、高齢者を支える社会保障制度の基礎について講義した。また、加齢が日常生活に及ぼす影響をより効果的に学習できるよう、高齢者体験キットを用いた高齢者模擬体験演習を取り入れた。講義に際しては、自己の老後の生活をイメージすることや、老年観をディスカッションする課題などを通して、加齢を身近に感じることができるように工夫した。

次年度も老年期にある人々を支える看護を多角的に理解できるような講義を目指したい。

3) 慢性期看護論：2年次前期

(1) 担当教員　　竹内 朋子、松本 和史、野田 恵美子

(2) 教育内容

慢性期看護をより具体的に理解できるよう、経過別看護で広義の慢性期看護を構成する慢性期看護と終末期看護の2部で展開した。本年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため全回オンライン講義であった。

慢性期看護に関しては、慢性疾患をもつ対象者の受容過程をふまえ、セルフケア能力を高めるための援助について理解することを目標とした。器官系統別に代表的な慢性疾患とその看護について講義した。関連する国試過去問を用いた理解度チェックテストを取り入れ、実践的な理解が深まるよう促した。

終末期看護に関しては、終末期にある患者とその家族を全人的に理解し、苦痛の緩和やその人らしさを支える看護について理解することを目標とした。特に、死すべき存在（mortal）である生命を対象とする医療職を目指す者として、自己の死生観を深化させるとともに、死にまつわる多様な価値観を理解できるよう、看護学以外の学問領域の知見についても言及したりするなどして講義展開を工夫した。

次年度はカリキュラム変更により、本科目で扱ってきた終末期看護学に関する内容は「終末期看護論」として独立し、本科目では全て慢性期看護学について講義する。

4) 老年期看護論：2年次前期

(1) 担当教員　　松田 謙一、井本 由希子

(2) 教育内容

健康障害により診察・検査、入院治療を必要とする高齢者への看護、ならびに高齢者に特徴的な症状や疾患とその看護について理解することを目標とした。本年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため全回オンライン講義であった。

健康障害により診察・検査、入院治療を必要とする高齢者への看護では、加齢に伴う環境適応能力の低下を踏まえて療養環境を整えることの重要性を理解できるよう事例や画像を用いた。高齢者に特徴的な症状や疾患とその看護では、各回の導入時に、高齢者に生じやすい理由や発生頻度等の疫学的データを示し、老年看護学で学習する意義を理解できるように工夫した。また、看護について講義する場合には、健康障害に加えて加齢の影響に

も配慮した介入の必要性を理解できるよう、事例や画像を用いた。

次年度はカリキュラム変更により、本科目は「老年看護実践論」として展開することとなる。次年度も高齢者の特徴を踏まえた看護を理解できるよう、事例や視覚教材を積極的に活用した講義を目指したい。

5) 老年看護実践論：2 年次前期

(1) 担当教員　　松田 謙一、井本 由希子、岡村 美帆

(2) 教育内容

本年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため全回オンライン講義であった。

高齢者の特徴をふまえた看護過程を展開できるよう、前半は高齢者を取り巻く社会保障制度や NANDA-I 看護診断に関する講義、後半は生活機能に関するアセスメント演習や NANDA-I 看護診断を用いた看護過程展開演習を行った。高齢者を取り巻く社会保障制度では、制度の内容に留まらず、「老年看護学実習Ⅰ」の動機づけとなるよう、介護保険施設で生活する高齢者の特徴と看護について講義や事例検討を行った。生活機能のアセスメント演習により加齢の特徴を踏まえたアセスメント能力を養った。その後の NANDA-I 看護診断を用いた看護過程演習では、健康障害を有する高齢者の事例について、健康障害および加齢の影響を踏まえた包括的なアセスメントができるように展開した。生活機能のアセスメントおよび NANDA-I 看護診断を用いた看護過程展開演習では、模範となる学生の成果物を用いて学びを共有した。

次年度はカリキュラム変更により、本科目では看護過程展開演習に加えて、老年看護に関連する看護技術演習も計行う。演習を通して、学生の高齢者に対する看護実践能力の向上を目指したい。

6) 家族看護学：2 年次後期

(1) 担当教員　　松本 和史、竹内 朋子、松田 謙一

(2) 教育内容

様々な視点で家族を捉える見方を養った上で、病気や障害が家族に与える影響と家族が障害や患者に与える影響について理解し、家族を単位として展開する看護について学ぶことを目標とした。 また、家族の役割・機能、現代の家族の諸問題に着眼しながら、家族観を見つめなおすことができるように授業を行った。本年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため一部オンライン講義であった。

家族看護に関する講義に加え、家族看護事例の演習をグループワークで行い、考えや意見を他の学生と共有することで、家族の複雑な問題を多角的に考える力を養った。また、スマートフォンや LMS 等の ICT を使って、双方向型授業となるよう工夫した。本年度の試みは、社会的に家族を対象とする看護の重要性が高まる中、学生の家族看護の実践力を高めることにつながったと考えられた。

次年度も、講義とグループ演習を取り入れた授業構成とする予定である。

7) 老年看護学実習Ⅰ（地域で暮らす高齢者への看護）：2 年次後期

(1) 担当教員　松田　謙一、井本　由希子、野田　恵美子、岡村　美帆、佐藤 琴美

(2) 教育内容

介護保険施設で暮らす高齢者の生活と看護師の役割を理解することを目的とした。今年度は、新型コロナウイルス感染症対策により、臨地実習を行えなかったため、実習施設と連携を図りながらオンライン実習と学内実習を行った。

オンライン実習では、実習グループに分かれて、加齢の特徴を踏まえたアセスメントの方法、ライフヒストリーの聴取方法および看護実践への活用方法、コミュニケーション技法について事例を用いて検討した。また、学内実習では、高齢者福祉機器のプレゼンテーションならびに、アクティビティケアの意義を理解することを目的としてレクリエーションの企画・発表会を行った。担当教員との最終面接や最終レポートにおいて、学生は、多様な視点からの高齢者の理解や加齢や尊厳に配慮した関わり方の重要性について考察できていた。

次年度も、地域や施設で生活する高齢者と、高齢者に対する看護の役割に関する学びが深まるような内容を検討していきたい。

8) 急性期看護論：3 年次前期

(1) 担当教員　　原口　昌宏、竹内　朋子、 松本　和史、松田　謙一

(2) 教育内容

急性期にある対象の身体的・心理的・社会的特徴と生命維持、術後合併症予防、残存機能を活かした看護について理解することを目標とした。本年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため全回オンライン講義であった。

前半では、生体侵襲や全身麻酔による影響、生命維持機能についての講義を行い、その後周術期看護や救急看護・重症ケアの講義につなげることで、侵襲による身体的、心理的、社会的変化や好発する合併症の予防について理解できるようにした。後半は、代表的な疾患の病態と手術を中心とした治療ついての講義を行い、各手術療法に特有の合併症や看護についての理解を深めた。授業内容に関する小テストを行い、復習ができるように工夫をした。さらに「成人・老年看護実践論」の内容・進度と連動させて、より実践的な学びが得られるよう工夫した。

次年度も、後期に開講する「成人看護学実習Ⅰ（急性期)」につながるよう、急性期看護に必要な看護の知識を深める授業を展開してく予定である。

9) 成人・老年看護実践論：3 年次前期

(1) 担当教員

松本 和史、竹内 朋子、原口 昌宏、 松田 謙一、井本 由希子、野田 恵美子、岡村 美帆、佐藤 琴美

(2) 教育内容

成人期・老年期の患者の看護過程、および患者の生命維持、QOL 向上のために必要な看護援助方法を理解できることを目標にした。本年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、看護過程に関する授業はオンラインで行った。看護技術演習は対面で行うことができた。

看護過程に関しては，まず導入偏として事例演習を行い、その後、急性期、慢性期、終末期、老年期の経過別の授業を配置することで、成人期・老年期の看護実践の理解を促した。クラウドやメールを使って課題の提出やフィードバックを行い、対面と同様の教育効果が

得られるように工夫した。看護技術演習に関しては、酸素療法、吸引、一次救命処置などの看護技術の演習を対面で行った。臨床判断能力を養うことを目的とした一部の演習では、教員が作成した動画を使ってオンラインでのシミュレーション演習を取り入れた。対面での演習が限られる中、学生は後期の実習を意識して非常に意欲的に授業に取り組んでいた。

次年度も、シミュレーション等のアクティブラーニングのさらなる充実を図り、学生が主体的に学び、考える力を養える内容にしていきたい。

10）成人看護学実習Ⅰ（急性期）： 3 年次後期

(1) 担当教員　　松本 和史、 佐藤 琴美

(2) 教育内容

周術期看護とクリティカルケア看護を学ぶために、外科系病棟、手術室、救命救急センターの 3 部署で行った。本年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、全 7 クールのうち、3 クールが臨地実習、4 クールが代替実習となった。

臨地実習に関しては、病棟では、周術期の患者を 1 名受け持ち、看護展開を行った。事前課題と実習記録を連動させ、限られた期間で看護展開できるように工夫した。手術室では、手術や看護師の役割等を見学し、器械出し看護師の役割の一部を経験した。救命センターでは、重症患者へ看護ケアを実施した。また、代替実習では、実習病院から周術期患者の情報を提供していただき、看護展開を行った。同時に、病棟、手術室、救命センターの臨床指導者にカンファレンス等に参加していただき、臨床での取り組みがイメージできるよう工夫した。また、シミュレーション演習に加え、バーチャルシミュレーターや視聴覚教材を用いて、臨地に行けなくても看護実践能力が養えるようにした。

次年度も急性期看護を総括的に学べるよう同様の実習形式を予定している。

11）成人看護学実習Ⅱ（慢性期）：3 年次後期

(1) 担当教員　　松本 和史、野田 恵美子

(2) 教育内容

慢性期にある対象が生活過程を整えながら社会生活を営み、セルフマネジメント能力を身につけるための看護実践を学ぶことを目的とし、東京医療センターと東京病院にて行った。本年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、全 7 クールのうち、東京医療センターでは 4 クールが、東京病院では 2 クールが代替実習となった。

臨地実習では、慢性疾患をもつ患者を 1 名受け持ち、看護過程を展開した。さらに退院支援看護師からの講義を取り入れ、受け持ち患者への退院支援スクリーニングシートを作成することで、慢性期看護が多角的に学べるよう工夫した。代替実習では、実習病院から実際の患者の情報を提供していただき、看護展開を行った。臨床指導者にカンファレンス等に参加していただき、臨床場面がイメージできるよう工夫した。また、シミュレーション演習に加え、バーチャルシミュレーターや視聴覚教材を用いて、臨地に行けなくても看護実践能力が養えるようにした。

次年度も慢性期にある患者のセルフマネジメント能力を引き出すための看護実践能力を高める内容としたい。

12）成人看護学実習Ⅲ（終末期）：3 年次後期

(1) 担当教員　　竹内 朋子、岡村 美帆

(2) 教育内容

終末期にある患者の全人的苦痛を緩和し、その人らしい生と死を支えるための看護と、重要他者を失いゆく家族に対するグリーフケアの実践を目標とした。本年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、全 7 クールのうち、3 クールが臨地実習、4 クールが代替実習となった。

臨地実習では、終末期患者を受け持ち、看護過程にもとづいて、終末期患者の全人的苦痛を緩和するための看護およびグリーフケアを実践した。また、臨死期・臨終・死後の看護を実践または見学した。さらに、実習やカンファレンスを通して、患者、家族、実習グループメンバー、医療スタッフたちの死生観に触れ、看護職としての自己の死生観を深化させた。代替実習では、実習施設から患者情報を提供していただき、看護過程を展開したうえで模擬患者に対して看護計画を実践する演習や、エンゼルケアの演習を行った。また、臨床指導者にオリエンテーションやカンファレンスに参加していただき、臨地実習に近づけられるように工夫した。

次年度も、終末期にある患者と家族の苦痛を全人的にアセスメントし、緩和ケアを実践する能力を高めていきたい。

13）老年看護学実習Ⅱ（病と生きる高齢者への看護）：3 年次後期

(1) 担当教員　　松田 謙一、井本 由希子

(2) 教育内容

急性期病院において入院治療を必要とする高齢者への看護実践を学ぶことを目的とした。本年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、全 7 クールのうち、3 クールが臨地実習、4 クールが代替実習となった。

NANDA-I 看護診断を用いた看護過程の展開では、高齢者を全人的に捉えたうえで、看護の必要性を見出せるように実習指導者と連携しながら実習指導を行った。また、実習記録においては、加齢による心身の変化を丁寧に解釈・分析することを課し、臨床現場で加齢の影響を系統的に把握するために必要となるアセスメント能力を養った。学内実習では、実際の受け持ち患者を想定し、立案した看護計画を一部実践した。また、最終カンファレンスやレポートにおいて、学生は、高齢者を全人的に捉えたうえで看護を展開することの重要性に加えて、高齢者の意思やストレングスを反映させた看護の必要性についても考察できていた。

次年度も、急性期病院において入院治療を必要とする高齢者への看護に必要な実践能力を修得できるよう実習を展開していきたい。

【小児看護学領域】

1. 教育方針

発達段階や健康・不健康を問わず、子どもとその家族および家族を取り巻く社会を理解し、専門的知識と技術と共に小児看護が実践できる能力を養うことを目的としている。子どもたちの身体的・精神的側面だけではなく、子どもたちを取り巻く社会的環境からの影響も含めた社会権をもった一人の社会的生活体として捉えるための小児看護学としての位置づけ

とし、「小児看護学概論」、「小児看護実践論」および「小児看護学実習」の３科目の構成としている。

2. 科目名

1）小児看護学概論：2 年次後期

(1) 担当教員　　中島美津子、玄順烈、山田恵子

(2) 教育内容

小児各期の成長・発達理論とその評価方法を学び、小児医療の歴史的変遷、倫理、理念および機能を学び、現代に小児看護の役割と課題を明確にすることを目的とした。

講義は COVID-19 によりオンデマンドと対面による講義とした。各成長・発達段階の理論と評価方法を学習した。授業では毎回授業評価及びアンケートを実施し、直接、学生からの質問や疑問、わからない点などのフォローを重ねた。個人課題は、子どもを取り巻く社会環境と家族の理解から、現代の視点で子どもを取り巻く環境、法律、施策を学習後、学生自らテーマを決め調べることとした。今年度はグループ学習の展開ができずに学びの共有や他学生からの学習への気づきの機会を設けることができなかったため、次年度は今年度と同様な授業形態であったとしてもその点に関して工夫していく必要性がある。また、様々な法律改正が成され少年法の改正等、さらに法律改正等を踏まえた新たな子どもを取り巻く社会的情勢を盛り込んだ学習も必要と考える。

2）小児看護実践論：3 年次前期

(1) 担当教員　　中島美津子、玄順烈、山田恵子

(2) 教育内容

子どもの病状や経過、子ども特有の症状に応じた看護実践に必要な基礎的知識を学び、子どもの健康障害の回復や成長発達の促進に向け、子どもとその家族の援助方法を理解することを目的としている。

講義は COVID-19 によりオンデマンドと対面による講義とした。子どもとその家族への看護および急性期から終末期までの経過別看護、また障害をもつ子どもとその家族の看護などを、事例に基づいて教授した。技術演習は遠隔での実施となった。看護過程の展開（川崎病、急性期、3 歳児の事例）により具体的に患児へのイメージを図りこの事例を用いてバイタルサイン測定を遠隔での技術演習とした。演習技術は、体温、脈拍、心拍、呼吸の測定とし、自作の子どもに見立てた物品等とし、具体的援助手順は事前に各自で作成し、遠隔実演での評価とした。次年度はさらに新たな事例を含め、実習に繋げられるような演習の展開を予定している。

3）小児看護学実習：3 年次後期

(1) 担当教員　　玄順烈、中島美津子、山田恵子

(2) 教育内容

子どもの特徴や成長・発達、健康レベル、家族の繋がりに対する理解を深め、小児看護実践に必要な基礎的能力を養うことを目的とした。実習は、保育実習と病棟実習で構成した。保育実習場所は、大学周辺の保育所とした。病棟実習は、東京医療センター5B 病棟、成育

医療研究センター、東埼玉病院　（障害児［者］病棟）の 3 施設とした。実習方法は、各グループ 2 週間の実習のうち 1 週間を病棟実習、残り 1 週間は保育実習とした。今年度は、COVID19 の感染対策本部の定めにより、保育所実習は中止となり、代替え実習として学内実習に変更した。病棟実習においても、実習前および実習中の健康管理調査を実施した。実施内容について、保育実習では、健康な子どもの DVD や資料の提供とそれに応じた課題について、オンラインによるグループワークとリフレクションを実施した。保育園実習の学生は、子どもにとって保育園は、生活の一部であり、お友達との相互影響により成長する場である。子どもがその環境の中において、その子らしく成長・発達していくのかを観察とアセスメント、支援方法を検討していく必要があることを学んでいた。しかし、子どもとの接触体験が乏しい学生にとっては、子どもの特性を実感できる体験が得られなかったことが課題である。病棟実習での学生は、患児 1 名を学生 2 名で受持ち、指導者と教員を交えたカンファレンスを通じて、子どもが示す反応の意味、子どもが力を発揮するための援助の創意工夫、家族環境などの情報共有することで、具体的援助の実践に繋げることができていた。障害児（者）病棟では、非言語的コミュニケーションを多用し、反応を詳細に捉えることで患者の理解を深めることができた。しかし、1 週間の病棟実習では、子どもと家族をも視野に入れた健康上の問題の抽出が難しかったように考えられた。次年度からは、保育所実習で明らかになった課題を実習内容に反映し、子どもたちの社会生活の理解を深めたうえで、病棟での実習内容の検討と指導の充実に向けて、教員と保育園・実習指導者が更なる連携の下、実習を展開していく予定である。

【母性看護学・助産学領域】

1. 教育方針

母性看護学では、人間の生涯における性と生殖の健康問題と予防法に主眼を置き、特に女性のライフサイクル（乳幼児期・思春期・成熟期・更年期・老年期）およびマタニテイサイクルにある妊娠・分娩・産褥・新生児の生理・病態と母子およびその家族への援助理論と方法について学ぶことを目的としている。科目は母性看護学概論、母性看護実践論、母性看護学実習で構成される。母性看護学実習では妊娠・分娩・産褥期および新生児期に重点を置いて実習を展開する。

2. 科目名

1）母性看護学概論　2 年次後期

(1) 担当教員　　朝澤恭子、平出美栄子、小嶋奈都子、鬼澤宏美

(2) 教育内容

母性看護学概論では、母性看護の基本概念および意義を理解し、人間の性と生殖の側面から、女性の全生涯を通じたヘルスプロモーションと健康問題への対応に視点を置き、母性各期における援助方法および母性看護の役割と重要性について理解することを目的とした。講義内容は、母性の概念、セクシュアリティ、リプロダクテイブヘルス/ライツの概念、母性看護の歴史と母子保健統計、女性のライフサイクル各期（思春期、成熟期、更年期・老年期）の健康問題と看護、母性看護の対象の理解であった。今年度は Covid-19 の感染防止のため、オンラインと対面を併用した。方法は講義の他に事例検討、グループワーク、ミニテ

ストを用いて、知識の定着を目指した。また、母性看護における倫理的課題と対処法は対面でグループディスカッションとプレゼンテーションを用いて演習を行った。母性看護のファーストステップとして静止画・動画、媒体を多く用いてイメージしやすいように工夫した。次年度も講義内容と教材を精選し、参加型の講義・演習に取り組みたい。

2）母性看護実践論　3年次前期

(1) 担当教員　　朝澤恭子、小嶋奈都子、鬼澤宏美

(2) 教育内容

本科目では、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある母子とその家族を対象に、健康を維持・促進するために必要な支援を学習し、リプロダクティブ・ヘルスケアを実践する上での援助方法を学ぶことを目的とした。今年度はCovid-19の感染防止のため、オンラインと対面を併用した。授業は、講義と演習により構成し、対象である母子の生理的・社会的特徴などの基礎知識を踏まえて、対象のニーズを理解できるようにした。講義では毎回ミニテストを取り入れて学んだ知識が定着するよう工夫した。演習は、母性看護の基本的看護技術および看護過程展開のシミュレーション教育で構成し、出来る範囲の中で工夫した。基礎知識を踏まえて対象のニーズをアセスメントし、ケアのための具体的な看護計画や看護技術が実践できるように計画した。学生は、母子の身体的・心理・社会的特徴を理解した上で、ウェルネスの視点でマタニティ期ある対象者をアセスメントし、周産期の母子とその家族に対する基本的な母性看護技術を習得した。

3）母性看護学実習　3年次後期

(1) 担当教員　　朝澤恭子、小嶋奈都子、鬼澤宏美

(2) 教育内容

母性看護学実習は、周産期にある母子およびその家族を対象に、健康を維持・促進するために必要な支援を学習し、リプロダクティブ・ヘルスケアを展開するために基礎的な看護実践能力を身につけることを目的とした。実習は、東京医療センター産科病棟・外来においてCovid-19 の感染防止のため学内実習およびオンライン学習を取り入れながら 90 時間実施した。日産厚生会玉川病院での実習は Covid-19 の感染防止のため受け入れ中止となった。

妊娠期のケアとして、産科外来の妊婦健康診査における胎児心音聴取、妊娠各期の保健指導、助産師外来を見学した。産褥期のケアにおいて、学生は１組の母子を受け持ち、看護過程の展開を実施するとともに、看護実践として母子の健康状態の観察、褥婦に対するアロマトリートメントおよび足浴、新生児の沐浴またはドライテクニックを行った。周産期の異常へのケアについてはカンファレンスを実施し、学生主体でディスカッションを行った。

次年度は新生児の沐浴、分娩見学等の貴重な体験ができるよう、実習指導者とこれまで以上に調整し、より効果的な実習ができるよう学生を支援する。

4）疾病と治療Ⅳ　2年次前期

(1) 担当教員　　朝澤恭子、金子あけみ、斉藤史郎

(2) 教育内容

本科目は、内分泌、腎・泌尿器、女性生殖器疾患による形態・機能および代謝の変化、疾病の発生機序と特徴的な症状と経過、診断の基準、検査データ、治療方法、予後について学習することを目的としている。

内分泌疾患および女性生殖器疾患は、1 年次に学習した解剖学、病態生理学等の知識を想起させ、関連づけながら体系的に学ぶことが必要となる。また、多くのホルモン名を正確に記憶することも求められるため、覚えるべき内容は、図解したり反復強調したり工夫して教授している。疾患をイメージ付し理解が深まるよう動画や静止画を多く取り入れた。糖尿病に関する講義では、生活習慣病（Non-communicable Disease, NCD）の代表的疾患として診断・治療、予防及び保健指導についても言及した。また、近年、急増している乳がんについては、机上の学習だけでなく、乳房モデルを用いた自己検診を体験させるなど実際的な内容や最新の診断・治療に関する情報を取り入れている。

今年度は Covid-19 の感染防止のため、オンラインと対面を併用した。希望した学生には補習講義を行い、ミニテストを取り入れて、知識の定着がなされるよう工夫した。各講義において、過去に出題された国家試験問題を提示し解説している。学生は、国家試験問題を解くことで、自己の理解度を確認できるため学習の動機づけに繋がっている。

【精神看護学領域】

1. 教育方針

精神障害だけにとどまらず、身体・知的を含む三障害の概念や特性を理解できるように、歴史的背景や障害に関する基礎的な知識、実際に行われている看護援助を示しながら、障害に対する理解を深められるようなカリキュラムを実施している。また、授業や実習を通して、自らの障害者観と向き合いながら、障害者の健康増進を考えられる力を身につけ、ノーマライゼーションの推進を支援できるようになることを目指している。そして、知識として習得することだけに留まるのではなく、障害者を取り巻く現状や課題について、自らの意見を持ち、積極的に行動できるような態度を身につけてほしいと願っている。

2. 科目名

1）臨床コミュニケーション論　　2 年次前期

(1) 担当教員　　田中留伊、中村裕美、菅原裕美

(2) 教育内容

看護を提供する上で重要なコミュニケーションに焦点を当てた科目である。コミュニケーションの構成要素や影響する要因などの理解を深め、自己のコミュニケーションを見つめ直し、自己啓発していく重要性を認識することを目的とした。内容としては、日常的な場面の「聴く」・「話す」等の技術について、陥りがちな課題に焦点を当てながら、段階的に実際の臨床場面での効果的なコミュニケーションを考えていける構成とした。また、看護場面での対象との支援関係形成や信頼関係構築を考えることを目的として、プロセスレコードを活用した。学生が積極的に参加できるように、すべての授業において、ワークシートを用いた体験型の授業展開を行った。コミュニケーションが上手くいくことだけにとらわれず、専門的で相手の立場に立った自分らしいコミュニケーションを常に模索していけるような授業展開を心がけていきたい。

2）精神看護学概論 2 年次後期

(1) 担当教員　　田中留伊、中村裕美、菅原裕美

(2) 教育内容

初学者であるため、できる限り難しい専門用語を用いず、精神看護について関心が持てるように心がけた。こころの働きや精神的健康、障害の概念や障害者の歴史的背景が理解できるように、教科書やオリジナルのパワーポイントを用いながら授業を行い、将来看護師として、精神障害や精神障害者とどのように向き合っていくのか考えられるような課題を与えた。また、健康レベルに応じた人間理解を深め、精神障害者の健康増進・ノーマライゼーションを推進するために必要な基礎的知識を身につけられるように展開した。一方的な授業にならないように、授業内で学生が発言できる機会を設けたり、リアクションペーパーを書いてもらうなどの配慮を行った。

3)　精神看護実践　3 年次前期

(1) 担当教員　　中村裕美、田中留伊、菅原裕美

(2) 教育内容

精神的な健康に障害を持つ対象を理解できるように、主な精神疾患や特徴的な症状について、オリジナルのパワーポイントや教科書を用いて授業を展開した。精神科医療の現状を踏まえ、入院治療だけではなく地域社会生活への適応に向けての看護実践方法を考えられるように視聴覚教材を用いて授業を行った。また、精神障害のある対象の支援に必要な基本的な看護技術が学べるように個人課題として看護過程を展開させ、全体で発表会を行いアクティブラーニングを取り入れることで学びを深めた。また、各授業の最後にリアクションペーパーを提出させ、次回の授業で学生の理解しにくい点を補足、フィードバックできるような工夫を行った。リアクションペーパーや前回の授業の復習は「解らないことが質問しやすい」、「知識の確認になる」など好評であったため、次年度以降も継続していく予定である。

4)　障害者看護論　3 年次後期

(1) 担当教員　　中村裕美、田中留伊、菅原裕美

(2) 教育内容

精神・身体・知的の三障害を持つ対象を理解できるように、オリジナルのパワーポイントや教科書を用いて授業を展開した。障害とともに生きることで社会生活への参加が制限されたり、生活行動の変更を余儀なくされる対象に対する理解を深めるために視聴覚教材を用いて学び、看護の特徴を考えられるように授業を行った。また、進行性筋ジストロフィー、重症心身障害、神経難病などを抱える人々の具体的な看護実践や生活の質を高める支援の方法については、臨床で看護を実践している講師を招き、生きた看護体験を学べるよう授業を行った。各授業の最後にリアクションペーパーを提出させ、次回の授業で学生の理解しにくい点を補足、フィードバックできるような工夫を行った。リアクションペーパーや前回の授業の復習は学びの定着にもなり学生からも好評であったため、次年度も継続していく予定である。

5)　精神看護学実習　3年次後期

(1) 担当教員　　田中留伊、中村裕美、菅原裕美

(2) 教育内容

本実習では、精神障害を持って生きる人を包括的に理解するとともに、精神障害者の自立および自己実現に向けた援助を通し、必要な看護が実践できる基礎的能力を育成することを目指した。独立行政法人国立病院機構東京医療センター、独立行政法人国立病院機構下総精神医療センター、国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院、公益財団法人井之頭病院、NPO法人ハートフル翔ワークイン翔を実習施設として実習を行う予定であったが、本年は、COVID-19 の影響を受け、臨地で実習を行えたのは、独立行政法人国立病院機構東京医療センター、独立行政法人国立病院機構下総精神医療センターおよび NPO 法人ハートフル翔ワークイン翔でのみであった。臨地実習では、学生は1人の受け持ち患者を通して看護過程を展開し、看護計画の立案・実施・評価を行った。また、実習指導者や担当医師から臨床講義をして頂いたり、作業療法等に一緒に参加させて頂いたりしたことで、精神医療の実際を知るとともに、保健医療福祉チーム・システムの現状や課題等について考えることができた。代替実習では、実習目標が到達できるよう内容を検討した。実習施設の看護師長の協力のもとオンラインによる臨床講義を行って頂くことで学びを深めた。さらに、全ての学生がプロセスレコードを記述し自己洞察を行うことで、他者との関わりを通して自己のコミュニケーションの傾向を振り返ることができた。実習の最終日には、本実習における学びを共有する場を設け、自らの精神障害者観を明らかにし、看護師の役割と課題についての考えを深める機会とした。今後も、実習指導者や担当教員の意見を反映させ、効果的な指導を検討していきたい。

【地域看護学領域】

1. 教育方針

地域看護学領域では、将来広く地域で活躍できる看護師を養成することを目標に地域看護学と在宅看護論に関する教育を行っている。様々なニーズをもつ人々が住み慣れた地域で自分らしく生活し続けられるためには看護師として何ができるのかを地域看護学の一連の科目を通して学習させる。また、在宅看護論の一連の科目では、在宅療養者とその家族がその人らしく療養できるための看護の機能と役割、地域住民全ての安心安全な暮らしを守る視点を学習させる。いずれの科目でも，アクティブラーニングや様々な ICT ツールを積極的に活用し，学生が主体的に学びを深められるように工夫して講義を展開している。

2. 科目名

1) 災害看護学　2年次後期

(1)　担当教員　　佐藤潤、太田慧、嶋谷圭一、望月靖記、森岡千尋、駒田真由子

(2)　教育内容

災害医療の概念と展開、災害時の看護の役割を理解し、災害時の社会ニーズに即した看護職の機能について学ぶことと、危機的状況にある多数の負傷者並びに地域全体を対象に、看護を展開できる判断力と看護技術を学ぶことを目標に掲げた。

災害医療の現場で活躍する講師を東京医療センターから招きリアリティのある講義も行うことができた。また、今年度は災害時の包帯法の演習について VOD を用いて自主的に繰り返し学習できるよう工夫を行った。

今年度は、例年実施している東京医療センターとの合同災害訓練が COVID-19 の影響で実

施できなかったため、次年度はそれを含めて授業展開を行っていきたいと考えている。

2）疾病予防看護学　2年次後期
(1) 担当教員　駒田真由子、嶋谷圭一、佐藤潤、望月靖記、森岡千尋
(2) 教育内容
　プライマリヘルスケアやヘルスプロモーションの基本的考え方、Social determinants of health と健康増進施策、健康格差について、最新の法改正や世界における課題についても含めて講義を構成した。各自で視聴して理解を深めることが可能なように VOD 形式の講義を取り入れた。また、COVID-19 やインフルエンザの予防を含む感染症に関する講義、最新のゲノム医学が看護に応用されていくことについて考えてもらう課題を実施した。さらに今年度の新しい取り組みとして、すでに実際の生活に大きく取り込まれている行動経済学におけるナッジ理論について講義し、健康行動の変容に活かす必要性や方法について考え、学んでもらうことに努めた。提出課題から、当初の予想よりも学生の理解度は高く、考えてもらう課題の重要性を感じた。一方で、次年度は講義方法等、今年度の反省点を踏まえて、より理解度が高められるように構成したい。

3）自立支援教育論　2年次後期
(1) 担当教員　佐藤潤、駒田真由子、嶋谷圭一、望月靖記、森岡千尋
(2) 教育内容
　様々な健康課題を抱えた対象に対して、課題解決に向けたセルフケア能力・自己効力感を高めるための理論を理解し、自立支援へとつなげる具体的な手法を理解することを目的に講義を行った。一連の講義では、健康課題解決に向けたセルフケア能力やセルフマネジメント能力を高める関わり方や自己効力感を高めるための理論の理解、自立支援へとつなげる具体的な手法について理解を促した。また、地域住民が自立して生活していくための健康教育を学生がグループでテーマを設定し、パンフレットや記事、映像資料などの媒体を作成した。これらを Web 上のコンテンツとして公開した。
　次年度は、学生の媒体作成の途中段階で教員の指導を入れることで学生のグループワークをより円滑に進められるように工夫していきたい。

4）在宅看護学概論　3年次前期
(1) 担当教員　佐藤潤
(2) 教育内容
　日本の社会的背景から在宅看護の必要性を理解し、在宅看護の特徴、看護の継続に必要な基礎的知識、看護技術など対象者（個人・家族）の支援について学び、在宅療養を取り巻く現状の理解ができることを目標に講義を行った。
　講義では、在宅看護学の定義から在宅療養者の特徴や対象が本人とその家族であること、顕在的ニーズと潜在的ニーズに対応した訪問看護の特徴等について教授した。オンラインの Live 講義や繰り返し講義内容が確認できる VOD による講義を講義内容に応じて使い分けし、学生が学びやすいよう工夫をした。
　今年度は COVID-19 の影響で学外から現場の看護師をお招きすることが叶わなかったため、次年度はより現場の雰囲気を学生が感じられるような講義内容を検討していきたい。

5）在宅看護実践論Ⅰ　3年次後期
(1) 担当教員

佐藤潤、駒田真由子、嶋谷圭一、望月靖記、森岡千尋、今井啓二、仁科恵美子、酒井ひとみ、本宮喜美子、江村俊彦、真下貴久、西田壽代、菅原芳、鳥内亮平、田村佳祐、山口潔

(2) 教育内容

本演習では、安心安全な在宅ケアの継続と生活の質的向上を目指し、在宅療養環境と療養者・家族のニーズに応じた具体的な在宅ケアの看護実践の方法について学ぶことを目標に演習を展開した。

在宅酸素療法、人工呼吸療法、ALS 療養者のニーズとコミュニケーション支援、褥瘡予防、フットケア、訪問診療との連携、在宅人工呼吸療法、退院支援、在宅における感染症予防、在宅の看取り、災害時の危機管理における技術を教授した。

今年度は COVID-19 の影響で対面での演習時間を削減せざるを得なかったため、次年度は対面での演習時間を増加させ、在宅看護実践の手技をより定着できるように授業を展開していきたいと考える。

6) 在宅看護実践論Ⅱ　4 年次前期

(1) 担当教員　　佐藤潤、駒田真由子、嶋谷圭一、望月靖記

(2) 教育内容

安心安全な在宅ケアの継続と生活の質的向上を目指し、在宅療養環境と療養者・家族を支える地域包括ケアシステムと関係機関・職種との連携における看護実践の方法を学ぶことを目標に演習を展開した。

地域包括ケアシステムの中でのケアマネジメントと在宅看護過程の展開を中心に講義を行った。

次年度は地域ケア会議を含めた事例を展開させることで、在宅のケアマネジメントについてより深く学べるようにしていきたい。

7) 在宅看護学実習　4 年次前期

(1) 担当教員　　佐藤潤、駒田真由子、嶋谷圭一、望月靖記

(2) 教育内容

療養者・家族が安全に安心してその人らしい生活を営むために必要な保健・医療・福祉の連携や多職種との協働の実際を学び、地域包括ケアシステムの中の看護の役割と機能を考察することを目的として実習を行った。地域における療養者支援の実際から療養者・家族と療養環境に対する理解を深め、健康・生活上の課題とその看護方法について学ぶことも目指した。

今年度は COVID-19 の影響で臨地での実習が展開できなかったため、オンライン実習に振り替えて実施した。実習では、地域包括ケア演習、訪問看護体験演習、在宅看護過程展開演習の 3 つの演習を構成し、それぞれオンラインの利点を活かした演習を実施できた。

６－２．大学院看護学研究科

【高度実践看護コース】

1．教育方針

クリティカル領域における診療看護師（NP）の役割を理解し、専門性の高い、高度な実践力をもって役割を遂行できる能力を習得した診療看護師を育成することを目標としている。チーム医療の一員として患者の状況・病態を的確に把握し、自ら考え、判断し、安全性を確保した上で、必要な診療行為・ケアが確実に提供でき知識・技術・態度を習得する。今年度は、演習、実習の一部を、本コースの修了生（診療看護師：NP）で、臨床現場で活躍している診療看護師（NP）が分担し参加した。

2．科目

1）クリティカルＮＰ特論　1年次前期

(1) 担当教員

山西文子、岩本郁子、浦中桂一、武田純三、忠雅之、鈴木美穂、早坂奈美

(2) 教育内容

日本における診療看護師育成の経緯を理解し、法制上の現状を把握する。さらに、NP を導入している先進国、とくに米国における NP の現状等を把握するために、米国で実践活動をしている NP や NP と活動した経験をもつ医師等の講義を受けた。また、日本 NP 教育大学院協議会で実施している資格試験に合格し実践活動をしている診療看護師（NP）から実践活動等を紹介してもらい、日本における診療看護師の現状および課題等について理解を深めることができた。さらに、GW を通して、文献や資料から得た NP に関する情報をもとに、日本における診療看護師の役割、必要な知識・技術等について議論し、情報共有を図り、クリティカル領域の診療看護師（NP）を目指して 2 年間の修士課程で学ぶモチベーションを高めることができた。また、統合実習の前後にて特定行為に関する手順書を GW で作成し、医師も含めたスーパーバイズを受けた。診療看護師（NP）を取り巻く行政や各学会の動向について適時、学生に情報提供および指導内容に含めていく必要がある。２年次の統合実習で活用するため特定行為研修で必要な手順書作成をクラスで実施し、実習施設の臨床教授会で紹介し、実習が終了後に再度手順書を見直し修正をし、修了後に使用可能なように各施設に持ち帰れるように医師の指導を受けながら冊子を作成している。

2）人体構造機能論　1年次通年

(1) 担当教員

松本純夫、磯部陽、今西宣晶、小宇田智子

(2) 教育内容

診療看護師（NP）に必要な科学的根拠に基づく医学的な判断と問題解決能力、医療技術の発展に対応できる能力の基礎を身に着けるために、周術期、生命危機期などのクリティカル領域における病態生理、疾病の理解の基礎となる人体の機能や構造に関する基礎的知識を教授した。医学専門的な思考を統合し、特定の行為を行えるための能力を構築した。来年度も同様の内容で行う予定である。

3）クリティカル疾病特論　1年次前期

(1) 担当教員

大島久二、山西文子、浦中桂一、前島新史、小林佳郎、矢野尊啓、池上幸憲、吉川保、安富大祐、樅山幸彦、門松賢、浦上秀次郎、菊池真大、大石崇、山根章、小山田吉孝、中村芳樹、尾藤誠司、尾本健一郎、鈴木亮、森伸晃、岩田敏

(2) 教育内容

クリティカル領域において頻度の高い疾患について、医学的根拠に基づく判断能力と問題解決能力を修得するために、各疾病の病因、病態生理等の基礎的な知識を学んだ。とくに、呼吸器系、循環器系、中枢神経系、代謝機能に関連した代表的な疾病を取り上げ、医学的な思考を通して、患者の症状等から臨床推論できるプロセス、個々の患者にとって必要な診療行為を選択し、実施できる能力を修得することができた。具体的な授業展開は、グループ毎に課題（症例）を設定し、文献的な検討を行いながら、指導医から指導を受け、プレゼンテーションを行い、発表後に専門医から指導をうける形式で行った。オンライン授業となったが対面授業と大差なくインタラクティブな授業が展開できた。さらに学生の学修効果を高めるためには、事前学修、事後学修の徹底を図っていく必要がある。

4) 診察、診断学特論（包括的健康アセスメント） 1年次前期

(1) 担当教員

大島久二、山西文子、小野孝二、尾藤誠司、上野博則、樅山幸彦、栗原智宏、前島新史、渡邉清司、 長谷川栄寿、樋口順也、菊池真大

(2) 教育内容

患者の病態に対応した症状アセスメント，診察ができるための知識を習得することを目的にした科目である。オンライン授業では、診察、生理学的諸検査で得られた所見等を用いて、診断が確定できる能力を修得することができた。個々の患者に対応した的確な診察の方法、診断のために必要な臨床検査（血液データの解釈、X線、心電図など）の選択、検査結果の解釈、撮影から読影迄のプロセスと医師による読影法などを学び、診断のプロセス等を実際のデータ等を使用して理解を深めることができた。診断のための面接技術についても学ぶことができた。

5) フィジカルアセスメント学演習　1年次前期

(1) 担当教員

浦中桂一、早坂奈美、小山田吉孝、池上幸憲、安富大祐、鄭東孝、森岡秀夫、忠雅之

(2) 教育内容

高度実践看護師がクリティカル領域にある患者の健康問題を解決する上で必要とされ、身体的・包括な機能評価のためフィジカルイグザミネーションについて、学生がインストラクターとなってグループ学習を展開し、GW の検討結果をプレゼンテーションし、ディスカッションするアクティブラーニングをオンライン授業にて展開した。具体的には視診・聴診・打診・触診などの各部位に共通する診察方法について教授し、2年次に行われる OSCE 試験の前提となる系統的なフィジカルイグザミネーション技術の座学での知識修得に至っている。演習後半は、医師による事例を用いた対面での演習を取り入れており、医学的根拠に基づくフィジカルアセスメントのプロセスや実践的なフィジカルイグザミネーション技術について修得できている。来年度は前半のまとめにて臨床推論の要素をより多く取り入れ

て身体診察する時間を設けて、実践に則した演習とする計画を入れる。

6）臨床推論　１年次前期

(1) 担当教員

大島久二、浦中桂一、尾藤誠司、鄭東孝、山下博、鈴木亮、南修司郎、安富大祐、太田慧、栗原智宏、矢野尊啓、森岡秀夫、樋山光教、吉田哲也、野田徹、込山修、斉藤史郎

(2) 教育内容

クリティカル領域で遭遇する症状や状態に応じた臨床推論ができるよう、その過程を学び、それを裏付けるためのフィジカルアセスメント・検査を行い、症状に応じた的確な判断・臨床推論ができるための知識・技術を習得することが主である。そのために、臨床教授である講師陣に前提となる考え方を指導頂く。その後、クリティカル領域で遭遇する 17 症状に対する臨床推論の実際について、事例を用いて 1 症状 2 コマ使用し、専門医からの指導を受け、医師の思考過程についても理解を深める。時間的には最も多い時間をかけて学修するように臨床教授の医師も積極的に協力してもらい、実習時に繋がるような指導をしてもらっている。

7）診断のためのＮＰ実践演習　１年次後期

(1) 担当教員

大島久二、山西文子、浦中桂一、岩本郁子、早坂奈美、樋口順也、鈴木亮、太田慧、鄭東孝、尾藤誠司、安富大祐、池上幸憲、栗原智宏、森岡秀夫、早川隆宣、近藤久禎

(2) 教育内容

クリティカル領域において対応する可能性の高い患者のフィジカルアセスメントができ、必要とされる臨床検査の選択を安全かつ確実に実効できるための知識、技術を修得することを目的とした科目である。クリティカル領域で遭遇する機会の多い特徴的な症状について、さまざまな視点から入手したデータを活用した診察、診断のプロセスを実践的に学ぶことができた。また、診断のために必要な検査等に対するインフォームドコンセントの支援ができる能力を習得することができた。超音波検査、ＣＴ、ＭＲＩ、ＰＥＴ等による画像診断の選択、読影のスキルを習得するために東京医療センターの放射線部門において、グループ(5～6 名で構成)ごとに実際の患者さんの診断のプロセスを見学し、画像診断の進め方について専門医から説明を受けて、画像診断に対する理解を深めることができた。また、クリティカル領域の特徴的な症状のある患者の実際の画像を用いて画像診断の進め方を学ぶことができた。さらにトリアージの概念、機能、方法について、模擬患者による演習を通して理解することができた。学生たちが診療行為(特に省令に定められた特定行為)毎の手順書を作成し、臨床実習の際の資料として活用している。学生が作成した手順書に対して、統合実習の際の指導医師の理解も深まりつつある。

8）臨床薬理学特論　１年次前期

(1) 担当教員

大島久二、浦中桂一、廣田孝司、青山隆夫、大島信治、池上幸憲、吉川保、森伸晃

(2) 教育内容

高度実践看護師として診断に基づく薬物療法を安全に、かつ効果的に進められるよう基本的な知識を修得することが重要である。そのために、本科目では薬物動態の基礎を理解する。さらに、クリティカル領域で使用頻度の高い薬物療法について確認し、各種薬物と生体との反応機序、薬物の効果に個人差が生じる要因等について理解し、安全な治療を進めるために必要な知識を身に付けることを目標とした。外部の専門講師による講義、薬事法を含む薬物の安全管理と処方について理解を深め、更に、クリティカル領域における疾病に対して用いられる薬物の理解については、臨床現場の専門医から指導頂いた。非常に難しい科目で学生には苦手意識が見られるが、第一段階として動機づけはされたので、今後は各学生の個人学習に係っている。

9）治療のためのＮＰ特論　１年次後期

(1) 担当教員

大島久二、浦中桂一、青山康彦、吉川保、川口義樹、大石崇、小山田吉孝、中村芳樹、大迫茂登彦、石志紘、矢野尊啓、尾藤誠司

(2) 教育内容

クリティカル領域の患者に対する治療法およびその適応について科学的根拠に基づいて理解する科目である。治療の生体へのメリット、デメリットを理解し、治療の立案、変更、終了などの判断が的確に実行できるための知識を修得することができた。消化器系手術、呼吸器系手術、脳の手術、心・大血管系の手術を取り上げ、手技に関する基本的事項、輸血、感染予防などを専門医から直接指導を受けることができた。

10）治療のためのＮＰ実践演習　１年次後期

(1) 担当教員

大島久二、山西文子、浦中桂一、岩本郁子、早坂奈美、池上幸憲、小井土雄一、佐々木毅、正岡博幸、木下貴之、森伸晃、太田慧、宮田知恵子、小山田吉孝、吉川保、栗原智宏、落合博子、浦上秀次郎、大石崇、川口義樹、鄭東孝、安富大祐、鈴木亮、森岡秀夫、門松賢、斉藤史郎、忠雅之、青木美絵、森泉元

(2) 教育内容

クリティカル領域の患者に適用する治療法、治療技術ついて演習を通して理解する。クリティカル領域において遭遇する機会の多い事例を取り上げ、選択した治療法の科学的な根拠を理解し、患者への説明と、患者の同意のプロセス、選択した治療を的確に実行できるための技術を修得した。また、治療の際の診療看護師としての役割と限界を認識することの重要性を学んだ。救急・重症患者の管理方法、集中治療の管理方法、がん化学療法とペインコントロールの方法、人工呼吸器・気管挿管・抜管・縫合・圧迫止血・経腸栄養・中心静脈ライン確保・褥瘡の治療方法などの処置等について、適用する目的、手順を、演習を通して学んだ。さらに、臨床で使用されている各種ガイドラインの活用方法や各治療法のメリット・デメリット、治療に伴う副作用などについての理解を深めた。本科目は、省令に基づく特定行為研修の時間数を確保する必要があるため１コマあたりの時間を 120 時間としている。クリティカル領域で頻度多く遭遇する疾病に対する薬物療法について事例を設定し、設定した事例に対しての実際の処方、課題などを学生が分担して検討し発表、指導医から指導を

受けるという方法で学びを深めた。さらに本科目のまとめとして、総合演習を設定し、クリティカル領域で頻繁に遭遇する典型的な事例を設定して総合的なシミュレーショントレーニングを実施した。

11）統合演習　2年次前期

(1) 担当教員

浦中桂一、山西文子、岩本郁子、早坂奈美、鈴木亮、太田慧、吉田心慈、森川日出男、筑井奈々子、冷水育、中村英樹、石渡智子、忠雅之、高以良仁

(2) 教育内容

救急外来、内科外来、一般病棟における診療看護師（NP）としての役割や臨床推論を活用した患者の病態や必要な検査・治療について考えることができることをねらいとした。これまでの看護経験と1年間学修してきた医学知識を統合し、外傷事例、心窩部痛事例、呼吸器疾患事例を用い、リーダーシップ、メンバーシップをとりながらチームパフォーマンスが最大限に機能できる基本的能力を養う内容とした。シミュレーション教育の指導者研修を修了した診療看護師（NP）が昨年度に引き続き、Basic、Advance の計 8 事例を洗練し、本年度は 1 日間で学生全員がこれらのシナリオを用いたシミュレーショントレーニングを経験した。学生には外傷初期診療ガイドライン、Team STEPPS 等について事前学習を課し、事前講義を実施した。シミュレーション教育について理解を深めることでスムーズにシミュレーションに参加できるよう工夫した。シミュレーション後は診療看護師（NP）がデブリーフィングを実施し、学生が客観的に自己洞察できる機会を設けた。学生評価は、事後課題のレポートにて行った。今後控えている OSCE 試験や統合実習の良い動機づけとなった。

12）統合実習　2年次通年

(1) 担当教員

大島久二、山西文子、浦中桂一、岩本郁子、早坂奈美、田中留伊、東京医療センター・災害医療センター・東京病院の臨床教授、JNP 実習指導者他

(2) 教育内容

2年次7月から12月中旬まで約6ヶ月間（一人あたり 17 週間）、国立病院機構東京医療センター、災害医療センター、東京病院の3施設において、救命救急センター、総合内科、外科系病棟、手術室、麻酔科の各診療科をローテーションし、計 17 週の実習を行った。実習では、実習指導医の指導のもとで、患者を受け持ち、患者の診察・診断、治療の一連のプロセスを経験した。1年次に講義、演習を通して学んだ知識と技術を統合し、チーム医療の一員としての診療看護師の役割を意識しながら、実習に取り組んだ。学生が作成した 38 の特定行為の手順書を施設に提示し、省令に定められている 38 の特定行為の実践経験を積み重ねるなど、積極的に取り組んだ。臨床指導医からの実習の評価も高く、全員が無事実習を修了することができた。大学の実習指導担当教員は、隔月1回検討会を開催し、実習を円滑に進められる環境を整える努力をしている。実習のまとめとして経験した事例を中心にした発表会を実施した。統合実習の開始前、および終了後に本学およびオンライン形式において、計4回の臨床教授会を開催し、本学の教員も参加し、意見交換を行った。

13）コンサルテーション・インフォームドコンセント特論　1年次後期

(1) 担当教員

大島久二、山西文子、尾藤誠司、木下孝之、岩田敏、矢野尊啓

(2) 教育内容

医療におけるインフォームドコンセントについて理解し、診察で得られた所見、画像診断やデータ分に基づく診断内容について、患者および患者の家族の状況に応じて分かりやすく説明できるように、具体的事例を取り上げて、検討し、その結果を発表し討議を行った。さらに看護におけるコンサルテーションの基本理論とインフォームドコンセントとの関連について考察を実施した。

14）チーム医療とスキルミックス　1年次前期

(1) 担当教員

田中留伊、中村裕美、矢野尊啓、小川千晶、眞隆一、福長暖奈、中村香代、白戸ゆり

(2) 教育内容

チーム医療におけるスキルミックスの理解を深め、チーム医療のあり方を探りながら、役割分担、協働のあり方を見つめ直し、これからのチーム医療を探求的に学ぶことをねらいとして授業を実施した。講義は各医療職の役割について理解が深まるよう、できる限り多職種の講師から情報提供を頂き、意見交換が図れるように講義内容を工夫した。また、今年度は全ての講義がオンライン講義であったが、自らが経験したチーム医療の現状と対比しながら思考を深められるようグループワークを行い、全体討議を実施した。これにより、院生は自身の活動を振り返り、今後の新しいチーム医療のあり方や診療看護師に期待される役割等について考え、課題を明確化する機会となった。しかし、院生の気づきや学習の深まり、学習成果を言語化あるいは文章化することに関しては個人差がみられた。授業評価や院生の意見・感想を踏まえ、学習効果の維持・向上が図れるよう授業内容、外部講師の選定等を工夫し授業展開することが課題と考える。

15）医療安全特論　1年次後期

(1) 担当教員

大島久二、山西文子、新木一弘、岩田敏、松浦友一、福元大介

(2) 教育内容

医療事故等は、日常的に起こる可能性があることを認識し、事故の発生を防止し、患者の安全が最優 先事項であることを理解することができた。医療事故を防止するためには、医師の指示を批判的に思考する力、危険を回避するために医療行為の優先度を決定する力、患者に不利益な状況が生じている場合に対象に情報提供できる力、対象が受ける治療や処置に伴う有効性や危険性を患者が分かるように 説明できる力などを習得することが必要であることを学んだ。GW を通して日本で実際にあった特定行為に係る事例を取り上げ、既存の理論を使用して分析し、主要な原因や関連する要因、解決までのプロセスについて検討し、その結果を発表し、全体で討議行う形式で進め、事故の発生を防止するためのさまざまな方策を修得することができた。

16）政策医療特論　1年次前期

(1) 担当教員

大島久二、山西文子、松本純夫、加我君孝、女屋光基、石原傳幸、當間重人

(2) 教育内容

民間病院に任せるだけでは不十分と考えられ、国が医療政策を担うべき医療であると定められている「政策医療」(19 の医療分野) について、理解を深めることができた。政策医療を担っている国立病院機 構の管理者から、政策医療に関する歴史的経緯と現状、課題、将来展望等の講義を受け、政策医療の対象になっている患者に遭遇した場合の診療看護師として対応について学ぶことができた。

17) 医療倫理特論　1 年次前期

(1) 担当教員

小野孝二、矢野尊啓

(2) 教育内容

ICT 講義と事例検討の発表会を実施した。講義では、看護に関する制度や倫理を学び、専門職としての考えを明確にし、看護専門職としての倫理の原則、意思決定のための判断基準について学び、院生の経験を踏まえて分析的に思考した。倫理の理念 から説き起こし、倫理的葛藤が生じるプロセス、倫理的意思決定のステップなどについて臨床で遭遇しうる倫理的問題を抽出しながら、事例検討をおこなった。事例検討の発表会では、価値葛藤が生じる事例における倫理的判断について意見交換し、学習を深めた。

18) ラボラトリー・メソッド特論　1 年次前期

(1) 担当教員

小宇田智子、小野孝二

(2) 教育内容

ヒトの健康像を理解するうえで必要な医学・生物学の知識を得るための手法を指導した。臨床現場で使われている手法や最新の科学研究で使われている手法を用いて、個体・組織・遺伝子および分子レベルでの生命現象について理解できるような授業の工夫をした。来年度も同様の内容で行う予定である。

19) 保健医療福祉システム特論　1 年次後期

(1) 担当教員

金子あけみ、清水美智夫（非常勤講師）

(2) 教育内容

本科目は、保健医療福祉分野において、看護職が果たすべき役割を理解するために保健医療福祉に係る制度及び政策決定プロセスについて基礎的な知識を深めること及び政策医療におけるネットワーク、連携を含め、新たなシステム構築に向けてのネットワークを創出できるようにすることを目的としている。本大学院の学生には、専門性の高い看護実践能力に加え、保健医療福祉システムの現状を看護の視点から見つめ、健康に関わる様々なニーズを掘り起こし、関連する諸法規・政策的側面から変革につなげる知識を習得することが求められよう。このため、講義では社会保障制度全般、政策決定プロセスに関する基礎的知識等を教授した上で、各個人に最も関心のあるテーマでの政策提言を課題として課した。様々なバックグラウンドを持つ学生ゆえに、多様なテーマでの政策提言を行うことができたと考え

る。発表では、積極的な質疑応答によって学習内容を深めるとともに相互共有が図られた。
来年度も引き続き、保健医療福祉システムや政策課題を批判的に吟味する能力を育成できるよう支援していきたいと考える。

20）看護教育学特論　1年次後期

(1) 担当教員

岩本郁、浦中桂一

(2) 教育内容

看護の人材育成が質の高い看護の基礎をなすという観点から、①看護教育における教育的機能の理解、②看護教育の歴史的変遷と看護教育制度からの課題の考察、③高度実践看護職としての役割を果たすために必要な教育原理と教育方法の理解を目的としている。①、②は主として講義、③は学生が20分の授業案を作成し模擬授業の体験を通して学習するよう設定している。シミュレーション教育など教育方法に関する情報提供や診療看護師（NP）による教育実践の現状と課題に関し各1コマを設定した。本科目は選択科目であり、本年度は高度実践看護コース5名、高度実践助産コース7名が選択した。今年度の模擬授業は各コースの特徴が反映された多様なテーマ、対象者、内容で方法に関しての工夫がみられた。模擬授業後のリフレクション時の意見交換も活発で教育に関する興味・関心の高さが感じられ、最終レポートも自己の模擬授業に関し十分な評価が行われていた。模擬授業後のディスカッションの時間の確保が次年度にむけての課題である。

21）看護管理学特論　1年次前期

(1) 担当教員

竹内朋子、松本和史

(2) 教育内容

看護管理に必要な基礎知識を学習し、看護管理者の役割と機能を理解することを目標とした。カリキュラムを2部構成とし、第1部では看護組織のマネジメント、第2部では看護組織における人的資源のマネジメントについて扱った。看護管理学を体系的に学習するのが初めてである履修生が多かったため、履修生のこれまでの就業経験を学習教材として活用できるように工夫した。所属組織や実在のリーダーを分析して看護組織としての強みや課題を抽出したり、看護管理者としての自己の資質を考察したりする課題にも取り組んだ。本科目を通して、診療看護師として医療チームをマネジメントするうえで求められる看護管理能力の基礎を修得できていた。

22）研究特論　1年次前期

(1) 担当教員

大島久二、田中留伊、朝澤恭子、小野孝二、佐藤潤、小宇田智子

(2) 教育内容

看護研究における初歩的な研究テーマの設定法、データ収集法、解析法、倫理上の配慮などについて具体例を示しながら解説した。本来の研究はどういうものであるかを教授し、また、研究成果を学会あるいは学術誌に発表するためのプレゼンテーションおよび論文作

成に関する基本的な手法について習得できた。

23）原著論文購読　1年次前期

(1) 担当教員

明石眞言、田中留伊、佐藤潤、小宇田智子

(2) 教育内容

学術論文を読むための基本的な知識・技術を指導した。インターネット上のリソース等を活用しながら、医療・看護分野の論文を読む力および論理的思考力を養い、専門分野に関する情報収集能力を高められるような授業展開を工夫した。その上で、実際にクリティカル領域に関係した和文・英文論文を読み、抄読会を行った。来年度も同様の内容で行う予定である。

24）課題研究　1年次、2年次通年

(1) 担当教員

大島久二、田中留伊、平出美栄子、佐藤潤、その他全教員

(2) 教育内容

一人ひとりの院生が、個別の研究課題を設定し、関連情報の収集、研究計画の立案、研究実施、研究成果の発表に至る、研究全般にわたるプロセスを担当教員の助言・指導を受けながら実施した。論文の執筆と学会を模した形式の発表会においては抄録やスライドの準備を行い、成果を論文としてまとめる力、プレゼンテーション能力を習得できた。

【高度実践助産コース】（助産師免許プログラム・助産師プログラム）

1．教育方針

助産高度実践コースは、女性とその家族の生涯にわたる健康を支援できる自律した助産師の育成を目的とし、特に周産期医療における病院内の院内助産システムと地域における開業助産所に対応できる専門性の高い助産師の育成を目指した教育である。助産師免許取得プログラムでは、助産師免許取得に向けた基礎的な知識・技術からハイリスク母児への対応、医療施設や地域における助産実践など幅広い場所や様々な問題を抱える母子への助産ケアを可能にする助産教育を目指している。助産師プログラムでは、学生の興味や学ぶ意欲を重視した実習や演習を取り入れ、より高度な助産実践や将来のリーダー育成に向けた教育を目指している。

2．科目

1）助産学概論　1年次前期

(1) 担当教員

平出美栄子、加藤知子、宮崎文子、草間朋子

(2) 教育内容

本講義の目的は、助産師のアイデンティテーを獲得していく動機とする。助産の基本概念と歴史的変遷から概説し、女性を取り巻く社会背景を認識し、助産師の責務と社会変化の中で期待される役割の重要性、さらに助産師活動に取り組む姿勢と魅力、それらを支えるために必要な看護政策も含め系統的に教授した。具体的内容は、助産の基本理念、助産とは、助産歴史とこれからの課題、助産学を構成する理論、助産師教育制度と課題、リプロダクティ

ブ・ヘルス/ライツと今日的課題、母子保健の動向と課題、医療政策・看護政策について講義とディスカッションを織り交ぜながら展開した。来年度も最新情報を取り込みながら講義を工夫したい。

2）生殖機能学（正常・異常）　1年次前期

(1) 担当教員

加藤知子、山下博、　大野暁子、村上功、大木慎也、安達将隆

(2) 教育内容

女性生殖器の解剖・生理、性周期とその調節機構、配偶子の形成、受胎メカニズム 妊娠の成立から出産までの生殖生理を助産実践が生理学的根拠をもって行えるよう教授した。また、妊婦期については医師の視点から異常を中心に、さらに女性のライフサイクルを通じた性と生殖の健康問題、性と生殖に関する疾患及び異常（婦人科疾患）に関する基礎的な知識を持ってもらうため教授した。婦人科疾患については、月経異常、子宮内膜症、更年期等、外来でよくある婦人科疾患の理解を深める講義内容とした。今年度は、コロナ感染症対策のためオンラインにて講義を実施した。学生の理解が深まるように動画や映像を取り入れ工夫したことは、学生からも理解しやすく好評であった。次年度は、助産師国家試験にて出題が増加している妊娠期の異常と婦人科疾患をより理解ができるように教授していきたい。

3）助産薬理学特論　1年次後期

(1) 担当教員

加藤知子、八鍬奈穂、中島研、伊藤直樹

(2) 教育内容

薬理学の総論および基礎（作用機序、代謝経路、半減期等）、また妊産褥婦を対象とした和漢薬物の効用、副作用、併用禁忌、拮抗作用、投与方法、服用方法等について特に漢方を含めて解説した。妊婦や授乳婦における催奇形性、胎児毒性、授乳中の安全性について薬物使用上の管理および留意点についても教授した。新生児における発達薬理の講義、また薬剤情報の収集方法と読み方および薬剤の取り扱い（麻薬・向精神薬など）と、薬剤の処方／投与と倫理を講義し、薬物治療に際して求められる助産師としての倫理性とは何かについて学習させた。妊産褥婦に頻用される治療薬の理解に中心をおいてきたが、正常な妊婦や授乳婦が薬局で手軽に購入することができる薬剤やサプリメントの使用方法や注意点等について、講義内容を広げていく。

4）助産栄養学特論　1年次前期

(1) 担当教員

加藤知子、北島幸枝、デッケルト博子

(2) 教育内容

健康な妊娠・出産・育児が行える女性の心と身体作りのための食事のあり方について、基礎知識と具体的な栄養管理や食事指導方法の習得、献立の作成（立案）ができることを学習目標とした。出産適齢期の食生活の現状と問題点を通して、健康な女性の身体作りに必要な栄養管理に関して講義した。さらに、日本人の食事摂取基準を基本に、妊婦・授乳婦におけ

る必要栄養素量の考え方や食事調査等からの栄養アセスメントと栄養管理方法、乳汁栄養の栄養上の特性と問題点、補完食の進め方等の講義を行った。また、後半は昨年度に課題であった、臨床現場での保健指導を念頭に、具体的な妊産婦指導に役立つように調理実習をとりいれ。このことから、学生は実習中に具体的な離乳食や減塩食のイメージができ、保健指導に活用することができた。次年度も本年度を踏襲して実践的な授業を展開する。

5）家族社会学特論　1年次後期

(1) 担当教員

平出美栄子、松島紀子

(2) 教育内容

家族の様々な諸相を理解するために、家族社会学についての基礎的な概念や内容を学ぶ。そして、現代の家族問題への理解と社会的対応について整理し、共働き家族、高齢者介護、児童虐待、ドメスティックバイオレンスなどの現代の家族問題について理解を深めた。そのうえで2020年度は、リプロダクティブヘルス・ライツに影響を及ぼす現代社会の課題やジェンダーに関連し、ジェンダー格差が健康にもたらす影響ついて学び、家族社会学の視点から人々をエンパワーメントする方策についてオンラインにて学習を試みた。

6）乳幼児の成長発達論　1年次後期

(1) 担当教員

中島美津子、玄順烈

(2) 教育内容

講義内容としては、乳幼児期にある子どもの成長・発達および生活環境を理解し、子どもと家族の健康を増進するための諸理論を探求する。さらに、子どもとその家族を理解することで実際的な援助における適用理論と課題を探求することを目的として講義を予定していたが、本年度は受講希望者がなく開口していない。

7）助産フィジカルアセスメント学演習　1年次前期

(1) 担当教員

加藤知子、忠雅之、服部純尚、松井哲、平出美栄子、田辺洋子、デッケルト博子

(2) 教育内容

妊娠・出産・産褥期を通して変化する女性の身体を理解する為に、その変化が正常範囲なのか異常を予兆するサインなのかを判断する助産診断能力を育成することを目標とした。これには、問診、視診、聴診、打診、触診、五感を駆使したフィジカルイグザミネーションの技術と、その得られた情報の解釈について講義と演習を駆使した。周産期の女性の全身の包括的アセスメントができ、正常異常の判断ができる助産実践能力の強化に努めた。
また周産期のみならず、非妊女性のライフサイクルを通した健康を推進し異常を予防するための基礎的なアセスメントができる全身のフィジカルイグザミネーションの技術を習得する講義・演習の展開を行った。また、近年助産師が乳がんを発見することも求められている現状を加味して、乳がんについての基本的な知識についての講義・演習を行った。

8）助産臨床推論　1年次後期

(1) 担当教員

加藤知子、梅原永能

(2) 教育内容

助産師として適切な時期に適切な判断-助産診断力-の修得と向上を目的として臨床推論の知識や思考プロセスについて講義と演習を行った。臨床推論の基本的な概念について講義し、対象の症状・訴えから診断を導き出すための臨床推論の思考プロセスの理解・習得を意図して妊娠期の初期から産褥期によくある主訴を示し、ディスカッションや実践演習を実施した。次年度も今年度の進め方を踏襲して学生の理解度を見ながら検討する。

9）妊娠期診断・技術学　1年次通年

(1) 担当教員

加藤知子、馬場一憲、草間朋子、田舎中真由美、平出美栄子、田辺洋子、小嶋奈都子、デッケルト博子

(2) 教育内容

妊娠期の心身の生理的変化と妊娠期に起こりやすい異常、胎児の成長発達、妊婦とその家族へのケアと支援について講義した。妊娠期に必要な保健指導、出産準備教育、基本的な助産技術については、講義と演習を実施した。特に妊娠期からの骨盤ケアの方法を理学療法士の先生の講義を取り入れて、演習を通して実際の支援方法を学ぶことができた。妊娠期の集団指導を計画立案から実施まで行った。実習に向けて必要な技術の確認を目的として、妊婦、褥婦・新生児の観察に必要な技術チェックを行った。これを行うことで、学生の練習につながり最終的に技術の確認だけではなく技術の向上につながった。妊娠期の集団指導としての妊婦を対象にした教室を開催できなかったため、来年度はオンラインでの教室運営等を実施できるように検討していく。

10）分娩期診断・技術学　1年次通年

(1) 担当教員

平出美栄子、服部純尚、加藤知子、田辺洋子、デッケルト博子

(2) 教育内容

分娩期における女性と胎児の生理的プロセスと生理的状態からの逸脱を診断する知識を習得すること、分娩介助法と助産ケアの技術を習得する目的で、前出の講師陣を構成し、講義・演習を実施した。加えて、分娩期の女性の心理的変化について学び、女性に寄り添う助産実践力の向上に力を注ぎ、分娩期における助産師の役割について考察できるよう講義・演習を展開した。さらに、分娩期の女性と胎児の異常とその原因・要因、治療、管理について学び、その援助および予防に向けた助産ケアの実践について考える力を養う講義を行った。COVID－19の影響によって、分娩技術演習を十分実施することが困難であった。従来とは異なる学習スタイルであったが、工夫として、動画による繰り返しの学習、分娩介助キットを各学生に配布、分娩介助手順書の作成などで補強を試みた。

分娩介助技術は、主に仰臥位分娩の介助講義・演習が展開されていることが中心であるが、高度実践助産を目標に、後期セメスターでは、フリースタイル分娩介助の講義・技術演習を

取り入れ、未来に求められる助産師の技術講義・演習を展開した。

11）産褥期診断・技術学　１年次通年

(1) 担当教員

平出美栄子、田辺洋子、加藤知子、デッケルト博子、田舎中真由美

(2) 教育内容

産褥期女性の身体的・心理的・社会的変化に応じた助産診断とケアを行うための基本的な知識と技術についての講義、演習を行った。産褥期に必要な保健指導については、指導案を作成し、学生同士で模擬指導を実施した。助産診断については事例を用いて助産過程の展開を行い、個人指導とグループワークを通して産褥期の助産診断の理解を深められるように指導した。特に 2020 年度では、近年問題とされている骨盤ケアについての講義を加え、産褥期の助産診断と助産ケア・保健指導の内容の強化を行った。母乳育児支援としては、宮下助産院を訪問し乳房管理の実際を見学しながら講義を聞いた。さらに、別科目になるが、地域助産活動論の中において母乳管理・マッサージを主な事業とする開業助産院からの講師によって、オケタニ式乳房管理法、ラクテーションコンサルタントの講義を組み入れ、それぞれの特徴を知ることで実習に活かせるように講義、演習を行い、産褥期に活用できる様に試みた。次年度は授業の中でより具体的な産褥期の女性のイメージ持ち、ケアを検討できるように講義や演習を充実させていきたい。

12）新生児期診断・技術学　１年次通年

(1) 担当教員

加藤知子、加部一彦、藤田恵理子

(2) 教育内容

新生児の生理について理解を深めるため、体温、栄養、電解質、黄疸、吸収と循環、発育、生理機能・運動機能・精神機能の発達について講義を実施した。新生児のアセスメントと助産診断については、出生直後の児の健康状態とその後の胎外生活への適応過程のリスクアセスメントを行うため、胎児の健康状態をアセスメントする情報であるモニタリングの講義をこの科目で実施した。出生後の新生児の生理的変化と胎外生活への適応状態の助産診断の修得を目標とし助産過程の演習を行った。この演習では、現時点での助産診断だけではなく、今後、新生児がどのような経過をとるかのリスクについての経過診断について理解できることを意図した演習を行った。新生児の観察と計測技術については、出生直後の新生児の計測方法、出生直後の全身観察の技術演習を行った。1 年次後期に予定している NCPR の A コース受講に向けた講義と演習を行った。来年度は、助産師国家試験で出題が増加傾向にある新生児の異常のケアについての講義・演習を充実させていく。

13）助産診断・技術学特論　1 年次通年

(1) 担当教員

平出美栄子、和田誠司、小松久人、岡田研吉、酒井涼、たつのゆりこ、臼井いづみ、高村ゆ希、飯野幸峰、加藤知子、デッケルト博子

(2) 教育内容

医学と代替医療を含めた、応用的な助産診断と助産ケアを可能にする知識と技術の習得を目標として、以下の項目についてオムニバスで講義と演習を実施した。①超音波検査の原理と操作方法の基礎、胎児計測の演習、②会陰縫合の講義と演習、③チームステップス、④妊産褥婦への漢方、鍼灸整体、アロマテラピー、アーユルヴェーダなどの東洋医学⑤災害時の助産師の役割とその実践である。この科目では、助産師免許取得プログラムでは、新生児蘇生法 A コースのライセンス取得、助産師プログラムでは、新生児蘇生法 A コースのインストラクター取得に向けアシスタントとして、それぞれコースに参加できるよう調整を図った。次年度も継続していきたい。

14）ウィメンズヘルス特論　１年次前期

(1) 担当教員

平出美栄子、齋藤益子、片岡弥恵子、早乙女智子、朝澤恭子

(2) 教育内容

セクシュアリティ、リプロダクティブ・ヘルス、女性のライフサイクルに沿った健康問題に対する助産ケアに必要な基礎的能力を養い、女性の健康を支援するための研究・実践への理解を深め、ウィメンズヘルスにおける助産ケアを追究することを目標に展開した。思春期、成熟期、更年期にみられる健康問題、受胎調節の実地指導に必要な原理・知識・技術に関して、講義だけではなく、院生のプレゼンテーションとディスカッションの形式で学習を進めた。女性の健康に影響を及ぼす促進要因と阻害要因および助産ケアの理解を深めた。
次年度もプレゼンテーションの形式を継続し、活発なディスカッションができるよう構成する。

15）ウィメンズヘルス演習　１年次通年

(1) 担当教員

平出美栄子、齋藤益子、朝澤恭子、加藤知子、田辺洋子、デッケルト博子、小嶋奈都子、鬼澤宏美

(2) 教育内容

思春期、成熟期、更年期、老年期、周産期のいずれか特定のライフステージにおいてヘルスケアニーズをもつ女性の特徴を分析し、ケアモデルを検討することを目標に展開した。また、思春期を対象に性教育指導案を作成し、学内演習後に都内の中学生を対象にグループ指導を行った。中学生に直接指導できたことは、対象の反応を見ながら進めることができ、有用であった。次年度も中学生への性教育をはじめ、女性のライフサイクルに合わせた健康教育プログラムの作成と実践を経験できるように進めていく。

16）不妊症・遺伝看護学特論　１年次前期

(1) 担当教員

朝澤恭子、小澤伸晃

(2) 教育内容

遺伝看護の対象となる家族性腫瘍、先天異常、神経難病などの患者および生殖医療の対象者と家族に対するアセスメントやケアを理解することを前提に展開した。主な遺伝性疾患

の遺伝形式、クライエントが抱える課題と必要なケア、遺伝的な課題を持つ人々へのアセスメントの視点、不妊症の検査および治療、クライエントが抱える課題と必要なケアに関して講義を進めた。また、不妊治療を受ける人々へのアセスメントの視点を理解できるよう展開した。今年度はCovid-19の感染防止対策としてオンラインで実施した。

17）国際助産学特論　1年次後期

(1) 担当教員

平出美栄子、加藤知子、田辺洋子、デッケルト博子、佐山理絵、横川峰子

(2) 教育内容

国際社会におけるリプロダクティブヘルス・ライツ（Reproductive Health and Rights）の現状と課題を知り、国際保健活動など国際支援の現状を理解する。また、世界の出産事情や助産師活動を理解し、わが国の助産師活動における異文化的な視点を強化し、国際的な助産活動・助産ケアについて考えることを目標にしていたが、開講に至らなかった。

18）助産管理学特論　1年次前期

(1) 担当教員

平出美栄子、川岸真由美、野町寧都、宮﨑文子、筒井志保、宮下美代子

(2) 教育内容

本講義の目的は、助産師の働く場の病院をはじめとする診療所、助産所等の組織において「経営」という広い枠組みの中で「質の高い助産の提供」と「経営効率」の両立においていかにしたら成果を上げられるかを検討し、助産管理の在り方を考察する。具体的には組織管理における基本概念とその変遷から概説し、マネジメントの基本的考え方をドラッカー理論から学び、施設助産管理への応用を試みる講義である。また、マーケテング理論、医療経済、関連法規及び周産期医療システム、目標管理、総合病院での助産師外来と院内助産（院内助産システム）の実際について、講義及びディスカッション形式で進めた。次年度も学生が主体的に学べるよう授業を計画していきたい。

19）地域助産活動論　1年次後期

(1) 担当教員

平出美栄子、宮﨑文子、土屋清志、宮下美代子、氷見知子

(2) 教育内容

助産師の開業権を生かし母子および家族のニーズに沿った地域医療・地域助産活動について講義を展開した。特に実際の助産所の経営管理、財務管理（損益分岐点分析と演習）、マーケテング理論と経営戦略について学び、これらを踏まえて助産所開業計画を立案し、効果的な医療連携システム（他職種含む）のあり方を検討・考察した。また、助産業務の安全性（判断基準と救急支援システム）、医療事故と助産師（関連法規との関連）について理解を深めた。本講義の特徴としては、満足度の高い「いいお産」の実現のために、助産所で取り組まれているフリースタイル分娩の実践力を身につけるために演習として組み込んでいるこのことは、助産所実習に役立つことが出来ている。また、多岐にわたる助産師の活動について体験的に学ぶ機会を設定した。助産師の開業権を活かした地域での母乳開業助産師

を講師に招き（オケタニ式乳房管理法）の講義・演習を組み入れ、開業の特徴を知ることで実習に活かせるように指導した。

20）地域母子保健学特論　１年次前期

(1) 担当教員

平出美栄子、福島富士子、佐藤潤、永森久美子、デッケルト博子

(2) 教育内容

地域母子保健の今日的課題について考え、地域で助産師に期待される役割、地域母子保健の活動の実際や産後ケアセンターの活動について講義を行った。学生が考える日本社会における母子保健の今日的課題の現状とこれを解決するために必要だと思われる方策、助産師が地域で果たすべき役割について、討論し学習を深めた。特に、地域母子保健事業において新生児訪問事業は助産師が担う重要な事業である。そのため今年度は、実際の自宅訪問を再現できる演習方法を取り入れ、訪問時の観察、計測などを実施した。

21）助産学基礎実習　１年次前期

(1) 担当教員

平出美栄子、加藤知子、田辺洋子、デッケルト博子、杜稀衣

(2) 教育内容

国立病院機構東京医療センター、国立病院機構相模原病院、国立病院埼玉病院、東邦大学医療センター大森病院の 4 施設での実習を予定していたが、今年度は、COVID－19 の影響によって、一部施設での実習が中止となった。実施可能となった施設では、正常な妊娠・分娩・産褥・新生児期の経過をたどる対象の助産診断、分娩介助の実施、助産過程の展開を目標とした。妊婦健診、分娩介助、産褥期受け持ちは、感染対策を徹底し、可能な範囲での実習とした。夜間のオンコール実習が可能な施設では分娩介助を行った。2018 年度より学生 1 人に 5 件以上の分娩介助が可能な実習環境を整えることを目標として掲げおり、2019 年度は目標がおおむね達成できていたが、2020 年度は、COVID－19 の影響を受け、学生 1 名について 1 例～2 例/人の分娩介助となった。臨地実習の代替演習として、WEB クラスや学内演習を行った。学内演習の内容、習熟度の達成評価など、分娩期の実習のあり方（分娩見学/分娩介助）について検討が挙げられる。

22）助産実践力開発実習　１年次後期

(1) 担当教員

平出美栄子、加藤知子、田辺洋子、デッケルト博子、杜稀衣

(2) 教育内容

国立成育医療研究センター、医療法人産育会堀病院、国立病院機構埼玉病院、国立病院機構甲府病院、東邦大学医療センター大森病院で実習を予定していたが、COVID－19 の影響によって、一部施設での実習が中止された。実施可能となった施設では、正常な妊娠・分娩・産褥・新生児期の経過をたどる対象の助産診断、分娩介助の実施、助産過程の展開と実践能力の修得をこの実習目標とした。妊婦健診、分娩介助、産褥期受け持ちは、感染対策を徹底し、可能な範囲での実習とした。対象の個別性と経過予測をふまえた助産診断と成育医療研

究センターでは無痛分娩の見学および実施と 3～５例/人の分娩介助を目標に行った。国立病院機構埼玉病院、東邦大学医療センター大森病院では夜間オンコール体制で実習を行った。次年度は COVID－19 の状況によって、分娩介助数の増加と、介助数に見合った助産診断、ケアの内容を充実させていく必要がある。また、分娩直後の新生児（ベビーキャッチ）の計測・NCPR の実践の充実を図り、高度実践助産学にふさわしい知識と実践能力の強化が課題である。来年度も、実習の内容を見直しつつ実習の質の確保に努める。

23）助産実践力発展実習　2 年次前期

(1) 担当教員

平出美栄子、加藤知子、田辺洋子、デッケルト博子

(2) 教育内容

ハイリスク妊婦とハイリスク児を対象とした実習を、国立病院機構東京医療センターの産科病棟・産婦人科外来 2 週間、国立成育医療研究センターの NICU3 日間，国立病院機構神奈川病院の重症心身障害病棟 2 日間で実習を予定していたが､COVID－19 の影響を受け、全てのハイリスク臨地実習は中止となった。そのため、ZOOM による講義、ハイリスク事例の展開、レポート課題によって実習代替とした。次年度では、COVID－19 の状況によって、従来の実習を予定し、東京医療センターではハイリスク妊婦を約 8　日間受け持ち、妊娠中の管理、治療、リスク管理について、NICU では各学生が目標を挙げて実習に臨み、NICU における助産師の役割について考察を深めることを目標とする予定である。また、神奈川病院では障害を持つ子どもの療養と生活・学習支援、障害を持つ子どもとその親が抱える心理的・社会的課題に学び、ハイリスクな対象を支援する施設内外の専門職の連携・協同についても学びを深めていく予定である。

24）ＥＢＰＭ探究論　１年次前期

(1) 担当教員

朝澤恭子、小嶋奈都子

(2) 教育内容

遺伝看護の対象となる家族性腫瘍、先天異常、神経難病などの患者および生殖医療の対象者と家族に対するアセスメントやケアを理解することを前提に展開した。主な遺伝性疾患の遺伝形式、クライエントが抱える課題と必要なケア、遺伝的な課題を持つ人々へのアセスメントの視点、不妊症の検査および治療、クライエントが抱える課題と必要なケアに関して講義を進めた。また、不妊治療を受ける人々へのアセスメントの視点を理解できるよう展開した。今年度は Covid-19 の感染防止対策としてオンラインで実施した。

25）地域助産学実習　１年次後期・2 年次前期

(1) 担当教員

平出美栄子、加藤知子、田辺洋子、デッケルト博子、杜稀衣

(2) 教育内容

助産所実習施設は、いなだ助産院、さくらバース、とわ助産院、目白バースハウス、森重助産院、矢島助産院、森田助産所の 7 施設とした。保健所実習は、大田区、みなと区の各保

健センターで実施した。地域助産学実習のねらいとして、助産師の役割、母子に関わる姿勢の根源とは何か、高度実践助産ケアとはどのようなケアを指すのかについて、6 週間という実習期間をかけ、これまでの実習を振り返りながら考察した。特に、助産師のみで取り扱う正常出産を、妊娠・分娩・産褥を通して、どのように自律して実践しているのか理解する。そのために求められる、助産業務の安全性（判断基準と救急支援システム）を理解し、効果的な医療連携システムについて考察した。また、助産所の経営管理の実際を見学することで、開業権を生かした助産師の働き方について考察することを目標にした。さらに、連携施設・団体の活動の実際を理解する事、実習を通して保健所における母子保健事業・地域医療連携の実際を見学し考察することを目指した。次年度も同様に自律した助産師育成を目標として、より効果的な実習ができるよう学生を支援する。

26）助産実践力強化演習　2 年次前期

(1) 担当教員

平出美栄子、産婦人科医師、松井哲、小松久人、加藤知子

(2) 教育内容

アドバンス助産師によって病院における乳房ケアには保険点数が加算されるため、高度な乳房ケア実践力が求められている。この背景を受け、本科目では、乳房ケア技術と乳房診断の強化を目的に、国立病院機構東京医療センターの外科乳腺科で医師の指導をもとに超音波画像の評価ができることを目標とした演習を行った。さらに、堤子式乳房ケアセンターにおいて、乳房ケアの高度な技術習得を目標として演習を行った。高度な助産実践力を習得するため、エビデンスと実践力が強化できる演習になるよう、さらに検討していく必要がある。

27）高度実践実習（助産院）　1 年次・2 年次通年

(1) 担当教員

平出美栄子

(2) 教育内容

助産所において実践されている助産モデル＊の助産ケアを学び、自己の診断力・実践力を強化するとともに、医学モデル*による妊産婦管理に加え、自らの助産活動にどのような変革の可能性があるかを考察するための実習とした。特に、助産所の経営管理の実際をとおし、開業権を生かしたこれからの助産師の働き方について、正常分娩の取り扱い以外に、産後ケア、訪問看護ステーション、保育園など、多機能を持つ開業スタイルについてディスカッションをおこない、未来に繋がる開業助産所の在り方が考察できる実習内容とした。また、助産所と連携する行政施設、医療施設、民間団体、自助グループ等の活動を知り、母子および家族を支援する地域母子保健システムを総合的に学び、今後に生かす実習とした。

*助産モデル：妊娠や出産を正常で生理的なプロセスととらえ、女性の産む力を尊重した非介入的なケア医学モデル：妊娠や出産を常に機能不全になる危険性が高いプロセスととらえ、医療で管理すること

28）医療倫理特論　1 年次後期

(1) 担当教員

小野孝二、矢野尊啓

(2) 教育内容

ICT 講義と事例検討の発表会を実施した。講義では、看護に関する制度や倫理を学び、専門職としての考えを明確にし、看護専門職としての倫理の原則、意思決定のための判断基準について学び、院生の経験を踏まえて分析的に思考した。倫理の理念 から説き起こし、倫理的葛藤が生じるプロセス、倫理的意思決定のステップなどについて臨床で遭遇しうる倫理的問題を抽出しながら、事例検討をおこなった。事例検討の発表会では、価値葛藤が生じる事例における倫理的判断について意見交換し、学習を深めた。

29) ラボラトリー・メソッド特論　1 年次前期

(1) 担当教員

小宇田智子、小野孝二

(2) 教育内容

ヒトの健康像を理解するうえで必要な医学・生物学の知識を得るための手法を指導した。臨床現場で使われている手法や最新の科学研究で使われている手法を用いて、個体・組織・遺伝子および分子レベルでの生命現象について理解できるような授業の工夫をした。来年度も同様の内容で行う予定である。

30) 保健医療福祉システム特論　1 年次後期

(1) 担当教員

金子あけみ、清水美智夫（非常勤講師）

(2) 教育内容

本科目は、保健医療福祉分野において、看護職が果たすべき役割を理解するために保健医療福祉に係る制度及び政策決定プロセスについて基礎的な知識を深めること及び政策医療におけるネットワーク、連携を含め、新たなシステム構築に向けてのネットワークを創出できるようにすることを目的としている。

本大学院の学生には、専門性の高い看護実践能力に加え、保健医療福祉システムの現状を看護の視点から見つめ、健康に関わる様々なニーズを掘り起こし、関連する諸法規・政策的側面から変革につなげる知識を習得することが求められよう。

このため、講義では社会保障制度全般、政策決定プロセスに関する基礎的知識等を教授した上で、各個人に最も関心のあるテーマでの政策提言を課題として課した。様々なバックグラウンドを持つ学生ゆえに、多様なテーマでの政策提言を行うことができたと考える。発表では、積極的な質疑応答によって学習内容を深めるとともに相互共有が図られた。

来年度も引き続き、保健医療福祉システムや政策課題を批判的に吟味する能力を育成できるよう支援していきたいと考える。

31) 看護教育学特論　1 年次後期

(1) 担当教員

岩本郁子 浦中桂一

(2) 教育内容

看護の人材育成が質の高い看護の基礎をなすという観点から、①看護教育における教育的機能の理解、②看護教育の歴史的変遷と看護教育制度からの課題の考察、③高度実践看護職としての役割を果たすために必要な教育原理と教育方法の理解を目的としている。①、②は主として講義、③は学生が 20 分の授業案を作成し模擬授業の体験を通して学習するよう設定している。シミュレーション教育など教育方法に関する情報提供や診療看護師（NP）による教育実践の現状と課題に関し各 1 コマを設定した。本科目は選択科目であり、本年度は高度実践看護コース 5 名、高度実践助産コース 7 名が選択した。今年度の模擬授業は各コースの特徴が反映された多様なテーマ、対象者、内容で方法に関しての工夫がみられた。模擬授業後のリフレクション時の意見交換も活発で教育に関する興味・関心の高さが感じられ、最終レポートも自己の模擬授業に関し十分な評価が行われていた。模擬授業後のディスカッションの時間の確保が次年度にむけての課題である。

32）看護管理学特論　1 年次前期

(1) 担当教員

竹内朋子、松本和史

(2) 教育内容

看護管理に必要な基礎知識を学習し、看護管理者の役割と機能を理解することを目標とした。カリキュラムを 2 部構成とし、第 1 部では看護組織のマネジメント、第 2 部では看護組織における人的資源のマネジメントについて扱った。看護管理学を体系的に学習するのが初めてである履修生が多かったため、履修生のこれまでの就業経験を学習教材として活用できるように工夫した。所属組織や実在のリーダーを分析して看護組織としての強みや課題を抽出したり、看護管理者としての自己の資質を考察したりする課題にも取り組んだ。本科目を通して、診療看護師として医療チームをマネジメントするうえで求められる看護管理能力の基礎を修得できていた。

33）研究特論　1 年次前期

(1) 担当教員

大島久二、田中留伊、朝澤恭子、小野孝二、佐藤潤、小宇田智子

(2) 教育内容

看護研究における初歩的な研究テーマの設定法、データ収集法、解析法、倫理上の配慮などについて具体例を示しながら解説した。本来の研究はどういうものであるかを教授し、また、研究成果を学会あるいは学術誌に発表するためのプレゼンテーションおよび論文作成に関する基本的な手法について習得できた。

34）課題研究　1 年次・2 年次通年

(1) 担当教員

大島久二、田中留伊、その他全教員

(2) 教育内容

一人ひとりの院生が、個別の研究課題を設定し、関連情報の収集、研究計画の立案、研究実施、研究成果の発表に至る、研究全般にわたるプロセスを担当教員の助言・指導を受けながら実施した。論文の執筆と学会を模した形式の発表会においては抄録やスライドの準備を行い、成果を論文としてまとめる力、プレゼンテーション能力を習得できた。

35）助産学特別研究　1年次・2年次通年
(1) 担当教員　　大島久二

学生氏名	指導教員	研究課題
杜（モリ）　稀布（ケイ）	大島久二研究科長	中学校で性教育を行う助産師の思い

【高度実践公衆衛生看護コース】

1．教育方針

高度実践公衆衛生看護コースでは、地域の住民の特性を的確に把握し、自立を支えることを通して、地域住民のヘルスリテラシーを高め、さらには地域のソーシャル・キャピタル等を高めることができる保健師の育成を目指している。その中において「地域住民の自律を支える能力」、「政策や保健事業をプランニング・コーディネーション・マネジメントのできる能力」、「疫学・統計学の基礎を理解し、分析・研究を実践に活かせる能力」、「災害対応や新興・再興感染症への危機管理能力」、「健康で働き続けられる就労者・就労環境の支援ができる能力」の5つの能力を備えることができるように講義・演習・実習を設定している。

2．科目

1）公衆衛生看護学概論　1年次前期
(1) 担当教員
佐藤潤、駒田真由子、嶋谷圭一、村中峯子
(2) 教育内容
公衆衛生看護学の理念と基本を理解するとともに、地域で生活する人々の多様な健康や生活上の問題を理解し、健康の増進、疾病予防、個々人や地域の健康課題の解決法、保健師としての支援活動および、保健・医療・福祉の関係者との連携支援体制について学ぶことを目標に掲げて講義を実施した。

2）コミュニティアセスメント論　1年次前期
(1) 担当教員
佐藤潤、駒田真由子、嶋谷圭一、村中峯子
(2) 教育内容
保健師活動に必要とされる地域住民の健康状態、生活状況、住民の認識、環境に関する潜在的・顕在的なニーズを把握するための情報収集の方法、 アセスメント・分析、課題の明確化と課題解決の方法など一連の地域診断の基本および方法を学ぶことを目標に講義を行った。

3）公衆衛生看護活動論Ⅰ（対象別方法論）　1年次前期
(1) 担当教員
佐藤潤、駒田真由子、村中峯子
(2) 教育内容
母子、小児、成人および高齢者の各ライフステージの公衆衛生活動、感染症、難病、精神、障害などの健康課題別に実施されている公衆衛生看護活動の実態を学ぶことを目標に演習を展開した。次年度は、児童虐待、高齢者虐待など現在社会で問題になっている事項を含めた講義になるように修正を図っていきたい。

4）公衆衛生看護活動論Ⅱ（タスク別方法論）　1年次前期
(1) 担当教員
駒田真由子、村中峯子、嶋谷圭一

(2) 教育内容
　地域で生活する個人・家族・集団・地域など様々な対象者へ公衆衛生看護過程を展開するための基礎的理論を学ぶ。母子、小児、成人および高齢者の各ライフステージの公衆衛生活動、感染症、難病、精神、障害などの健康課題別に実施されている公衆衛生看護活動の実態を学んでもらうことを目的に講義を行った。次年度以降も対象を明確にそれぞれの対象者にどのような支援を行っていくのか、学生の理解を確認しながら進めていきたい。

5) 公衆衛生危機管理論　1年次前期
(1) 担当教員
　駒田真由子
(2) 教育内容
　自然災害や新興・再興感染症対策に関する法制度や動向について理解し、保健師としての役割、支援方法を学んでもらうことを目的に講義を行った。災害時、新興感染症の流行時、虐待等をテーマとして、健康危機管理のシステムや対象者への支援方法を取り扱った。またHUGを使用した演習を予定していたが、オンライン授業となったため、急遽、外部講師による災害発生時の看護、トリアージに関する講義に振り替えた。次年度も変化する状況に対応しつつ、できる限り学生の学ぶ機会・範囲を広げていきたい。

6) 感染症マネジメント　1年次後期
(1) 担当教員
　木村哲、菅原えりさ、永田容子、大石和徳、四柳宏
(2) 教育内容
　保健師として必要な感染症およびその対策の基礎知識について学び，地域で生活する感染症患者への対応および感染症の拡大予防の支援方法を理解し，疾患の特性や課題に応じた保健師の役割や活動を学ぶことを目的に講義を行った。毎回、日本の代表する感染症の専門家を招聘して講義を行った。感染症の歴史から感染症に関する様々な法律や届け出基準等について学んだ。講義では，結核、肝炎、食中毒を中心に講義を行ったが、今年度はCovid-19についても講義で取り上げた。

7) ソーシャルマーケティング　1年次前期
(1) 担当教員
　加藤みずき
(2) 教育内容
　ソーシャルマーケティングの考え方を健康教育に活用できるスキルを養い，個人や集団を対象とした最適な介入ができるスキルを修得する。さらに，社会を変える介入の必要性について理解を深めることを目的に講義を実施した。

8) 住まいづくり論　1年次前期
(1) 担当教員
　佐藤潤、村中峯子
(2) 教育内容
　WHOや健康日本21（第二次）において着目されている環境に焦点を当てた健康増進・疾病予防をするための視点や方策を学ぶ。個々人の住環境などのミクロ的視点や都市工学や環境工学などのマクロ的観点から住みやすい町づくりおよび防災に強い町づくりについて理解を深めることを目的として講義を行った。今年度はスマートシティの見学を実施できなかったため、次年度は講義と演習を通して住まいづくりと健康との関連をより深められる講義に取り組んでいく。

9) 健康教育方法論　1年次前期
(1) 担当教員
　佐藤潤

(2) 教育内容
　対象者の自己効力感を効果的かつ持続的に高めるための各種教育スキルを教育学や心理学の理論を応用して学ぶ。保健師として、対象者の自立を支えるための効果的な健康教育を実施するのに必要な視点を養うことを目的に講義を行った。
　次年度は、講義の内容を踏まえて実際の健康教育の計画に反映できるような授業展開の工夫を実施していきたい。

10）産業保健学　1年次後期
(1) 担当教員
　佐藤潤、嶋谷圭一、渡邉淳子
(2) 教育内容
　産業の場で就労している対象の状況を理解し、健康増進のための活動や起こりうる健康障害を予見し対応できる産業保健活動の基礎知識と技術を習得することを目的に講義を行った。実際の産業保健師からの講義も入れることで現場に即した知識も教授できた。

11）学校保健学　1年次後期
(1) 担当教員
　佐藤潤
(2) 教育内容
　就学している対象（児童・生徒・学生）の状況を理解し、健康増進のための活動や起こりうる健康障害を予見し対応できる学校保健活動の基礎知識と技術を習得することを目的に講義を行った。次年度は学生の理解度がより高まるように、学校保健の専門家の招聘を視野に入れる。

12）国際保健学　1年次後期
(1) 担当教員
　駒田真由子、嶋谷圭一、池田陽子
(2) 教育内容
　世界の公衆衛生システムから日本の公衆衛生システムを省察し、国際的な公衆衛生看護の視点を醸成し、具体的な看護活動に取り組む能力を習得することを目的として講義を行った。国際保健政策についての理解を促し、国際機関・国際保健の担い手に関する講義を実施したうえで、実際の国際保健活動を発展途上国で行ってきた講師に講義してもらうことで臨場感のある学修を目指した。来年度以降も今年度の反省を踏まえて状況の変化に対応しつつ実施していく。

13）コミュニティアセスメント演習　1年次後期
(1) 担当教員
　駒田真由子、嶋谷圭一
(2) 教育内容
　コミュニティアセスメント論で学んだ知識、技術を応用して地域診断を実践する。様々な手法で入手したデータを基に、地域住民の健康にかかわる問題・課題とその要因を分析し、地域の生活や健康課題を解決するための活動計画とその評価、施策化の視点を演習を通して学ぶことを目的に行った。実際に調べたことを公衆衛生看護学実習Ⅰに活かすことができているため、次年度も課題の指導を丁寧に行い、発表形式を工夫して継続的に実施していきたい。

14）疾病予防看護学特論　1年次前期
(1) 担当教員
　駒田真由子、佐藤潤、嶋谷圭一
(2) 教育内容
　海外研究論文に触れることで、研究論文の構造、内容の理解を深めることを目的とし、研

究論文の紹介と内容の議論を行う授業である。今年度は学生の人数が少なかったこともあり、前期は教員が参加し、見本として論文の紹介方法をいくつか提示した。そのうえで学生が自分の能力に合わせて和訳を行い、word 資料・ppt 資料を作成し、内容の理解に努めつつ論文紹介を行ってもらった。研究の構造やデザイン、分析など総合的に研究力を学ぶ機会となった。次年度以降も学生の能力に合わせて到達レベルを考慮しながら継続的に実施していく。

15）自立支援教育特論　1 年次前期
(1) 担当教員
　佐藤潤、駒田真由子
(2) 教育内容
　さまざまな健康課題を抱えた対象（個人・家族・集団）に対して、課題解決、予防的観点から対象のセルフケア能力・自己効力感を高める効果的な公衆衛生看護を提供するための教育・指導の理論と手法を学ぶことを目的とした。
今年度は輪読の頻度や間隔を工夫して学生が無理なく英語論文に接することができるよう工夫をできた。次年度は講義で取り上げる論文のバリエーションを増やし、学生が広い学びができるような工夫を行いたい。

16）自立支援教育特論演習Ⅰ　1 年次前期
(1) 担当教員
　佐藤潤、駒田真由子
(2) 教育内容
　地域住民を対象とした自立支援イベントでの健康教育等の実践を通して、地域住民のヘルスリテラシーを高め、地域のソーシャル・キャピタルを高めるためのアプローチについて実践的に理解を深めることを目的とした。今年度は COVID-19 の影響で住民を対象にした健康教育の実演を行うことはできなかったため、次年度は対面形式に拘らずに何かしらの実演が行えるよう工夫していきたい。

17）自立支援教育特論演習Ⅱ　2 年次前期
(1) 担当教員
　佐藤潤、駒田真由子、嶋谷圭一
(2) 教育内容
　地域における自立支援イベントにおける企画、予算管理、運営の実践を通して、組織における公衆衛生看護の役割を学ぶとともに、保健師に必要なプランニング、コーディネーション、マネジメントの能力を養うことを目的とした。今年度は COVID-19 の影響で住民を対象にした実演を行うことはできなかったものの、住民への定期的なレターの配布の企画、予算管理、運営の実施を行うことで学習目標を達成できたと考える。次年度は予算管理の部分を強化した演習が組めるようにしていきたい。

18）医療保健疫学　1 年時後期
(1) 担当教員
　駒田真由子、嶋谷圭一
(2) 教育内容
　集団における疾病や健康現象を評価するために必要な疫学の基礎を学び、公衆衛生看護の実践や公衆衛生看護研究において疫学の考え方、手法を活用する方法について理解してもらう目的で講義を行った。学生は研究のデザインやバイアス、交互作用の考え方といった疫学方法論を具体的事例とともに学ぶ機会となった。公衆衛生看護分野における研究の基礎となるため、引き続き、学生が疫学的思考を身につけられるような授業展開をしていきたい。

19）医療保健疫学演習　1 年次後期

(1) 担当教員
駒田真由子、嶋谷圭一
(2) 教育内容
既に学んだ疫学の知識を使いこなすために、研究デザインや交絡因子の調整方法について論文の講読を通して理解を深め、公衆衛生看護研究の実践に応用できる能力を養う目的で行った。この時期の学生は英語論文の輪読に慣れ、統計や疫学などの講義を受けて研究デザイン、分析方法の理解が深まってきているため、次年度も学生の理解度や能力に合わせて、資料や発表の意見や質疑応答が活発に行えることを目指して行いたい。

20) 保健統計学演習　1年次後期
(1) 担当教員
佐藤潤、嶋谷圭一
(2) 教育内容
高度な保健統計学の知識を使いこなすために、多変量解析や生存分析などの分析手法について論文の講読を通して理解を深めるとともに、統計ソフトを用いて実際に分析することで、公衆衛生看護研究の実践に応用できる能力を養うことを目的に講義・演習を行った。次年度は学生のスキルに合わせて無理なく統計ソフトの使用スキルが上がるよう工夫をする。

21) 公衆衛生関連法規　1年次後期
(1) 担当教員
佐藤潤、嶋谷圭一
(2) 教育内容
日本国憲法を始めとして，公衆衛生看護の分野に関連した法律や制度について学び，保健師として地域づくりを推進するために必要な法制度に関する知識を習得することを目的に講義を行った。次年度は講義方法を工夫して学生が様々な法律について学びが深められるよう工夫を行う。

22)行政論　1年次後期
(1) 担当教員
佐藤潤、村中峯子
(2) 教育内容
公衆衛生看護を実践する基盤である行政の仕組みについて、保健医療福祉分野に留まらず広く地方自治制度や財政制度についても学び、将来の公衆衛生看護に係る政策形成へ参与できる能力を養うことを目的に講義を行った。学生にとって縁遠い内容を多く含むため、次年度は学生にとって理解しやすい内容から教授できるように講義構成を検討する。

23) 公共政策論　1年次前期
(1) 担当教員
下井直毅、佐藤潤
(2) 教育内容
日本の公共政策に関する各種法律の特徴やその内容について学ぶ。また，医療に限らず幅広い公共政策の分野に関する基礎知識を習得し、将来の政策形成に参与できる能力を養うことを目的に講義を行った。

24) 公衆衛生看護学実習Ⅰ　1年次後期
(1) 担当教員
佐藤潤、駒田真由子、嶋谷圭一
(2) 教育内容
保健所や保健センターなどの公衆衛生看護活動の場における実習を通して、地域の健康課題を解決する仕組み、公衆衛生看護の展開プロセス、危機管理における保健師の役割、公

衆衛生看護活動技術を実践的に学ぶことを目的に実習を行った。今年度はCOVID-19の影響もありつつも臨地で実習を行うことが可能であった。次年度も実習目的が達成しやすいよう評価方法の工夫を行うとともに、現場の実習指導者と綿密な事前打ち合わせを行っていく。

25）公衆衛生看護学実習Ⅱ　1年次後期
(1) 担当教員
　佐藤潤、嶋谷圭一
(2) 教育内容
　職場における産業保健活動の実際と産業保健活動の仕組みや産業看護職の役割について実践的に学ぶ。労働者・家族の特性を理解し、健康課題の把握と援助の方法、必要な連携・協働・ネットワークづくり・職場巡視等について理解することを目的に実習を行った。今年度はCOVID-19の影響もありつつも臨地で実習を行うことが可能であった。実習スケジュールが連続して組むことが出来なかったため、学習の進捗管理が難しい面があった。次年度は実習スケジュールの工夫を行っていく。

26）地域包括ケア実習　2年次前期
(1) 担当教員
　佐藤潤、駒田真由子、嶋谷圭一
(2) 教育内容
　地域包括支援センターにおいて、地域包括ケアシステムの中で医療職がどのように地区組織と関わり、地域住民の健康増進に関与し、介護予防・健康増進に関与しているのかを実践的に学んだ。I週間の地域包括支援センターでの実習を通して、地域包括支援センターの様々な事業に参加し、地域包括ケアシステムにおける包括支援センターおよび保健師の役割を学ぶことができた。

27）地域診療所実習　2年次前期
(1) 担当教員
　佐藤潤、駒田真由子、嶋谷圭一
(2) 教育内容
　地域の診療所での実習を通して、地域で生活する住民・療養者の実際を知り、地域で生活していくことへの継続的な支援の方法や保健師として地域医療で求められる医療知識や看護技術について実践的に学ぶことを目的に実習を行った。実習では診療所における診療の補助行為だけでなく、医師の訪問診療に同行し、地域の診療の場における看護師の役割を学ぶことができた。

28）医療倫理特論　1年次後期
(1) 担当教員
　小野孝二、矢野尊啓
(2) 教育内容
　ICT講義と事例検討の発表会を実施した。講義では、看護に関する制度や倫理を学び、専門職としての考えを明確にし、看護専門職としての倫理の原則、意思決定のための判断基準について学び、院生の経験を踏まえて分析的に思考した。倫理の理念 から説き起こし、倫理的葛藤が生じるプロセス、倫理的意思決定のステップなどについて臨床で遭遇しうる倫理的問題を抽出しながら、事例検討をおこなった。事例検討の発表会では、価値葛藤が生じる事例における倫理的判断について意見交換し、学習を深めた。

29）ラボラトリー・メソッド特論　1年次前期
(1) 担当教員
　小宇田智子、小野孝二
(2) 教育内容

ヒトの健康像を理解するうえで必要な医学・生物学の知識を得るための手法を指導した。臨床現場で使われている手法や最新の科学研究で使われている手法を用いて、個体・組織・遺伝子および分子レベルでの生命現象について理解できるような授業の工夫をした。来年度も同様の内容で行う予定である。

30）保健医療福祉システム特論　1年次後期
(1) 担当教員
金子あけみ、清水美智夫（非常勤講師）
(2) 教育内容
本科目は、保健医療福祉分野において、看護職が果たすべき役割を理解するために保健医療福祉に係る制度及び政策決定プロセスについて基礎的な知識を深めること及び政策医療におけるネットワーク、連携を含め、新たなシステム構築に向けてのネットワークを創出できるようにすることを目的としている。本大学院の学生には、専門性の高い看護実践能力に加え、保健医療福祉システムの現状を看護の視点から見つめ、健康に関わる様々なニーズを掘り起こし、関連する諸法規・政策的側面から変革につなげる知識を習得することが求められよう。このため、講義では社会保障制度全般、政策決定プロセスに関する基礎的知識等を教授した上で、各個人に最も関心のあるテーマでの政策提言を課題として課した。様々なバックグラウンドを持つ学生ゆえに、多様なテーマでの政策提言を行うことができたと考える。発表では、積極的な質疑応答によって学習内容を深めるとともに相互共有が図られた。来年度も引き続き、保健医療福祉システムや政策課題を批判的に吟味する能力を育成できるよう支援していきたいと考える。

31）看護政策特論　1年次通年
(1) 担当教員
金子あけみ
(2) 教育内容
本科目は看護を取り巻く課題と課題解決に向けた制度・政策実現のプロセスについて、看護学及び慣例領域の研究社や行政官など実際の政策や制度の形成過程に携わる実践家からの講義を通して学ぶとともに、学生個々人が臨床経験等を通して得た政策課題・問題点を整理・抽出し、解決策を考えてみることとしている。政策決定プロセスに関しては、選択科目である保健医療福祉システム特論においても学習をしているが、看護領域の独自性を考慮して、厚生労働省、関連団体等から講師を招聘する予定であったが、本年度は選択者がいなかったことから開講しなかった。

32）政策医療特論　1年次前期
(1) 担当教員
大島久二、山西文子、松本純夫、加我君孝、女屋光基、石原傳幸、當間重人
(2) 教育内容
民間病院に任せるだけでは不十分と考えられ、国が医療政策を担うべき医療であると定められている「政策医療」（19 の医療分野）について、理解を深めることができた。政策医療を担っている国立病院機 構の管理者から、政策医療に関する歴史的経緯と現状、課題、将来展望等の講義を受け、政策医療の対象になっている患者に遭遇した場合の診療看護師として対応について学ぶことができた。

33）地域母子保健学特論　1年次前期
(1) 担当教員
平出美栄子、福島富士子、佐藤潤、永森久美子、デッケルト博子
(2) 教育内容
地域母子保健の今日的課題について考え、地域で助産師に期待される役割、地域母子保健の活動の実際や産後ケアセンターの活動について講義を行った。学生が考える日本社会における母子保健の今日的課題の現状とこれを解決するために必要だと思われる方策、助産

師が地域で果たすべき役割について、討論し学習を深めた。特に、地域母子保健事業において新生児訪問事業は助産師が担う重要な事業である。そのため今年度は、実際の自宅訪問を再現できる演習方法を取り入れ、訪問時の観察、計測などを実施した。平出

34）地域保健学特論Ⅰ　1年次前期
(1) 担当教員
佐藤潤、駒田真由子
(2) 教育内容
地域保健の概念・諸理論を踏まえ、地域で生活する人々を対象とした地域保健に関わる制度や社会資源、健康に関わる環境等の情報を分析し、個人・家族・集団・地域を単位とした課題を解決するための展開方法を理解することを目的とした。海外の論文の輪読を中心に最新の地域保健に関する内容について触れることができた。

35）保健統計学　1年次後期
(1) 担当教員
佐藤潤、浦中桂一
(2) 教育内容
コンピュータ及び統計解析を習得するための基本的な知識を理解するとともに、統計解析演習を行い、基本的な解析手法を理解することを目的に講義を行った。今年度は対面とオンライン講義を使い分け、対面では統計解析の演習を中心に、オンラインでは文献における統計結果の読み方を中心に講義を実施した。

36）研究特論　1年次前期
(1) 担当教員
大島久二、田中留伊、朝澤恭子、小野孝二、佐藤潤、小宇田智子
(2) 教育内容
看護研究における初歩的な研究テーマの設定法、データ収集法、解析法、倫理上の配慮などについて具体例を示しながら解説した。本来の研究はどういうものであるかを教授し、また、研究成果を学会あるいは学術誌に発表するためのプレゼンテーションおよび論文作成に関する基本的な手法について習得できた。

37）課題研究　1年次・2年次通年
(1) 担当教員
大島久二、田中留伊、その他全教員
(2) 教育内容
一人ひとりの院生が、個別の研究課題を設定し、関連情報の収集、研究計画の立案、研究実施、研究成果の発表に至る、研究全般にわたるプロセスを担当教員の助言・指導を受けながら実施した。論文の執筆と学会を模した形式の発表会においては抄録やスライドの準備を行い、成果を論文としてまとめる力、プレゼンテーション能力を習得できた。

【看護科学コース】

1．教育方針

看護学の発展および看護の一層の質の向上のために、教育現場と実践現場との連携と協同を通して、課題解決に的確に対応できる人材の育成を目指す。特に、エビデンスを蓄積し、それらのエビデンスを看護実践にまで発展させることができる資質を涵養し、社会および時代のニーズに的確に対応できる課題提供，課題解決能力を備えた教育研究者としての人材を育成する。

2. 科目

1）健康生命科学特論Ⅰ　1年次前期

(1) 担当教員

小宇田智子、大島久二、小野孝二

(2) 教育内容

ヒトの健康像を理解するうえで必要な医学・生物学の知識を得るための手法を指導した。臨床現場で使われている手法や最新の科学研究で使われている手法を用いて、個体・組織・遺伝子および分子レベルでの生命現象について理解できるような授業の工夫をした。来年度も同様の内容で行う予定である。

2）健康生命科学特論Ⅱ　1 年次後期

(1) 担当教員

小宇田智子、大島久二、

(2) 教育内容

環境とヒト集団レベルでの健康像との関連を把握する方法を教授する。また健康生命科学分野における研究の進め方および論文の書き方を伝授する予定であったが、本年は開講しなかった。

3）精神保健学特論Ⅰ　1年次前期

(1) 担当教員

田中留伊、中村裕美

(2) 教育内容

精神保健医療福祉の制度と体制に関する知識および精神的健康問題のメカニズム、生活の評価に必要な基礎的理論と方法について、講義及び学生自身のプレゼンテーション、研究論文のクリティーク、討議を通して学ぶために 15 回の講義を予定したが、受講生がいなかったため開講しなかった。

4）精神保健学特論Ⅱ　1年次後期

(1) 担当教員

田中留伊、中村裕美

(2) 教育内容

精神保健上の問題を抱えた人々へのさまざまな治療的アプローチの理論と技法について、講義及び事例や最新の研究に関する学生自身のプレゼンテーション、討議を通して学ぶために 15 回の講義を予定したが、受講生がいなかったため開講しなかった。

5）看護教育学特論Ⅰ　1年次前期

(1) 担当教員

松山友子、岩本郁子、高橋智子

(2) 教育内容

日本における看護学教育の定義及び理念、看護教育制度の歴史的変とその特徴をふまえ、現在の看護基礎教育と看護継続教育における教育内容、教育方法およびその評価の概要を理解し、看護学教育の現状と課題について考察する予定であったが、本年度は受講希望者がなく開講しなかった。

6）看護教育学特論Ⅱ　1年次後期

(1) 担当教員

松山友子、岩本郁子、高橋智子

(2) 教育内容

看護学教育の基盤となる教授・学習理論、教育課程開発、教育方法、教育評価に関する基礎的な理論を理解し、専門職業人の育成に向けた看護学教育上の課題に対応したアプローチの方法を考察する予定であったが、本年度は受講希望者がなく開講しなかった。

7）看護基盤科学演習Ⅰ　1年次通年

(1) 担当教員

大島久二、竹内朋子

(2) 教育内容

看護基盤学、臨床看護学、応用看護学における基礎的課題を取り上げ、それに対する文献抄読通して具体的方策を立案した。

8）看護基盤科学演習Ⅱ　2 年次通年

(1) 担当教員

大島久二、中島美津子、小宇田智子

(2) 教育内容

看護基盤学、臨床看護学、応用看護学における基礎的課題を取り上げ、それに対する文献抄読を通して具体的方策を立案した。

9）小児看護学特論Ⅰ　1 年次前期

(1) 担当教員

中島美津子、玄順烈

(2) 教育内容

乳幼児期にある子どもの成長発達・生活環境・子どもと家族を取り巻く諸理論の探求と実際の援助に向け、講義内容としては、各発達理論および理論家の背景および理論の源泉を理解すること、各発達理論の概要を理解すること、看護における発達理論の適用と課題を考えること、各発達理論の理論分析を行うことを目標としてアクティブラーニングを展開する。フィンク、クラウスとケネル、ドローター、マーガレット・マーラ、ウィニコット、ゲゼル、デュヴァル、ボーエン、ミルトン、エリクソン、ベイトソンなどの諸理論について文献レビューをし、経験症例をこれらの理論を使って分析することで、多角的理解を深める。また自分が関与する症例について、複数の理論に基づき分析する。次年度も患児を多角的に捉え、社会的単位としての家族を含めた理論分析を展開することで、高度な専門職としての実践

家育成を図りたい。学生からは、今後、増加傾向にある発達障害や医療的ケア児までをも包含する学習による今後への示唆が得られたという評価を得ている。次年度もアクティブラーニングの展開を考えている。

10）小児看護学特論Ⅱ　1年次後期

(1) 担当教員

中島美津子、玄順烈

(2) 教育内容

小児看護学特論Ⅰをさらに発展させることを目的とした。講義内容は、小児看護特論Ⅰで学んだ理論を使い、自分が経験した症例について、同じ事例を様々な理論で多角的に分析し、理論をツールとして実践的に使用する参加・演習型の講義内容とした。さらに時事問題に対してセンシング能力を高めるため、乳幼児に関する出来事、社会保障に関するテーマを自ら選択し、情報収集・データ化・分析・プレゼンテーションを実施する。今年度はプレゼンテーションはできなかったが次年度も患児を多角的に捉え、社会的単位としての家族を含めた理論分析を展開することで、高度な専門職としての実践家育成を図りたい。学生からは、今後、増加傾向にある発達障害や医療的ケア児までをも包含する学習による今後への示唆が得られたという評価を得ている。次年度もさらなる工夫をしてきたい。

11）母性看護学特論Ⅰ　1年次前期

(1) 担当教員

朝澤恭子、平出美栄子

(2) 教育内容

母性看護学の基盤となる概念を理解し、人間の性と生殖の側面から女性の生涯の健康を視野にいれ、女性のライフステージにおける健康問題（健康阻害因子）を分析し、解決に向けた取り組み（管理・教育・研究）を修得する概要であるが、今年度は開講されなかった。

12）母性看護学特論Ⅱ　1年次後期

(1) 担当教員

朝澤恭子、平出美栄子

(2) 教育内容

多様化する現代女性の健康問題に注視し、女性の生物的側面のみでなく心理・社会・文化的側面を重視するウイメンズヘルスの視野から女性の健康をとらえ、特に周産期を含めての課題の分析・その援助方法を考察する概要であるが、今年度は開講されなかった。

13）成人・老年看護学特論Ⅰ　1 年次前期

(1) 担当教員

竹内朋子、松本和史

(2) 教育内容

成人期・老年期にある対象と、対象を支えるための医療・保健・看護サービスの在り方について理解を深めることを目的とした。関連テーマにおける今日的課題を抽出し、看護実践

をふまえた新たな提案についてディスカッションを行った。

14）成人・老年看護学特論Ⅱ　1 年次前期

(1) 担当教員

竹内朋子、松本和史　松田謙一

(2) 教育内容

成人・老年看護学における新たなエビデンス構築に向けたアプローチについて説明できることを目的とした。国内外の文献を講読し、成人・老年看護学における国内外の研究の動向をクリティークしたうえで、自己の見解や研究上の提案についてディスカッションを行った。

15）臨床看護学演習Ⅰ　1 年次通年

(1) 担当教員

大島久二、竹内朋子

(2) 教育内容

看護基盤学、臨床看護学、応用看護学における臨床的課題を取り上げ、それに対する文献抄読を通して具体的方策を立案した。

16）臨床看護学演習Ⅱ　2 年次通年

(1) 担当教員

大島久二、中島美津子、小宇田智子

(2) 教育内容

看護基盤学、臨床看護学、応用看護学における臨床的課題を取り上げ、それに対する文献抄読を通して具体的方策を立案した。

17）看護管理学特論Ⅰ　1 年次前期

(1) 担当教員

竹内朋子、松本和史

(2) 教育内容

看護管理に必要な基礎知識を学習し、看護管理者の役割と機能を理解することを目標とした。カリキュラムを 2 部構成とし、第 1 部では看護組織のマネジメント、第 2 部では看護組織における人的資源のマネジメントについて扱った。所属組織や実在のリーダーを分析して看護組織としての強みや課題を抽出したり、看護管理者としての自己の資質を考察したりする課題にも取り組んだ。本科目を通して、看護師として医療チームをマネジメントするうえで求められる看護管理能力の基礎を修得できていた。

18）看護管理学特論Ⅱ　1 年次後期

(1) 担当教員

竹内朋子、松本和史

(2) 教育内容

看護管理学研究に必要な基礎知識を学習し、看護管理における今日的課題を理解することを目標とした。看護管理に関連する国内外の研究論文を講読し、学術的な動向を把握したうえで、各テーマに関する実践上の課題を抽出し、自己の見解を論述するワークをあわせて行なった。

19）地域保健学特論Ⅰ　1年次前期
(1) 担当教員
佐藤潤、駒田真由子
(2) 教育内容
地域保健の概念・諸理論を踏まえ、地域で生活する人々を対象とした地域保健に関わる制度や社会資源、健康に関わる環境等の情報を分析し、個人・家族・集団・地域を単位とした課題を解決するための展開方法を理解することを目的とした。海外の論文の輪読を中心に最新の地域保健に関する内容について触れることができた。

20）地域保健学特論Ⅱ　1年次後期
(1) 担当教員
佐藤潤、駒田真由子
(2) 教育内容
地域保健に関わる研究と実践力の能力向上を図るため、国内外の文献を活用して研究の動向、理論、研究計画、研究方法、地域保健活動の質を高める実践と評価の方法を学ぶことを目的とした。今年度は行動経済学とナッジ理論にテーマを絞って国内での取り組みを中心に講義を行い、学生自身で効果的なナッジ理論について提案を行うことで理解を深めることができた。

21）放射線保健学特論Ⅰ　1年次前期
(1) 担当教員
小野孝二
(2) 教育内容
放射線保健学の視点から、放射線の健康影響や被ばく管理に関する知識・技術の基本的事項について ICT 講義を実施した。内容は、① 放射線の特徴、② 放射線の線量と健康影響、③放射線の被ばくの種類とその低減方策、 ④放射線防護・安全の考え方と現行法令。さらに、チュートリアル方式で、放射線を受ける様々な状況（平常時の医療に伴う被ばくや事故時の緊急時被ばく等）や被ばく管理、健康管理のあり方・やり方につき考察し、放射線利用に伴う放射線保健学の重要性について認識を新たにした。

22）放射線保健学特論Ⅱ　1年次前期
(1) 担当教員
小野孝二
(2) 教育内容
原子力、放射線事故への対応、臨床現場での医療被ばく、職業被ばくならびに公衆被ばくにおける放射線リスク、マネジメントについて ICT 講義を実施した。また、 ①国際放射線防護委員会の報告書、②IAEA の報告書、③国連科学委員会の報告書等を通して原子力事故後および臨床現場での放射線防護のあり方について考察した。

23）応用看護学演習Ⅰ　1年次通年
(1) 担当教員

大島久二、竹内朋子

(2) 教育内容

看護基盤学、臨床看護学、応用看護学における高度な課題を取り上げ、それに対する文献抄読を通して具体的方策を立案した。

24) 応用看護学演習Ⅱ　2年次通年

(1) 担当教員

大島久二、中島美津子、小宇田智子

(2) 教育内容

看護基盤学、臨床看護学、応用看護学における高度な課題を取り上げ、それに対する文献抄読を通して具体的方策を立案した。

25) 研究特論　1年次前期

(1) 担当教員

大島久二、田中留伊、朝澤恭子、小野孝二、佐藤潤、小宇田智子

(2) 教育内容

看護研究における初歩的な研究テーマの設定法、データ収集法、解析法、倫理上の配慮などについて具体例を示しながら解説した。本来の研究はどういうものであるかを教授し、また、研究成果を学会あるいは学術誌に発表するためのプレゼンテーションおよび論文作成に関する基本的な手法について習得できた。

26) 看護理論　1年次後期

(1) 担当教員

松山友子、竹内朋子、高橋智子

(2) 教育内容

看護学の発展の中で、看護理論がどのような経緯で開発されてきたかを概観したうえで、主要な看護理論の特徴や限界を検討すると共に、自らの経験と照らして看護の実践・教育・研究における看護理論の適用と課題を考察する予定であったが、本年度は受講希望者がなく開講しなかった。

27) 医療倫理特論　1年次後期

(1) 担当教員

小野孝二、矢野尊啓

(2) 教育内容

ICT講義と事例検討の発表会を実施した。講義では、看護に関する制度や倫理を学び、専門職としての考えを明確にし、看護専門職としての倫理の原則、意思決定のための判断基準について学び、院生の経験を踏まえて分析的に思考した。倫理の理念 から説き起こし、倫理的葛藤が生じるプロセス、倫理的意思決定のステップなどについて臨床で遭遇しうる倫理的問題を抽出しながら、事例検討をおこなった。事例検討の発表会では、価値葛藤が生じる事例における倫理的判断について意見交換し、学習を深めた。

28）看護政策特論　1年次通年

(1) 担当教員

金子あけみ

(2) 教育内容

本科目は看護を取り巻く課題と課題解決に向けた制度・政策実現のプロセスについて、看護学及び慣例領域の研究社や行政官など実際の政策や制度の形成過程に携わる実践家からの講義を通して学ぶとともに、学生個々人が臨床経験等を通して得た政策課題・問題点を整理・抽出し、解決策を考えてみることとしている。政策決定プロセスに関しては、選択科目である保健医療福祉システム特論においても学習をしているが、看護領域の独自性を考慮して、厚生労働省、関連団体等から講師を招聘する予定であったが、本年度は選択者がいなかったことから開講しなかった。

29）ラボラトリー・メソッド特論　1年次前期

(1) 担当教員

小宇田智子、小野孝二

(2) 教育内容

ヒトの健康像を理解するうえで必要な医学・生物学の知識を得るための手法を指導した。臨床現場で使われている手法や最新の科学研究で使われている手法を用いて、個体・組織・遺伝子および分子レベルでの生命現象について理解できるような授業の工夫をした。来年度も同様の内容で行う予定である。

30）保健医療福祉システム特論　1年次後期

(1) 担当教員

金子あけみ、清水美智夫（非常勤講師）

(2) 教育内容

本科目は、保健医療福祉分野において、看護職が果たすべき役割を理解するために保健医療福祉に係る制度及び政策決定プロセスについて基礎的な知識を深めること及び政策医療におけるネットワーク、連携を含め、新たなシステム構築に向けてのネットワークを創出できるようにすることを目的としている。

本大学院の学生には、専門性の高い看護実践能力に加え、保健医療福祉システムの現状を看護の視点から見つめ、健康に関わる様々なニーズを掘り起こし、関連する諸法規・政策的側面から変革につなげる知識を習得することが求められよう。

このため、講義では社会保障制度全般、政策決定プロセスに関する基礎的知識等を教授した上で、各個人に最も関心のあるテーマでの政策提言を課題として課した。様々なバックグラウンドを持つ学生ゆえに、多様なテーマでの政策提言を行うことができたと考える。発表では、積極的な質疑応答によって学習内容を深めるとともに相互共有が図られた。

来年度も引き続き、保健医療福祉システムや政策課題を批判的に吟味する能力を育成できるよう支援していきたいと考える。

31）保健統計学　1年次後期

(1) 担当教員

佐藤潤、浦中桂一
(2) 教育内容
コンピュータ及び統計解析を習得するための基本的な知識を理解するとともに、統計解析演習を行い、基本的な解析手法を理解することを目的に講義を行った。今年度は対面とオンライン講義を使い分け、対面では統計解析の演習を中心に、オンラインでは文献における統計結果の読み方を中心に講義を実施した。

32) 特別研究　1年次・2年次通年
(1) 担当教員
大島久二、中島美津子、小宇田智子

学生氏名	指導教員	研究課題
ホシノユウコ 星野雄子	小宇田智子	新生児に対する舌マッサージによる母親の乳頭痛緩和と哺乳量への影響
スズキヒデミ 鈴木英美	中島美津子	看護管理者の well-being の現状と関連要因について

【博士課程】

1. 教育方針

看護学のさらなる進化および看護の一層の質の向上に「貢献できる教育研究者」を養成することを目的とする。看護、看護学の発展のためには、EBN に基づいた研究活動, 教育活動, 実践活動が必要である。博士論文の制作を通して、教育研究者として、エビデンスを「つくり」「つたえ」「つかう」プロセスを理解し、それぞれのプロセスにおいて積極的に取り組み、看護界が抱える課題を的確に抽出し、解決していくことができる能力を醸成する。

2. 科目

1) 生活支援看護学　1年次通年
(1) 担当教員
松山友子、竹内朋子
(2) 教育内容
少子超高齢社会を迎えた日本において、「治す医療」から「治し支える医療」への変換が求められている。対象者の生活・社会的背景を考慮した「治し支える医療」を実現していくための「生活支援看護学」の理論・概念・モデルの構築に向けてのスキルを習得することを目指したゼミナール方式の授業を予定していたが、本年度は受講希望者がなく開講しなかった。

2) 発達看護学　1年次通年
(1) 担当教員
中島美津子
(2) 教育内容
講義内容としては、各発達理論および理論家の背景および理論の源泉を理解すること、各発達理論の概要を理解すること、看護における発達理論の適用と課題を考えること、各発達理論の理論分析を行うことを目標としてアクティブラーニングを展開した。フィンク、クラ

ウスとケネル、ドローター、マーガレット・マーラ、ウィニコット、ゲゼル、デュヴァル、ボーエン、ミルトン、エリクソン、ベイトソンなどの諸理論について文献レビューをし、経験症例をこれらの理論を使って分析することで、多角的理解を深めた。次年度は、さらに発達段階に則した具体的支援方法の創出に関わる視点を入れながら、全体的にレベルアップする工夫をしたい。

3）生殖看護学　1年次通年
(1) 担当教員
　朝澤恭子、平出美栄子
(2) 教育内容
　性と生殖の分野における理論構築のために新しい知見を導きだし、新しい理論構築を探求し、女性の生涯の健康（性と生殖の側面から）を視野に入れ、女性のライフステージにける健康課題（健康阻害因子）を分析する概要であるが、今年度は開講されなかった。

4）災害保健学　1年次通年
(1) 担当教員
　大島久二、小野孝二
(2) 教育内容
　災害に関する歴史と法律・省令に関する解説を行い理解を深めた。さらに実際の熊本地震の災害と復興に関しての事例の検討と文献検討から、実例を通しての問題点把握と課題の明確化を行った。

5）環境保健学　1年次通年
(1) 担当教員
　小宇田智子、大島久二
(2) 教育内容
　地域規模から地球規模の環境問題まで様々な現象とヒト集団の健康像との関わりについて、最新のデータを踏まえながら文献から知識を吸収し、合わせて研究態度をも身に付ける予定であったが、本年は開講しなかった。

6）精神保健学　1年次通年
(1) 担当教員
　田中留伊
(2) 教育内容
　精神保健医療福祉に関する最新の知見を整理した上で、わが国の精神保健・精神看護学の現状や問題を理解し、精神保健や精神看護実践が向上するための具体的なアプローチについて学ぶために15回の講義を予定したが、受講生がいなかったため開講しなかった。

7）放射線保健学　1年次通年
(1) 担当教員
　明石眞言、小野孝二
(2) 教育内容
　放射線の健康影響に関する最新の知見を整理し、我が国の被ばくの現状や原子力事故に

係る諸問題等を概観し、放射線保健に関する諸問題と、それに対する具体的なアプローチについて学ぶ予定であったが、本年は開講しなかった。

8）特別研究

(1) 担当教員

大島久二

学生氏名	指導教員	研究課題
ナカムラトモコ 中村智子	大島久二	思春期にある先天性難聴の子どもの様相

【研究】

1. 課題研究

課題研究：高度実践看護学コース

学生氏名	指導教員	研究課題
アサノ ケンタロウ 淺野健太郎	大島久二研究科長 日髙未希恵助教	機械的胸骨圧迫装置に対する医療者の認識とより効果的な活用方法に関する考察
イクタ カズユキ 生田一幸	松山友子教授 原口昌宏講師 ハーネド明香助教	「救急搬送件数と気象条件との関連」－滋賀県東近江地域に着目して－
イトウ ユウキ 伊藤優樹	大島久二研究科長	「診療の補助」行為の実施に際しての診療看護師(NP)の自律の程度に関する実態調査
オガワ コウジ 小川晃司	竹内朋子教授	勤務帯別にみた看護記録時間の関連要因
オシダ ヒロアキ 押田浩明	松本和史准教授 中村裕美講師	クリティカル領域に携わる中堅看護師の承認行動の現状
カマダ タマエ 鎌田珠恵	岩本郁子准教授 松田謙一講師 早坂奈美助教	クリティカルケア領域における MDRPU 予防のための介入に対する看護祖の躊躇
キクチ ケンタ 菊池健太	岩本郁子准教授 松田謙一講師 早坂奈美助教	患者急変時の看護師から医師への適切な電話報告
シラカワヒロヒト 白川大仁	大島久二研究科長 日髙未希恵助教	『院内心停止と心停止前一般検査値との関連および傾向』
ソ ロジ ジュウゾウ 曹路地重蔵	朝澤恭子准教授 浦中桂一講師	救命救急センターにおける診療看護師を有する早期リハビリテーションチーム導入の評価－在院日数を指標とした後ろ向き観察研究－
タムラ アヤカ 田村綾華	岩本郁子准教授 松田謙一講師 早坂奈美助教	診療看護師(NP)に関する看護師の認識とニーズ－診療看護師(NP)が配置されているクリティカル領域において－

デグチ キョウイチ 出口喬一	小野孝二教授 嶋谷圭一助教	島根県浜田圏域におけるアクセシビリティと脳血管疾患死亡との関連に関する研究
トウヤマモリタカ 當山護剛	松本和史准教授 中村裕美講師	診療看護師卒後臨床の現状と課題に関する研究
ナカゾノサキコ 中園紗希子	大島久二研究科長 日髙未希恵助教	乳幼児の急性胃腸炎に伴う初期症状(悪心、嘔吐、腹痛)の早期消失と初期対応の関連性についての検討
ヒラキ　タツヤ 平木達也	小野孝二教授 嶋谷圭一助教	地域急性期病院の地域包括ケア病棟が高齢者の再入院に与える影響
フカガワサトシ 深川哲嗣	田中留伊教授 小宇田智子准教授 菅原裕美助教	緊急時情報共有アプリ(EISA)の開発及び災害訓練における有用性の検討
マエダ コウヘイ 前田倖平	田中留伊教授 小宇田智子准教授 菅原裕美助教	閉経モデルマウスの高脂肪飼料摂食による肝臓小胞体ストレス応答及びインスリン抵抗性への影響
ヨシカワシ ナ 吉川之菜	平出美栄子准教授 内山孝子准教授 デッケルト博子助教	二次データ利用による環境中大気汚染物質と低出生体重児との相関
ワキミカ 脇実花	松本和史准教授 中村裕美講師	前胸部冷罨法が内胸動脈血流と皮膚感覚に与える影響－体外式超音波を用いた評価－
ワタナベヤヨイ 渡部弥生	大島久二研究科長	出産に立ち会った父親の出産に対する思い　～出産の印象,妻への思い,児への思い,夫・父親としての思いに着目して～

課題研究：高度実践助産コース（助産師免許取得コース）

学生氏名	指導教員	研究課題
オオコ チナツ 大古千夏	大島久二研究科長 小嶋奈都子助教	親とのかかわりが子どもの自己肯定感に及ぼす影響－看護学生の親からの妊娠・出産・育児の伝承と自己肯定感の関連－
スズキ ミサ　キ 鈴木美紗稀	朝澤恭子准教授、 浦中桂一講師	LGBT 当事者における医療機関への受診の実態とケアニーズ
タケウチマサコ 武内 昌子	朝澤恭子准教授 浦中桂一講師	経産婦における双胎妊娠・双生児育児の体験
近田佑有子	大島久二研究科長 小嶋奈都子助教	無痛分娩における助産師の役割の検討－初めて無痛分娩を経験した母親の語りから－
ナワタ アオイ 縄田碧	大島久二研究科長 小嶋奈都子助教	男子大学生の性教育の経験と性に関する態度との関連
フルヤ ヨシミ 古屋恭　彩	朝澤恭子准教授 浦中桂一講師	女性が認識する就労時のマタニティハラスメントの実態と対処行動

マ ウチユウ 馬内 優	平出美栄子准教授 田辺洋子講師	妊娠期から分娩第 2 期における会陰裂傷を予防する助産ケア
ミヤジママヨ 宮嶋 真代	大島久二研究科長 小嶋奈都子助教	助産師が行う臨時応急の手当の実態に関する研究

課題研究：高度実践公衆衛生看護コース

学生氏名	指導教員	研究課題
ナカムラメイ 中村 芽依	佐藤潤准教授 髙橋智子講師	GIS(地理情報システム)を用いたフレイルリスク可視化に向けた文献検討
ナカヤママコ 中山 真子	佐藤潤准教授 髙橋智子講師	地域住民を対象とした「まちの保健室」への継続参加に影響を与える要因

2. 特別研究

特別研究：高度実践助産コース助産師プログラム

学生氏名	指導教員	研究課題
モリ ケイ 杜 稀布	大島久二研究科長	中学校で性教育を行う助産師の思い

特別研究：看護科学コース

学生氏名	指導教員	研究課題
ホシノユウコ 星野雄子	小宇田智子准教授	新生児に対する舌マッサージによる母親の乳頭痛緩和と哺乳量への影響
スズキヒデミ 鈴木英美	中島美津子教授	看護管理者の well-being の現状と関連要因について

特別研究：博士課程

学生氏名	指導教員	研究課題
ナカムラトモコ 中村智子	大島久二研究科長	思春期にある先天性難聴の子どもの様相

７．業績

【看護基盤学】

1. 著書（翻訳書を含む）

明石眞言(2021).（分担執筆）経験から学ぶ姿勢こそ未来への鍵「東日本大震災と原発事故からの 10 年-災害の初動から真の復興、そしてウィズコロナの未来へ向けて-」.東日本国際大学健康社会戦略研究所編.17-21,論創社,東京.

2. 論文等（原著、総説、短報、研究報告、実践報告、資料）

藤淵俊夫王，藤田克也，五十嵐隆元，西丸英治，堀田昇呉，桜井礼子，小野孝二（2021）. 放射線診療従事者の不均等被ばく管理の実態に基づく水晶体被ばく低減対策の提案, 日本放射線技術学会, 77 (2), 160-171.

日髙未希恵，今井秀樹（2020）. 日本の中山間地域で人口減少がゆるやかな地域の社会文化的特徴-宮崎県椎葉村を対象として-. 日本健康学会誌，“in press 2021.10.18”.

Igarashi Y, Kim E, Hashimoto S, Tani K, Yajima K, Iimoto T, Ishikawa T, Akashi M, Kurihara O. (2020). Difference in the Cesium Body Contents of Affected Area Residents Depending on the Evacuation Timepoint Following the 2011 Fukushima Nuclear Disaster. *Health Phys*, 119(6) 733-745. DOI: 10.1097/HP.0000000000001249

Kim E, Yajima K, Igarashi Y, Tani K, Hashimoto S, Nakano T, Akashi M, Kurihara O. (2020). Intake Ratio of 131I to 137CS Derived from Thyroid and Whole-Body Doses to Residents of Iwaki City in Japan's Fukushima Prefecture. *Health Phys*. DOI: 10.1097/HP.0000000000001345

Kim E, Yajima K, Hashimoto S, Tani K, Igarashi Y, Iimoto T, Ishigure N, Tatsuzaki H, Akashi M, Kurihara O. (2020). Reassessment of Internal Thyroid Doses to 1,080 Children Examined in a Screening Survey after the 2011 Fukushima Nuclear Disaster. *Health Phys*, 118(1), 36-52. DOI: 10.1097/HP.0000000000001125

Kojimahar N, Yoshitake Y, Ono K, Kai M, Bynes G, Schüz J, Cardis E, Kesminiene A (2020). Computed tomography of the head and the risk of brain tumours during childhood and adolescence: results from a case–control study in Japan .*J Radiol Pro*t. Doi: 10.1088/1361-6498/abacff.

Mizuno Y, Konishi S, Goto C, Yoshinaga J, Hidaka M, Imai H. (2021). Association between nutrient intake and telomere length in Japanese female university students. *Biomarkers*, UK. https://doi.org/10.1080/1354750X.2020.1871409.

Yoshitake T, Ono K, Ishiguchi T, Maeda T, Kai M（2020）.Clinical indications for the use of computed tomography in children who underwent frequent computed tomography: a near‐13‐year follow‐up retrospective study at a single

institution in Japan. *Radiat Environ Biophys*. Doi: 10.1007/s00411-020-00857-8.

堤弥生、野戸結花，明石眞言（2020）．放射線災害の初動対応における看護師の意識への影響要因尺度の開発．日本放射線看護学会誌 8(2). 100-112.

3. 学会における発表

秋田久美，酒井一夫，日髙未希恵．4 拍 1 呼吸は胸骨圧迫深度を維持させることができるか．第 23 回臨床救急医学会学術集会, 2020 年 8 月 26 日，東京.

篠﨑真弓.在宅医療におけるプライマリ領域の診療看護師（NP)の活動基盤となる二次医療圏の資源に関する調査，第 6 回日本 NP 学会学術集会, 2020 年 10 月 17 日，愛知.

秦江利果，関口幸輝，高野望結，高橋萌子，高橋萌乃，長谷川歩実，畠山夏帆，久加奈，横山季里，篠﨑真弓，小山珠美，テイラー栄子，桜井礼子．首都直下型地震において帰宅困難者のオストメイトが必要とする一時滞在施設の備えの検討．日本災害看護学会第 22 回年次大会, 2020 年 9 月 28 日，広島.

日髙未希恵，今井秀樹．人口減少が進行する中山間地域で暮らす者のシビックプライドに関連する要因．第 91 回日本衛生学会学術集会, 2021 年 3 月 6 日，富山市.

日髙未希恵，今井秀樹．過疎化と高齢化が進む中山間地域の集落ごとの人口動態に関する検討．第 91 回日本衛生学会学術集会, 2021 年 3 月 6 日，富山市.

日髙未希恵，今井秀樹．日本の中山間地域の社会関係資本を測定するための尺度開発，－宮崎県椎葉村を対象として－．第 13 回文化看護学会学術集会, 2021 年 3 月 13 日～14 日，オンライン開催.

Ichiro Ymaguchi, Koji ono, Naoki Kunugita. Radiation safety issues regarding X ray emittable devices below 10 kV applied voltage. IRPA15, 2021 年 1 月 18 日, Seoul.

Koji Ono, Takahumi Kumasawa, Keiichi Shimatani1, Masatoshi Kanou,etc. Radiation dose distribution of surgeon and medical staff on orthopedic Ballon Kyphoplasty in Japan. IRPA15, 2021 年 1 月 18 日, Seoul.

長野忍，田中留伊，小宇田智子，中村博美，菅原裕美，磐井佑輔，小池卓也，橘昌嗣．大学病院における診療看護師の活動と活用の実際．第 6 回日本 NP 学会学術集会 2020 年 10 月 17 日，愛知.

尾石早織，田中留伊，小宇田智子，中村裕美，菅原裕美．医師の考える災害現場における診療看護師（NP）の活動の可能性．第 6 回日本ＮＰ学会学術集会. 2020 年 10 月 17 日，愛知.

Sumi Yokoyama, Satoshi Iwai, Norio Tsujimura, Koji Ono Kunugita Naoki. Development of Guidelines Radiation Protection for the Lens of Eye in Japan. IRPA15, 2021 年 1 月 18 日, Seoul.

Takayasu Yoshitake, Koji Ono, Masayuki Kitamura, Osamu Miyazaki, Michiaki Kai. Analysis of reasons for the multiple scans of paediatric CT examinations in Japan : What cause the different number of sans in disease with the same ICD code. IRAP 15, 2021

年 1 月 18 日, Seoul.

4. 研究助成および研究成果報告書

明石眞言（研究代表者），食品中の放射性物質の基準値施行後の検証とその影響評価に関する研究. 厚生労働行政推進調査事業費補助金 食品の安全確保推進研究事業. 2019～2021 年度

明石眞言（研究分担者），放射線業務従事者の健康影響に関する疫学研究. 労災疾病臨床研究事業費補助金. 2017～2021 年度

明石眞言（研究分担者）CBRNE テロリズム等の健康危機事態における原因究明や医療対応の向上に資する基盤構築に関する研究. 健康安全・危機管理対策総合研究事業. 2019～2021 年度

明石眞言（研究参加者）オールハザードアプローチに基づく原子力災害拠点病院の BCP 推進事業　放射線安全規制研究推進事業　放射線対策委託費（放射線安全規制研究戦略的推進事業費）2018 - 2020

小野孝二（研究分担者），新しいチーム医療における医療・介護従事者の適切な役割分担についての研究. 厚生労働省行政推進調査事業費補助金. 2019～2021 年度

小野孝二（研究分担者），不均等被爆を伴う放射線業務における被ばく線量の実態調査と線量提言に向けた過大評価に関する研究. 労災疾病臨床研究事業補助金. 2018～2020 年度

小野孝二（研究分担者）， CT 被ばく線量評価システム WAZ A-ARI の他のモダリティへの展開技術の開発. 日本学術振興会科学研究費補助金. 基盤 C. 2019～2021 年度

小野孝二（研究分担者）， 頻回小児 CT 診断の検査理由と放射線被ばくの継続的分析による脳腫瘍罹患との関係. 日本学術振興会科学研究費補助金. 基盤 C. 2019～2021 年度

小宇田智子(研究代表者). 閉経後の高脂肪食に対する食物依存性の形成と大豆タンパク質による抑制. 日本学術振興会科学研究費補助金, 基盤研究（C），産婦人科学関連. 2019 年度-2021 年度

小宇田智子(研究代表者). 二次胆汁酸の大腸上皮および腸管漏出に対する影響と AU-1803 の効果. 株式会社アミノアップ. 2020 年度.

小宇田智子(代表者). 看護学研究科高度実践看護コースの実践力向上に向けて～グラム染色スキルの獲得と向上～. 学長裁量経費. 2020 年度.

5. 社会貢献（学会以外の講演等、学会や行政関連の役員、社会貢献、非常勤講師）

小野孝二

1）厚生労働省健康局参与

2）日本アイソトープ協会放射線安全取扱部会関東支部委員

3）一般社団法人 日本保健物理学会編集委員

4) 国立研究開発機構法人量子科学技術研究開発機構放射線医学研究所　WAZA-ARI 研究開発・運用委員会委員
5) 環境省 令和２年度放射線健康管理・健康不安対策事業（福島県外における放射線に係る健康影響等に関するリスクコミュニケーション事業）事業運営会議委員.
6) 環境省 リスクコミュニケーション事例調査有識者検討会委員.
7) 一般社団法人 日本保健物理学会「生殖腺防護に関する NCPR 声明」翻訳ワーキンググループ委員.
8) 早稲田大学大学院先進理工学研究科および東京女子医科大学大学院医学研究科の博士学位論文審査委員
9) 世田谷子育て支援チャリティイベント「三茶にサンタがやってくる！2020」, 三茶にサンタがやってくる実行委員会主催, 2020 年 12 月 13 日.

明石眞言

1) 千葉科学大学非常勤講師, 放射線医学, 2020 年度後期
2) 東日本国際大学健康社会戦略研究所客員教授
3) 東日本国際大学シンポジウム, 被ばく医療初動から復興を展望して, 2020 年 10 月
4) NPO 法人 NBCR 対策推進機構　第 2 回「消防職員のための CBRNE 災害と現場の対応担当者養成講習会」一消防職　「放射線テロ・放射線災害の動向と対策一消防職員のための基礎知識一」2020 年 7 月
5) IAEA 国際原子力機関 WEBINAR on medical response to nuclear and radiological safety or security related emergencies: Lessons learned from case studies. “Fukushima Daiichi Accident” 2020 年 8 月
6) NPO 法人 NBCR 対策推進機構　第 3 回消防職員等のための CBRNE 災害と現場の対応担当者養成講習会　「消防職員及び CBRNE 災害対策担当者等が知っておくべきこと-」2020 年１１月
7) NPO 法人 NBCR 対策推進機構 CBRNE 講習会　「放射線テロ・放射線災害と医療対策」2020 年 12 月
8) NPO 法人 ACT 災害医療研究所 2020 年度　災害医療従事者研修　「原子力災害への対応の実際」2020 年 7 月
9) NPO 法人（オランダ） IB Consultancy NCT Virtual Asia（オンライン）, COVID-19: Insights on an Epidemic Outbreak. 2020 年 11 月
10) 国立大学法人　長岡技術科学大学　原子力安全フォーラム「原子力・放射線事故医療の専門家として、過去の事故を振りかえる。」2021 年 1 月
11) 国立研究開発機構法人量子科学技術研究開発機構　人材育成センター　第 4 回防護健康影響課程講師「被ばく事故例」202１年３月
12) 茨城県　医師会・薬剤師会による安定ヨウ素剤の事前配布(薬局配布方式)に係

る医師及び薬剤師向け研修会　講師「「安定ヨウ素剤について」　２０２０年８月

13）国立研究開発機構法人量子科学技術研究開発機構　被ばく医療診療手引き編集委員会委員

14）UNSCEAR（United Nations Scientific Committee on the Effects of Atomic Radiation, 原子放射線の影響に関する国連科学委員会）福島プロジェクト II シニアテクニカルアドバイザー

15）UNSCEAR 国内対応委員会委員

16）UNSCEAR 日本代表代理

17）厚生労働省　電離放射線障害の業務上外に関する検討会委員（座長）

18）厚生労働省『令和３年度電離放射線障害に関する医学的知見の収集に係る調査研究』に係る総合評価落札方式技術審査委員会委員

19）文部科学省　原子力損害賠償紛争審査会委員

20）総務省消防庁　福島原発事故において活動した消防職員の長期的な健康管理審査連絡会委員（座長）

21）東京消防庁　特殊災害支援アドバイザー

22）全国健康保険協会　船員保険における放射線等に関する有識者会議（座長）

23）茨城県　JCO 事故対応健康管理委員会委員

24）茨城県　茨城県原子力安全対策委員会

25）茨城県　茨城県東海地区環境放射線監視委員会調査部会専門委員

26）静岡県　静岡県防災・原子力学術会議/静岡県防災・原子力学術会議原子力分科会

27）富山県　防災会議　原子力災害対策部会委員

28）学校法人日本医科大学　日本医科大学組換え DNA 実験安全委員会委員

29）原子力安全研究協会　環境省委託　除去土壌等の再生利用に係る放射線影響に関する安全性評価検討ワーキンググループ

30）公益社団法人茨城県原子力協議会（理事）

31）公益社団法人日本医師会　救急災害医療対策委員会(オブザーバー)

32）水戸市　原子力防災対策会議委員

33）国立大学法人弘前大学被ばく医療連携推進機構　国際アドバイザリーボード委員

34）日本放射線事故・災害医学会　代表理事

35）日本放射線看護学会　監事

小宇田智子

1）非常勤講師. 細胞生物学. 東京電機大学理工学部. 2020 年度前期

2）非常勤講師. 感染と免疫. 東都大学ヒューマンケア学部. 2020 年度後期

3）厚生労働省委託事業 職場における化学物質のリスク評価推進事業 有害性評価書原案作成グループ委員. クロロピクリン担当. 2020 年度

4）世田谷子育て支援チャリティイベント「三茶にサンタがやってくる！2020」, 三茶にサンタがやってくる実行委員会主催, 2020 年 12 月 13 日.

日髙未希恵.

1）公開講座「一緒に考えませんか？少子高齢化・人口減少社会の備えはじぶんごと」, 東京医療保健大学主催, 目黒区共催, 2021 年 1 月 30 日.

2）世田谷子育て支援チャリティイベント「三茶にサンタがやってくる！2020」, 三茶にサンタがやってくる実行委員会主催, 2020 年 1 2 月 13 日.

篠﨑真弓

1）川崎市 NP 連絡会　理事

2）世田谷子育て支援チャリティイベント「三茶にサンタがやってくる！2020」, 三茶にサンタがやってくる実行委員会主催, 2020 年 12 月 13 日.

6. 上記以外その他(原著、総説、短報、研究報告、実践報告、資料以外の紙上発表等)

小宇田智子. 英語論文査読 Applied sciences. 2020 年 11 月

佐野仁海,須賀菜穂子,関口幸輝,髙野望結,髙橋萌子,髙橋萌乃,長谷川歩実,秦江利果,畠山夏帆,久加奈,横山季里,篠崎真弓,小山珠美,テイラー栄子,桜井礼子（2020）. 首都直下型地震において帰宅困難者のオストメイトが必要とする一時滞在施設の備えの検討. 日本オストミー協会三多摩支部「東京三多摩」, 235, 1-7.

【総合看護学】

1. 著書（翻訳書を含む）

なし

2. 論文等（原著,総説,短報,研究報告,実践報告,資料）

木島楓,浦中桂一,朝澤恭子（2020）.有職女性の周産期におけるケアニーズとケアの満足度. 厚生の指標, 67(12), 7-12.

竹内朋子,山西文子,佐野由紀子,杉崎けい子(2021). 隣地実習制限下における「看護学実習ガイドライン」に基づいた取り組み. 看護教育, 62(3), 266-270.

竹本奈央,浦中桂一,朝澤恭子（2020）.産褥早期の母親への背部アロマトリートメントによるリラックス感と疲労感の改善効果. 日本看護科学会誌, 40, 160-167.

3. 学会における発表

岩本郁子,衣川さえ子,竹中泉. 医療安全教育を担う看護教員と臨床看護師教材コンテンツ共有システム活用の評価－活用状況の分析－.第 40 回日本看護科学学会学術集会, 2020 年 12 月 1～25 日, Web 開催.

加瀬亜希子,藤井由美恵,竹内朋子,岩本郁子,高橋智子,中村裕美,酒井一夫,玄順烈,佐藤潤,

松田謙一,加藤智子,朝澤恭子.学生の医療安全教育の指導向上を目指す実習指導者と大学教員の連携会議の実践報告. 第 40 回日本看護科学学会学術集会, 2020 年 12 月 1～25 日, Web 開催.

Keiichi URANAKA, Hitoshi TAKAIRA, Ryoji SHINOHARA, Zentaro YAMAGATA（2020）. Comparing nurse practitioner-provided care and non-nurse practitioner-provided care on patients' length of stay in a secondary emergency department,The 6th Annual Meeting of Japan Society of Nurse Practitioner,November 18th,Japan・online

衣川さえ子, 岩本郁子,竹中泉. 医療安全教育を担う看護教員と臨床看護師教材コンテンツ共有システム活用の評価－Web 調査結果の分析－. 第 40 回日本看護科学学会学術集会, 2020 年 12 月 1～25 日, Web 開催.

木島楓,浦中桂一,朝澤恭子（2020）.有職女性の周産期におけるケアニーズとケアの満足度,第 40 回日本看護科学学会学術集会,2020 年 12 月,オンライン開催.

竹本奈央,浦中桂一,朝澤恭子（2020）.産褥早期の母親への背部アロマトリートメントによるリラックス感と疲労感の改善効果,第 40 回日本看護科学学会学術集会,2020 年 12 月,オンライン開催.

浦中桂一（2020）.シンポジウム 5「診療看護師導入という未来の医療への提言～多様な導入の可能性を探る～」,診療看護師の動向と大学院課程における教育について,第 11 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会,2020 年 8 月 29 日,広島・オンライン開催.

浦中桂一（2021）.シンポジウム 2：「診療看護師導入という未来の医療への提言～多様な導入の可能性を探る～地域医療における診療看護師の意義」,第 22 回日本病院総合診療医学会学術総会,2021 年 2 月 21 日,群馬・オンライン開催.

4. 研究助成および研究成果報告書

衣川さえ子, 岩本郁子, 竹中泉. 医療安全教育を担う看護教員と臨床看護師の教育実践力を高める研鑽支援モデルの構築. 文部科学省科学研究費助成金, 基礎研究 C.2018 年度～2020 年度.

山西文子, 岩本郁子, 浦中桂一, 早坂奈美. 東京医療保健大学大学院診療看護師教育課程修了者のキャリアパスモデルの検討. 学長裁量経費. 2020 年度.

5. 社会貢献（学会以外の講演等,学会や行政関連の役員,社会貢献,非常勤講師）

山西文子

1）講義「医療安全学・医療安全管理」東京医療保健大学放射線看護研修センター主催「2019 年度がん放射線療法看護認定看護師養成課程」2019.7.6-7.26

2）講義「NP 教育の現状と特定行為研修制度について」全国共済組合連合会虎の門病院.2020.12.11

3）青森県立病院経営評価会議委員

4）独立行政法人国立病院機構 参与

5）独立研究法人国立国際医療研究センターヒトＥＳ細胞研究倫理審査委員会委員

6）日本ＮＰ教育大学院協議会 監事
7）学校法人東京医科大学 評議員
8）公益財団法人日本心臓血圧研究振興会　理事・評議員

岩本郁子

1）チーム医療論（特定行為実践）,がん放射線療法看護認定看護師課程,東京医療保健大学,2020 年 7～9 月.
2 ）日本 NP 学会副会長,学会誌編集委員（査読）

浦中桂一

1）浜松医科大学 FD 講演会 診療看護師の目指すものと育成について～クリティカル NP について～,　浜松医科大学 FD 委員会,2020 年 12 月 23 日.
2）東京医療保健大学 放射線看護研修センター　がん放射線療法看護認定看護師課程「チーム医療論（特定行為実践)」 講師
3）日本 NP 教育大学院協議会社員
4）東京医療保健大学紀要　査読
5）看護科学研究　査読

早坂奈美

なし

6. 上記以外その他(原著,総説,短報,研究報告,実践報告,資料以外の紙上発表等)

衣川さえ子,岩本郁子,竹中泉.新たな安全マネジメント“Safety- II ”を看護基礎教育においてどのように展開するか.第 30 回日本看護教育学会学術集会交流セッション 6, 2020 年 9 月 4～5 日, Web 開催.

Keiichi URANAKA, Hitoshi TAKAIRA, Ryoji SHINOHARA, Zentaro YAMAGATA（2020）. Comparing nurse practitioner-provided care and non-nurse practitioner-provided care on patients’ length of stay in a secondary emergency department,The 6th Annual Meeting of Japan Society of Nurse Practitioner,優秀演題賞

山西文子（2020.4.3)「NP の国家資格制度化を」厚生福祉 第 6560 号「進言」時事通信社

山西文子（2020.7.17)「変わらないもの」厚生福祉 第 6582 号「打診」時事通信社

山西文子 (2020.11.13)「『死への準備教育』が与えた影響」厚生福祉 第 6608 号「打診」,時事通信社

山西文子（2021.2.9)「専門職の「自覚と責任」」厚生福祉 第 6628 号・合併号「打診」,時事通信社

浦中桂一,本学学友会クラブ「Socio」顧問

【基礎看護学】

1. 著書（翻訳書を含む）

なし

2. 論文等（原著,総説,短報,研究報告,実践報告,資料）

ハーネド明香（2020）. 看護組織における組織的公正と労働環境の満足度および職務継続意思との関連に関する横断研究. 修士論文.

橋本拓哉, 髙橋智子, 松山友子（2020).下腿型弾性ストッキング着用の有無による離床時の血圧及び脈拍の比較検証. 東京医療保健大学紀要, 第 15 巻（in print）.

加瀬亜希子, 岡村眞喜子, 石橋咲子, 澁澤盛子, 竹内朋子, 岩本郁子, 髙橋智子, 酒井一夫, 玄順烈, 田野将尊, 小嶋奈都子, 朝澤恭子（2020）. 看護技術の到達目標の達成に向けた実習指導者と大学教員との連携会議の取り組み. 看護展望, 45(8), 745-751.

古宮桃子, 石川明日香, 井上ひかり, 小林彩佳, 下鳥彩香, 菅原清楓, 杉原由記, 長谷衣純, 花輪朱美香, 川﨑香織, ハーネド明香, 髙橋智子, 松山友子（2020）. 洗髪における泡の拭き取りの有無がすすぎ湯量にもたらす効果 ：陰イオン界面活性剤残留濃度とすすぎ残し感による比較. 看護技術, 66(11), 1183-1190. メヂカルフレンド社.

髙橋智子, 松山友子, 川﨑香織, 佐藤佑香, 淺沼智恵, 木村弘江（2020）.「視点共有ミーティング」の導入による副看護部長の看護管理ラウンドの変化 ―アクションリサーチを用いて―. 日本看護管理学会誌, 24(1), 175-185.

髙橋智子. Hybrid 法による急性期看護における日常生活ケアにかかわる概念の明確化－急性期看護における日常生活ケアの理論化に向けて－. 日本看護研究学会雑誌. 2020 年 11 月 25 日採択（in print).

利光恵利子, 髙橋智子, 駒田真由子, 佐藤潤（2020）. 診療看護師(NP)の配置病棟と非配置病棟の比較－看護実践の質・ワークモチベーション・学習意欲・看護業務負担・タイムリーな医療に焦点を当てて－. 東京医療保健大学紀要, 第 15 巻（in print).

吉田貴恵子, 津藤菜緒, 山口恵子, 荒木香織, 髙橋智子, 松山友子（2020）. オリジナルマッサージを併用した足浴の効果～足浴バケツ内で実施可能なマッサージ方法を用いて～, 東京医療保健大学紀要, 第 15 巻（in print).

3. 学会における発表

浅井さおり, 内山孝子, 大串裕美子, 小野光美, 北村愛子, 鈴木真理子, 友竹千恵, 長谷川美栄子, 三浦直子. 今,現場の身体拘束を考える. 日本看護倫理学会オンライン研修会, 2020 年 11 月 8 日, Web 開催.

ハーネド明香. 看護職員が知覚する組織的公正と職務継続意思の関連. 第 40 回日本看護科学学会学術集会, 2020 月 12 月 12 日, オンライン開催.

加瀬亜希子, 藤井由美恵, 竹内朋子, 岩本郁子, 髙橋智子, 中村裕美, 酒井一夫, 玄順烈, 佐藤潤, 松田謙一, 加藤知子, 朝澤恭子. 学生の医療安全教育の指導向上を目指す実習指導者と大学教員の連携会議の実践報告. 第 40 回日本看護科学学会学術集会, 2020 年 12 月 1 日～25 日, オンライン開催.

河合桃代, 内山孝子, 茂野香おる, 酒井千恵, 殿城友紀, 川嶋みどり. 綿タオルの存在価

値！安全に患者にケアを提供するために看護管理者ができること. 第 24 回日本看護管理学会学術集会, 2020 年 8 月 29 日, WEB 開催.

河合桃代, 内山孝子, 茂野香おる, 大宮裕子, 東郷美香子, 川嶋みどり. 気持ちよさをもたらすケアの技Ⅰ「熱布バックケア＋腹臥位＝ワンセットケア」どうやってやるの？. 日本看護技術学会第 4 回全国キャラバン研修会, 2020 年 11 月 22 日, WEB 開催.

河合桃代, 内山孝子, 茂野香おる, 大宮裕子, 東郷美香子, 窪田静, 川嶋みどり. 気持ちよさをもたらすケアの技Ⅱ「熱布バックケア＋腹臥位＝ワンセットケア」どうやってやるの？. 日本看護技術学会第 4 回全国キャラバン研修会, 2021 年 1 月 23 日, WEB 開催.

茂野香おる, 川嶋みどり, 内山孝子, 河合桃代, 殿城友紀, 酒井千恵. 看護実践の中　に潜むネグレクト. 日本看護倫理学会第 13 回年次大会, 2020 年 5 月 30 日, 誌上発表.

髙橋智子. 急性期看護における日常生活ケアの実践の明確化. 第 40 回日本看護科学学会学術集会, 2020 年 12 月 13 日, オンライン開催.

内山孝子, 酒井千恵, 殿城友紀, 河合桃代, 茂野香おる, 川嶋みどり. 自然の回復過 程を整える「熱布バックケア」普及のためのアクションリサーチ―A病院における普及プロセス―. 日本赤十字看護学会第 21 回学術集会, 2020 年 7 月 5 日, WEB 開催.

渡辺千夏, 今井もも子, 大島千佳, 梶良充, 佐藤相生, 髙松冬美, 二宮千幸, 見ル野桃子, 柳町実希, 伊部有美子, 久保田貴博, 髙田菜々子, 吉田貴恵子, 髙橋智子, 松山友子. ビニール袋を用いたオリジナル手浴の有用性の検討～陰イオン界面活性剤残留濃度とすすぎ残し感による比較～. 第 40 回日本看護科学学会学術集会, 2020 年 12 月 13 日, オンライン開催.

4. 研究助成および研究成果報告書

河合桃代,内山孝子,茂野香おる,大宮裕子,山口みのり,殿城友紀,看護実践能力の向上に向けた技術習得過程のモデル化と教育プログラムの構築. 日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究 C). 2019-04-01～2024-03-31.

髙橋智子. 急性期看護への適用に向けた日常生活ケアの実践的モデルの開発.日本学術振興会科学研究費補助金 研究課題番号：20K19010, 若手研究. 2020 年度～2024 年度.

殿城友紀,内山孝子,酒井千恵,茂野香おる,河合桃代,川嶋みどり,平松則子. 自然の回復過程を整える「熱布バックケア」普及プロジェクト. 平成 30～31 年度「学校法人日本赤十字学園赤十字と看護・介護に関する研究助成」. 2020 年 5 月報告書提出.

内山孝子,特養看護職の看取りの実践能力向上のための施設横断型学習プログラムの構築と評価, 日本学術振興会科学研究費補助金（若手研究). 2018-04-01～2022-03-31.

5. 社会貢献（学会以外の講演等,学会や行政関連の役員,社会貢献,非常勤講師）

松山友子

1）日本赤十字看護学会査読委員. 2019 年 5 月 1 日～2022 年 4 月 30 日.

2）東京医療保健大学 放射線看護研修センター「がん放射線療法看護認定看護師課

程」講師.実習のための基礎講座：看護過程の基礎. 2020 年 8 月 24 日.

3）第 51 回（2020 年度）日本看護協会－看護教育－論文選考委員. 2021 年 1 月 18 日～2021 年 8 月 31 日.

4）帝京科学大学 非常勤講師. 看護教育学担当. 2021 年 4 月 7 日～2021 年 8 月 26 日.

内山孝子

1）質的研究入門②「エスノグラフィーによる研究方法と特徴,全日本民医連研究倫理審査委員会主催,2020 年 10 月 17 日.

2）ギジュツでつながるワークショップ第 5 弾実習に役立つ観察技術を磨こう,ギジュツでつながるワークショッププロジェクト主催,2020 年 12 月 6 日.

3）熱布バックケア＆スピラドゥ講習会,千葉県立救急医療センターICU 主催,2021 年 2 月 2 日.

4）日本看護倫理学会評議員.2018 年 6 月 1 日～202 1 年 5 月 3 1 日.

5）日本看護倫理学会臨床倫理ガイドライン検討委員. 2013 年～現在に至る.

6）日本赤十字看護学会査読委員. 2019 年 5 月 1 日～2022 年 4 月 30 日.

7）日本赤十字看護学会同窓会役員 2020 年 10 月 1 日～2022 年 9 月 30 日.

8）看護未来塾世話人兼事務局.

9）日本看護倫理学会第 14 回年次大会　査読委員　2021 年 2 月.

10）日本看護管理学会査読委員　2021 年 2 月.

11）東京医療保健大学紀要　査読

6. 上記以外その他(原著,総説,短報,研究報告,実践報告,資料以外の紙上発表等)

内山孝子（2020）.『川嶋みどり 看護の羅針盤 366 の言葉』選者たちが贈る 私が“ぐっときた言葉”進むべき道を照らし,看護師としての自律を支える言葉の贈り物.月間ライフサポート WEB MAGAZINE 2020, 10, 13-17. http://lifesupport-co.com//単著.

髙橋智子（2020）. 特別記事 急性期看護における日常生活ケアの理論構築に向けた取り組み. 看護研究, 53(6), 508-515.

【成人・老年看護学】

1. 著書（翻訳書を含む）

竹内朋子, 松本和史, 原口昌宏他（分担執筆）（2020）. 放送大学　オンライン学習支援ツール　看護師国家試験過去問解説. 放送大学教育振興会, 東京.

2. 論文等（原著,総説,短報,研究報告,実践報告,資料）

淺田道幸, 西村基記, 田野将尊, 竹内朋子（2020）. 看護ケアによる N95 微粒子マスクのフィットファクターの推移. 結核, 95(2), 33-39.

渡邉成美, 金子あけみ, 松本和史（2020）. クリティカルケア領域における看護師のワーク・エンゲイジメントと職場サポート,職場コミュニティ感覚および自律性の関連. 日本クリティカルケア看護学会誌, 16, 85-93.

仁尾かおり，藤澤盛樹，原口昌宏（2020）．先天性心疾患をもつ子どもの親の認識の構造－『子どもが病気を理解する』『子どもが前向きに考え行動する』ために親としてできることに焦点を当てて－．日本小児看護学会誌, 29,34-41.

藤澤盛樹，仁尾かおり，原口昌宏（2020）．先天性心疾患患児の親が考える「子どもが前向きに考え行動するために親としてできること」．小児保健研究, 79(5), 494-501.

竹内朋子，山西文子，佐野由紀子，杉崎けい子（2021）．臨地実習制限下における「看護学実習ガイドライン」に基づいた看護学実習の取り組み．看護教育, 62(3), 266-270.

松田謙一（2021）．循環器疾患患者・家族への療養支援における地域包括ケアシステムの活用．看護技術, 67 (2), 91-95.

3. 学会における発表

三浦規雅，新井朋子，原口昌宏．小児における開放吸引時におけるマノメータ使用の有無による生体指標の比較検証．第 48 回 日本集中治療医学会学術集会，オンライン開催, 2021 年 2 月 12 日‐14 日.

水上玲子，光澤裕香，井出令奈，中川通弘，野口紗弥香，松田実々，前田竜耶，原口昌宏，竹内朋子．ストレッチャー移送時に女性看護師が行う胸骨圧迫の姿勢による質の比較．第 40 回 日本看護科学学会学術集会，オンライン開催, 2020 年 12 月 1 日-25 日.

島崎歩未， 井手口巴南，及川美咲，小野田遥香，佐藤萌香， 清水百恵，田口佑香，田﨑菜々子，丸山稜太郎，松田謙一，松本和史．早期体験実習が看護大学生の就業意欲に与える影響．第 40 回　日本看護科学学会学術集会，オンライン開催, 2020 年 12 月 1 日-25 日.

加瀬亜希子，藤井由美恵，竹内朋子，岩本郁子，高橋智子，中村裕美，酒井一夫，玄順烈，佐藤潤，松田謙一，加藤知子，朝澤恭子．学生の医療安全教育の指導向上を目指す実習指導者と大学教員の連携会議の実践報告．第 40 回 日本看護科学学会学術集会，オンライン開催, 2020 年 12 月 1 日-25 日.

原口昌宏,竹内朋子．慢性疾患患児の父親のストレス経験．第 30 回 日本小児看護学会学術集会，オンライン開催, 2020 年 9 月 19 日-30 日.

濱野智恵子，松本和史，原口昌宏. Rapid Response System を起動する看護師の認識と行動に関する研究．第 16 回 日本クリティカルケア看護学会学術集会，オンライン開催, 2020 年 7 月 1 日-12 月 31 日.

松山大地，松本和史，原口昌宏．胸骨圧迫の質の低下に関する実際と自覚との乖離―看護系大学生と看護師の比較―．第 16 回 日本クリティカルケア看護学会学術集会， オンライン開催, 2020 年 7 月 1 日-12 月 31 日.

4. 研究助成および研究成果報告書

戸ケ里泰典，山崎喜比古，竹内朋子，神崎初美，本江朝美，井上洋士．看護実践に特化した健康生成論とストレス対処力概念 SOC に関する応用モデルの開発．日本学術振興会科学研究費補助金，基盤研究(B). 2019-2022 年度.

原口昌宏. 慢性疾患患児の父親の経験および心理的特性に基づいた支援プログラムの開発. 日本学術振興会科学研究費補助金, 若手研究. 2020-2022 年度.

原口昌宏. 小児慢性疾患をもつ子どもの父親の経験から捉える Sense of Coherence に関する研究. 日本私立看護系大学協会研究助成事業, 若手研究者研究助成. 2018-2019 年度.

松田謙一, 綿貫成明. 急性期内科系病棟に所属する勤務帯リーダー看護師のための「せん妄ケア実践能力自己評価尺度」の開発－信頼性妥当性の検討のための全国調査－. 国立病院看護研究学会研究助成. 2019 年 7 月-2020 年 7 月.

5. 社会貢献（学会以外の講演等,学会や行政関連の役員,社会貢献,非常勤講師）

竹内朋子

1）公益財団法人がん研究振興財団 がんサバイバーシップ研究支援事業運営委員会 委員

2）公益財団法人がん研究振興財団　看護師・薬剤師・技師等海外研修選考委員会 委員

3）東京都看護協会 学術誌編集委員会 委員

4）東京医療保健大学 放射線看護研修センター　がん放射線療法看護認定看護師課程「がん看護学総論」,「医療安全学：看護管理」 講師

5）駒澤大学　医療健康科学部 「保健理論」 非常勤講師

松本和史

1）日本看護科学学会 和文誌統計担当専任 査読委員

2）東京医療保健大学 放射線看護研修センター がん放射線療法看護認定看護師課程「ヘルスアセスメント」, 「医療安全学：看護管理」 講師

3）駒澤大学 医療健康科学部 「保健理論」 非常勤講師

原口昌宏

1）株式会社 公職研 看護師採用試験等における問題作成・採点

2）乳幼児親子総合教育スクール　ポコ・カンタービレ　非常勤講師

松田謙一

1）国立病院看護研究学会誌 査読委員

6. その他

松田謙一, 原口昌宏, 井本由希子. 2020 年度 東京医療保健大学　学長顕彰状受賞（老年看護学実習Ⅰ）

原口昌宏. 先天性心疾患の子どもの出生から幼児期までに父親が抱く思い. 2019 年度 日本小児看護学会　研究奨励賞候補

【小児看護学】

1. 著書（翻訳書を含む）

なし

2. 論文等（原著,総説,短報,研究報告,実践報告,資料）

山田恵子，中島美津子（2020）看護職が認識する社会的責任を構成する要素.日本看護学教育学会誌,30（3）,13-25.

3. 学会における発表

中島美津子．医療機関における勤務環境改善への取り組み．第 15 回東京都病院学会.2020 年.

新粥可奈子，中島美津子，玄順烈他.乳児は機器を通した母親の声を認識できるのか．第 46 回看護研究学会学術集会. 2020 年

加瀬亜希子、藤井由美恵、竹内朋子、岩本郁子、高橋智子、中村由美、酒井一夫、玄順烈、佐藤潤、松田謙一、加藤知子、朝澤恭子．学生の医療安全教育の指導向上を目指す実習指導者と大学教員の連携会議の実践報告、日本看護科学学会第 40 回学術集会、2020 年 12 月 1 日～12 月 25 日、Web 開催.

玄順烈、久保恭子、障害児通所施設に携わる看護師の職務満足度と個人特性・組織特性・環境要因との関連．日本看護科学学会第 40 回学術集会、2020 年 12 月 1 日～12 月 25 日、Web 開催.

山田恵子，中島美津子．看護職の well-being の変化に関連する要因.第 46 回看護研究学会学術集会. 2020 年.

山田恵子，中島美津子．看護職の健康認識に関連する要因.第 24 回日本看護管理学会学術集会. 2020 年.

山田恵子，中島美津子．看護師の幸福に繋げるポジティブ感情に働きかけるコミュニケーションロボットの実装.第 40 回日本看護科学学会学術集会. 2020 年.

4. 研究助成および研究成果報告書

山田恵子，玄順烈，中島美津子(2020)．東京医療保健大学学長裁量経費.COVID-19 下における小児看護の学びに関する学生の認識の特徴

5. 社会貢献（学会以外の講演等,学会や行政関連の役員,社会貢献,非常勤講師）

中島美津子

1) 厚生労働省医政局　医療経営支援課タスク・シフティング等勤務環境改善推進事業評価委員会委員長

2) 厚生労働省労働基準局　医療勤務マネジメントシステムに基づく医療機関に取り組みに対する支援の充実を図るための検討会委員

3) 厚生労働省労働基準局 医療勤務環境改善マネジメントシステム普及促進研修会講師

4) 厚生労働省労働基準局　勤務環境改善支援センター支援教材開発及び実態調査・研究委員会委員

5) 厚生労働省労働基準局 医療勤務環境改善マネジメントシステムの普及促進等事業

医療機関の働き方改革セミナー総括セミナーパネリスト

6）日本看護管理学会学会誌査読委員

7）日本看護研究学会学会誌査読委員

8）家族保健研究会会誌査読委員

9）滋賀医科大学大学院　看護管理学研究科非常勤講師

10）日本 POS 医療学会　評議員

11）名古屋大学　キャリア形成支援センター認定看護管理者教育課程講師

12）国際医療福祉大学　認定看護管理者教育課程セカンド,サードレベル講師

13）日本看護協会　認定看護管理者教育課程ファースト,セカンド,サードレベル講師

14）医療勤務環境マネジメントシステム研究会委員

15）東京都立国分寺高校　医療系進路講演会講師

16）複数県看護協会看護管理者研修講師

17）複数県看護協会認定看護管理者教育課程修了式特別講演講師

18）看護職の採用と定着を考える会理事

19）看護研究・Physical Assessment・看護記録等の複数病院及び日総研セミナー研修講師

玄順烈

1）トリオ・ジャパン定期総会　啓発活動

2）養育室　つばさ（児童発達支援）ボランティア

3）足立区障害福祉課施策推進担当　医療的ケア児ネットワーク協議会　会長

4）令和 2 年　第 1 回、第 2 回医療的ケア児ネットワーク協議会

5）足立区障害福祉課施策推進担当　医療的ケア児の災害対策会議　会長

6）令和 2 年　第 1 回、第 2 回医療的ケア児に災害対策ヒアリング

7）　NPO 法人 Social Development Japan　理事

山田恵子

1）川越市医師会継続教育委員会　技術研修会講師

2）NPO 法人　森の学校　運営ボランティア

6. 上記以外のその他

中島美津子

1）中島美津子(2020).【コロナ禍を乗り切る組織戦略!選び,選ばれる看護部をつくる看護師採用・確保,定着の工夫】コロナ禍による逆風下で求められる!組織継続と強化のための看護師採用･確保と定着マネジメントの采配～遠方の応募者との Zoom 面接のコツから定着強化のポイントまで. 看護部長通信, 18 巻 5 号 Page49-602.

2）中島美津子(2020). 看護管理実践計画の立て方基本のキ(解説). 看護部長通信, 18 巻 4 号 Page75-83.

3）中島美津子(2020). 【「COVID-19」「台風」「水害」「地震」想定外を想定内にする

マネジメント!患者,職員を守り,災害時に病院機能を滞らせない備えと対策ガイド】災害&危機的状況下における看護部長,現場管理職の役割,判断,行動指針. 看護部長通信, 18 巻 3 号 Page65-78.

4) 中島美津子(2020).【職員・経営者・患者の 3 方が WIN-WIN になる働き方改革実践　タスクシフトほか,働き方の効率化と安全,働きやすさのバランスをとる工夫】看護管理職が変われば病院が変わる!看護管理職の働き方改革と実践ガイド.看護部長通信, 18 巻 2 号 Page33-44.

5) 中島美津子(2020).【中堅看護師を中だるみから救え!師長が行う「成長を支える」ための支援】中堅看護師の停滞を防ぐために師長に求められる支援について.看護展望 ,45 巻 6 号 Page0521-0532.

6) 中島美津子(2020).【中堅看護師を中だるみから救え!師長が行う「成長を支える」ための支援】師長が支える中堅看護師の成長　中だるみさせないためのかかわり方. 看護展望,45 巻 6 号 Page0514-0520.

7) 中島美津子(2020).【2020 年度診療報酬改定　将来に生き残る組織対応に不可欠な必須ポイントと看護部対応ガイド】2020 年度診療報酬改定!　看護部対応最重要事項のかみくだき解説&対応やりくり,2035 年,2060 年を見据えた戦略. 看護部長通信, 18 巻 1 号 Page2-11.

8) 中島美津子(2020). 看護管理実践計画の立て方基本のホ(解説). 看護部長通信, 18 巻 6 号 Page94-101.

9) E ラーニング（エルゼビアジャパン）動画学習教材 3 単元講師

10) E ラーニング（マイナビ）動画学習教材 1 単元講師

11) web 教材開発（エルザビアジャパン）

【母性看護学・助産学】

1. 著書（翻訳書を含む）

草間朋子, 赤羽恵一, 石川仁, 甲斐倫明, 加藤知子, 北川敦志,関根絵美子, 堀田昇吾(2021). 放射線を正しく理解した看護職であるために　改正版　看護と放射線. 日本アイソトープ協会, 東京.

齋藤益子,小嶋奈都子,加藤知子他（2020). ここがポイント 助産師国家試験突破のコツ 助産師国家試験予想問題 2021. クオリティケア, 東京.

2. 論文等（原著,総説,短報,研究報告,実践報告,資料）

Asazawa K, Kojima N, Kato T, Hirade M. (2020). Implementation and Evaluation of a Postpartum Care Program for Mothers Raising Infants: A Pilot Study. O*pen Journal of Nursing*. 10(8) 758-769.

藤田麻央, 朝澤恭子. (2020). 乳幼児期の子どもを持つ男性における父親役割認識の関連要因. 東京医療保健大学紀要, 第 15 巻, (in print)

加瀬亜希子，岡村眞喜子，石橋咲子，澁澤盛子，竹内朋子，岩本郁子，高橋智子，酒井一夫，玄順烈，田野将尊，小嶋奈都子，朝澤恭子(2020)．看護技術の到達目標の達成に向けた実習指導者と大学教員との連携会議の取り組み.看護展望（0385-549X)45(8), 73-79.

川上茜，朝澤恭子．(2020)．医療系大学生を中心とした生殖年齢の男女における卵子凍結保存の知識および肯定的意識．東京医療保健大学紀要，第 15 巻, (in print)

木島楓，浦中桂一，朝澤恭子．(2020)．有職女性の周産期におけるケアニーズとケアの満足度．厚生の指標 ＝ Journal of health and welfare statistics, 67(12), 7-12.

小林浩平，朝澤恭子.(2020)．教職員に対する児童の急変対応の不安軽減プログラムの開発と評価．日本看護科学会誌. 40. 65-73.

Kojima N, Asazawa K. (2020). Factors Related to LGBT Recognition for University Students and Employed Adults. Open Journal of Nursing. 10(11), 1038-1047.

Kojima N, Asazawa K. (2020). Predictors of Mothers' Early Postpartum Fatigue: A Cross-Sectional Study. *Open Journal of Nursing*. 10(9). 890-902.

小嶋奈都子（2020）.妊娠期の父親への支援と期待されている効果に関する文献研究.日本母子看護学会誌,13(2), 45-55.

小嶋奈都子，朝澤恭子，平出美栄子，加藤知子．(2021)．大学を拠点とした産後支援プログラムの実践と評価－対象者背景による評価の相違－.厚生の指標，令和 3 年 6 月号, (in print)

小嶋奈都子（2021）父親が妻（パートナー）の妊娠中に受けた支援の実際とニーズに関する実態調査．日本母子看護学会誌, 14(2) (in print)

小島春佳，朝澤恭子．(2020)．看護大学生における低用量経口避妊薬に関する知識と意識．東京医療保健大学紀要，第 15 巻, (in print)

黒田野明，宮﨑文子，朝澤恭子．(2020)．看護大学生に対する妊孕性に関する性教育の評価．東京医療保健大学紀要，第 15 巻,(in print)

中川愛，吉村小春，松尾篤弥，吉川織江，黒米佐和，佐藤佑衣，福井彩花，山本ゆり子，小嶋奈都子，志村智絵，朝澤恭子．(2020).LGBT 認識と LGBT イメージにおける看護系大学生および社会人の相違　東京医療保健大学紀要，第 15 巻, (in print)

中村愛美，朝澤恭子，筒井志保．(2020)．生後 1 か月児を育児中の父親における精神健康度の関連要因とサポートニーズ．東京医療保健大学紀要，第 15 巻, (in print)

Natsuko Kojima, Kyoko Asazawa（2020）Factors Related to LGBT Recognition for University Students and Employed Adults. *Open Journal of Nursing* . 10(11). 1038-1047. DOI: https://doi.org/10.4236/ojn.2020.1011073

髙橋恵子，朝澤恭子，有森直子，亀井智子，麻原きよみ，大森純子，新福洋子，菱沼典子，田代順子．(2020)．People‐Centered Care パートナーシップ尺度（PCCP-16）の開発市民と保健医療専門職の協同に着目した信頼性と妥当性の検討．日本看護科学会誌

(in print)

竹本奈央，浦中桂一，朝澤恭子. (2020). 産褥早期の母親への背部アロマトリートメントによるリラックス感と疲労感の改善効果. 日本看護科学会誌, 40, 160-167.

齋藤益子，藤吉理沙，堤まどか，加藤江里子，加藤知子，平出美栄子（2020）. 看護系大学生の月経随伴症状と基礎体温に対する外陰部の温罨法の効果. 日本生殖心理学会誌, 6 (2), 12-19.

3. 学会における発表

朝澤恭子，實埼美奈，森明子，市川智彦，篠崎克子. 不妊治療中の男性における QOL 改善のための配偶者支援プログラムの実施と評価. 第 40 回日本看護科学学会学術集会学術集会, 2020 年 12 月.東京(on-line).

朝澤恭子，小嶋奈都子，鬼澤宏美，加藤知子，デッケルト博子，田辺洋子. 育児の悩み軽減およびリフレッシュを目指すオンライン母子支援クラスの実施と評価: パイロットスタディ. 第 25 回 聖路加看護学会学術大会， 2021 年 2 月，東京(on-line).

Arimori N, Asazawa K, Nakamura Y, Shiojima Y, Differences in genetic nursing competency between midwives and non-midwives in Japan. International Society of Nurses in Genetics (ISONG) Congress, 2020 Novenber 13-15. Pittsburgh (Virtual)

平出美栄子，加藤知子，小嶋奈都子，朝澤恭子. 大学を拠点とした産後支援「まちの助産室」の実践報告. 第 40 回日本看護科学学会学術集会学術集会, 2020 年 12 月.東京(on-line).

加藤知子，菊野直子，三上恵子，有阪光恵，萬篤憲，草間朋子. 患者も積極的に治療に参加できる「放射線治療手帳」の作成. 第 9 回日本放射線看護学会学術集会. 2020 年 9 月, (on-line).

加瀬亜希子，藤井由美恵，竹内朋子，岩本郁子，高橋智子，中村裕美，酒井一夫，玄順烈，佐藤潤，松田謙一，加藤知子，朝澤恭子. 学生の医療安全教育の指導向上を目指す実習指導者と大学教員の連携会議の実践報告. 第 40 回日本看護科学学会学術集会学術集会, 2020 年 12 月.東京(on-line).

木島楓，浦中桂一，朝澤恭子. 有職女性の周産期におけるケアニーズとケアの満足度. 第 40 回日本看護科学学会学術集会学術集会, 2020 年 12 月.東京(on-line).

丸野実佳，加藤知子，今井秀樹. 地方循環器外来におけるフレイルの介入調査.第 24 回日本心不全学会学術集会. 2020 年 10 月, (on-line).

村上明日理，齋藤益子，小嶋奈都子（2020）出産に立ち会った父親の出産に対する思い～出産の印象,妻への思い,児への思い,夫・父親としての思いに着目して～. 第 61 回日本母性衛生学会，静岡.

岡野左紀子，齋藤益子，小嶋奈都子（2020）子どもを持つ女性の更年期症状と最終出産年齢および母親役割意識の関連. 第 61 回日本母性衛生学会，静岡.

須坂洋子，朝澤恭子，有森直子，大賀有佳子，中村由唯，寺嶋明子. 看護職者における遺

伝看護実践能力の関連要因. 第 25 回 聖路加看護学会学術大会, 2021 年 2 月, 東京(on-line).

髙橋恵子, 朝澤恭子, 亀井智子, 麻原きよみ, 大森純子, 田代順子, 有森直子, 新福洋子, 菱沼典子. People - Centered Care パートナーシップの高齢者健康支援活動の特徴：2 群間比較から. 第 40 回日本看護科学学会学術集会学術集会, 2020 年 12 月.東京(on-line).

髙橋恵子, 三森寧子, 朝澤恭子, 亀井智子, 有森直子, 新福洋子, 谷田恵子, 武内紗千, 池田雅則. 小学校高学年児童における睡眠の質と心理社会的健康行動の関連要因に関するパイロットスタディ. 第 25 回 聖路加看護学会学術大会, 2021 年 2 月, 東京(on-line).

竹本奈央, 浦中桂一, 朝澤恭子. 産褥早期の母親への背部アロマトリートメントによるリラックス感と疲労感の改善効果. 第 40 回日本看護科学学会学術集会学術集会, 2020 年 12 月.東京(on-line).

武内昌子, 朝澤恭子. 双胎妊娠期・双子育児期の母親における Distress に関する文献レビュー. 第 35 回日本双生児研究学会学術講演会. 2020 年 1 月(on-line).

内橋李緒, 吉本美紀, 加藤知子, 齋藤益子, 杜稀衣,平出美栄子.コンドームによる避妊法に対する大学生の思いと知識. 第 18 回日本生殖心理学会学術集会. 2021 年 2 月, (on-line).

吉川之菜, 加藤知子, デッケルト博子, 平出美栄子. 二次データ利用による環境中大気汚染物質と低出生体重児との相関. 第 9 回日本公衆衛生看護学会学術集会. 2021 年 1 月, (on-line).

吉村小春, 中川愛, 松尾篤弥, 吉川織江, 佐藤佑衣, 福井彩花, 小嶋奈都子, 朝澤恭子.LGBT 認識と LGBT イメージにおける看護系大学生および社会人の相違. 第 25 回聖路加看護学会学術大会, 2021 年 2 月, 東京(on-line).

4. 研究助成および研究成果報告書

朝澤恭子. 不妊治療中の男性における QOL 低下防止のための Web アプリケーションの開発. 日本学術振興会科学研究費補助金 研究課題番号：19K11048, 基盤研究(C). 2019 年度～2021 年度

加藤知子, 平出美栄子, デッケルト博子, 田辺洋子. 分娩介助および助産ケア時の適切な作業姿勢に関する助産師学生へのエビデンスにもとづいた教育－健康障害(腰痛)予防のために－. 令和 2 年度学長裁量経費. 2020 年度

松﨑雅代, 藪中幸一, 藤田恵理子, 平出美栄子. 超音波エコーを活用した母乳育児支援のための妊娠・産褥期の乳房管理法の確立. 挑戦的萌芽研究. 2019 年度～2022 年度.

高橋恵子. 新福洋子. 大森純子. 朝澤恭子. 亀井智子. 麻原きよみ. 有森直子. 市民と保健医療者が共に考える「市民主導型ケア」教材のグローバルスタンダード開発. 日本学術振興会科学研究費補助金 研究課題番号：19H03966, 基盤研究(B). 2019 年度～

2024 年度

朝澤恭子，平出美栄子，加藤知子，小嶋奈都子. オンライン母子支援クラス：まちの助産室. 令和 2 年度学長裁量経費. 2020 年度

5. 社会貢献（学会以外の講演等,学会や行政関連の役員,社会貢献,非常勤講師）

平出美栄子

1）公益財団法人東京都助産師会　常任理事
2）般財団法人有馬育英会　助産師育成事業委員
3）三多摩医療生活協同組合　保育園運営委員会有識者会議委員
4）水天宮　助産師帯の会　代表
5）助産サービスマネジメント特論.聖路加看護大学大学院. 2020 年 6 月 3 日
6）分娩期学講義・演習「フリースタイル分娩の分娩介助技術」. 山形大学医学部看護助産師コース. 2020 年 10 月 26 日
7）日本の産み育て日本の歴史と現状. 講演. 國學院大學. 2020 年 10 月 29 日
8）「助産院の概要および助産ケア」. 東京都立府中看護学校. 母性看護学講義. 2020 年 11 月 2 日
9）「卒乳・断乳について」講演. 公益社団法人国分寺市助産師会講師. 2021 年 2 月 13 日
10）令和 2 年度　東京都公民館連絡協議会保育事業研修会講師.　2021 年 3 月 2 日
11）オンラインまちの助産室　企画運営, 2020 年 9 月～2021 年 3 月

朝澤恭子

1）日本生殖看護学会　総務幹事
2）日本生殖看護学会　査読委員
3）日本助産学会　専任査読委員
4）看護科学研究 査読委員
5）看護研究指導. NHO 国立病院機構東京医療センター看護部　2020 年～2021 年
6）研修会講師「論文の基礎」. NHO 国立病院機構東京医療センター看護部, 2020 年 9 月,10 月
7）まちの助産室　企画運営, 2020 年 9 月～2021 年 3 月
8）学友会クラブ　ひーりんぐぽっと顧問

加藤知子

1）日本分娩監視研究会　幹事
2）横浜創英大学　非常勤講師　公衆衛生看護学概論: 医療における放射線利用と看護.2020 年 7 月 22 日
3）東京医療保健大学　放射線看護研修センター　がん放射線療法看護認定看護師課程:放射線療法における放射線の安全な取り扱い. 2020 年 11 月
4）国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構　量子医学・医療部門　放射線医学

総合研究所人材育成センター　第 1 回放射線看護アドバンス課程　外部講師:空間線量率測定,患者からの相談等への対応のあり方を考える.2021 年 3 月 28 日･29 日

5）まちの助産室　企画運営, 2020 年 9 月～2021 年 3 月

田辺洋子

1）まちの助産室　企画運営, 2020 年 9 月～2021 年 3 月

小嶋奈都子

1）まちの助産室　企画運営, 2020 年 9 月～2021 年 3 月

2）プレパパ＆プレママのための子育て準備教室の企画および運営　（9 月～3 月）

3）インターメディカル「なすもし」一部執筆

鬼澤宏美

1）まちの助産室　企画運営, 2020 年 9 月～2021 年 3 月

デッケルト博子

1）まちの助産室　企画運営, 2020 年 9 月～2021 年 3 月

6. 上記以外その他(原著,総説,短報,研究報告,実践報告,資料以外の紙上発表等)

平出美栄子(2020). 憧れの地　ニュージーランドで感じた日本の助産師・開業助産師の良さと課題. 助産雑誌, 74 (7), 526-529.

加藤知子, 加藤江里子, 齋藤益子(2020). 妊娠・出産・育児期における祈り 第 1 報. 日本「祈りと救いとこころ」学会誌, 6 (1), 170－177.

加藤江里子, 加藤知子, 齋藤益子(2020). 妊娠・出産・育児期における祈り第 2 報. 日本「祈りと救いとこころ」学会誌, 6 (1), 178－185.

デッケルト博子, 平出美栄子（2021). 現代の母乳育児を考える　諸外国における授乳事情. 保健の科学, 63 (1)32-38.

【精神看護学】

1. 著書（翻訳書を含む）

田中留伊（編著), 村松仁, 田野将尊, 中村裕美, 菅原裕美, 小川賀恵（2020）. 看護師国家試験対策 2021 年 解いて,わかる！覚えて合格！精神看護学問題集. 株式会社 PILAR PRESS ピラールプレス, 東京.

2. 論文等（原著,総説,短報,研究報告,実践報告,資料）

工藤あずさ, 佐藤佑香, 菅原裕美, 菅谷智一, 森千鶴（2020).統合失調症者の色に対して抱く感情と印象および自己の感情を表す色.実践人間学,11,48-59.

3. 学会における発表

長野忍, 田中留伊, 小宇田智子, 中村裕美, 菅原裕美, 磐井佑輔, 小池卓也, 橘昌嗣, 大学病院における診療看護師の活動と活用の実際, 第 6 回日本ＮＰ学会学術集会, 2020 年 10 月 17 日, 愛知.

尾石早織, 田中留伊, 小宇田智子, 中村裕美, 菅原裕美, 医師の考える災害現場における

診療看護師（NP）の活動の可能性，第 6 回日本ＮＰ学会学術集会, 2020 年 10 月 17 日，愛知.

加瀬亜希子，藤井由美恵，竹内朋子，岩本郁子，高橋智子，中村裕美，酒井一夫，玄順烈，佐藤潤，松田謙一，加藤知子，朝澤恭子，学生の医療安全教育の指導向上を目指す実習指導者と大学教員の連携会議の実践報告，第 40 回日本看護科学学会学術集会, 2020 年 12 月 12 日，東京.

4. 研究助成および研究成果報告書

菅原裕美. 統合失調症者の自己概念とその関連要因の検討. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金，研究活動スタート支援. 2019 年度–2020 年度.

5. 社会貢献（学会以外の講演等,学会や行政関連の役員,社会貢献,非常勤講師）

田中留伊

1）目黒区自殺対策推進会議 会長
2）日本 NP 学会　監事
3）日本こころの安全とケア学会　編集委員
4）ゆたかクリニック治験審査委員会 外部委員
5）代々木メンタルクリニック倫理審査委員会 外部委員
6）代々木メンタルクリニック治験審査委員会 外部委員
7）第 51 回日本看護協会論文集看護教育　査読委員
8）がん放射線療法認定看護師養成課程　科目(相談)担当
9）小澤高等看護学院　非常勤講師

中村裕美

1）小澤高等看護学院　非常勤講師

菅原裕美

1）看護教育研究学会 査読委員
2）小澤高等看護学院 非常勤講師

6. 上記以外その他(原著,総説,短報,研究報告,実践報告,資料以外の紙上発表等)

なし

【地域看護学】

1. 著書（翻訳書を含む）

なし

2. 論文等（原著,総説,短報,研究報告,実践報告,資料）

駒田真由子，佐藤潤，嶋谷圭一（2021）. 就労状況とインフルエンザワクチン接種行動. 地域ケアリング,23(1), 64-67.

Shimatani K, Ito H, Matsuo K, Tajima K, Takezaki T (2020). Cumulative Cigarette Tar Exposure and Lung Cancer Risk Among Japanese Smokers. Jpn J Clin Oncol.

Shimoshikiryo I, Ibusuki R, Shimatani K, Nishimoto D, Takezaki T, Nishida Y, Shimanoe C, Hishida A, Tamura T, Okada R, Kubo Y, Ozaki E, Matsui D, Suzuki S, Nakagawa-Senda H, Kuriki K, Kita Y, Takashima N, Arisawa K, Uemura H, Ikezaki H, Furusyo N, Oze I, Koyanagi Y, Mikami H, Nakamura Y, Naito M, Wakai K (2020). Association between alcohol intake pattern and metabolic syndrome components and simulated change by alcohol intake reduction: A cross-sectional study from the Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort Study. Alcohol (Fayetteville, N.Y.) 89, 129-138.

3. 学会における発表

指宿りえ，下敷領一平，西本大策,嶋谷圭一,嶽崎俊郎．日本人における間食習慣と耐糖能異常との関連：J-MICC 横断研究，日本疫学会, 2021 年 1 月 28 日，佐賀.

駒田真由子，嶋谷圭一，佐藤潤．就労状況とインフルエンザワクチン接種行動との関連．第 79 回日本公衆衛生学会, 2020 年 10 月.

Ono K, Kumasawa T, Shimatani K, Kanou M. Radiation dose distribution of surgeon and medical staff on orthopedic Ballon Kyphoplasty in Japan. IRPA15, 2021 年 1 月 18 日, Seoul.

4. 研究助成および研究成果報告書

金坂宇将，岡田理沙，石田千絵，佐藤潤．訪問看護事業所における事業継続計画（BCP）の実態調査．一般社団法人全国訪問看護事業協会研究助成（一般）. 2020 年度.

菅野太郎，石田千絵，井口理，佐藤潤，金坂宇将，岡田理沙，久保祐子．高度実社会モデリングによる災害復旧・業務継続シミュレーション AI．科学技術振興機構　未来社会創造事業　「超スマート社会の実現」領域 探索研究. 2020 年度.

駒田真由子．妊婦・乳幼児を持つ親のインフルエンザワクチン接種の決定要因と促進への効果的な介入．科学研究費助成事業 若手研究. 2019 年度-2021 年度.

佐藤潤．金銭的インセンティブを用いた健康づくりの内発的動機への影響に関する研究．科学研究費助成事業 基盤研究　（C）. 2020 年度-2022 年度.

丹治 史也，南部 泰士，柿崎 真沙子，黒澤 昌洋，嶋谷 圭一，西本 大策．看護学士課程における教学 IR ベンチマーク指標の開発と検証．日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究（C). 2020 年度-2023 年度.

5. 社会貢献（学会以外の講演等,学会や行政関連の役員,社会貢献,非常勤講師）

嶋谷圭一

1) 2020 年度がん放射線療法看護認定看護師養成課程「疫学と統計」,「がん登録」科目担当. 2020 年 7 月 10 日,17 日.

2) Journal of Rural Medicine 英語論文査読 2020 年 6 月

6. 上記以外その他(原著,総説,短報,研究報告,実践報告,資料以外の紙上発表等)

駒田真由子（2020）．保健師国家試験対策テスト 2020 年 問題・解説作成．メディカコン

クール.

駒田真由子（2020). e-learning N プラス保健師国家試験解説. メディカ出版.

佐藤 潤（2020). 保健師国家試験対策テスト 2020 年 問題・解説作成. メディカコンクール.

佐藤 潤（2020). e-learning N プラス保健師国家試験解説. メディカ出版.

金子あけみ

1. 著書（翻訳書を含む）

   なし

2. 論文等（原著,総説,短報,研究報告,実践報告,資料）

   なし

3. 学会における発表

   なし

4. 研究助成および研究成果報告書

   なし

5. 社会貢献（学会以外の講演等,学会や行政関連の役員,地域貢献,非常勤講師等）

   1）戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）AI（人工知能）ホスピタルによる高度診断・治療システム」研究開発における「医療情報に関する自己情報コントロール権等の検討会」2019 年 8 月 30 日～

   2）一般財団法人　日本看護系大学協議会　災害連携教員　「災害発生時の教育継続支援に向けた情報共有と対応に関する支援組織体制づくり」　2021 年 1 月 27 日～

6. 上記以外その他(原著,総説,短報,研究報告,実践報告,資料以外の紙上発表等)

   なし

【看護学研究科長】

大島久二

1. 著書（翻訳書を含む）

   なし

2. 論文等（原著,総説,短報,研究報告,実践報告,資料）

   Higashida-Konishi M. Izumi K, Tsukamoto M, Ohya H, Takasugi N, Hama S, Hayashi Y, Ushikubo M, Akiya K, Araki K, Okano Y, Oshima H (2020). Anti-cyclic citrullinated antibody in the cerebrospinal fluid in patients with rheumatoid arthritis who have central nervous system involvement. Clin Rheumatol, 39(8),2441-2448.

   Tanaka I, Tanaka Y, Soen S, Oshima H (2020). Efficacy of once-weekly teriparatide in patients with glucocorticoid-induced osteoporosis: the TOWER-GO study. J Bone Miner Metab, 2020 Nov 19. doi: 10.1007/s00774-020-01171-5.

Ushikubo M, Saito S, Kikuchi J, Takeshita M, Yoshimoto K, Yasuoka H, Yamaoka K, Seki N, Suzuki K, Oshima H, Takeuchi T (2021). Milk fat globule epidermal growth factor 8 (MFG-E8) on monocytes is a novel biomarker of disease activity in systemic lupus erythematosus. Lupus. 2020 Sep 28. doi: 10.1177/0961203320967761.

Higashida-Konishi M, Izumi K, Hama S, Takei H, Oshima H, Okano Y (2021). Comparing the clinical and laboratory features of remitting seronegative symmetrical synovitis with pitting edema and seronegative rheumatoid arthritis. J Clin Med, Mar 7. doi: 10.3390/jcm10051116

3. 学会における発表

小西美沙子，泉啓介，塚本昌子，高杉望，羽磨智史，林侑太朗，牛窪真理，秋谷久美子，大島久二，岡野裕．髄液中の抗シトルリン化ペプチド抗体価の上昇を認めた中枢神経病変合併関節リウマチ患者の一例．第 64 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2020 年 8 月.

日比亮輔，玉置繁憲，加藤隆司，水野洋明，長坂日登美，甲斐基一，小川邦和，大島久二，田中郁子．口腔乾燥を主訴とする症例の耳下腺エコー所見と血清学的所見の検討．第 64 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2020 年 8 月.

星田義彦，大島至郎，佐伯行彦，宮村知也，片山雅夫，大島久二，比嘉慎二，吉川教恵，満尾晶子，岡本享，千葉実行，八木田正人，角田慎一郎，杉山隆夫，井畑淳，長岡章平，吉原良祐，瀬戸口京吾，松井聖，市川健司，古川宏，當間重人．リウマチ関連リンパ増殖性疾患の多施設共同研究による病理学的解析．第 64 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2020 年 8 月.

林侑太朗，泉啓介，羽磨智史，小西美沙子，牛窪真理，岡野裕，大島久二．免疫抑制剤使用による重症感染症リスクの解析．第 64 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2020 年 8 月.

水野洋明，玉置繁憲，加藤隆司，長坂日登美，日比亮輔，甲斐基一，小川邦和，大島久二，田中郁子．高尿酸血症をともなった関節炎を HR-pQCT で撮像し付着部炎との関連が考えられた 2 例．第 64 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2020 年 8 月.

玉置繁憲，加藤隆司，水野洋明，長．日登美，日．亮輔，甲斐基一，小川邦和，大島久二，田中郁子．HR-pQCT の 2D・3D 画像で確認した手根骨の骨びらんと抗 CCP 抗体の検討．第 64 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2020 年 8 月.

玉置繁憲，加藤隆司，水野洋明，長．日登美，日．亮輔，甲斐基一，小川邦和，大島久二，田中郁子．DMARD naïve の関節痛・炎患者の関節エコー所見と RA 発症の危険因子の検討．第 64 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2020 年 8 月.

田中郁子，加藤隆司，水野洋明，長坂日登美，日比亮輔，甲斐基一，小川邦和，大島久二，玉置繁憲．HR-pQCT を用いた RA 患者の骨 Geomery の検討．第 64 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2020 年 8 月.

田中郁子，加藤隆司，水野洋明，長坂日登美，日比亮輔，甲斐基一，小川邦和，大島久二，玉置繁憲．抗スクレロスチン抗体 Romosozumab 投与早期の骨 geometry と微細構造の変化 ~HR-pQCT study~．第 64 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2020 年 8 月．

田中郁子，牛窪真理，小西美沙子，泉啓介，林侑太朗，羽磨智史，岡野裕，玉置繁憲，大久二．ステロイド性骨粗鬆症に対するデノスマブ，ビス製剤の治療効果 ~2 年間縦断研究~．第 64 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2020 年 8 月．

羽磨智史，小西美沙子，林侑太朗，泉啓介，牛窪真理，秋谷久美子，岡野裕，大島久二．シェーグレン症候群と成人 Still 病の合併症例の臨床的特徴について．第 64 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2020 年 8 月．

長坂日登美，玉置繁憲，加藤隆司，水野洋明，日比亮輔，甲斐基一，小川邦和，大島久二，田中郁子．HR-pQCT にて手指関節の骨びらんと骨形成を確認した末梢関節病変のエコー所見の検討．第 64 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2020 年 8 月．

4. 研究助成および研究成果報告書

なし

5. 社会貢献（学会以外の講演等,学会や行政関連の役員,社会貢献,非常勤講師）

1）慶應義塾大学病院特定臨床研究監査委員会 委員. 2020 年 4 月-2021 年 3 月
2）厚生労働省医療技術参与. 2020 年 4 月-2021 年 3 月
3）日本病院会 常任理事. 2020 年 4 月-2021 年 3 月
4）日本医療マネジメント学会東京支部 支部長. 2020 年 4 月-2021 年 3 月
5）日本難病看護学会「学会認定：難病看護師」認定制度認定研修会 講師. 2020 年 11 月 6 日
6）日本 NP 教育大学院協議会 NP 資格認定試験委員会 委員. 2020 年 4 月-2021 年 3 月
7）日本リウマチ学会 評議員. 2020 年 4 月-2021 年 3 月
8）日本リウマチ学会関東支部運営委員会 委員. 2020 年 4 月-2021 年 3 月
9）日本臨床免疫学会 評議員. 2020 年 4 月-2021 年 3 月
10）国立病院機構東京医療センター 非常勤医師. 2020 年 4 月-2021 年 3 月
11）国立病院機構東京医療センター特定行為研修管理委員会 委員. 2020 年 4 月-2021 年 3 月
12）城南リウマチ会 代表世話人. 2020 年 4 月-2021 年 3 月
13）城南地区リウマチ研究会 代表世話人. 2020 年 4 月-2021 年 3 月
14）膠原病臨床病理研究会 代表世話人. 2020 年 4 月-2021 年 3 月
15）リウマチ性疾患研究会 世話人. 2020 年 4 月-2021 年 3 月
16）先進リウマチ・骨関節疾患研究会 世話人. 2020 年 4 月-2021 年 3 月

6. 上記以外その他(原著,総説,短報,研究報告,実践報告,資料以外の紙上発表等)

なし